はじめに

職業教育の重要性が、近年、強調されています。世界に目を向けると、欧米はじめ世界各国が、高等職業教育の改革に積極的に取り組んでいます。さらに、わが国では、少子高齢化が進み生産年齢人口が減少し、人生 100 年時代を迎えている中、リカレント教育のニーズが高まり、多様な視点に立った専門職高等教育改革が求められています。この改革を進めるには、これからの専門職高等教育に求められる三つの要素に配慮しなければなりません。

① 多様性（diversity）
多様な社会のニーズに対応できる多様で柔軟な教育プログラムによって学修を進めることを可能とする。

② 流動性（mobility）
国際間、教育セクター間における人材や教育材の移動を円滑に進めることを可能とする。

③ 生産性（productivity）
一定期間で最大の学修成果があがるとともに、学修に関する情報について、効率的に入手することを可能とする。

当機構では以上の認識を基礎として、本年度三つの文部科学省委託事業を提案し、採択されました。

A FD・SD 事業「職業実践専門課程の質保証・向上につながる専修学校教職員資質能力向上プログラム開発」
専門学校の教職員を対象として、多様な学生を対象とした生産性の高い教育を進めるために必要な知識・技能を研修するためのプログラムの構築と実践に取り組んでいます。

B コンピテンシー事業「学修成果の測定に向けた職業分野別コンピテンシー体系の研究」
学修成果の可視化を実現するためのコンピテンシー体系を構築し、プログラムの質保証・向上を通じて、国際間、教育セクター間における人材・教育材の流動性を高める研究に取り組んでいます。

C ポートレート事業「職業実践専門課程に相応しいポートレートシステムの要件定義」
利用者目線に沿って、学修に必要な情報を効率的に入手することができ、かつ、職業教育の国際通用性にも配慮したデータベースシステムの開発に取り組んでいます。

本書は、以上のうち、令和元年度における B（コンピテンシー事業）の成果をまとめたものです。本年度は、昨年度定義した資格枠組の普及を図ることを目的とした国際シンポジウムを開催し、また、四つの分野（土木・建築、動物、ゲーム・ＣＧ、美容）について分科会を組織して、それぞれの分野の代表的な職種について、学修成果測定試行シートを作成し、企業および専門学校において試行を実施いたしました。本報告書では、それらの全容を紹介いたします。

なお、本研究の実施にあたって、国際シンポジウムでご講演をいただいた Zita Mohd Fahmi 氏、Christina Ng 氏、河村和彦氏、パネラーとしてご参加いただいた小林浩氏、坂元祥彦、また、学修成果測定試行にご協力をいただいた産業界の方々、学生の皆様に対して、この場を借りて厚く御礼申し上げますとともに、本事業の発展に引き続きご協力を賜りたくお願い申し上げます。

令和２年３月

一般社団法人専門職高等教育質保証機構
コンピテンシー事業　研究委員会
委員長　　川口　昭彦

目次

0 本事業の概要 1

1 資格枠組の確立と可視化 2

2 国際シンポジウムの実施 7

3 学修成果指標の可視化（分野ごと） 10

3.1 美容分野－美容師職種 11

3.2 ゲーム・CG 分野－ゲームクリエイター職種 15

3.3 動物分野－認定動物看護師職種 19

3.4 土木・建築分野－土木施工管理職種 28

4 学修成果測定試行（分野ごと） 32

4.1 美容分野－美容師職種 32

4.2 ゲーム・CG 分野－ゲームクリエイター職種 46

4.3 動物分野－認定動物看護師職種 63

4.4 土木・建築分野－土木施工管理職種 76

5 本事業の成果と今後の展望 92

5.1 本事業の成果 92

5.2 今後の展望 93

資料..... 95

資料１　資格枠組のレベル定義（レベルディスクリプター）..... 96

資料２　資格枠組のレベル定義（概要）..... 105

資料３　学修成果指標..... 107

①　学修成果指標（美容分野－美容師職種）..... 107
②　学修成果指標（ゲーム・CG 分野－ゲームクリエイター職種）... 112
③　学修成果指標（動物分野－認定動物看護師職種）..... 116
④　学修成果指標（土木・建築分野－土木施工管理職種）..... 119

資料４　国際シンポジウムパネルディスカッションの内容..... 121

資料５　国際シンポジウムにおけるアンケートの内容と集計結果 137

資料６　学修成果測定の手引き 141

コンピテンシー事業　実施委員会名簿

氏名（敬称略）	所属・職名
川口　昭彦	一般社団法人専門職高等教育質保証機構代表理事
山中　祥弘	学校法人メイ・ウシヤマ学園理事長
岡本比呂志	学校法人中央情報学園理事長
上別府隆男	福山市立大学教授
小林　　浩	リクルート進学総研所長
野田　文香	大学改革支援・学位授与機構評価研究部准教授

美容分科会委員名簿

氏名（敬称略）	所属・職名
川島鋼太郎	ハリウッド大学院大学専攻長
本田あけみ	関西国際大学教授
佐藤　友彦	株式会社アクシス代表取締役

ゲーム・CG 分科会委員名簿

氏名（敬称略）	所属・職名
宇佐見眞也	ECC コンピュータ専門学校校長
丸山　一彦	Japan Entertainment 開発協会事務局長
徳留　和人	株式会社スマイルブーム取締役

動物分科会委員名簿

氏名（敬称略）	所属・職名
下薗　惠子	国際動物専門学校校長
坂元　祥彦	宮崎ペットワールド専門学校校長
横田　淳子	一般社団法人日本動物看護職協会会長
山下眞理子	全国動物教育協会動物看護教育担当

土木・建築分科会委員名簿

氏名（敬称略）	所属・職名
堤下　隆司	修成建設専門学校校長
松田　正之	中央工学校校長
稲沢　達也	古久根建設株式会社技術管理室担当部長

0　本事業の概要

本事業は、国際的な質保証動向に即したフレームワークを持ち、かつ、わかりやすい「学修成果」を示すことに活用できる「職業コンピテンシーの体系化」を試みるものである。

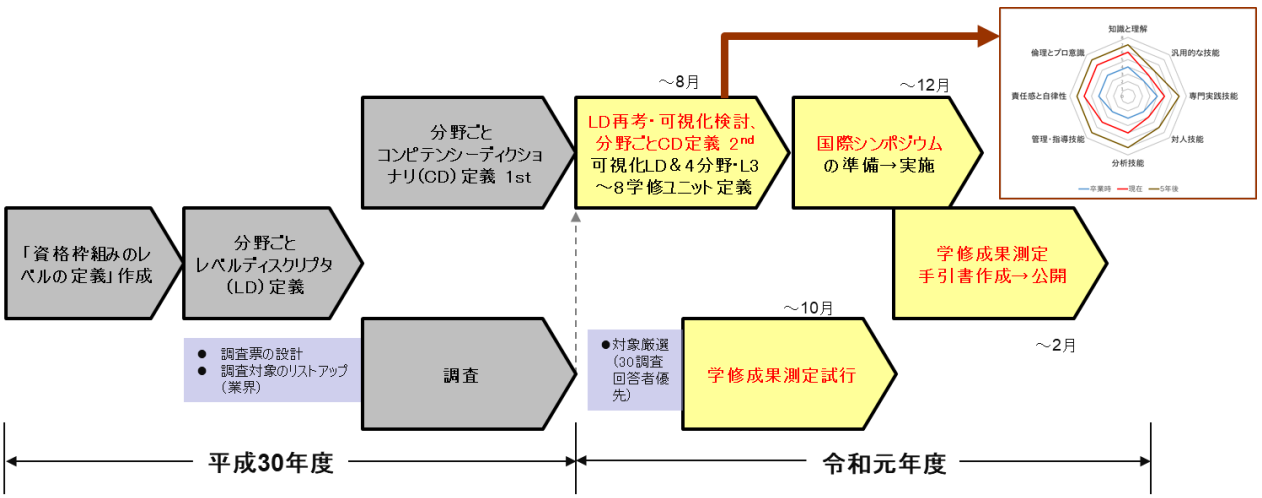
その目的の達成のために、本年度事業（以下、「本事業」）では、前年度（平成 30 年度）事業において構築した「資格枠組みのレベルの定義」、分野ごとの「学修成果指標」を現実化・可視化し、更なる普及・促進を目指して、国際シンポジウムの実施につなげる。一方で、前年度事業で協力を得た回答企業・個人を中心に、「学修成果指標」に関する検証を行う。最終的には、どのような分野でもコンピテンシー体系を構築して学修成果の測定を可能にすることを目指した手引書を作成する。

以上の実績を積むための本事業における大筋の流れは次のとおりである。

（1）　資格枠組みの確立と可視化
（2）　資格枠組の普及を目的とした国際シンポジウムの実施
（3）　学修成果指標の活用のための可視化（分野ごと）
（4）　学修成果測定試行（分野ごと）
（5）　学修成果測定の手引き作成

以下、章をあらためて、（1）～（5）のそれぞれについて説明する。

なお、本事業は、2 年計画の最終年度にあたる。次年度以降、学修成果測定に資格枠組を活用する仕組みを開発する予定である。



1　資格枠組の確立と可視化

(1) 本事業成果としての資格枠組のレベル定義

前年度事業では、世界各国における NQF（National Qualification Framework）において一般的な 8 段階のレベル分けにしたがい、学術分野・職業分野に共通した「資格枠組のレベル定義（レベルディスクリプター)」を作成し、さらに、これの概要を示す「資格枠組のレベルの定義（概要)」を作成した[1]。

資格枠組みのレベルの定義（レベルディスクリプター）

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	汎用的な技能	職務上の技能				自律性と責任感	倫理観とプロ意識
				専門実践技能	対人技能*1	分析技能*2	管理・指導技能		
8	●学習者は、学問分野や専門的実務分野の最前線にある最先端の知見について、批判的理解を示す。 ●新しく独創的な知見／実務につながる高度な研究を、主体的に実施・管理・統率する。 ●論文、特許、製品、新規の高度な専門的実務、先進技術、創造的モデル、芸術作品や音楽などの形で研究成果を産み出す。 ●専門分野の観点、主張、アイディアを、知識と自信をもって提示し、正しいと証明する能力を発揮する。	●学問分野または専門的実務分野の最先端で、課題となっている問題について、包括的、体系的、統合的で新しく複雑な抽象的アイディアを実証する。 ●分野横断的な観点・知識・理解を持つ。	●学問分野や専門的実務分野の最先端にある新しく複雑な抽象概念や課題を、批判的に分析・評価して、総合的に対応する。また、既存の概念や実務の高度化を図る。 ●高度な研究手法・解析手法・技法を独力で用いて、現代の複雑で抽象的な新しい問題や課題を解決し、学問分野や実務分野の新しい知見、理論、解決策、実践方法を創造的に産み出す。 ●ピアレビューや国際基準を満たす独創性の高い研究により、新しい知見、理論、解決策、実践方法を産み出す。	●実用的・技術的な技法／実践方法や科学的技法を使いこなす高度な能力を発揮する。このような能力は、複数の分野の最先端において、複雑で最新の問題を解決するための技法、技術や解決策を開発するものである。 ●複数の分野で、高度で専門的な研究方法論を設計／実施／改良する能力を発揮する。	●同業者、研究者コミュニティや一般社会に対して、当該分野の研究成果を効果的に伝える。 ●学習の場や職場の人々、民族や職業が異なるグループ・ネットワークに所属する多様な人々に対応する。 ●専門分野の情報、知見、アイディア、課題やその解決法について、同業者、研究者コミュニティや一般社会に説得力をもって理路整然と伝える。	●研究・実務活動の質を高めるために、既存の手法／方法論を利用／選択／改善する、あるいは適切な新しい手法／方法論を開発する。 ●数値データや図表データの批判的評価を行う。	●新しい知見を産み出し、実務、プロセスや製品の高度化に貢献する研究や資源管理について、主体性、自主性、権限をもって取り組む。 ●リーダーシップ、プロ意識、管理能力を発揮し、多様なパートナーと効果的に協力する。 ●専門職／専門家レベルの新たな問題について、学術的および専門職の観点から、社会的、文化的進歩に貢献する。	●自分自身の仕事について、全面的に責任を負う。必要に応じて、所属する組織の運営管理全般にも説明責任を負う。 ●生涯学習に対する知見と、新しいアイディア、解決策、システムの開発・融合を図る。 ●ベンチャー事業およびプロジェクトを起こしたり、そのリーダーになったりする。	●法律上、職業上の行動規範や、倫理的に健全な行動規範を遵守する。 ●倫理上、職業上の新たな課題を見いだし、その複雑さや、専門分野における研究の進展や社会全体への影響を明らかにする。 ●社会的、技術的、経済的発展に専門的立場から貢献する。
7	●学習者は、学習／研究／専門的実務を進めることにより、高度な理論的知識、批判的思考、創造能力や革新能力に関する理解を基礎として、学問／実務の特定分野における高度な知識を習得する。また、課題に対して、新しい解決策を産み出す。 ●世界でも、知識と能力を生かして、自信をもって行動する。	●学問分野または実務分野において、分析的・批判的評価を行い、複雑な情報や専門的な概念・理論・手法・実務をまとめ上げるために、独創性と主体性を発揮する。	●高度な技術、手法、技能を活用して、新しいアイディア／画期的な実践法を産み出すためのアプローチを幅広く、総合的に行い、知識を批判的・統合的に応用し、学問／実務分野における複雑な課題に対処し解決する。	●標準の専門的研究手法／アプローチによって、最先端の知識や学問分野の最新動向から得られる実務技能・手法、研究手法を応用する。 ●学問分野または実務分野の複雑な問題や課題に対処し解決する能力を発揮する。 ●最低一つの外国語を使い、仕事や高度な学習を行う能力を発揮する。	●同業者、専門家、素人に対して、最低一つの国際言語で、適切な方法を用いて、知識、技能、アイディア、評論、結論／論拠を明確に伝える。 ●学習の場や職場の多様な人々や、民族や職業が異なるグループ・ネットワークと協力しながら仕事ができる。	●研究・実務活動の質を高めるために、適切なディジタル技術やソフトウェアを幅広く効果的に利用する。 ●新しい解決策／課題に取り組むために、アプリケーションやシステムを調整する。情報・メディア・技術のアプリケーションを幅広く利用して、学習／研究／実務を支援する。 ●数学的手法や他の定量的・定性的手法を活用して、学習／仕事の数値データや図表データを分析・評価するなど、評価業務を設計・立案する能力を発揮する。	●職場やクラスで、かなりの自主性、主体性、リーダーシップ、対人技能を発揮する。 ●複雑かつ予測がつかない状況下で、自分のチーム内の作業や他チームとの協働作業の企画、資源管理、監督、問題解決、作業管理に相当の責任を持つ。	●研究者や職業人として成長を続けることにより自己の向上を図る。 ●ベンチャー事業あるいはプロジェクトを起こしたり、そのリーダーになったりする。	●法律上、倫理上、職業上の行動規範を遵守する。 ●批判的洞察や倫理的配慮に基づき、複雑な問題について助言や決定を行う自信を示す。 ●国や世界の社会的、技術的、経済的発展のために、専門的立場で貢献する。 ●市民社会や世界が抱えるさまざまな問題に、自分の専門分野で取り組む能力を発揮する。

1

図 1　資格枠組みのレベルの定義（レベル 8、レベル 7)（平成 30 年度事業成果）

[1] 前年度事業では「資格枠組みのレベルの定義」と表現していたが、冗長性を排除してより簡潔に表現するために、本年度事業以降、「資格枠組のレベル定義」と表現することとした。この変更後の表記に基づく、「資格枠組のレベル定義（レベルディスクリプター)」を資料 1 に、「資格枠組のレベル定義（概要)」を資料 2 に、それぞれ掲載したので参照していただきたい。

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	汎用的な技能	職務上の技能				自律性と責任感	倫理観とプロ意識
				専門実践技能	対人技能*1	分析技能*2	管理・指導技能		
6	● 学習者は、専門分野での研究開発、創造性や革新が欠かせない準専門職の仕事に求められる、広範囲で体系的な知識と能力を理解する。 ● 専門職業人としての姿勢・心構えと柔軟な対応力を持ち、倫理観ある職場文化や持続可能性に向けて取り組み、日本の国家目標に沿いながら国際社会の一員としての認識を持つ。	● 理論や技術について、高度で総合的な知識を言葉で説明し、関連する専門分野の能力、または学習／研究／仕事／実務分野に関わる学際的な能力を発揮する。	● 学習／研究／仕事／実務の分野で、批評的・分析的能力や評価能力を用いて、当該分野の知識の活用において知的主体性を発揮する。 ● 複雑な用途を管理、解明し、創造的で画期的な解決策を用いて、予測できない問題に対処する。 ● 学習／研究／仕事／実務の分野で、技能／知識をさまざまなアプローチに応用する。	● 広範囲にわたる複雑な問題の解決に、基本的な方法や手法を幅広く応用する。 ● 専門分野に関する実務や手法の見直し、調整、監督を行う。	● 多様な他者に対して、アイディアや考えを、文書および口頭で、適切な表現方法を用いて、自信をもって正確に理路整然と伝える。 ● 学習や仕事などの多様なコミュニティの人々や、地域や国が異なる多様な人々と協力する。	● 多様なITツールやメディア、アプリケーションを幅広く使用し、学習／仕事を支援する。 ● 数値データや図表データ／視覚データを組み合わせて学習／仕事に使う。	● 多様な組織的枠組みや制約の下で、自主的に仕事をし、各種業務管理でリーダーシップとプロ意識を発揮する。 ● 自分や他者の業務について、相当レベルの責任を負う。 ● 事前に定めた目標や成果に向けて仕事をすることで、意思決定能力とプロ意識を発揮する。	● 選んだプロジェクトの中で企業家としての能力を発揮する。 ● 自ら定めた方向で、生涯学習や職業の実現に向けて取り組む。 ● 地域／国／世界の社会政治・経済・文化的に幅広い課題について認識を示す。 ● 専門分野で、説明責任を果たす。	● 社会的・職業上の多様な環境や実務の中で、倫理観を遵守し、倫理上の課題を明らかにし、倫理観を持って決定し、専門職業人として行動をする能力を発揮する。 ● 地元や世界が抱える科学、技術、ビジネス、社会、環境の課題について、深い認識と知識を示す。
5	● 学習者は、相当量の理論的・専門的知識を持ち、職場で複雑な状況に対処することができ、組織や職業で求められることを理解し、それに従うことができる。 ● 学習者は、倫理的にも、地域社会や世界で働いたり生活したりする場合にも、持続可能な方法を用いる能力を持つ。	● 高度な専門知識が求められる分野で、予測不可能な多様な任務／仕事／学習に取り組むために、理論、概念、技術について広範囲の知識と理解を有する。	● 一つの専門分野または仕事において、専門的・概念的・理論的知識を詳細に認識し、解釈、応用、分析、評価する。 ● 曖昧で複雑な定型的・非定型的な状況や、予測できない状況でも、限られた範囲のアプローチや自主性をもって、問題や課題を解決する。	● 実務能力を幅広く活用して、多様な学習や複雑な任務について、必須の方法論や手法を用いる。 ● 関連した実施方法やプロセスの見直しや調整を行い、他の人たちを監督する。	● 社会的、学術的、職業上の目的で、多様な聞き手に情報、アイディア、問題、解決策を伝えるために、分かりやすい方法で、説得力を持ち、効果的にコミュニケーションを取ったり交流したりする。 ● 最低二つの言語で、高い会話力や文書作成力を示す。	● 多様なITツールやメディア、アプリケーションを幅広く利用して、学習／仕事を支援する。 ● 複雑で定型的、非定型的な数値データや図表データ／視覚データを解釈して使用する。	● 担当な自主性をもって、かなり個人責任を負いながら仕事をする。 ● 職場で、資源の割り当てや他者の成績に関わる判断について、単独で経営的決断を下す。 ● 責任を取ったり、説明責任を負ったりする能力を示す。 ● 業務分野が明確でない場合を含め、新しい環境で、チーム・リーダーシップを発揮する。	● 関連する特定の状況で、企業家的な能力を発揮する。 ● 自ら方向を定めた生涯学習に効果的に取り組み、専門的な共同制作や研究に自主的に参加する。 ● 地域や世界で、複数の言語が飛び交う多民族・多文化の状況下で、仕事や学習を行う能力を発揮する。	● 社会的責任を果たす能力を発揮する。専門職業人に相応しい倫理的慣行や持続可能な慣行に従う能力を示す。 ● 地域や世界で、持続可能な社会をつくるために貢献する。
4	● 学習者は、一般理論・原理について幅広い知識を獲得し、特定分野の学習／訓練の能力を発揮する。それにより、技術職・専門職・経営職の分野のキャリアにつながる専門的な仕事を行うことができる。 ● 学習者は、進学への関心を示す。 ● 学習者は、倫理観ある適切な行動を取ろうと努力し、世界の中の日本という視点で、日本の目標への理解を示す。	● 当該分野の学習／訓練の中で、複雑で定型的／非定型的な任務／学習を行うための複雑な理論的知識・能力について、広範囲にわたり体系的に把握・理解する。	● 学習／仕事の内容が明確になっている場合、最低限の監督を受けて、一般概念／理論／運用原理を認識・解釈・適用・評価する。 ● 明確でありふれた問題や、日常的に見られない性質の問題を解決する。	● 実務能力、技法、手法を限られた範囲で応用し、求められた任務／仕事を行う。 ● 定型的または非定型的な任務に関する実務やプロセスについて、必要に応じて検討と修正を行う。	● 他の学生や専門家、素人などに対して、アイディア、情報、問題、解決策を、口頭でも文書でも明確に伝える。 ● 単独、またはチームメンバーの一員として、管理者や同僚、部下と効果的に交流する。 ● 日本語のほかに最低一つの言語で、能力を発揮する。	● 学習／仕事を支援したり、仕事や学習に関するデータを調べて処理するために、多様なデジタルツールを利用する。 ● 所定の複雑な数値データや図表データ／画像データを解釈し活用する能力を発揮する。	● さまざまな状況で実施される明確で非定型的な学習／任務について、幅広い助言や指導を受けて、かなりの責任感と自主性をもって仕事をする。 ● 職場で各種チームの統率と管理を行い、問題に対処する。	● 企業家的な活動について調べたり参加したりする。 ● 進学の可能性や自己研鑽の取り組み方を明確にする。キャリアや職業について現実的な目標を立てる。 ● 地元・地域社会づくりにつながる専門的活動や市民活動に関心を示し、参加する。	● 仕事において、組織の倫理や職業倫理を理解し、従う能力を示す。地域社会や世界で働いたり生活したりする場合、持続可能な方法を遵切に用いる能力を示す。

2

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	汎用的な技能	職務上の技能				自律性と責任感	倫理観とプロ意識
				専門実践技能	対人技能*1	分析技能*2	管理・指導技能		
3	● 学習者は、中級レベルの事実や原理原則について、基本的、理論的かつ専門的な知識を獲得する。必要に応じて、仕事に関するバランスの取れた能力を発揮する。 ● 学習者の興味や仕事に関連する学習や訓練に興味を示す。 ● 年齢相応に地域社会に参加し、世界の問題に対して年齢相応の認識を持つ。 ● 英語など、日本語以外の一つの言語で、初級の言語能力を獲得する。	● ある学習や訓練についてかなりの知識を持つ中で、基本的な原理原則、理論、技能を言葉で説明し、明確な各種の定型的任務/仕事に取り組む。	● 知識や、よく知っている手法、スキルを活用して、定型的任務／学習の予測できる問題を解決する。	● 教師の監督の下で、情報、適切な手法やツール、技術、材料を使って、定型的・非定型的な任務／問題への取り組み／解決策を組織・運用し、完了させる。	● 他の学生、専門家、素人に対して、単独で、あるいはチームで、口頭または文書によって、アイディア、情報、問題、解決策を効果的かつ明確に伝える。 ● 日本語以外に最低一つの国際語の初歩的能力を養成する。	● 学習／仕事を支援する基礎的なITアプリケーションを利用して、学習／仕事に関連するデータを調査、処理する。 ● よく知っていて分かりやすい数値データや図表データを解釈し、活用する。	● 最低限の指導監督で、かなり自主的に仕事をする能力を示す。 ● 学習／仕事の枠内で、相手に助言を与える。 ● 成果の質と影響についてかなりの責任を負う。 ● 学習／仕事／任務の成果や成績について、よく考え、責任を負う	● 最低限の指導監督下で、学習による自己研鑽やトレーニングを積んだり、進学を希望したりする。 ● 日本および近隣諸国について、認識と一般的知識を持つ。 ● 企業家に求められる知識や能力について、基礎的な理解を示す。	● 多文化環境の中で行う学習／任務で、職業倫理に従うことができる。 ● 地域社会や世界に役立つ事柄（環境問題など）について、地域社会と積極的に関わる。
2	● 学習者は、一定の環境で責任感と倫理観のある職業人として仕事を行うための知識と技能を獲得する。 ● 進学や、積極的に生涯学習に取り組むことに関心を示す。 ● 地域社会に参加する技能を高める。 ● 英語など、一つの外国語の基礎的能力を高める。	● 学習のため、あるいは各種の定型・非定型の任務／仕事に取り組むために、複数の主題／分野の知識を言葉で説明する能力を身に付ける。	● 知識と技能を、明確な定型的学習／任務に活用する。 ● 明確な定型的学習／任務において、よく知っている解決法を応用して予測できる問題を解く。	● 一般的な基本手法、材料を用いて、指導を受けて、明確な任務を計画し、完成させる能力を発揮する。	● よく知っている日常的な事柄について、単純で直接的な情報のやりとりが必要な限られた状況で、コミュニケーションをとる。 ● 日本語以外の言語一つの基礎的能力を高める。 ● 進学準備に責任を持ち、準備に取り掛かる。	● 教師の監督の下で、所定の任務を行うために、十分な、限られた基礎的なアプリケーションやITツールを利用して、簡単なデータを処理する。 ● 少量の単純でよくある数値データや図表データを解釈する。	● 体系化された活動において、監督の下で、ほとんど自主性なく、相当な支援を受けて、作業や仕事をする。 ● 責任や説明義務をほとんど負わずに、チームで作業し、意見交換や相手へのフィードバックを行う。	● 教師の指導を受けて、学習に一定の責任を担い始める。 ● 任務や個人の行為・価値観について考える力を発揮する。	● 一定の個人の価値観を学習／任務の中で生かす能力を示す。 ● 自分以外の文化や価値体系に触れ続けることで、文化的多様性への理解を深める。 ● 政治意識や社会意識を高める。
1	● 学習者は、最低レベルの基礎的な一般知識・技能を獲得し、指導の下で、基本的かつ極めて定型的な任務を行い、さらに学習を進め、責任感と倫理観ある職業人になるための準備をする。 ● 地域社会や、地方・国の制度について認識し、自分以外の世界に好奇心を持つ。	● 分野や対象の狭い範囲内で、単純で基本的な知識と技能を言葉で説明し、非常に定型的で予測できる任務および学習を行う。	● 定型的で明確で予測できる任務において、指導を受けて、基礎的な知識を活用する。 ● 成果や成績について、考え、改善する力を発揮する。	● 明確な任務について、各種の一般的な基本手法や材料を使う初歩的な技能を発揮する。	● 限られた状況の下で、順染みある日常的な表現や簡単な言葉を伝える。	● 基礎的な数学的手法（記号など）を利用する力を示す。 ● 教師の指導の下で、与えられた任務を行うのに十分な、いくつかの簡単な／基本的アプリケーションを利用する。	● 直接指導の下、支援を受けて、構成された活動／任務に取り組む。 ● 単独またはチームで作業や仕事をする力を発揮する。	● 教師の働きかけと指導の下で、学習に一定の責任を担い始める。 ● 教師の指導の下で取り掛かった／行われた任務について、検討・反省する力を発揮する。 ● 学習や任務の中で、生かせる個人の価値観を明確にする能力を示す。	● 社会の責任あるメンバーとなり、自分以外の文化に対する配慮を示す。

*1 コミュニケーション技能等についても記述する。 *2 ディジタル・数的技能等についても記述する。

3

図 2　資格枠組みのレベルの定義（レベル 6～レベル 1）（平成 30 年度事業成果）

各レベルの目安
レベル8：専修学校（2）卒業後15～20年程度経過（35～40歳）、博士
レベル7：専修学校（2）卒業後10～15年程度経過（30～35歳）、修士、専門職修士
レベル6：専修学校（2）卒業後5～10年程度経過（25～30歳）、高度専門士、学士、専門職学士
レベル5：専修学校（2）卒業後2～5年程度経過（22～25歳）、専門士、短期大学士、専門職短期大学士、準学士
レベル4：専修学校（2）卒業後0～2年程度経過（20～22歳）、専門士、短期大学士、専門職短期大学士、準学士
レベル3：高等学校卒業（18歳）、専修学校（1）
レベル2：中学校卒業（15歳）
レベル1：小学校卒業（12歳）

図 3　資格枠組みのレベルの定義（各レベルの目安）（平成 30 年度事業成果）

資格枠組みのレベルの定義（概要）

レベル	知識	技能*1	責任と自律性*2
8	専門的実務／学問分野において最先端のフロンティア。新しい専門的実務や知見につながる分野横断的な視点・知識・理解	研究や革新の重要な課題を解決し、既存の知識や専門的実務を再定義するために必要な、最も高度な専門的技能	専門的実務や学問の最前線で、新しいアイディア・プロセス開発に対する権威、自律性、学術的・専門的な誠実性および持続的な関与
7	高度に専門化された知識。その内いくつかは、仕事／学習分野における知識の最前線。異なる分野の知識・理解	実務／学問分野における主体的・批判的洞察と分野横断的知識の統合。新しい知識や方法論の研究・開発・革新に必要な問題解決技能	複雑で予測不可能な課題に対する革新的な取組が求められる仕事や学習の管理。専門的な知識・実践と管理への貢献・評価
6	理論や原理の批判的思考を含む、仕事／学習分野に関する高度な知識・理解	仕事／学習分野で、複雑で予測不可能な課題の解決のために必要な熟練と革新を実証する高度な技能	技術的・専門的活動を管理し、予測不可能な仕事や学習の場面で意思決定を行う責任。個人や団体の専門的な開発を管理する責任
5	仕事／学習分野における総合的、専門的、事実的、理論的な知識と、その知識の批判的認識	抽象的な問題を創造的に解決するために必要な包括的な認知科学技術と実践的技能	予期せぬ変化がある仕事／学習活動の主体的管理と監督。自己と他者の業績の点検・開発
4	仕事／学習分野における幅広い文脈の中で事実と理論の知識	仕事／学習分野における特定の問題の解決策を産み出すために必要な一連の認知・実践技能	通常は予測可能であるが変化する可能性のある仕事や学習の文脈の中での自己管理。他者の日常業務を監督し、仕事／学習活動の評価・改善
3	仕事／学習分野における事実、原則、プロセス、一般概念の知識	基本的な方法、手法、材料、情報の選択・利用によって、任務を達成し問題解決に必要な認知・実践技能	仕事や学習の完了に対する責任。問題を解決する際の状況に対する自己の行動の適応
2	仕事／学習分野における基本的な知識	簡単な規則と手法を利用した任務の実行。日常的な問題を解決する目的で関連情報の利用に必要な基本的な認知・実践技能	監督下で、ある程度の自律性を持った仕事や学習
1	基本的な一般知識	簡単な任務を実行するために必要な基本技能	直接監督下で、構造化された状況での仕事や学習

*1 汎用的な（認知的）技能および職務上の（実践的）技能を記述
*2 知識と技能を自律的に、責任を持って適用する能力を記述

各レベルの目安
レベル8：専修学校（2）卒業後15～20年程度経過（35～40歳）、博士
レベル7：専修学校（2）卒業後10～15年程度経過（30～35歳）、修士、専門職修士
レベル6：専修学校（2）卒業後5～10年程度経過（25～30歳）、高度専門士、学士、専門職学士
レベル5：専修学校（2）卒業後2～5年程度経過（22～25歳）、専門士、短期大学士、専門職短期大学士、準学士
レベル4：専修学校（2）卒業後0～2年程度経過（20～22歳）、専門士、短期大学士、専門職短期大学士、準学士
レベル3：高等学校卒業（18歳）、専修学校（1）
レベル2：中学校卒業（15歳）
レベル1：小学校卒業（12歳）

図 4　資格枠組みのレベルの定義（概要）（平成 30 年度事業成果）

(2)「資格枠組のレベル定義」の可視化

「資格枠組のレベル定義（レベルディスクリプター)」は、学術分野、職業分野の枠を超えた分野共通のレベルと人材属性をひとつの表にまとめたもので、それ自体、可視化されたものとして位置づけられるべきものである。

しかしながら、「資格枠組のレベル定義」は、図 1 から図 3 に示したとおり、A4 用紙に換算すれば 4 枚分にも相当する。今後の普及・促進を考えたとき、もう少し情報量を削り、なおかつ、その内容の概要を伝えることを可能にする一歩進んだ可視化ができないか、検討することとした。もちろん、「資格枠組のレベル定義（概要)」は、究極の可視化ツールであり、この 1 ページ分の情報だけでも、資格枠組がどのようなもので何を意図したものかを理解するという意味において、策定されたことの意義は非常に大きい。本事業でいう可視化の試みは、レベルディスクリプターが示す 8 つの人材属性（知識と理解、汎用的技能、…、倫理観とプロ意識）の枠組みを維持しつつ、情報量の削減によるデメリットと、全体を A4 用紙 1 枚程度で表すことで全体像を把握しやすくするメリットの妥協点を見出すことが可能かどうかを検討する試みと理解していただきたい。

●可視化の考え方・手順

次の各要件を満たすように試みた。

○内容・表現面

- 職業に関する学修成果と結びつく記述を優先的にする。
  その観点から見てアカデミックなことに固有な記述を削除する。
- 文の記述を体言止めにする。

○体裁面

- PowerPoint スライドを使用する。
- そのために、文字の大きさを 7 ポイント（例外的に 6 ポイントも許容）まで下げてもよいこととする。
- 視認性が確保できれば、行間や文字と罫線の間隔を詰めてもよいこととする。

以上の試みの結果、図 5 に示す出力を得ることができた。

これは試作的なものであるが、「資格枠組のレベル定義(レベルディスクリプター)」の理解を促進する補助的・補完的なものとして活用していきたいと考えている。

図 5　資格枠組のレベル定義（要約後 レベルディスクリプター）

◆資格枠組のレベル定義（簡略版、主として専門職を対象）

*1 コミュニケーション技能等についても記述する。 *2 ディジタル・数的技能等についても記述する。

レベル	知識と理解	汎用的な技能	職務上の技能				自律性と責任感	倫理観とプロ意識	専修学校卒業後年数	年齢	学位／称号
			専門実践技能	対人技能*1	分析技能*2	管理・指導技能					
8	●最先端の課題を包括的、体系的、統合的に解決 ●分野横断的な観点・知識・理解	●最先端の課題を分析・評価した実務の高度化 ●独創的研究で、新しい知見、理論、解決策、実践方法の創造	●実践的・科学的技法を使いこなす高度な能力 ●最先端の問題を解決するための技法・技術の開発 ●高度で専門的な研究方法論の設計/実施/改良	●専門分野の情報、知見、アイディア、課題や解決法を、社会に説得力をもって理路整然と伝達 ●多様な人々や民族や職業が異なるグループに対応	●実務活動の質を高めるための既存手法/方法論の利用/選択/改善、適切な新しい手法/方法論の開発 ●数値・図表データの批判的評価	●新しい知見を産み出し、実務を高度化する研究や資源管理に主体性、自主性、権限 ●リーダーシップ、プロ意識、管理能力を発揮し、多様なパートナーと協力	●自身の仕事に関する全面的責任と所属する組織の運営管理全般に関する説明責任 ●ベンチャー事業やプロジェクトを自ら起こし、そのリーダーになる能力	●法律・倫理・職業上の行動規範の遵守 ●専門分野における研究の進展や社会への影響の明確化 ●社会・技術・経済的発展に専門的立場から貢献			博士
7	●分析的・批判的評価を行い、複雑な情報や専門的概念・理論・手法・実務をまとめるための独創性と主体性	●高度な技術、手法、技能を活用したアプローチ ●知識を批判的・統合的に応用し、実務分野における複雑な課題を解決	●最先端の技能・手法の適用による実務上の複雑な問題の解決 ●一つの外国語で仕事や高度な学習を行う能力	●知識、技能、アイディア、評論、結論/論拠を明確に伝達 ●多様な人々や、民族や職業が異なるグループと協力	●ディジタル技術、ソフトウェアによる実務の質向上 ●情報・メディア・技術のアプリケーションの幅広い利用 ●評価業務の設計・立案	●かなりの自主性をもって主体性、リーダーシップ、対人技能を発揮 ●複雑かつ予測不能な状況下でチーム内作業や他チームとの協働作業の企画、資源・作業管理、監督、問題解決	●研究者や職業人として成長を続けることによる自己の向上 ●ベンチャー事業あるいはプロジェクトを起こしたり、そのリーダーになる能力	●法律・倫理・職業上の行動規範の遵守 ●批判的洞察や倫理的配慮に基づいた複雑な問題への助言 ●国・世界の発展のために専門的立場で貢献	15年	35歳	専門職修士
6	●理論や技術について、高度で総合的な知識を言葉で説明 ●関連する専門分野の能力または仕事/実務分野に関わる学際的能力	●批評的・分析的能力、評価能力を用いた知的主体性 ●創造的で画期的な解決策による予測困難な問題に対処 ●技能/知識をさまざまなアプローチに応用	●広範囲にわたる複雑な問題の解決に、基本的な方法や手法を幅広く応用 ●専門分野に関する実務や手法の見直し、調整、監督	●多様な他者に対して、アイディアを、文書および口頭で、正確に理路整然と伝達 ●職場などで多様なコミュニティの人々や、地域や国が異なる多様な人々との協力	●ITツールやメディア、アプリケーションを幅広く使用した仕事の支援 ●数値・図表・視覚データを組み合わせて仕事に活用	●多様な組織的枠組や制約の下、自主的に仕事をして、各種業務管理におけるリーダーシップとプロ意識 ●事前に定めた目標や成果に向けた、意思決定能力とプロ意識	●自ら定めた方向で生涯学習や職業の実現に取組み ●プロジェクトの中での起業能力 ●地域/国/世界の社会政治・経済・文化的に幅広い課題を認識	●多様な環境・実務における倫理観を遵守し、倫理上の課題を明らかにし、倫理観を持って決定・行動 ●科学、技術、ビジネス、社会、環境の課題について深い認識	10年	30歳	専門職学士／高度専門士
5	●高度な専門知識が求められる分野で、予測不能で多様な仕事に取り組むために必要な理論、概念、技術に関する幅広い知識と理解	●各種知識の詳細な認識と、解釈、応用、分析、評価 ●定型的・非定型的で予測不能な状況下、限られたアプローチや自主性で問題・課題を解決	●実務能力を幅広く活用して、複雑な任務について、必須の方法論や手法を適用 ●実施方法やプロセスの見直しや調整を行い、他の人たちを監督	●多様な聞き手に情報、アイディア、問題、解決策を伝えるために、分かりやすく、説得力を持ち、効果的に交流 ●最低二つの言語、高い会話力や文書作成力	●ITツールやメディア、アプリケーションを利用して、仕事を支援 ●複雑で定型的、非定型的な数値・図表・視覚データを解釈して適用	●かなりの自主性、個人的責任を負って仕事 ●資源割当や他者成績に係る経営的決断 ●責任を取ったり説明責任を負ったりする能力 ●新しい環境でのチームリーダーシップ	●自ら方向付けした生涯学習で、専門的共同制作・研究に参加 ●特定の状況下での起業能力 ●地域や世界、複数言語が飛び交う多民族・多文化状況下で仕事	●専門職業人に相応しい倫理的慣行や持続可能な慣行に従う能力 ●社会的責任を果たす能力 ●持続可能な社会をつくるために貢献	5年	25歳	専門職／専門職短期大学士／専門士
4	●複雑で定型的/非定型的な任務を行うための複雑な理論的知識・能力について、広範囲にわたり体系的に把握・理解	●最低限の監督下、一般概念/理論/運用原理を認識・解釈・適用 ●明確でありふれた問題から日常的でない性質の問題を解決	●実務能力を限られた範囲で応用し、求められた任務を遂行 ●定型的または非定型的な任務に関する実務の必要に応じた修正	●他の学生や専門家等に対する、アイディア、情報等の口頭/文書伝達 ●管理者や同僚、部下と効果的交流 ●一つの外国語の能力	●仕事の支援、データの調査・処理のための多様なデジタルツール利用 ●所定の複雑な数値・図表・画像データを解釈し、活用	●非定型的な任務について、幅広い助言や指導を受け、責任感と自主性をもって遂行 ●各種チームの統率・管理により問題対処	●起業活動の調査・参加 ●進学可能性や研鑽取組明確化、キャリア・職業の現実的な目標化 ●地域社会づくり活動・市民活動に参加	●組織の倫理や職業倫理を理解し、従う能力 ●地域社会や世界で働いたり生活したりする機会で、持続可能な方法を適切に用いる能力	2年	22歳	専門職／専門職短期大学士／専門士
3	・基本的な原理原則、理論、技能の説明 ・明確な各種の定型的任務/仕事に取り組む力	・知識や、よく知られている手法、スキルを活用して、定型的任務の予測可能な問題を解決	・監督下で、情報、適切な手法、技術等による定型的・非定型的な任務への取組の組織・運用・完了	・他の学生、専門家等に対する単独またはチームによるアイディア、情報、問題、解決策の効果的かつ明確な伝達 ・一つの外国語の初歩的能力	・仕事を支援する基礎的ITアプリケーションを利用したデータの調査、処理 ・よく知られていて、わかりやすい数値・図表データを解釈した活用	・最低限の指導監督での自主的仕事 ・仕事の枠内での助言 ・成果の質と影響についての責任感 ・仕事等の成果の考慮と責任感	・最低限の導きの下で学習やトレーニングによる自己研鑽意識 ・日本および近隣諸国に関する認識と一般知識 ・起業の知識や能力に対する基礎的理解	・多文化環境の中で行う任務における職業倫理従属 ・地域社会や世界に役立つ事柄（環境問題など）に関する地域社会への積極的関与	0年	20歳	高等学校卒業後
2	・定型・非定型の任務/仕事に取り組むために、複数の主題/分野の知識を言葉で説明	・明確な定型的任務に対する知識と技能の活用 ・明確な定型的任務における、よく知られている解決法の適用	・一般的な基本手法、材料を用いて、明確な任務を計画・完成させる能力	・単純で直接的な情報のやりとりが必要な状況下でのコミュニケーション ・一つの外国語の基礎的能力	・基礎的なアプリケーションやITツールを利用した簡単なデータ処理 ・少量の単純でよくある数値・図表データの解釈	・体系化された活動における相当な支援を受けた作業や仕事 ・チーム作業内での意見交換や相手へのフィードバック(責任や説明義務なし)	・教師の指導下、学習に対する責任感の認識 ・任務や個人の行為・価値観について考える力	・個人の価値観を任務の中で生かす能力 ・異なる文化や価値体系に対する文化的多様性の存在理解 ・政治・社会意識	-2年	18歳	中学校卒業後
1	・単純で基本的な知識と技能の説明 ・定型的で予測可能な任務の遂行	・定型的で予測可能な任務における基礎的な知識の活用 ・成果・成績を考え改善	・明確な任務において、一般的な基本手法や材料を使う初歩的な技能	・限られた状況下で、日常的な表現や簡単な言葉を伝える能力	・基礎的数学手法の利用 ・簡単なアプリケーション利用能力	・指導下で、構成された活動任務に取組む力 ・単独またはチームで作業や仕事をする力	・教師の働きかけや指導下での責任感の持ち始め ・任務遂行後検討・反省 ・個人の価値観を明確にする能力	・社会の責任あるメンバーとしての認識 ・自分以外の文化に対する配慮	-5年	15歳	小学校卒業後

2　国際シンポジウムの実施

当機構では、平成 29 年度の文部科学省事業を受託した際、「専門職高等教育の質保証－」と題する国際シンポジウムを実施した[2]。その国際シンポジウムは、諸外国における職業高等教育質保証の現状の共有を図ることを目的として企図したものであった。

本年度事業では、高等教育質保証全般において求められている「学修成果」およびその成果を資格枠組に関連付け、NQF（国家資格枠組）がある諸外国における質保証の情報の共有を目的とした国際シンポジウムを、「QAPHE 国際シンポジウム 2019－専門職高等教育の質保証と資格枠組－」と題して、

令和元年 11 月 26 日（火）にハリウッド大学院大学

において実施した。図 6 および図 7 は、そのプログラムである。

プログラムを企画するにあたっては、近い将来わが国との人材交流の増加が予想される東南アジア・東アジアに的を絞り、NQF が実際に存在する国・地域で、それを活用した高等教育の質保証に明るい方々をリストアップした。それらの中から、ASEAN の QF の中心的な位置づけを担うマレーシアから Zita Mohd Fahmi 氏（クエスト国際大学特命教授）を、また、欧州の QF（EQF）との親和性が高い香港から Christina Ng 氏（香港学術及職業資歴評審局、総主任/高級評審主任）を招いて、それぞれの国における質保証と資格枠組の関連性についてご講演をいただくことにした。

また、以上のような方々を招くことを前提に、わが国の職業教育質保証に関する行政の取組、その考え方について、専修学校を管轄する文部科学省総合教育政策局生涯学習推進課専修学校教育室から河村和彦専門官を招いて、ご講演をお願いした。

さらに、上記講演者に加えて、本事業の分科会を代表して、宮崎ペットワールド専門学校校長である坂元祥彦氏、民間のシンクタンクを代表してリクルート進学総研小林浩氏も参加し、本シンポジウムのテーマに関するパネルディスカッションを実施した[3]。

---

[2] 平成 29 年度文部科学省「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」として受託した「専門職高等教育質保証機関の国際連携の推進および美容分野におけるその成果の活用」事業の中で、「国際シンポジウム－専門職高等教育の質保証－」を、平成 30 年 1 月 17 日に実施した。その詳細は下記に掲載しているので参照していただきたい。
https://qaphe.com/seminar/pastevent/20180117intersympo/

[3] 各講演者のプロフィール、講演の際のプレゼンテーション資料、パネルディスカッション参加者の資料については、下記に掲載しているので参照していただきたい。
https://qaphe.com/seminar/pastevent/20191126intersympo/
また、パネルディスカッションの内容、参加者に対するアンケートの内容及び集計結果等については資料 4 および資料 5 に掲載しているので参照していただきたい。

QAPHE 国際シンポジウム 2019
「専門職高等教育の質保証と資格枠組」

日時・場所　2019年11月26日（火）13:00～17:30
ハリウッド大学院大学　ハリウッドホール（東京都港区六本木 6-4-1）

プログラム（日英同時通訳）

13:00～13:30　開会挨拶「日本の専門職高等教育の質保証と資格枠組：現状と今後の方向性」
川口昭彦（専門職高等教育質保証機構　代表理事）

13:30～14:20　基調講演 I「ASEAN高等教育圏の発展を支援するためのASEAN質保証枠組・資格参照枠組 ― マレーシアにおける取組」
Zita Mohd Fahmi（マレーシア、クエスト国際大学、特命教授；EU 担当 ASEAN質保証エキスパート；前ASEAN質保証ネットワーク事務局長）

14:20～15:10　基調講演 II「香港の資格枠組による専門職教育の質保証と質向上」
Christina Ng（香港学術及職業資歴評審局、職業及専業資歴評審部、総主任/高級評審主任）

15:10～15:30　休　憩

15:30～16:00　講演「専門学校における職業教育のマネジメント ― 高等教育機関としての位置づけ」
河村和彦（文部科学省総合教育政策局　生涯学習推進課専修学校教育振興室 専門官）

16:00～17:20　パネルディスカッション（国内パネリストを交えた意見交換、会場からの質疑応答、総括討論等）
Zita Mohd Fahmi（マレーシア、クエスト国際大学、特命教授）
Christina Ng（香港学術及職業資歴評審局、総主任/高級評審主任）
河村和彦（文部科学省総合教育政策局　生涯学習推進課専門官）
山中祥弘（学校法人メイ・ウシヤマ学園　ハリウッド大学院大学　理事長・学長）
坂元祥彦（一般社団法人　全国動物教育協会　理事）
ファシリテーター：**川口昭彦**（専門職高等教育質保証機構　代表理事）

17:20～17:30　閉会挨拶
江島夏実（専門職高等教育質保証機構　事務局長）

17:40（約1時間）　情報交換会

図 6　QAPHE 国際シンポジウム 2019 プログラム

QAPHE International Symposium 2019
"Quality Assurance and Qualifications Framework
for Professional Higher Education"

Date: 13:00-17:30, Tuesday 26th November, 2019

Venue: Hollywood Hall, Hollywood Graduate University (6-4-1 Roppongi, Minato-ku, Tokyo)

Program (Simultaneous English-Japanese translation):

13:00-13:30 Opening Address "Quality Assurance and Qualifications Framework for Japanese Professional Higher Education: Now and Its Future Direction"
Akihiko Kawaguchi, Representative Director, Institution for Accreditation and Quality Assurance of Professional Higher Education

13:30-14:20 Keynote Speech I "The Role of AQAF and AQRF in Supporting the Development of ASEAN Higher Education Area — the Malaysian Experience"
Zita Mohd Fahmi, Adjunct Professor, Quest International University Malaysia; EU SHARE as SHARE QA Expert in relations to the ASEAN Quality Assurance Framework; Former Secretary, ASEAN Quality Assurance Network

14:20-15:10 Keynote Speech II "Quality Assurance and Quality Enhancement for Vocational and Professional Education under the Hong Kong Qualifications Framework"
Christina Ng, Head and Senior Registrar, Vocational and Professional Accreditation, Hong Kong Council for Accreditation of Academic and Vocational Qualifications (HKCAAVQ)

15:10-15:30 Break

15:30-16:00 Speech "Management of Vocational Education in Professional Training Colleges — Position as Higher Education Institution"
Kazuhiko Kawamura, Senior Specialist, Office for the Promotion of Specialized Training College Education, Lifelong Learning Promotion Division, Education Policy Bureau, Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology (MEXT)

16:00-17:20 Panel Discussion, Reflecting on Japanese Practices and Exchange of Views on Overseas Practices, Q & A Session and Wrap-up Discussion Panelists:
Zita Mohd Fahmi,
Christina Ng,
Kazuhiko Kawamura,
Yoshihiro Yamanaka, Director and President, May Ushiyama Academy Hollywood Graduate School of Beauty Business
Yoshihiko Sakamoto, Director of All Japan Animal Management Association
Facilitator: **Akihiko Kawaguchi**

17:20-17:30 Closing Remarks
Natsumi Ejima, Secretary-general, Institution for Accreditation and Quality Assurance of Professional Higher Education

17:40 (about 1 hour) Cocktail reception

図 7　QAPHE 国際シンポジウム 2019 プログラム（英訳版）

3　学修成果指標の可視化（分野ごと）

前年度事業において、作成した「資格枠組のレベル定義（レベルディスクリプター）」に基づき、その内容と整合した四つの分野における「学修成果指標」を作成した[4]。

本年度は、その内容の詳細を検討し、具体的な学修測定機会に適用できる形についてそれぞれの分科会で議論し、その統一的な形として、レベルごとに可視化して記録を容易にする「学修成果測定シート」（以下、必要に応じて「シート」と表現）の作成を試みた。

○分野共通の考え方

図 8 は、土木・建築分野－土木施工管理職種のレベル 3 の「学修成果測定シート」を事例として、分野共通の考え方を示したものである。

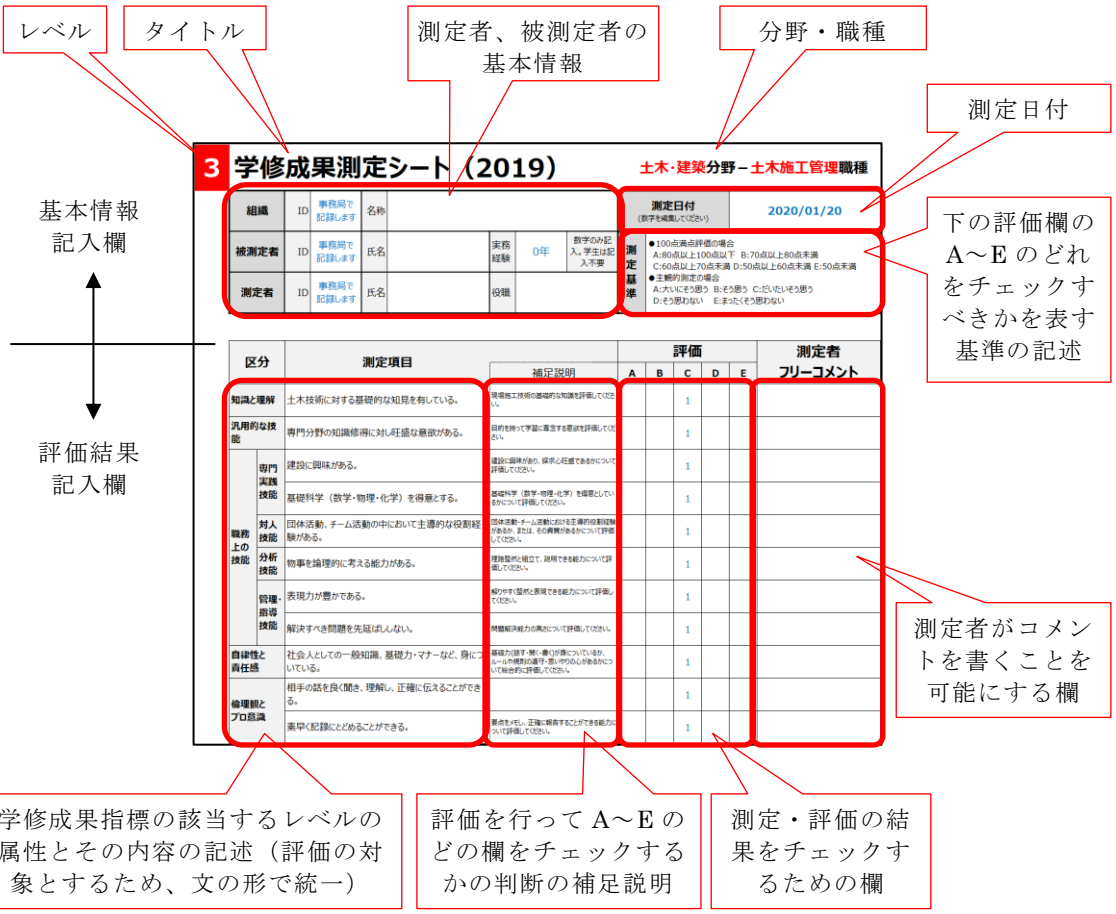


図 8　分野に共通した「学修成果測定シート」作成の考え方

[4] 前年度事業において作成した各分野の学修成果指標は、資料 3 に掲載したので、参照していただきたい。

以上は分野共通の考え方であるが、学修成果測定の局面はさまざまであることが予想されたので、以下、分野ごとに、シートの作成の考え方や実際に作成したシートの形について説明する。

3.1　美容分野－美容師職種

美容分野においては、最下位であるレベル 3（美容専門学校 1 年修了後レベルを想定）からレベル 6（いわゆるスタイリストレベル）までについて可視化を検討した。その過程で学修成果指標体系の変更はなく、補足説明を加える程度の修正は行った。以下、各レベルの検討結果に相当する「評価結果記入欄」の形を掲載する。

区分		測定項目	補足説明	評価 A	B	C	D	E	測定者フリーコメント
知識と理解		美容師免許の取得に必要となる各科目における学修項目の知識を獲得し理解している。	関係法規・制度、衛生管理、美容保健、美容の物理・化学、美容文化論、美容技術理論、美容運営管理　の各科目						
		美容師免許取得後に必要な実践的な各知識の伝授と職業訓練を受けている。	カット理論（カラーやパーマなどの薬剤を使用した技術的知識）、デザイン的思考と実践的知識、その他技術的経験、および、資格取得に必要な実体験の習得・インターンシップによる職場体験						
汎用的な技能		知識やよく知っている手法活用して、定型的任務／学習の予測できる問題を解決する技能を持っいる。							
職務上の技能	専門実践技能	国家試験の実技について基礎的な技能を持っている。							
		各種の基礎的な実技授業におい、て安定的な技能を発揮している。							
		カット理論に基づく実践的な基礎的技能を持っている。							
		カラーやパーマなどの薬剤を使用した基礎的なレベルにおける実践技能を持っている。							
		デザイン的思考を発揮した基礎的な実践技能を持っている。							
		実体験を通じてその他の各種基礎的な資格の取得に必要な技能を持っている。	メイクアップ、エステティック、ネイル等の基礎的な資格の取得に必要な技能のレベル						
	対人技能	望まれる学修成果を修得するため、教員や保護者など進路の相談相手と信頼関係を築くことができる。							
		職場で必要な対人関係構築能力を習得するため、同級生、先輩、後輩と良好な関係を築くコミュニケーション能力がある。							
	分析技能	資料作成およびプレゼンテーションの基礎的な能力がある。	PCやスマートフォンなどを使用したSNS投稿技術なども含む						
	管理・指導技能	最低限の指導監督で、かなり自主的に仕事をする能力を持っている。							
		学習／仕事の枠内で、相手に助言を与える能力を持っている。							
自律性と責任感		学業に対する意欲および責任感がある。							
		知識および技術的経験を修得するための問題解決に取り組む姿勢がよい。							
		国家資格を取得し、美容師および美容の仕事に携わる者としての自覚と自尊心、仕事に対する情熱がある。							
倫理観とプロ意識		社会的規範を理解し、社会生活および学校生活を送るにあたり、コンプライアンス意識を持った行動ができる。							

図 9　「美容分野－美容師職種」レベル 3 の評価結果記入欄

区分		評価項目	補足説明	評価 A	B	C	D	E	評価者 フリーコメント
知識と理解		ヘア技能領域に関わる基礎的知識を持っている。	シャンプー、トリートメント（ヘアケア、スキャルプケア）、ヘッドスパ、カラー（ファッションカラー、グレイカラー）、パーマ（ウェーブ、ストレート、縮毛矯正）、ブロー＆スタイリング、カット、デザイン、その他、組織特有の基礎的知識						
		ヘア関連領域の基礎的知識を持っている。	毛髪知識、薬剤知識（カラー、パーマ、トリートメント）、販売用の商品知識（ヘアケア、スタイリング）、その他、組織特有の基礎的知識						
		美容関連領域の基礎的知識（美容サロンで働く上で必要最低限な範囲）を持っている。	サロンにおける接客サービス、美容商品の提案・販売方法、メイクアップ・化粧品、着付け、マッサージ・エステティック、ネイル、まつ毛エクステンション、その他、組織特有の基礎的知識						
汎用的な技能		学習／仕事の内容が明確になっている場合、最低限の監督を受けて、一般概念／理論／運用原理の認識・解釈・適用・評価ができる。							
		明確でありふれた問題や、日常的に見られない性質の問題の解決ができる。							
職務上の技能	専門実践技能	美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限な**シャンプー**の技能を持っている。							
		美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限な**トリートメント**の技能を持っている。	ヘアケア、スキャルプケア						
		美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限な**ヘッドスパ**の技能を持っている。							
		美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限な**カラー**の技能を持っている。	ファッションカラー、グレイカラー						
		美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限な**パーマ**の技能を持っている。	ウェーブ、ストレート、縮毛矯正						
		美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限な**ブロー&スタイリング**の技能を持っている。							
		美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限な**カット**の技能を持っている。							
		美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限な**デザイン**の技能を持っている。							
		美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限な**その他**の技能を持っている。	組織特有の必要最低限の技能など						
	対人技能	最低限のマナーを踏まえた接客能および会話の能力がある。							
		職場の同僚、先輩、後輩との良好な関係を築く姿勢と会話の能力がある。							
		組織の一員として円滑に業務を遂行するために必要な洞察力と意思疎通の能力がある。							
	分析技能	基本的な資料作成能力がある。	習得した経験や技能を整理整頓する能力、PCやスマートフォンを操作した資料作成能力						
		基本的なプレゼンテーション能力がある。	経験や技能を表現する能力、作成した資料を他者が共感できるように共有する能力、PCやスマートフォンなどを使用して社会一般に公表・表現する能力（SNSなど）						
	管理・指導技能	さまざまな状況で実施される明確で非定型的な学習／任務について、幅広い助言や指導を受けて、かなりの責任感と自主性をもって仕事をする技能がある。							
		職場で各種チームの統率と管理を行い、問題に対処する技能がある。							
自律性と責任感		美容師及び美容の仕事に携わる者としての自覚や自尊心、仕事に対する情熱を持っている（美容師としての誇り）。	仕事に対する意欲および責任感があり、知識および技術的経験を修得するための問題解決に取り組む姿勢を持っている						
		自己管理能力がある。	自分のおかれた状況を理解することができている、技術向上に関して計画的に取り組むことができる						
		組織の一員としての円滑な業務の遂行能力がある。	仕事に対する意欲および責任感があり、知識および技術的経験を修得するための問題解決に取り組む姿勢を持っている						
倫理観とプロ意識		社会的規範を理解し、コンプライアンス意識を持った行動ができる。							
		個人情報やプライバシーに配慮できる。							
		守秘義務を順守できる。							

図 10　「美容分野－美容師職種」レベル 4 の評価結果記入欄

区分		測定項目	補足説明	評価 A	B	C	D	E	測定者フリーコメント
知識と理解		ヘア技能領域に関わる実践的知識を持っている。	シャンプー、トリートメント（ヘアケア、スキャルプケア）、ヘッドスパ、カラー（ファッションカラー、グレイカラー）、パーマ（ウェーブ、ストレート、縮毛矯正）、ブロー＆スタイリング、カット、デザイン、その他、組織特有の基礎的知識						
		ヘア関連領域の実践的知識を持っている。	毛髪知識、薬剤知識（カラー、パーマ、トリートメント）、販売用の商品知識（ヘアケア、スタイリング）、その他、組織特有の基礎的知識						
		美容関連領域の実践的知識を持っている。	サロンにおける接客サービス、美容商品の提案・販売方法、メイクアップ・化粧品、着付け、マッサージ・エステティック、ネイル、まつ毛エクステンション、その他、組織特有の実践的知識						
汎用的な技能		美容師の仕事において、専門的・概念的・理論的知識を詳細に認識し、解釈、応用、分析、評価する能力を持っている。							
		あいまいで複雑な定型的・非定型的な状況や、予測できない状況でも、限られた範囲のアプローチや自主性をもって、問題や課題を解決する能力がある。							
職務上の技能	専門実践技能	美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要な**シャンプー**の技能を持っている。							
		美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要な**トリートメント**の技能を持っている。	ヘアケア、スキャルプケア						
		美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要な**ヘッドスパ**の技能を持っている。							
		美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要な**カラー**の技能を持っている。	ファッションカラー、グレイカラー						
		美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要な**パーマ**の技能を持っている。	ウェーブ、ストレート、縮毛矯正						
		美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要な**ブロー&スタイリング**の技能を持っている。							
		美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要な**カット**の技能を持っている。							
		美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要な**デザイン**の技能を持っている。							
		美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要な**その他**の技能を持っている。	組織特有の実践的技能など						
	対人技能	顧客との円滑なコミュニケーションの実践能力がある。							
	分析技能	美容サロンの顧客管理につながるPCやスマートフォンの操作（SNSの活用等）ができる。							
	管理・指導技能	後輩に対する適切な指導能力がある。							
		業務分野が明確でない場合を含め、新しい環境で、チーム・リーダーシップを発揮できる。							
		組織の他者に対する業績を評価できる。							
自律性と責任感		美容の社会的位置づけの正しい認識に裏付けられた美容師としての誇りを持った自己管理ができる。							
		組織の一員としての責任感が十分にある。							
倫理観とプロ意識		美容師として、専門職業人に相応しい倫理的慣行や持続可能な慣行に従う能力がある。							
		地域や世界で、持続可能な社会をつくるために美容師の立場から貢献できる。							

図 11　「美容分野－美容師職種」レベル 5 の評価結果記入欄

区分		測定項目	補足説明	評価 A	評価 B	評価 C	評価 D	評価 E	測定者フリーコメント
知識と理解		インストラクション、トレーニング等人材育成の各手法に関して知識と理解がある。	ティーチングとコーチング、メンタリング、カウンセリング			1			
		美容各領域の技術的トレンドに関する知識を持っている。				1			
		美容サロン現場の生産性向上に役立つ知識を持っている。				1			
汎用的な技能		美容師の仕事において、批評的・分析的能力や評価能力を用いて、美容分野の知識の活用について知的主体性を発揮する能力がある。				1			
		美容分野において複雑な用途を管理、解明し、創造的で画期的な解決策を用いて、予測できない問題に対処する能力がある。				1			
		サービスの創出につながるクリエイティブな思考ができる。				1			
		広範な諸問題の解決に必要なレベルのロジカルシンキング能力がある。				1			
職務上の技能	専門実践技能	革新的で創造性に富む高度な美容サービスを創出できる。				1			
		インストラクション、トレーニング等人材育成に関する実践的技能を持っている。	具体的な例として、美容師新人研修、スタイリスト研修、その他幅広い研修			1			
	対人技能	中間管理職的なコミュニケーションや円滑なミーティングの実施に必要なコミュニケーションができる。				1			
	分析技能	PCやスマートフォンを活用した効果的で説得力のあるプレゼンテーション技能を持っている。				1			
	管理・指導技能	多様な組織的枠組みや制約の下で、自主的に仕事を進め、各種業務管理でリーダーシップを発揮する能力を持っている。				1			
自律性と責任感		自分や他者の業務について、相当レベルの責任感がある。				1			
		美容師としての自覚と誇りを持って後進の育成にあたる責任感がある。				1			
		自身のキャリアパスを明確化できる。	キャリアディベロップメント			1			
		自身の活動を効率的にするタイムマネジメントができる。				1			
		自身に発生するストレスを軽減・コントロールするためのストレスマネジメントができる。				1			
倫理観とプロ意識		社会的・職業上の多様な環境や実務の中で、倫理観を遵守し、倫理上の課題を明らかにし、倫理観を持って決定するような美容師として行動できる。				1			
		地域や世界が抱える科学、技術、ビジネス、社会、環境の課題について、深い認識と知識を持っている。				1			

図 12　「美容分野－美容師職種」レベル 6 の評価結果記入欄

3.2　ゲーム・CG 分野－ゲームクリエイター職種

ゲーム・CG 分野においては、レベル 4（ゲーム関連学科 2 年課程修了時レベルを想定）からレベル 7 までについて可視化を検討した。その過程で学修成果指標体系の変更はなく、補足説明を加える程度の修正は行った。以下、各レベルの検討結果に相当する「評価結果記入欄」の形を掲載する。

区分		測定項目	補足説明	評価 A	B	C	D	E	測定者フリーコメント
知識と理解		「情報処理の基礎」を理解している。				1			
		「ゲーム制作概論」を理解している。				1			
		「プログラミング概論」を理解している。				1			
		「２D・３Dの描画理論」を理解している。				1			
		「ゲームエンジンの制作手法」を理解している。				1			
		「色彩・質感の知識」を理解している。				1			
		「チーム制作作業の進め方」を理解している。				1			
		「ゲーム業界知識」を理解している。				1			
汎用的な技能		技能者育成における指導経験がある。				1			
		基本的なビジネス文書作成能力がある。				1			
		基本的な企画発想力・構成力がある。				1			
職務上の技能	専門実践技能	「C言語プログラミング」の基本的な技能を持っている。				1			
		「C++とオブジェクト指向プログラミング」の基本的な技能を持っている。				1			
		「２D・３Dゲームプログラミングと描画理論」」の基本的な技能を持っている。				1			
		「シェーダープログラミング技術」の基本的な技能を持っている。				1			
		「ゲーム数学」の基本的な技能を持っている。				1			
		「レベルデザイン」」の基本的な技能を持っている。				1			
		「ゲーム仕様書作成」の基本的な技能を持っている。				1			
		「チュートリアル制作」の基本的な技能を持っている。				1			
		「２D・３Dデザインツールの操作」」の基本的な技能を持っている。				1			
		「基礎画力・観察力・構成力・描写力」の基本的な技能を持っている。				1			
		「UI/UXデザイン」の基本的な技能を持っている。				1			
	対人技能	自分のアイデアをプレゼンする能力を持っている。				1			
		自分の作品をプレゼンする能力を持っている。				1			
	分析技能	教えられた知識を正しく分析できる能力を持っている。				1			
	管理・指導技能	チーム制作での役割を理解し、実践できる。				1			
		３分野（プログラム・企画・CG）での制作進行に必要な行動ができる。				1			
自律性と責任感		指示された範囲の業務に対する責任を自覚できる。				1			
		業務の遅れに関する報告責任を自覚できる。				1			
倫理観とプロ意識		指示された技術の習得の意味を正しい理解する心がけを持っている。				1			

図 13　「ゲーム・CG 分野－ゲームクリエイター職種」 レベル 4 の評価結果記入欄

区分		測定項目	補足説明	評価					測定者フリーコメント
				A	B	C	D	E	
知識と理解		プログラムに必要な数学・物理の知識を持っている。				1			
		ゲーム個人制作に関する知識を持っている。				1			
		モバイルゲームアプリ制作に関する知識を持っている。				1			
		企画書個人制作に関する知識を持っている。				1			
		CG個人制作（ポートフォリオ制作）に関する知識を持っている。				1			
汎用的な技能		制作スケジュールを立案できる。				1			
		自己作品のアピールのためのプレゼンテーション能力を持っている。				1			
		企画の提案力・修正力がある。				1			
職務上の技能	専門実践技能	ゲーム物理（リアル表現）に関する技能を持っている。				1			
		描画エンジン制作に関する技能を持っている。				1			
		ゲームAI技術とアルゴリズムに関する技能を持っている。				1			
		サウンドエフェクト、３Dサウンドに関する技能を持っている。				1			
		モバイルゲーム開発技術を持っている。				1			
		オンラインゲーム制作技術を持っている。				1			
		質感表現能力（シェーダー・テクスチャ・ライティング）を持っている。				1			
		３Dスカルプトモデリング技術を持っている。				1			
		企画会議をシミュレーションできる。				1			
		３Dスカルプトモデリング技術を持っている。				1			
		ゲームエンジンプログラミング（企画）の能力がある。				1			
		ドキュメントレイアウトの技能がある。				1			
	対人技能	論理的伝達技法を身につけている。				1			
		作品プレゼンからの改善ができる。				1			
		ディスカッション技法を身につけている。				1			
		チームメンバーの意見・考えを尊重できる。				1			
	分析技能	使用している技術を正しく理解し説明ができる能力を持っている。				1			
	管理・指導技能	チーム制作メンバーの役割を理解した行動ができる。				1			
		チーム制作でのコミュニケーション、問題解決技能を持っている。				1			
		コミュニケーションツールを活用できる。				1			
自律性と責任感		指定された技術を使用し、業務を遂行することに対する責任感を持っている。				1			
		業務の遅れに関する報告責任を自覚できる。				1			
倫理観とプロ意識		業務に必要な技術の習得に対する意識を持っている。				1			

図 14　「ゲーム・CG 分野－ゲームクリエイター職種」 レベル 5 の評価結果記入欄

区分		測定項目	補足説明	評価 A	評価 B	評価 C	評価 D	評価 E	測定者フリーコメント
知識と理解		ゲームチーム制作マネジメントとディレクションに関する知識・理解がある。				1			
		プロジェクトリーダーとしての役割に関する知識と理解がある。				1			
		ゲームマーケティングに関する知識と理解がある。				1			
		ゲームをめぐる法的知見に関する知識と理解がある。				1			
汎用的な技能		開発におけるコストの計算技能を持っている。				1			
職務上の技能	専門実践技能	最先端技術のプログラミング技能を持っている。	ゲームプログラマーの場合			1			
		実機を使用したアプリ制作ができる。	ゲームプログラマーの場合			1			
		ノードベースプログラミング（企画）の技能を持っている。	ゲームプログラマーの場合			1			
		ゲームプランナーゼミの技能を持っている。	ゲームプランナーの場合			1			
		デモリール作成の技能を持っている。	ゲームプランナーの場合			1			
		ポートフォリオ完成の技能を持っている。	ゲームプランナーの場合			1			
		ゲームエンジンCG表現の技能を持っている。	ゲームデザイナーの場合			1			
	対人技能	職種・学年・他団体を超えた協働と連携ができる。				1			
	分析技能	プロジェクトが正確に進められるかどうか分析する能力を持っている。				1			
	管理・指導技能	進捗管理、リソースと仕様のバランス管理の能力を持っている。				1			
		制作進行管理能力を持っている。				1			
		一般的な法的理解に基づく管理ができる。				1			
自律性と責任感		業務に必要な技術の選別に関する正当性の説明責任を認識している。				1			
		開発を最後まで導く責任感を持っている。				1			
倫理観とプロ意識		プロとして、業務に必要な技術の正しい選択に関する意識を持っている。				1			

図 15　「ゲーム・CG 分野－ゲームクリエイター職種」レベル 6 の評価結果記入欄

区分		測定項目	補足説明	評価 A	B	C	D	E	測定者フリーコメント
知識と理解		先端技術と五感制御を理解している。				1			
		ゲームデザインの研究と論文発表に関する知識・理解がある。				1			
		ゲーム制作における体系的学術研究を進めることができる。				1			
		チーム、個人のゲーム制作における学術的指導経験がある。				1			
		ゲームデザインの学術的体系化を理解できる。				1			
		ワールドワイドにおける法的知見を持っている。				1			
汎用的な技能		先端技術に精通し開発もする技能を持っている。				1			
		技術を、体系化し、まとめる技能を持っている。				1			
職務上の技能	専門実践技能	高度な専門知識に基づく技能を持っている。				1			
		業務に必要な技術を正しく選択する技能を持っている。				1			
	対人技能	業務内容の迅速かつ的確な説明能力を持っている。				1			
		チーム内の問題解決能力を持っている。				1			
	分析技能	技術を解析できる知識を適用する能力がある。				1			
		先端技術を独自に研究、開発する能力がある。				1			
	管理・指導技能	部下を指導する能力を持っている。				1			
		業務をスケジュール内に進める技能を持っている。				1			
		部下の育成技能を持っている。				1			
		技術へのセキュリティー管理と法的理解に関する技能を持っている。				1			
自律性と責任感		先端の専門知識を学習する責任を感じている。				1			
		使用する技術にかかる、時間を正しく把握する責任を感じている。				1			
倫理観とプロ意識		先端技術の管理意識を持っている。				1			
		技術への正しい評価意識を持っている。				1			

図 16　「ゲーム・CG 分野－ゲームクリエイター職種」レベル 7 の評価結果記入欄

3.3　動物分野－認定動物看護師職種

動物分野においては、最下位であるレベル 3（動物専門学校 1 年修了後レベルを想定）からレベル 6 までについて可視化を検討した。その過程で学修成果指標体系の変更はなく、補足説明を加える程度の修正は行った。以下、各レベルの検討結果に相当する「評価結果記入欄」の形を掲載する。

区分	測定項目	補足説明	評価 A	評価 B	評価 C	評価 D	評価 E	測定者フリーコメント
知識と理解	■動物医療関連法規： 人と動物の調和に関わるのに必要な法規	動物や獣医療に関連する様々な法規について学び、社会における動物看護の役割を理解する。						
	■動物形態機能： 動物の体の構造と機能	動物の体を細胞、組織、臓器の各階層で理解し解剖学、生理学、生化学の面から動物の生命維持の仕組みをを理解する。						
	■公衆衛生： 人と動物の健康の調和に関わること	人と動物が共生する環境、食の安全と衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康維持・増進や疾病予防について理解する。						
	■動物病理： 疾病の成り立ちと回復の促進への寄与	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。						
	■動物臨床検査： 動物病院業務に必要な知識	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を理解する。						
	■動物臨床栄養： 動物病院業務に必要な知識	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶと共にライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や食事方法などを理解する。						
	■伴侶動物： 様々な動物の特性と人との関わり	伴侶動物とは終生飼養される動物。伴侶動物の歴史や品種、飼育管理法、およびエキゾチック動物の生態について理解する。						
	■動物看護学概論： 人と動物の調和に関わること	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について理解し、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。						
	■動物感染症： 病の成り立ちと回復の促進への寄与	感染症の原因となる微生物や寄生虫について理解し病気の伝播様式や発病のメカニズムについて知る。衛生的管理、予防・治療法、免疫学の基礎など感染症対策の基礎を理解する。						
	■動物薬理： 疾病の成り立ちと回復の促進への寄与	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用および副作用について理解し、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられているかを理解する。						
	■動物飼育（動物内科看護）： 動物の臨床看護に必要な動物内科学の知識	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を理解し、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する。						
	■動物外科学： 動物の臨床看護に必要な動物外科学の知識	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を理解する。						
	■動物福祉： 人と動物の調和に関わること	動物愛護や動物福祉（アニマルウエルフェア）、およびその基礎となる生命倫理の考え方について学ぶ。						
汎用的な技能	■高等学校学習指導要綱に基づく学力・能力が十分に備わっており、且つ専門分野の知識吸収に対し旺盛な意欲がある	高等学校を卒業していれば、評価はC以上としてください。						
	■ITという言葉を認知している	IT:「情報技術」のことで、コンピューターやデータ通信に関する技術の総称。コンピューターやインターネットを中心とするネットワークを活用し、業務や生活に役立てるための技術を指すことを知っている。						

図 17　「動物分野－認定動物看護師職種」レベル 3 の評価結果記入欄（1/2）

職務上の技能	専門実践技能	■動物形態機能学実習 修得した動物形態機能学の知識の実践力	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて理解する。						
		■顕微鏡操作：健常の代表的組織、血液像、検便、尿中成分、皮膚スタンプなど採材を観察できる正しい操作方法	検体を観察するために必要な適切な顕微鏡操作ができる。						
		■動物臨床検査実習： 修得した動物臨床検査学の知識の初歩的実践力	検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、臨床検査に必要な知識の実践ができる。						
		■動物内科看護実習： 修得した動物内科学の知識の初歩的実践力	口腔管理やグルーミング、保定やバイタルチェック、基本的トレーニング法、飼育環境整備など犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技などの実践ができる。						
		■動物外科看護実習： 修得した動物外科学の知識の初歩的実践力	手術準備（動物・手術器具）、術中管理、術後看護、麻酔準備や麻酔監視、救急救命など動物外科学で学んだ知識の実践ができる。						
	対人技能	■グリーフケア：動物との死別を知らされた時期を含めて死に直面する飼い主への対応、動物を亡くした飼い主への対応、亡くなった動物の対応とその後のケアなどの初歩的技能	グリーフは悲嘆を意味する。かけがえのない大切な存在を喪失した時だけではなくその前に予期した段階から起こる様々な反応の変化をさす。						
		■社会人コミュニケーション： 社会人としての一般教養と礼儀作法	動物病院総合実習や研修先では学生としてではなく社会人としてマナーや礼儀作法を認識し、実践することを認識している。						
		■接遇とホスピタリティー： 来院する全ての人と動物にとって快適な環境作り、応対ができ飼い主と動物病院が動物の終生飼育を共に実践できるような関係づくりの初歩的技能	接遇：相手をいたわる心を持ってサービスを提供するためのスキル。 ホスピタリティー：相手が快適と感じられるような対応や環境づくり。相手が喜びを感じていることが主人に伝わることが大切。						
	分析技能	■ＱＯＬの理解： 動物と飼い主を対象とした生活の質の向上であることの理解とその初歩的実践	QOL：quality of life、生活の質のこと。						
		■観察： 動物看護学の知識に基づいて動物や飼育する環境の初歩的観察力	動物看護技術として一番重要なことは観察。動物に対して動物看護過程の展開をするために必要な初動。これに基づいて看護診断、看護計画、実施へと展開される。						
		■記録： 個人のための記録のみならず、チーム獣医療として協働者の理解と飼い主への伝達に必要な記録の基本的方法	動物看護記録：看護で実践した内容を明らかにする。適正な実践であったことを証明するものでもある。						
	管理・指導技能	■プレゼンテーション： 個人やグループ内での検討や調べたことを衆人に向けて発表することの初歩的技能	動物看護総合実習などで体験した事例について検討した内容やわかったことをクラス内や学会の学生向けセッションなどで発表する。						
自律性と責任感		■動物看護総合実習：実際の動物病院の体験見学等、修得した知識の総合化実習を通じた動物看護職としての初歩的な自律性と責任感。	動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身に付けた知識や技術を総合的に実践する。						
		■ボランティア活動：良い社会づくりのために社会的認識を深め地域の人々と関わりを持つよう努めることに対する責任感	地域の行事への参加、保護犬猫に関する活動、使役犬のケアなど自律的に参加し安全に遂行する。						
		■社会人としての責任の認識	「社会人」とは、社会との関わりの中で一定の責任を持って行動したり、生活したりしている人。社会人は自分で判断して行動し、その結果を自分で決着できることが責任。そのために慎重な行動と他者との関係性が重要。						
		■成人としての義務の認識	法的な成人とは、単独で法律行為が行えるようになる年齢のこと。義務を果たすことが権利を得ることにつながり、社会保険等の被保険者になる、納税する、投票するなど法的義務の他に勤労の義務など。						
		■情報収集方法に関する基本的認識	インターネットによる情報収集だけでなく新聞、業会関連誌、学会誌などを読む、関連学会に参加することで広く新しい情報を収集する方法を知っている。						
		■他者との交話方法に関する基本的認識	電話の適切な受け方かけかた、メール、SNSなどを安全に活用する方法、TPOに合った手紙の書き方などを知っている。						
倫理観とプロ意識		■動物看護倫理：一般社団法人日本動物看護職協会「動物看護者の倫理綱領」を理解する	倫理綱領とは、動物看護師としての自らの行動を律するためのもので、倫理とは道徳の規範となるものであり綱領はその要点を示す。この存在を知り、理解している。						
		■守秘義務：臨床の場で見学・研修、実習など関わった全てを守秘することの理解、不特定多数への情報発信の是非についての共通倫理	守秘義務：業務上知り得た情報を外部に漏らさないこと。特に動物病院では飼い主の個人情報だけでなくカルテ上にある全ての漏洩をしてはならない。研修実習の場で関わった全ても漏洩してはならないということを理解している。						
		■アニマルウエルフェア：動物愛護と福祉の違い、欧米諸国と日本のアニマルウエルフェアの歴史と意識の違いなどに関する基本的認識	動物福祉とはアニマルウエルフェアを翻訳したもので、動物の幸福に配慮した良い生活を示すことを理解し、底辺を意味する愛護との違いを理解している。						

図 18　「動物分野－認定動物看護師職種」レベル 3 の評価結果記入欄（2/2）

区分	測定項目	補足説明	評価 A	評価 B	評価 C	評価 D	評価 E	測定者フリーコメント
知識と理解	■動物形態機能： 動物の体の構造と機能	動物の体を細胞、組織、臓器の各階層で理解し解剖学、生理学、生化学の面から動物の生命維持の仕組みをを理解する。						
	■動物行動： 人と動物の調和に関わること	犬や猫の種としての行動様式の特徴を理解し、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。						
	■人間動物関係： 人と動物の調和に関わること	動物が人間社会で果たしている役割や背景・歴史について理解し、人と動物の関係を心理学的および社会学的側面から理解する。						
	■産業動物・実験動物・野生動物について： 様々な動物の特性と人との関わり	人の食の安全に係る産業動物や医学等の研究に役立ってもらうために育てる実験動物、動物園・水族館で飼育されている野生動物たちが健康で福祉に則った管理方法で飼養される方法を理解する。受診依頼があった時には各動物に精通している獣医師に依頼できる。						
	■ターミナルケア：重篤なまたは終末状態の動物と飼い主のQOLを考慮した対応	終末医療とや緩和ケアと訳されることもある。病を持つ動物の延命を願うだけではなく、飼い主の快適さと尊厳を守ることによって適切な疼痛管理と対症療法、精神的支援、社会的支援を行うということを理解できる。						
	■安楽死： 安楽死も治療の一端であること	高度医療による延命や動物と飼い主にとって過酷な現状、改善の見込みがない場合などは安楽死も治療の一端であることを充分理解し、飼い主からの質問に答えたり説明できる。またその行為が動物の福祉に反することでなく、決定した飼い主の落ち度ではないことを理解したり伝えることができる。						
汎用的な技能	■IT： PCの基本的アイテムの理解と活用	IT:「情報技術」のことで、コンピューターやデータ通信に関する技術の総称。PC操作や電子カルテ記入などを理解し、活用できる。						
	■会計学の基礎	動物病院の窓口業務として治療費の会計や集計をする時に必要な会計の基礎を知っている。また、キャッシュレスやカード支払いの対応を理解している。						
	■基本的な情報収集力・分析力	インターネットによる情報収集だけでなく新聞、業会関連誌、学会誌などを読む、関連学会に参加することで広く新しい情報を収集する方法を知っている。氾濫する情報量の中から正確で安全な情報の収集ができる方法を理解している。						
	■基本的な情報発信力	動物病院のホームページ作成やインスタグラムなど情報提供やコミュニケーションをとる方法を理解している。						
	■語学力（英語など）：動物病院の受付対応、電話業務対応可能程度の会話力	飼い主の国籍が多様化しているため他国語での受付や電話応対が可能な程度の語学力がある。						

図 19　「動物分野－認定動物看護師職種」レベル 4 の評価結果記入欄（1/2）

職務上の技能	専門実践技能	■動物の臨床看護に必要な基本的知識・技能の修得	教育の場で修得してきた臨床看護に必要な知識を活用し、個別性を重んじ健康維持に必要な技術を修得する。動物看護技術の特殊性は対象が命ある動物であることを理解し実践する。							
		■機能障害を持つ動物に対する看護法、評価・介入方法の修得	機能障害をもつ動物が出来るだけ不快感がなく元に近い動きができるようになるために必要なリハビリテーションの知識を理解し、適切な評価と診断の元で介入できることを理解する。							
		■術前・後管理：手術に必要な術前の動物、器具や手術環境、執刀獣医師や関係スタッフ全てに必要な準備の修得	動物看護師は周術期全般に関わる業務があり、どのような役割があるかを熟知し行動ができる。獣医師は診断と術者、予後判定が担当業務であることを理解する。							
		■グルーミング：治療中や機能障害のある動物を衛生で清潔にする技術の修得	健康な動物を美しくトリミングできるトリマーの担当するグルーミングではなく、機能障害のある動物に負担が無く衛生で清潔にするためのグルーミング技術を持っている。							
		■トレーニング：動物と人との良好で健全な絆を保つために必要なトレーニング技術の修得	犬の基本的な服従訓練法を理解し、アイコンタクト、おすわり、まて、フセなどの訓練法をマスターし飼い主に伝えられることにより犬とのより深い信頼関係を築くことができることにより、犬（動物）が少しでの不安なく診療を受けられることへの支援ができる							
		■バイタルチェック：共に生活する動物の健康を知り、異常を早期に発見できるための技術の修得	バイタルとは生命徴候を意味し、体温、心拍、呼吸などを適切に測定することにより毎日の健康状態を把握できる。また、通常と異なる時には疾病の早期発見につながるので各個体の健康状態を把握し正確に報告できることが大切である。							
	対人技能	■クライアントエデュケーション：動物看護者の倫理綱領第３条「動物看護者は、看護動物の飼育者との間に信頼関係を築き、その信頼関係に基づいて看護を提供する」の基本的理解とその実践技能	動物看護師は獣医師が飼い主に説明する病気や治療について適切な知識を持ち、飼い主との対面において情報を提供することができるようにする。飼い主は適切に応対できる動物看護師に信頼を寄せ、安心して動物のケアにあたることができる。							
		■院内コミュニケーション：動物病院業務に必要な基本的対人技能の修得	来院する飼い主や業者、院内のスタッフ全ての人と適切なコミュニケーションをとることができる。良好なコミュニケーションをとるための方法を知っている。							
	分析技能	■動物看護過程の展開：入院動物や機能障害を持つ動物に対する動物看護過程の展開の基本的な理解とその実践	言葉を持たない動物たちを尊重し看護する動物看護師が動物を観察し、必要とされていることが何かを見極める対応手段・方法論が動物看護過程であることを理解し実践する。							
		■動物看護記録：個人のための記録のみならず、チーム獣医療として協働者の理解と飼い主への伝達に必要な記録方法の修得	動物看護記録：看護で実践した内容を明らかにする。適正な実践であったことを証明するものでもあることを理解し実践できる。							
	管理・指導技能	■研究発表：	動物看護者の倫理綱領第11条「動物看護者は、看護実践を通して、専門的知識・技術の創造と開発に努め、動物看護学の構築と発展に寄与する」の基本的理解と実践ができる。							
		■プレゼンテーション：	論文発表やプレゼンを公開することにより、互いに情報を共有し工夫し合うことで技術が向上し、動物看護研究へと発展することに対する理解がある。							
自律性と責任感		■動物看護総合実習：修得した知識の実践力を身につけることを目的とした動物病院での実習体験	動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身に付けた知識や技術を総合的に実践する。							
		■ボランティア活動：	自身が持っている動物看護力を有事の際に活かせることは大変意義あることである。積極的な参加と参加活動した際に、リーダーの指示に従った後輩への伝達や指導的行動ができる							
		■チーム獣医療：	動物看護者の倫理綱領７条「動物看護者は、自己の意志を持ち、自己の責任と能力を的確に認識しみずからの看護に責任を持つ」。第９条「動物看護者は、他の動物看護者及び動物医療関係者と共同して、良質な動物看護を提供する」の基本を理解する。							
倫理観とプロ意識		■獣医療倫理：動物看護師として勤務するが、チームで協働する獣医師としての医療倫理を理解	獣医師は獣医師法に基づく行動を基本とし獣医療倫理を規範とするが、チーム獣医療の両輪となる動物看護師もこれを理解している。							
		■地球は一つ・ワンヘルスに関わる福岡宣言：日本獣医師会平成26年の日本獣医師会と日本医師会の協働宣言	第2回世界獣医師会－世界医師会"OneHealth"に関する国際会議において締結された宣言。医師と獣医師はOneHealthの概念を理解し、健康で安全な社会の構築に協働することなどを誓ったことを知っている。							
		■動物看護倫理：動物看護者の倫理綱領第1条「動物看護者は、動物の生命、動物の権利を尊重し、動物福祉の向上に努める」を理解	動物福祉に関する法律を遵守するだけでなく動物看護師の倫理綱領条文、「5つの自由」などに書されていることを念頭において行動する。							
		■守秘義務：動物看護者の倫理綱領第5条「動物看護者は、守秘義務を遵守し、業務上知りえた飼育者ならびに看護動物の情報の保護に努め、また、これを他者と共有する場合には十分な配慮のもとに行う」を理解	守秘義務の伴う職であることを理解し、業務上知り得た情報を外部に漏らさないこと。特に動物病院では飼い主の個人情報だけでなくカルテ上にある全ての情報を漏洩をしてはならないと共に飼い主や家族、飼育環境などの必要以上の詮索をしないこと。また、飼い主の知る権利や決定権を尊重する。							

図 20　「動物分野－認定動物看護師職種」レベル 4 の評価結果記入欄（2/2）

区分	測定項目	補足説明	評価					測定者フリーコメント
			A	B	C	D	E	
知識と理解	■疾患種類、対象動物の性質	動物看護を実践するためには獣医学的知識を持ち、診断された疾患の内容を理解した上で看護実践をする。看護は個々の動物の状況に合わせた対応が必要であり、その状況は飼育環境、飼い主の接し方、種類、多様性のある動物の性質によって変化することを理解する。						
	■飼い主の権利	動物は飼い主に所有権があるので飼い主の決定を尊重する。しかしその決定が動物にとって不利益となることがわかった場合には介入し、動物を守る立場となることがある。。「動物看護者の倫理綱領」６条を理解している。						
	■獣医師の診断結果と看護における問題点に対する理解	動物看護師としてチーム獣医療の一院となった時、獣医学的知識を持つことによりその診断や治療内容が、その動物にとって適切なものであるか判断ができ、動物を観察することによって問題点を抽出できその解決法を理解し実践することができる。						
	■院外連携	種々の診療施設の設備や得意とする診療科、対応種などによって連携をとり動物に最適な治療ができるよう情報を持ち、信頼関係を持っていることが求められる。						
	■臨床における疑問・不確実な知識・技術	獣医師による診断や治療内容、予後について疑問がある時には適切な質問ができるよう獣医師や他スタッフとの信頼関係をが構築されている。また、疑問を持ったままや、自身の不確実な知識や技術に不安があるときには適切な指導を求める勇気と責任を持つ。決して不確実な知識や技術のまま動物に接してはならないことを自覚する。						
汎用的な技能	■成果のまとめ方	実践した動物看護の内容を記録に残すことで後輩へと引き継ぐことができ、公表することによって評価を得、動物看護研究へと発展できる。「動物看護者の倫理綱領」11条を理解している。						
	■研究の基礎知識	日々実践している動物看護の内容を記録し、わからいないことは必ず調べて理解し、先人が同じ事例に対応したことがあるのか調べておく。事例の動物の基本情報、検査内容結果、通常治療内容、方法、症状などカルテ上から収集できる客観的情報を記録しておくこと。						
	■文献活動、研究発表	動物看護師は、高度化する獣医療に対応できる知識を自ら吸収し、専門職に必要な情報を収集する活動が必要。また、知り得た情報知識、体験した事例などを論文や報告として発信し、研究した看護技術や事例を広く発表す姿勢を持つ。「動物看護者の倫理綱領」８，10、11条を理解している。						
	■職能団体の意義・役割	2009年動物看護者の全国団体である一般社団法人日本動物看護職協会が発足した。動物看護職を支援すると共に動物看護職に係る制度や就業環境整備を図ることを目的として活動を実施している。						
	■社会との連携・職能団体での活動への参加	動物看護師は動物への関わりとともに飼い主との接点をもつことで社会貢献をないしている。動物を介するボランティア活動、福祉活動により社会から評価を得られる立場である。「動物看護者の倫理綱領」15条を理解している。						
	■社会人としての基礎力	コミュニケーション能力、一般常識、言葉使い、礼儀作法を身に付けることによって飼い主やスタッフからも信頼を得ることができる。						

図 21　「動物分野－認定動物看護師職種」レベル 5 の評価結果記入欄（1/3）

職務上の技能	専門実践技能	■種々の報告書作成	動物看護師は看護記録を残し、必要に応じて求められた報告書を作成することがある。また、外部で参加した学会や講演会等で知り得た内容を上司、スタッフに報告する必要な生じることがある。						
		■基準・手順に沿った安全な動物看護	動物看護は、アセスメントをすることで情報収集と整理をして実態を正しくとらえ、問題点を抽出してそれを解決する計画立案をして実践することで手順にそった安全な看護が実践できる。実践したことを振り返り、評価することで更なる安全につながる。						
		■安全管理・感染予防・防災対策	特に感染のおそれがある疾患をもった動物に触れたり入院管理する場合には、どの動物および他動物に不利益が生じないよう特別な予防策が必要となり、それに対応できる。また、災害発生時には院内の規則に則り迅速で人命第一の対応がとれるよう訓練ができている。						
	対人技能	■インフォームドコンセント	病気や治療について飼い主が説明をもとめ、その求めに応じて獣医師が説明し、その説明に基づき飼い主が治療法の可否や方向性を選択することを理解し、飼い主の決定を尊重するが動物にとって不利益にならないよう監視ができる。						
		■自分の考えを他者に伝える	臨床の場において、動物看護師は獣医師によって決定された治療方針、予後が動物にとって不利益がなく適切なものであるかを評価し、他者につたえられなければならない。						
		■対象者や他人の意見・考えの尊重	飼い主が獣医師からの意見、インフォームドコンセントについて理解できているかを確認し、飼い主側にたって、飼い主の知る権利や決定する権利を尊重する必要がある。「動物看護者の倫理綱領」4条を理解している。						
		■異業種の方とのコミュニケーション	臨床の場では、チーム獣医療として互いの職務内容を理解し協働できる。外の環境では、One Healty One Worldの意識を持って公衆衛生の向上に努めるためコメディカルとの連携を持つ。「動物看護者の倫理綱領」13条、14を理解している。						
		■報告・連絡・相談	報告とは指示や命令に対して経過や結果を知らせること。目的を明確に伝える。連絡は情報を関係者に共有し統一された協働ができるようにする。相談はアドバイスが欲しい時に、自分の持っている情報を整理して回答を得やすい状態で上司、先輩に対して行う。						
	分析技能	■日々の臨床事例の振り返り、課題の明確化	日々の担当した動物看護事例について動物看護過程を展開し、その振り返りと評価をすることで動物に対する最適な実施であったか、そうでない場合には評価をして課題を抽出する。						
	管理・指導技能	■組織の理念・方針の理解	各自が所属する組織、企業、動物病院などの経営・臨床理念を理解し実行できるよう意識している。						
		■組織メンバーの役割を理解した行動	動物看護師は日々進化する獣医療の場で最良の動物看護を提供するため、獣医師や他スタッフと互いに協力しより良い関係を築くよう配慮する。「動物看護者の倫理綱領」8，９条を理解している。						
		■臨床実習の指導とその意義	教育システムの一端としての総合実習やインターンで臨床の場に参加する実習生には現状修得している知識や経験を理解した上で支援指導できる。また、指導できるよう自身の知識技術の振り返りと確認ができる良い機会としてとらえられる。						
		■後輩の援助や支援	教育システムの一端としての総合実習やインターンで臨床の場に参加する学生や、それを体験して入社した後輩には現状修得している知識や経験を理解した上で支援ができる。						

図 22　「動物分野－認定動物看護師職種」レベル 5 の評価結果記入欄（2/3）

自律性と責任感	■社会人また獣医療人としての自覚	動物看護師は、社会人としての教養を身につけ、品行を保ち一般常識、礼儀作法を身に付けることによって飼い主やスタッフからの信頼を得ることができる。獣医療人としては人と動物のよりよい共生をめざし、人と動物の環境問題に関心を持つ。「動物看護者の倫理綱領」12、13、14条を理解している。						
	■組織の一員としての責任感	動物看護師は知識だけでなく各人の経験と教養、人生観など全ての感性が融合した職であることを自覚し、自己の意志を持って看護に責任を持つ。「動物看護者の倫理綱領」7、8，9条を理解している。						
	■ジョブアンカー　　キャリア理論の概念。個人がキャリアを選択する際に、自分にとって最も大切で、これだけはどうしても犠牲にできないという価値観や欲求、動機、能力などを指す。	動物看護倫理の根幹を理解し、いかなる場合も、その根幹を崩さない姿勢が重要である。TPOでその根幹を柔軟に変化させていく必要が有る場合も動物看護倫理根幹に基づいた対応をすることが理想とされる。業務内容だけではなく、何を重視して業務に取り組むのか、その姿勢や動機を突き詰めた職業観であり、時代の変遷により変わるものではない。組織も社員一人ひとりのジョブアンカーを見極めることで、適材適所の人員配置や効果的な研修体系の構築に活かすことができる。						
倫理観とプロ意識	■倫理綱領への配慮	倫理綱領とは、動物看護師としての自らの行動を律するためのもので、倫理とは道徳の規範となるものであり綱領はその要点を示す。この存在を知り、理解し、行動判断に迷うことがあった場合には自らの規範とする。						
	■個人の尊厳やプライバシーへの配慮	守秘義務の伴う職であることを理解し、業務上知り得た情報を外部に漏らさないこと。特に動物病院では飼い主の個人情報だけでなくカルテ上にある全ての漏洩をしてはならないと共に飼い主や家族、飼育環境などの必要以上の詮索をしないこと。また、飼い主の知る権利や決定権を尊重する。。「動物看護者の倫理綱領」4，5条を理解している。						
	■動物福祉への配慮	動物福祉に関する法律を遵守するだけでなく動物看護師の倫理綱領条文、「5つの自由」などに書されていることを念頭において行動する。。「動物看護者の倫理綱領」前文及び1条を理解している。						

図 23　「動物分野－認定動物看護師職種」レベル 5 の評価結果記入欄（3/3）

区分	測定項目	補足説明	評価 A	評価 B	評価 C	評価 D	評価 E	測定者フリーコメント
知識と理解	■対象動物のQOL	動物種による生態系を考慮した飼育環境整備ができ、動物が不快感を感じることなく生活できるよう配慮する。						
	■重篤化回避の方法	対応事例ごとの動物看護過程の展開を重要視し看護診断を適切に実施、潜在している問題点を早期に抽出して対応する。もしも看護診断の時点で問題点が発見できないと次なる問題の発生や重篤化につながる。						
	■回復支援のリハ看護方法	獣医師の診断に基づき個体の観察をし、問題が機能不全によって生じているとした場合には、機能不全を生じさせている箇所の機能の回復を目標とした理学療法メニューを検討する。リハビリテーション技術は、獣医師による診断と計画に基づき実践され、飼い主の高すぎる目標など無理な結果を設定しないこと。実施、評価を繰り返す。						
汎用的な技能	■臨床現場における研究的視点	担当した事例が過去に同じものがあったか、その結果はどうなったか、どんな看護技術を駆使し、結果はどうだったか、広く知らせたほうが良い方法が見つかったか、希少な事例を知らせるか、など動物看護師として実践体験できることから意識を持つ。また、困難や危険な看護事例について工夫して効果があった事例などを集積しておく。「動物看護者の倫理綱領」13条を理解している。						
	■研究のプロセス	事例を担当した際、動物看護過程の展開を主体とした記録を残すこと。個体の観察、疑問点リサーチ、先人の研究の有無を調べる、経過に沿った内容の精査、疑問点の抽出と調査、文献整理。						
	■学会発表で用いる研究方法	事例の報告は、多数の同事例を比較検討する場合、希少事例を一例報告する場合、新しい看護方法を知らせる場合などを口頭発表する。また、ポスターとして掲示し解説する方法がある。						
	■職能団体の社会的意義	2009年動物看護者の全国団体である一般社団法人日本動物看護職協会が発足した。動物看護職を支援すると共に動物看護職に係る制度や就業環境整備を図ることを目的として活動を実施している。						
	■院内での学習課題理解	院内獣医療・動物看護の質をより高めていくために、課題点・不足点などを的確に把握し、それを解決するための学びや訓練が必要であることを理解しチームに理解醸造していくことは動物病院経営にとって、重要である						
	■種々の報告書作成	動物看護師は看護記録を残し、必要に応じて求められた報告書を作成することがある。また、外部で参加した学会や講演会等で知り得た内容を上司、スタッフに報告する必要な生じることがある。						

図 24　「動物分野－認定動物看護師職種」レベル 6 の評価結果記入欄（1/2）

職務上の技能	専門実践技能	■QOL向上を目指した動物看護	動物への看護とは、最善の生活の質（QOL）が保てるよう、動物種に合った生態系の中で日常生活が不快感なく自律してできるように援助（ケア）すること。言葉を話さない動物が何を求めているのかを観察判断し、個々の状況に見合った、必要とされている技術を提供できる。擬人化した環境を与えることがQOLの向上ではないことを認識できている。。「動物看護者の倫理綱領」６条のを理解している。						
		■安全な動物看護	動物への看護はアセスメントによる情報収集と整理により潜在している問題点を抽出し、それを解決する方法を立案することから始まる。安全な看護とは個々の動物の状況を判断し充分修得した技術を駆使することで成り立ち、もしその場で実施されなかった場合には次にどのような危険が生じるのか、を予測できることが必要である。						
		■動物看護の実践介入・評価	動物が自分でできることへの手助けや介入は動物の自立を助けることにはならない。各自の実践した内容の振り返りをし不適切な結果が見えた時にはアセスメントからやり直す。						
		■急変時対応	入院、周術期、輸液や輸血など予期せぬ時の急変に備えて器材、薬剤の準備、各自の行動確認ができており、それに見合った行動がとれるよう訓練がされている。						
	対人技能	■退院支援・退院後支援に関する飼主への指導・助言	獣医師の診断により退院や自宅療養が必要になった時、個々の動物への配慮や必要なケアなどが飼い主の充分な理解と協力の元で実施できるよう伝えることができる。もし動物に不利な状況や福祉に反するような行為が予測できる場合には他の方法が提示できる。						
		■院内における人間関係の認識	働く環境の中における上司、同僚、後輩へ適切な区別をした対応ができチーム獣医療としてスタッフ間が潤滑に行動できるよう意識している。。「動物看護者の倫理綱領」９、13条を理解している。						
		■多職種との協業・連携	臨床の場では、チーム獣医療として互いの職務内容を理解し協働できる。外の環境では、One Healty One Worldの意識を持って公衆衛生の向上に努めるためコメディカルとの連携を持つ。「動物看護者の倫理綱領」13条、14を理解している。						
	分析技能	■アセスメントや看護計画立案	看護を必要としている個々の動物に対して体系的な情報収集を行い、それを整理分類判断することで動物の現状把握ができ、背後にある潜在的な問題点が把握できる。この問題点を解決するための計画案を作ることができる。						
	管理・指導技能	■後輩や実習生に対する支援	教育システムの一端としての総合実習やインターンで臨床の場に参加する学生や、それを体験して入社した後輩には現状修得している知識や経験を理解した上で支援ができる。						
		■院内学習計画の立案	継続学習として院内学習の必要性を理解し積極的に取り組む。学習課題を理解し、業務との関係や意義を見出し、より有用な学習となるよう努めている。「動物看護者の倫理綱領」８、11条を理解している。						
		■院内資源（人・物・予算・情報）の有効活用を目指した調整	院内の通常シフトのスムーズな展開だけでなく突発的な事態に遭遇時人の配置管理し、常に新しい情報の収集に努め時に応じた采配ができる。						
自律性と責任感		■動物看護師間のリーダーシップ	勤務年数が多く、知識だけでなく臨床の場で必要な技術を経験して修得している者がリーダーとなって動物看護師だけでなく他業種スタッフとも連携をもって業務が遂行でき、問題解決の手段も理解している。						
倫理観とプロ意識		■倫理綱領への配慮	倫理綱領とは、動物看護師としての自らの行動を律するためのもので、倫理とは道徳の規範となるものであり綱領はその要点を示す。この存在を知り、理解し、行動判断に迷うことがあった場合には自らの規範とする。						
		■倫理的完成を高める中で、対象者への共感的理解と対応	倫理的配慮をしながら、動物が何を求めているかを常に考え、飼養者との関わり、援助に努めている。						

図 25　「動物分野－認定動物看護師職種」レベル 6 の評価結果記入欄（2/2）

3.4　土木・建築分野－土木施工管理職種

土木・建築分野においては、最下位であるレベル 3 からレベル 6 までについて可視化を検討した。その過程で学修成果指標体系の変更はなく、補足説明を加える程度の修正は行った。以下、各レベルの検討結果に相当する「評価結果記入欄」の形を掲載する。

区分		測定項目	補足説明	評価					測定者フリーコメント
				A	B	C	D	E	
知識と理解		土木技術に対する基礎的な知見を有している。	現場施工技術の基礎的な知識を評価してください。			1			
汎用的な技能		専門分野の知識修得に対し旺盛な意欲がある。	目的を持って学習に専念する意欲を評価してください。			1			
職務上の技能	専門実践技能	建設に興味がある。	建設に興味があり、探求心旺盛であるかについて評価してください。			1			
		基礎科学（数学・物理・化学）を得意とする。	基礎科学（数学・物理・化学）を得意としているかについて評価してください。			1			
	対人技能	団体活動、チーム活動の中において主導的な役割経験がある。	団体活動・チーム活動における主導的役割経験があるか、または、その資質があるかについて評価してください。			1			
	分析技能	物事を論理的に考える能力がある。	理路整然と組立て、説明できる能力について評価してください。			1			
	管理・指導技能	表現力が豊かである。	解りやすく整然と表現できる能力について評価してください。			1			
		解決すべき問題を先延ばししない。	問題解決能力の高さについて評価してください。			1			
自律性と責任感		社会人としての一般知識、基礎力・マナーなど、身についている。	基礎力(話す・聞く・書く)が身についているか、ルールや規則の遵守・思いやりの心があるかについて総合的に評価してください。			1			
倫理観とプロ意識		相手の話を良く聞き、理解し、正確に伝えることができる。				1			
		素早く記録にとどめることができる。	要点をメモし、正確に報告することができる能力について評価してください。			1			

図 26　「土木・建築分野－土木施工管理職種」レベル 3 の評価結果記入欄

区分		測定項目	補足説明	評価 A	B	C	D	E	測定者フリーコメント
知識と理解		「技術士補」資格を取得している。	取得していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
		「測量士補」資格を取得している。	取得していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
		各種「作業主任者」資格を取得している。	取得していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
		「２級土木施工管理技士」学科試験に合格している。	合格していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
		「２級舗装施工管理技士」学科試験に合格している。	合格していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
		「２級造園施工管理技士」学科試験に合格している。	合格していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
		「２級管工事施工管理技士」学科試験に合格している。	合格していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
		「２級電気工事施工管理技士」学科試験に合格している。	合格していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
汎用的な技能		基礎科学（数学・物理・化学）を活用している。	基礎科学（数学・物理・化学）の知識を活用できているかについて評価してください。			1			
		職業理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力が発揮できる。				1			
職務上の技能	専門実践技能	各種図面が作成できる。	各種図面（設計図、施工図、参考図など）を書く能力について評価してください。			1			
		数量計算書が作成できる。	数量計算書を作成する能力について評価してください。			1			
		労働安全衛生法及び同規則が全て理解できている。	労働安全衛生法及び同規則が理解できているかについて評価してください。			1			
	対人技能	報告・連絡・相談が的確に行える。	報告・連絡・相談を的確に行う能力について評価してください。			1			
	分析技能	情報の収集能力があり、的確な観察力・洞察力がある。	情報収集のツール・チャンネルを持ち、相手をよく知る力があり、ものごとを客観的にとらえる観察・洞察力があるかどうか評価してください。			1			
	管理・指導技能	上司等よりの指示、指導を受け、広い視点のもと考え方の幅や創造力を養い、技術者としての学知を十分蓄積している。	「学知の蓄積」は、柔軟な考えのもと、臨機応変な対応ができることを意味すると考えて評価してください。			1			
自律性と責任感		指導を受け、責任感と自主性をもって、仕事及び専門知識の習得に専念している。				1			
倫理観とプロ意識		常に専門技術の力量並びに技術と社会が接する領域の知識を高めている。	社会が必要としている技術についての知識を高めているか評価してください。			1			
		倫理的な行動が出来る。	自己の利益にとらわれず、公共の利益を優先することができる力について評価してください。			1			

図 27　「土木・建築分野－土木施工管理職種」レベル 4 の評価結果記入欄

区分		測定項目	補足説明	評価					測定者フリーコメント
				A	B	C	D	E	
知識と理解		「測量士」資格を取得している。	取得していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
		「コンクリート技士」資格を取得している。	取得していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
		「２級土木技術者」資格を取得している。	取得していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
		「２級土木施工管理技士」資格を取得している。	取得していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
		「２級舗装施工管理技士」資格を取得している。	取得していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
		「２級造園施工管理技士」資格を取得している。	取得していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
		「２級管工事施工管理技士」資格を取得している。	取得していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
		「２級建設機械施工技士」資格を取得している。	取得していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
		「２級電気工事施工管理技士」資格を取得している。	取得していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
汎用的な技能		専門知識、一般常識、社会人としての基礎力（話す・聞く・書く）がある。	常に情報収集、研究を行い自己啓発し、スキルアップを常に考え、社会人基礎力の向上に対し前向きであることについて評価してください。			1			
		スキルアップに関わる各種資格取得に向け、前向きに取り組んでいる。				1			
職務上の技能	専門実践技能	建設従事者への安全教育が出来る。	安全教育が実施できる能力について評価してください。			1			
		施工計画書の立案・指示・作成が出来る。	工程・安全・品質等を把握し、施工計画書を立案・作成できる能力について評価してください。			1			
		建設業法が理解できている。	建設業法を理解できている程度について評価してください。			1			
	対人技能	伝える能力・受け取る能力（コミュニケーション能力）がある。	常に良好なコミュニケーションをとれるかどうかについて評価してください。			1			
		周囲から信頼される人柄である。	皆に信頼されているかどうかについて評価してください。			1			
	分析技能	出来形管理・工程管理・安全管理をはじめ、一通りの現場管理に関して理解できている。	現場における品質・出来形・工程・安全管理が理解できている程度について評価してください。			1			
	管理・指導技能	部下に指示する立場である。	内容をよく理解し、部下に指示・説明できる能力について評価してください。			1			
		チーム内の意見をまとめ、的確な判断・指示を下す能力がある。	チーム内における各種意見の分析・取り纏めができ、提言が出来る能力について評価してください。			1			
自律性と責任感		自己の専門的能力の向上を図り、学理・工法の研究に励み、技術の発展に貢献している。	自己の専門的能力の向上を図っているかどうかについて評価してください。			1			
倫理観とプロ意識		業務上知り得た秘密を、正当な理由無く他に漏らしたり、転用したりしない。	業務上知り得た情報等に対する秘密厳守ができるかどうかについて評価してください。			1			

図 28　「土木・建築分野－土木施工管理職種」 レベル 5 の評価結果記入欄

区分		測定項目	補足説明	評価					測定者フリーコメント
				A	B	C	D	E	
知識と理解		「コンクリート主任技士」資格を取得している。	取得していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
		「１級土木技術者」資格を取得している。	取得していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
		「１級土木施工管理技士」資格を取得している。	取得していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
		「１級舗装施工管理技士」資格を取得している。	取得していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
		「１級造園施工管理技士」資格を取得している。	取得していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
		「１級管工事施工管理技士」資格を取得している。	取得していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
		「１級建設機械施工技士」資格を取得している。	取得していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
		「１級電気工事施工管理技士」資格を取得している。	取得していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
汎用的な技能		計画力が十分にある。	問題解決に向けたステップを明確にする力について評価してください。			1			
		創造力が十分にある。	新しいシステムやツールを作り出す力について評価してください。			1			
		課題発見能力が十分にある。	現状を分析して課題を明らかにする力について評価してください。			1			
		ビジネスマナーがある。	ルール遵守・規則遵守・思いやりの心について評価してください。			1			
		語学力がある。	英語検定2級程度の語学力があることを目安に評価してください。			1			
管理・指導技能	専門実践技能	現場の安全・工程・品質・原価を全て理解し、管理する能力がある。	現場の品質・安全・原価・工程・労務管理等の管理能力を評価してください。			1			
		予算書の作成・管理が出来る。	予算書を作成、管理出来るかどうかを中心に、予算管理能力を評価してください。			1			
	対人技能	マナー、協調性があり顧客はもとより、あらゆる人に対して常に好感度が高い	ルール遵守・規則遵守・思いやりの心があるか、共通の目標や目的に向かって周囲の人間と助け合うことができるか、について評価してください。			1			
	分析技能	トレードオフ問題に対し、分析し検討をすることが出来、合理的な提案が出来る。	トレードオフがある問題を分析・検討し、合理的な提案を導く能力について評価してください。			1			
	管理・指導技能	部下を指導する立場である。	部下を教育し、指導する能力について評価してください。			1			
		経験豊富で人格があり、部下に模範を示す能力がある。				1			
自律性と責任感		専門分野のプロとして、しっかりと説明責任を果たすことが出来る。	専門事項に関しては常に研究を行い自己啓発を怠らない姿勢と、自己の立場からの説明責任能力について評価してください。			1			
		法令・規則、マナーを遵守し、リスク管理能力が発揮できる。	法令遵守、説明責任を理解、実行する能力、リスクを認識してコントロール（保有・低減・回避）する能力について評価してください。			1			
倫理観とプロ意識		業務の対象となる地域の法規・条令を遵守し、文化的価値を尊重することが出来る。	「文化的価値の尊重」は、関係所轄事務所等をよく調査し地域に貢献する姿勢を表すとして評価してください。			1			

図 29　「土木・建築分野－土木施工管理職種」 レベル 6 の評価結果記入欄

4　学修成果測定試行（分野ごと）

本事業では、学修成果測定に向けた分野・職種ごと、レベルごとの学修成果測定シートを活用して、学修成果をとらえる上で、作成した「学修成果測定シート」が有効かどうか、ひいては、学修成果指標の妥当性を検証する目的で、学修成果測定試行を行った。四つの分野の試行を行う上で共通した考え方は次のとおりである。

(1) 学修成果測定シートの活用

前章で表したとおり、各分科会における議論をもとに、学修成果指標の可視化ツールの一つとしての学修成果測定シートを利用することとした。

(2) 測定対象の決定

学修成果測定シートはレベルごとに作成したので、レベルごとの指標の適切性を確かめるのにふさわしい測定対象を決めた。そのとき、社会人だけではなく、学修成果指標の活用を広げることも目的として、本年度事業では、学生も対象にすることとした。

(3) 測定者の決定

基本は他者評価、すなわち、社会人であれば上司が部下を、学校であれば教員が学生を、それぞれ測定・評価することとした。ただし、被測定者の状況等により、被測定者イコール測定者、すなわち、自己評価も認めることとした。

以下、実際に行った学修成果測定試行の状況について、分野ごとに説明する。

4.1　美容分野－美容師職種

●対象

美容分野においては、測定対象を次表のように決めて試行を行った。

区分	測定対象者	レベル	備考
社会人	実務経験 5 年以上	6	前年度に実施したアンケートに回答をいただいた美容サロン等を対象とした
	実務経験 2 年以上 5 年未満	5	
	実務経験 2 年未満	4	
学生	高度専門課程 4 年生	5	ハリウッド美容専門学校美容科高度専門課程および専門課程生を対象とした
	高度専門課程 3 年生	4	
	専門課程 2 年生	3	

●方法

・社会人、学生とも、学修成果測定シートを印刷物として提供し、手書きの形で回収した。

●送付文書

・対社会人（美容サロン）

令和２年１月 17 日

●●●●
●●●● ●●●● 様

文部科学省委託事業　職業分野別コンピテンシー体系研究委員会
委員長　　川口　昭彦（専門職高等教育質保証機構代表理事）

美容分科会　委員　川島鋼太郎（ハリウッド大学院大学）
委員　本田あけみ（関西国際大学）
委員　佐藤　友彦（アクシス）

【学修成果測定の試行に関するご協力のお願い】

拝啓　時下ますますご清栄の段お慶び申し上げます。

一般社団法人専門職高等教育質保証機構（以下、「当機構」）は、専門学校など専門職高等教育機関の質保証・向上を目的とした団体です。当機構では令和元年度文部科学省「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業（以下、「本事業」）の一環として、

学修成果の測定に向けた職業分野別コンピテンシー体系の研究

を受託しております。

本事業は昨年度（平成 30 年度）から実施しております。昨年度事業においては、職業分野に関係なく、人材のレベルを８段階に分け、それぞれの段階における知識や技能、人間力などを定義した**資格枠組みのレベルの定義**を作成し、それをもとにした職業分野ごとの**学修成果指標**を作成して、広く業界の意見を調査させていただきました（一部サロン様にはその折ご協力をいただきありがとうございました。大変遅くなりましたが、この場を借りて感謝申し上げます）。

昨年度事業の成果は、当機構のホームページのうち、
https://qaphe.com/mext/mext2018/competency2018/competency2018result/
に、上記調査結果も含む**事業成果報告書**、その他の資料をまとめています。
学修成果指標（美容分野－美容師職種）も閲覧いただくことができますので、ぜひ一度お訪れいただきますようお願いいたします。（上記 URL の QR コード→）

さて、平成 30 年度の本事業で構築した学修成果指標は一定の評価を得ることができましたので、本年度事業におきましては、昨年度事業において頂戴したご意見も踏まえ、成果をより具体的に教育現場や職場における「学修成果の測定」に役立てるべく、レベルごとの**学修成果評価シート**を作成いたしました。今回は、このシートを用いて、

御社で働く**美容師を対象**

として学修成果評価を試していただくことを依頼させていただきます。

なお、同梱いたしました学修成果評価シートへの記入方法等につきましては、次ページ以降、**学修成果評価シート記入要領**として掲載いたしましたので、ご参照ください。

本事業は専門学校教育の振興を通じてわが国の中核的人材のレベルアップを実現し、各産業の発展に貢献することを狙ったものです。どうか、本事業の趣旨をお汲み取りいただき、学修成果測定にご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

敬具

学修成果評価シート記入要領（サロン様用）

● 学修成果評価対象者の決定

御社で働く美容師のうち、美容師免許を取得してからの実務経験年数をもとに、次の基準に基づいて、被評価者を選択してください。

美容師免許取得からの実務経験年数	評価対象レベル	人数
2年未満	レベル4	3名まで
2年以上、5年未満	レベル5	3名まで
5年以上	レベル6	3名まで

※該当者が3名を超える場合、ランダムに3名を選択してください。
また、該当者が3名に満たない場合は1名でも2名でも結構です。

● 学修成果評価シートの記入要領

学修成果評価シートは、同梱したものをご利用ください。
レベル4用、レベル5用、レベル6用、それぞれ3枚ずつ同梱しています。
以下、レベル4用を例に、記入方法を説明いたします。

4 学修成果評価シート（2019）　　美容分野－美容師職種

サロン名	①					評価日付 (yyyy/mm/dd)	②
被評価者イニシャル	③	免許取得後実務経験年数	2年未満	現在年収（およそ）	④ 万円	評価基準	A:大いにそう思う B:そう思う C:だいたいそう思う D:そう思わない E:まったくそう思わない
評価者名	⑤			役職	⑥		

区分	評価項目	補足説明	評価 A	B	C	D	E	評価者フリーコメント
知識と理解	ヘア技能領域に関わる基礎的知識を持っている。	シャンプー、トリートメント（ヘアケア、スキャルプケア）、ヘアドライ、カラー（ファッションカラー、グレイカラー）、パーマ（ウェーブ、ストレート、縮毛矯正）、ブロー＆スタイリング、カット、デザイン、その他、組織特有の基礎的知識						
	ヘア関連領域の基礎的知識を持っている。	毛髪知識、薬剤知識（カラー、パーマ、トリートメント）、販売用の商品知識（ヘアケア、スタイリング）、その他、組織特有の基礎的知識						
	美容関連領域の基礎的知識（美容サロンで働く上で必要最低限な範囲）を持っている。	サロンにおける接客サービス、来店商品の提案・販売方法、メイクアップ化粧品、着付け、マッサージ・エステティック、ネイル、まつ毛エクステンション、その他、組織特有の基礎的知識			⑦			
汎用的な技能	学習／仕事の内容が明確になっている場合、最低限の監督を受けて、一般概念／理論／運用原理の認識・解釈・運用・評価ができる。							
	明確でありふれた問題や、日常的に見られない性質の問題の解決ができる。							

①貴サロン名をご記入ください。略称で構いません。
②記入した日付を　yyyy/mm/dd　形式でご記入ください。
③被評価者（評価対象となる美容師）のイニシャルやニックネームをご記入ください。
貴サロンで対象者を区別するための欄とお考え下さい。
④被評価者のおおよその年収を万円単位でご記入ください。
⑤評価者（このシートの記入者）の氏名をご記入ください。
⑥評価者の役職をご記入ください。
⑦各評価項目（各行）について「評価基準」に基づいて評価し、該当する列をチェックしてください（〇を付ける、✔を付けるなど）。

● **ご提出**

対象者全員についてご記入いただきましたら、お手数ですが、同梱した返信用封筒にご封入いただき、

令和２年１月31日（金）までに

到着するよう、ご投函をお願いいたします。

ご不明な点も含めて、何かありましたら下記あてご連絡ください。

○本件に関するお問合せ・ご連絡先

〒106-0032　東京都港区六本木6-2-33　六本木ヒルズノースタワーアネックス3F

一般社団法人専門職高等教育質保証機構　文部科学省委託事業事務局

TEL 03-3403-3432　　FAX 03-6734-0541

E-mail　jimukyoku@qaphe.com　URL　http://qaphe.com/

・対学校（ハリウッド美容専門学校）

令和２年１月 17 日

ハリウッド美容専門学校の先生方

文部科学省委託事業　職業分野別コンピテンシー体系研究委員会
委員長　　川口　昭彦（専門職高等教育質保証機構代表理事）

美容分科会　委員　川島鋼太郎（ハリウッド大学院大学）
委員　本田あけみ（関西国際大学）
委員　佐藤　友彦（アクシス）

【学修成果測定の試行に関するご協力のお願い】

拝啓　時下ますますご清栄の段お慶び申し上げます。

一般社団法人専門職高等教育質保証機構（以下、「当機構」）は、専門学校など専門職高等教育機関の質保証・向上を目的とした団体です。当機構では令和元年度文部科学省「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業（以下、「本事業」）の一環として、

学修成果の測定に向けた職業分野別コンピテンシー体系の研究

を受託しております。

本事業は昨年度（平成 30 年度）から実施しております。昨年度事業においては、職業分野に関係なく、人材のレベルを８段階に分け、それぞれの段階における知識や技能、人間力などを定義した**資格枠組みのレベルの定義**を作成し、それをもとにした職業分野ごとの**学修成果指標**を作成して、広く業界の意見を調査させていただきました

昨年度事業の成果は、当機構のホームページのうち、

https://qaphe.com/mext/mext2018/competency2018/competency2018result/

に、上記調査結果も含む**事業成果報告書**、その他の資料をまとめています。
学修成果指標（美容分野－美容師職種）も閲覧いただくことができますので、ぜひ一度お訪れいただきますようお願いいたします。（上記 URL の QR コード→）

さて、平成 30 年度の本事業で構築した学修成果指標は一定の評価を得ることができましたので、本年度事業におきましては、昨年度事業において頂戴したご意見も踏まえ、成果をより具体的に教育現場や職場における「学修成果の測定」に役立てるべく、レベルごとの**学修成果評価シート**を作成いたしました。今回は、このシートを用いて、

御校の**学生を対象**

として学修成果評価を試していただくことを依頼させていただきます。

なお、同梱いたしました学修成果評価シートへの記入方法等につきましては、次ページ以降、**学修成果評価シート記入要領**として掲載いたしましたので、ご参照ください。

本事業は専門学校教育の振興を通じてわが国の中核的人材のレベルアップを実現し、各産業の発展に貢献することを狙ったものです。どうか、本事業の趣旨をお汲み取りいただき、学修成果測定にご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

敬具

学修成果評価シート記入要領（学校様用）

● 学修成果評価対象者の決定

御校の美容科に学ぶ次の学生を対象として、次の基準に基づいて被評価者を選択してください。

学科・学年	評価対象レベル	人数
美容科**専門課程２年**生	レベル３	10 名まで
美容科**高度専門課程３年**生	レベル４	10 名まで
美容科**高度専門課程４年**生	レベル５	10 名まで

● 学修成果評価シートの記入要領

学修成果評価シートは、同梱したものをご利用ください。
レベル３用、レベル４用、レベル５用、それぞれ 10 枚ずつ同梱しています。
以下、レベル３用を例に、記入方法を説明いたします。

3 学修成果測定シート（2019）　　美容分野－美容師職種

学校名	ハリウッド美容専門学校					評価日付 (yyyy/mm/dd)	①
被評価者イニシャル	②	学科	美容科	年次	2 年生	評価基準	A:大いにそう思う B:そう思う C:だいたいそう思う D:そう思わない E:まったくそう思わない
評価者名	③			役職	④		

区分	測定項目	補足説明	評価 A	B	C	D	E	測定者フリーコメント
知識と理解	美容師免許の取得に必要となる各科目における学修項目の知識を獲得し理解している。	関係法規・制度、衛生管理、美容保健、美容の物理・化学、美容文化論、美容技術理論、美容運営管理 の各科目						
知識と理解	美容師免許取得後に必要な実践的な各知識の伝授と職業訓練を受けている。	カット理論（カラーやパーマなどの薬剤を使用した技術的知識）、デザイン的思考と実践的知識、その他技術的経験、および、資格取得に必要な実体験の習得・インターンシップによる職場体験			⑤			
汎用的な技能	知識やよく知っている手法活用して、定型的任務／学習の予測できる問題を解決する技能を持っている。							

①記入した日付を　yyyy/mm/dd　形式でご記入ください。
②被評価者（評価対象となる学生）のイニシャルやニックネームをご記入ください。
　御校で対象者を区別するための欄とお考え下さい。
③評価者（このシートの記入者）の氏名をご記入ください。
④評価者の役職をご記入ください。
⑤各評価項目（各行）について「評価基準」に基づいて評価し、該当する列をチェック
　してください（〇を付ける、✔を付けるなど）。

● ご提出

対象者全員についてご記入いただきましたら、
令和２年１月 31 日（金）までに
当機構事務局までご提出ください（ご連絡をいただいたら受け取りにまいります）
ご不明な点も含めて、何かありましたら下記あてご連絡ください。

○本件に関するお問合せ・ご連絡先

〒106-0032　東京都港区六本木 6-2-33　六本木ヒルズノースタワーアネックス 3F
一般社団法人専門職高等教育質保証機構　文部科学省委託事業事務局
TEL 03-3403-3432　FAX 03-6734-0541
E-mail　jimukyoku@qaphe.com　URL　http://qaphe.com/

●回収および分析結果

・測定結果回収状況

専門学校

2 年生…17 名

3 年生…12 名

4 年生…5 名

美容サロン

実務経験 2 年未満…25 名

実務経験 2 年以上 5 年未満…23 名

実務経験 5 年以上…28 名

・測定結果の集計結果

		スコア基準→	3.4	3.2	3.0	2.8	2.6		
美容師 ・ レベル3 ・ 学校			**A**	**B**	**C**	**D**	**E**	**合計**	**スコア**
知識と理解		美容師免許の取得に必要となる各科目における学修項目の知識を獲得し理解	8	7	1	1	0	17	3.26
		美容師免許取得後に必要な実践的な各知識の伝授と職業訓練を受けている。	4	5	5	3	0	17	3.12
汎用的な技能		知識やよく知っている手法活用して、定型的任務／学習の予測できる問題を	5	6	4	1	1	17	3.15
職務上の技能	専門実践技能	国家試験の実技について基礎的な技能を持っている。	8	6	3	0	0	17	3.26
		各種の基礎的な実技授業におい、て安定的な技能を発揮している。	5	7	4	1	0	17	3.19
		カット理論に基づく実践的な基礎的技能を持っている。	1	3	9	4	0	17	3.01
		カラーやパーマなどの薬剤を使用した基礎的なレベルにおける実践技能を	1	0	7	6	3	17	2.88
		デザイン的思考を発揮した基礎的な実践技能を持っている。	1	2	5	6	3	17	2.91
		実体験を通じてその他の各種基礎的な資格の取得に必要な技能を持ってい	0	5	8	4	0	17	3.01
	対人技能	望まれる学修成果を修得するため、教員や保護者など進路の相談相手と信頼	3	7	4	2	1	17	3.11
		職場で必要な対人関係構築能力を習得するため、同級生、先輩、後輩と良好	2	5	4	5	0	16	3.05
	分析技能	資料作成およびプレゼンテーションの基礎的な能力がある。	2	5	6	3	1	17	3.05
	管理・指導技能	最低限の指導監督で、かなり自主的に仕事をする能力を持っている。	2	6	4	3	2	17	3.04
		学習／仕事の枠内で、相手に助言を与える能力を持っている。	0	7	6	2	2	17	3.01
自律性と責任感		学業に対する意欲および責任感がある。	7	2	5	1	2	17	3.13
		知識および技術的経験を修得するための問題解決に取り組む姿勢がよい。	3	7	4	2	1	17	3.11
		国家資格を取得し、美容師および美容の仕事に携わる者としての自覚と自尊	5	6	5	1	0	17	3.18
倫理観とプロ意識		社会的規範を理解し、社会生活および学校生活を送るにあたり、コンプライ	1	9	5	0	2	17	3.08

		スコア基準→	4.4	4.2	4.0	3.8	3.6		
美容師　・　レベル4　・　学校			**A**	**B**	**C**	**D**	**E**	**合計**	**スコア**
知識と理解		ヘア技能領域に関わる基礎的知識を持っている。	10	2	0	0	0	12	4.37
		ヘア関連領域の基礎的知識を持っている。	11	1	0	0	0	12	4.38
		美容関連領域の基礎的知識（美容サロンで働く上で必要最低限な範囲）を	11	1	0	0	0	12	4.38
汎用的な技能		学習／仕事の内容が明確になっている場合、最低限の監督を受けて、一般概	5	5	2	0	0	12	4.25
		明確でありふれた問題や、日常的に見られない性質の問題の解決ができる。	5	6	1	0	0	12	4.27
職務上の技能	専門実践技能	美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限なシャンプーの技能を持ってい	11	1	0	0	0	12	4.38
		美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限なトリートメントの技能を持っ	11	1	0	0	0	12	4.38
		美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限なヘッドスパの技能を持ってい	11	1	0	0	0	12	4.38
		美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限なカラーの技能を持っている。	12	0	0	0	0	12	4.40
		美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限なパーマの技能を持っている。	11	1	0	0	0	12	4.38
		美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限なブロー&スタイリングの技能	11	1	0	0	0	12	4.38
		美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限なカットの技能を持っている。	11	1	0	0	0	12	4.38
		美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限なデザインの技能を持ってい	10	2	0	0	0	12	4.37
		美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限なその他の技能を持っている。	9	3	0	0	0	12	4.35
	対人技能	最低限のマナーを踏まえた接客能および会話の能力がある。	5	6	1	0	0	12	4.27
		職場の同僚、先輩、後輩との良好な関係を築く姿勢と会話の能力がある。	7	4	1	0	0	12	4.30
		組織の一員として円滑に業務を遂行するために必要な洞察力と意思疎通の能	6	6	0	0	0	12	4.30
	分析技能	基本的な資料作成能力がある。	10	2	0	0	0	12	4.37
		基本的なプレゼンテーション能力がある。	6	5	1	0	0	12	4.28
	管理・指導技能	さまざまな状況で実施される明確で非定型的な学習／任務について、幅広い	3	7	2	0	0	12	4.22
		職場で各種チームの統率と管理を行い、問題に対処する技能がある。	4	5	3	0	0	12	4.22
自律性と責任感		美容師及び美容の仕事に携わる者としての自覚や自尊心、仕事に対する情熱	6	4	2	0	0	12	4.27
		自己管理能力がある。	4	3	5	0	0	12	4.18
		組織の一員としての円滑な業務の遂行能力がある。	6	3	3	0	0	12	4.25
倫理観とプロ意識		社会的規範を理解し、コンプライアンス意識を持った行動ができる。	7	4	1	0	0	12	4.30
		個人情報やプライバシーに配慮できる。	8	4	0	0	0	12	4.33
		守秘義務を順守できる。	8	4	0	0	0	12	4.33

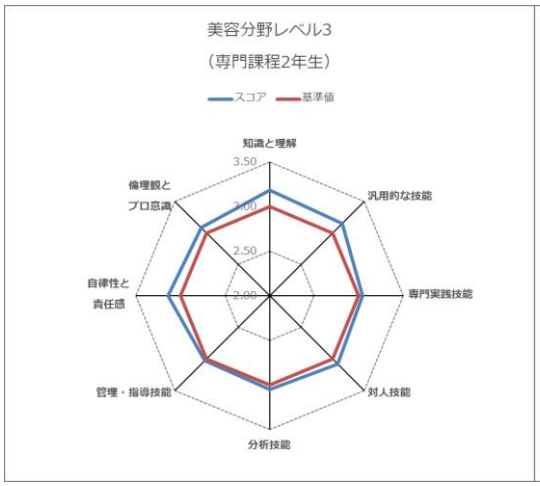
		スコア基準→	4.4	4.2	4.0	3.8	3.6		
美容師　・　レベル4　・　サロン			**A**	**B**	**C**	**D**	**E**	**合計**	**スコア**
知識と理解		ヘア技能領域に関わる基礎的知識を持っている。	3	6	10	6	0	25	4.05
		ヘア関連領域の基礎的知識を持っている。	5	5	9	6	0	25	4.07
		美容関連領域の基礎的知識（美容サロンで働く上で必要最低限な範囲）を	5	7	9	4	0	25	4.10
汎用的な技能		学習／仕事の内容が明確になっている場合、最低限の監督を受けて、一般概	4	7	11	3	0	25	4.10
		明確でありふれた問題や、日常的に見られない性質の問題の解決ができる。	5	2	15	3	0	25	4.07
職務上の技能	専門実践技能	美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限なシャンプーの技能を持ってい	13	6	5	1	0	25	4.25
		美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限なトリートメントの技能を持っ	12	7	5	0	1	25	4.23
		美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限なヘッドスパの技能を持ってい	12	7	5	0	1	25	4.23
		美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限なカラーの技能を持っている。	2	8	9	4	2	25	4.03
		美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限なパーマの技能を持っている。	0	6	8	8	3	25	3.94
		美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限なブロー&スタイリングの技能	0	3	11	8	3	25	3.91
		美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限なカットの技能を持っている。	2	2	2	15	4	25	3.86
		美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限なデザインの技能を持ってい	1	6	3	12	3	25	3.92
		美容サロンの現場で、問題解決に必要最低限なその他の技能を持っている。	3	4	3	12	2	24	3.95
	対人技能	最低限のマナーを踏まえた接客能および会話の能力がある。	8	8	8	1	0	25	4.18
		職場の同僚、先輩、後輩との良好な関係を築く姿勢と会話の能力がある。	7	8	7	3	0	25	4.15
		組織の一員として円滑に業務を遂行するために必要な洞察力と意思疎通の能	6	3	12	4	0	25	4.09
	分析技能	基本的な資料作成能力がある。	0	5	8	9	3	25	3.92
		基本的なプレゼンテーション能力がある。	0	6	7	10	2	25	3.94
	管理・指導技能	さまざまな状況で実施される明確で非定型的な学習／任務について、幅広い	2	8	8	7	0	25	4.04
		職場で各種チームの統率と管理を行い、問題に対処する技能がある。	2	7	7	7	2	25	4.00
自律性と責任感		美容師及び美容の仕事に携わる者としての自覚や自尊心、仕事に対する情熱	5	5	11	4	0	25	4.09
		自己管理能力がある。	4	3	12	6	0	25	4.04
		組織の一員としての円滑な業務の遂行能力がある。	4	4	14	3	0	25	4.07
倫理観とプロ意識		社会的規範を理解し、コンプライアンス意識を持った行動ができる。	6	5	11	3	0	25	4.11
		個人情報やプライバシーに配慮できる。	9	2	11	3	0	25	4.14
		守秘義務を順守できる。	9	2	10	4	0	25	4.13

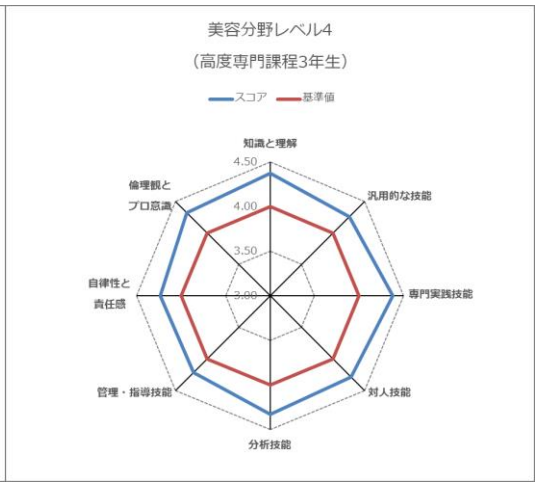
		スコア基準→	5.4	5.2	5.0	4.8	4.6		
美容師　・　レベル5　・　学校			**A**	**B**	**C**	**D**	**E**	**合計**	**スコア**
知識と理解		ヘア技能領域に関わる基礎的知識を持っている。	3	0	0	2	0	5	5.16
		ヘア関連領域の基礎的知識を持っている。	3	0	0	2	0	5	5.16
		美容関連領域の実践的知識を持っている。	2	1	1	1	0	5	5.16
汎用的な技能		美容師の仕事において、専門的・概念的・理論的知識を詳細に認識し、解	2	1	2	0	0	5	5.20
		あいまいで複雑な定型的・非定型的な状況や、予測できない状況でも、限ら	1	1	2	1	0	5	5.08
職務上の技能	専門実践技能	美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要なシャンプーの技能を	3	0	0	2	0	5	5.16
		美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要なトリートメントの技能	3	0	0	1	1	5	5.12
		美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要なヘッドスパの技能を	3	0	0	1	1	5	5.12
		美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要なカラーの技能を持って	2	1	0	0	2	5	5.04
		美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要なパーマの技能を持って	2	1	0	0	2	5	5.04
		美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要なブロー&スタイリング	3	0	0	0	2	5	5.08
		美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要なカットの技能を持って	3	0	2	0	0	5	5.24
		美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要なデザインの技能を持っ	3	0	0	2	0	5	5.16
		美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要なその他の技能を持って	1	2	1	1	0	5	5.12
	対人技能	顧客との円滑なコミュニケーションの実践能力がある。	1	0	3	1	0	5	5.04
	分析技能	美容サロンの顧客管理につながるPCやスマートフォンの操作（SNSの活用	3	0	2	0	0	5	5.24
	管理・指導技能	後輩に対する適切な指導能力がある。	1	1	3	0	0	5	5.12
		業務分野が明確でない場合を含め、新しい環境で、チーム・リーダーシップ	1	1	2	1	0	5	5.08
		組織の他者に対する業績を評価できる。	2	0	2	1	0	5	5.12
自律性と責任感		美容の社会的位置づけの正しい認識に裏付けられた美容師としての誇りを	0	3	2	0	0	5	5.12
		組織の一員としての責任感が十分にある。	2	1	2	0	0	5	5.20
倫理観とプロ意識		美容師として、専門職業人に相応しい倫理的慣行や持続可能な慣行に従う能	2	3	0	0	0	5	5.28
		地域や世界で、持続可能な社会をつくるために美容師の立場から貢献でき	1	4	0	0	0	5	5.24

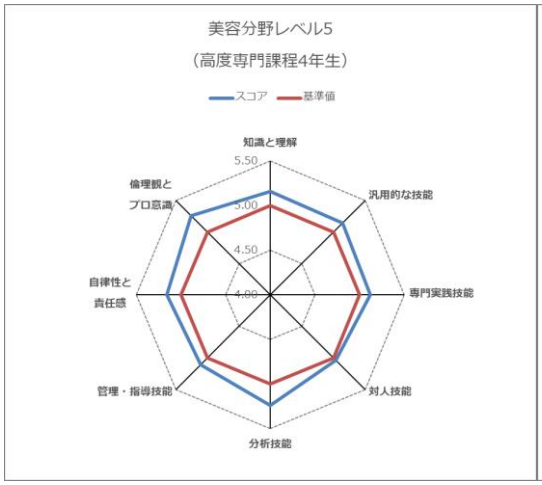
		スコア基準→	5.4	5.2	5.0	4.8	4.6		
美容師　・　レベル5　・　サロン			**A**	**B**	**C**	**D**	**E**	**合計**	**スコア**
知識と理解		ヘア技能領域に関わる基礎的知識を持っている。	7	11	4	1	0	23	5.21
		ヘア関連領域の基礎的知識を持っている。	7	8	5	1	0	21	5.20
		美容関連領域の実践的知識を持っている。	7	10	5	0	0	22	5.22
汎用的な技能		美容師の仕事において、専門的・概念的・理論的知識を詳細に認識し、解	5	6	11	1	0	23	5.13
		あいまいで複雑な定型的・非定型的な状況や、予測できない状況でも、限ら	4	7	9	1	2	23	5.09
職務上の技能	専門実践技能	美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要なシャンプーの技能を	18	5	0	0	0	23	5.36
		美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要なトリートメントの技能	15	8	0	0	0	23	5.33
		美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要なヘッドスパの技能を	16	6	1	0	0	23	5.33
		美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要なカラーの技能を持って	10	9	4	0	0	23	5.25
		美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要なパーマの技能を持って	4	10	7	2	0	23	5.14
		美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要なブロー&スタイリング	3	10	9	1	0	23	5.13
		美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要なカットの技能を持って	5	7	9	1	1	23	5.12
		美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要なデザインの技能を持っ	5	2	14	2	0	23	5.09
		美容サロンのあらゆる局面における問題解決に必要なその他の技能を持って	3	7	8	5	0	23	5.07
	対人技能	顧客との円滑なコミュニケーションの実践能力がある。	7	9	7	0	0	23	5.20
	分析技能	美容サロンの顧客管理につながるPCやスマートフォンの操作（SNSの活用	4	7	5	4	3	23	5.04
	管理・指導技能	後輩に対する適切な指導能力がある。	4	10	4	5	0	23	5.11
		業務分野が明確でない場合を含め、新しい環境で、チーム・リーダーシップ	3	9	3	4	4	23	5.03
		組織の他者に対する業績を評価できる。	3	6	6	4	4	23	5.00
自律性と責任感		美容の社会的位置づけの正しい認識に裏付けられた美容師としての誇りを	4	6	10	3	0	23	5.10
		組織の一員としての責任感が十分にある。	5	9	6	3	0	23	5.14
倫理観とプロ意識		美容師として、専門職業人に相応しい倫理的慣行や持続可能な慣行に従う能	4	11	7	1	0	23	5.16
		地域や世界で、持続可能な社会をつくるために美容師の立場から貢献でき	4	8	9	1	1	23	5.11

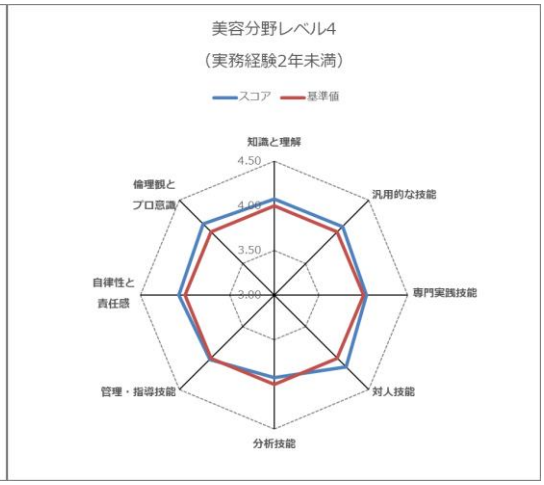
		スコア基準→	6.4	6.2	6.0	5.8	5.6		
美容師　・　レベル6　・　サロン			**A**	**B**	**C**	**D**	**E**	**合計**	**スコア**
知識と理解		インストラクション、トレーニング等人材育成の各手法に関して知識と理解	7	11	12	1	0	31	6.15
		美容各領域の技術的トレンドに関する知識を持っている。	7	14	9	1	0	31	6.17
		美容サロン現場の生産性向上に役立つ知識を持っている。	8	12	10	1	0	31	6.17
汎用的な技能		美容師の仕事において、批評的・分析的能力や評価能力を用いて、美容分野	7	11	11	2	0	31	6.15
		美容分野において複雑な用途を管理、解明し、創造的で画期的な解決策を用	4	12	12	3	0	31	6.11
		サービスの創出につながるクリエイティブな思考ができる。	4	13	9	5	0	31	6.10
		広範な諸問題の解決に必要なレベルのロジカルシンキング能力がある。	4	14	10	3	0	31	6.12
職務上の技能	専門実践技能	革新的で創造性に富む高度な美容サービスを創出できる。	4	10	11	4	1	30	6.08
		インストラクション、トレーニング等人材育成に関する実践的技能を持って	7	12	9	3	0	31	6.15
	対人技能	中間管理職的なコミュニケーションや円滑なミーティングの実施に必要なコ	10	7	12	2	0	31	6.16
	分析技能	PCやスマートフォンを活用した効果的で説得力のあるプレゼンテーション技	3	6	14	5	3	31	6.01
	管理・指導技能	多様な組織的枠組みや制約の下で、自主的に仕事を進め、各種業務管理で	5	14	8	4	0	31	6.13
自律性と責任感		自分や他者の業務について、相当レベルの責任感がある。	10	10	11	0	0	31	6.19
		美容師としての自覚と誇りを持って後進の育成にあたる責任感がある。	10	12	8	1	0	31	6.20
		自身のキャリアパスを明確化できる。	5	12	12	2	0	31	6.13
		自身の活動を効率的にするタイムマネジメントができる。	8	12	7	4	0	31	6.15
		自身に発生するストレスを軽減・コントロールするためのストレスマネジメ	6	9	12	4	0	31	6.11
倫理観とプロ意識		社会的・職業上の多様な環境や実務の中で、倫理観を遵守し、倫理上の課題	5	16	8	2	0	31	6.15
		地域や世界が抱える科学、技術、ビジネス、社会、環境の課題について、深	5	10	11	4	1	31	6.09

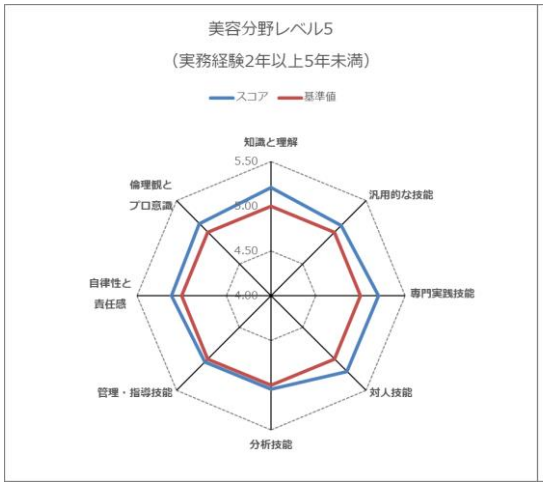
・チャート化の結果

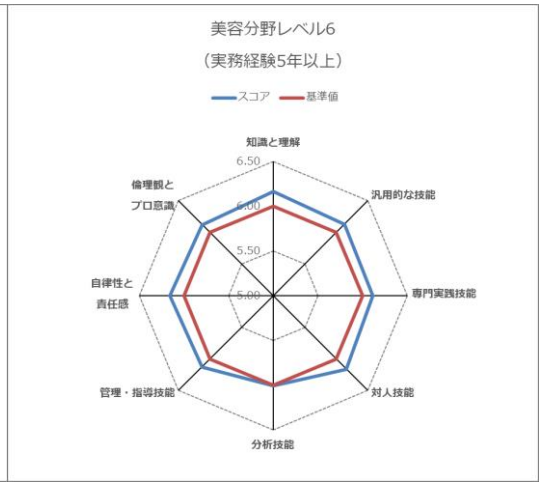












- 学校における評価は高めであるのに対し、美容サロンにおける評価は学校に比べて基準に近い
- 美容サロンのレベル 5、レベル 6 は、レベル 4 に比べて評価は高めである、

4.2　ゲーム・CG 分野－ゲームクリエイター職種

●対象

ゲーム・CG 分野においては、測定対象を次表のように決めて試行を行った。

区分	測定対象者	レベル	備考
社会人	実務経験 2 年以上	6、7	一人の測定対象者について、レベル 6 と 7 の両方を測定していただく
学生	専門課程 4 年生	6	ECC コンピュータ専門学校のゲーム関係学科の 2 年生～4 年生を対象とした
	専門課程 3 年生	5	
	専門課程 2 年生	4	

●方法

・あらかじめ、学修成果測定シートを当機構ホームページからダウンロードできるようにアップロードし、その後、測定者が次の手順で操作するようにした。

(1) 依頼文書に示された方法に従ってダウンロードする

(2) ダウンロードしたファイルを被測定者の数分コピーする

(3) 被測定者に関する測定記録をファイルごとに保存する

(4) 保存された複数のファイルを事務局あて送信する

●送付文書

・対社会人（ゲーム会社）

令和２年１月 15 日

●●●●株式会社
●●●● ●●●● 様

文部科学省委託事業　職業分野別コンピテンシー体系研究委員会
委員長　　川口　昭彦（専門職高等教育質保証機構代表理事）

ゲーム・CG 分科会　委員　宇佐見眞也（ECC コンピュータ専門学校）
委員　徳留　和人（スマイルブーム）
委員　丸山　一彦（ＪＥＤＡＩ）

【学修成果測定の試行に関するご協力のお願い】

拝啓　時下ますますご清栄の段お慶び申し上げます。

一般社団法人専門職高等教育質保証機構（以下、「当機構」）は、専門学校など専門職高等教育機関の質保証・向上を目的とした団体です。当機構では令和元年度文部科学省「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業（以下、「本事業」）の一環として、

学修成果の測定に向けた職業分野別コンピテンシー体系の研究

を受託しております。

およそ１年前、貴社には、平成 30 年度の本事業の調査ご協力をお願いいたしました。その折は、ご多忙にもかかわらず、調査にご回答をいただきありがとうございました。お礼を申し上げるのが大変遅くなりましたが、本書面を以ってあらためて感謝申し上げます。

なお、平成 30 年度事業の調査結果につきましては、本事業の

事業成果報告書
https://qaphe.com/wp-content/uploads/competency2018result.pdf

の該当部分（39～59 ページ）をご参照ください。

さて、平成 30 年度の本事業で構築した、

学修成果指標（ゲーム・ＣＧ分野－ゲームクリエイター職種）
https://qaphe.com/wp-content/uploads/competency2018attachment-c-2.pdf

は一定の評価を得たものと思われます。本年度事業におきましては、昨年度事業において頂戴したご意見も踏まえ、成果をより具体的に教育現場や職場における「学修成果の測定」に役立てるべく、レベルごとの**学修成果測定シート**を作成いたしました。今回は、この**学修成果測定シート**を用いて、昨年度と同様、御社の、

ゲームクリエイター職種（プランナー、プログラマー、デザイナー職種を含む）に
相当する社員（専門学校卒業生）を対象

として学修成果測定を試していただくことを依頼させていただきます。

なお、学修成果測定シートは、PC を用いて、Excel のワークシートを操作する方法で記録していただきたくお願いいたします。その操作方法等につきましては、次ページ以降、**学修成果測定操作マニュアル**として掲載いたしましたので、ご参照ください。

※平成 30 年度の本事業の成果は、当機構のホームページの次の URL に掲載されています。
https://qaphe.com/mext/mext2018/competency2018/competency2018result/ →

本事業は専門学校教育の振興を通じてわが国の中核的人材のレベルアップを実現し、各産業の発展に貢献することを狙ったものです。どうか、本事業の趣旨をお汲み取りいただき、学修成果測定にご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

敬具

学修成果測定操作マニュアル（企業様用）

● 操作の前提

以下の説明は、インターネットに接続された Windows の PC で、Microsoft Excel がインストールされていることを前提にしています。

● 学修成果測定の準備

① 学修測定対象者の決定

御社のゲームクリエイター職種（プランナー、プログラマー、デザイナー職種を含む）に相当する社員のうち、専門学校卒の者（被測定者）を数名選択してください。該当者が多数いらっしゃる場合は 10 名を上限としてください。可能であれば、実務経験が比較的短い（1、2 年程度）方とそうでない方を交えていただけると幸いですが、対象者が 1 名のみであってもかまいません。

② Excel ファイル（ひな形）のダウンロード

https://qaphe.com/mext/mext2019/competency2019/competency2019questionary/
にアクセスしていただき、表示されたページにある
ゲーム・ＣＧ分野－ゲームクリエイター職種　学修成果測定シート（ひな形）ダウンロード
ボタンをクリックして、Excel ファイルをダウンロードしてください。

※上記 URL の QR コードは右に示したとおりです。

※当機構のホームページから順にアクセスする手順は次のとおりです。

1. qaphe.com にアクセス
2. メニューの［文部科学省委託事業］→［令和元年度文部科学省委託事業］をクリック
3. スクロールして、［コンピテンシー事業］をクリック
4. ［コンピテンシー事業学修成果測定試行］をクリック

③ ②でダウンロードしたファイルのコピーと名称の変更

②でダウンロードした**ファイルは 1 名分の学修成果測定用**ですので、①で決定した**対象者数分のコピーを作成**してください。

そのうえで、各ファイルがどの対象者に対応するものかわかるように、ファイル名を変更してください。ひな形のファイル名は

「R01worksheet-2」

となっているので、たとえば、

「R01worksheet-2（●●）」
「R01worksheet-2（▲▲）」
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

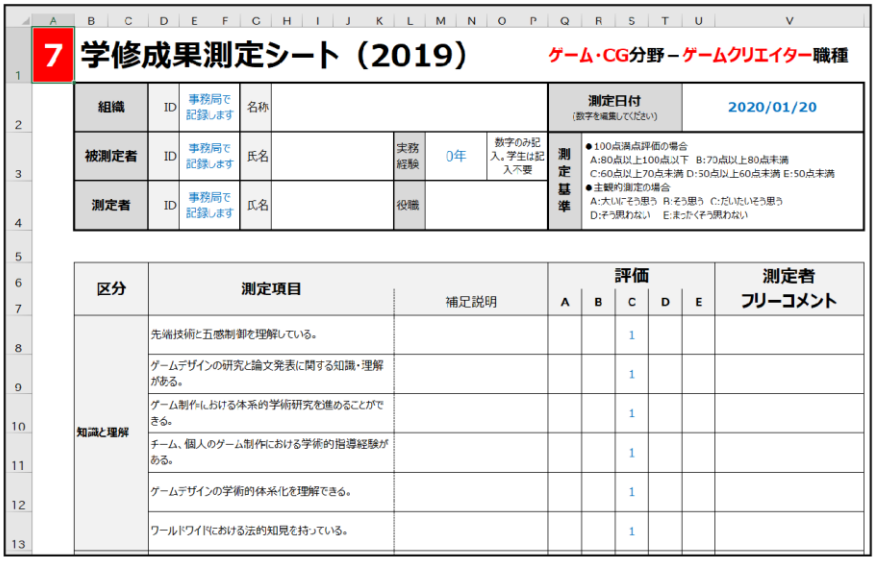
のように名称を付けていただけるとよいかと思います（対象者を識別できるように、●●や▲▲の部分に氏名やイニシャルを付けてください）。

● （対象者ごとの）学修成果測定シートの記録

以下は、上記③までの操作を終え、対象者ごとの学修成果測定シートのファイルが存在していることを前提に、１つのファイルを操作する方法の説明です。

① ファイルを開く

該当するファイルをダブルクリックするなどして開くと、次の画面が表示されます。



7 学修成果測定シート（2019）　ゲーム・CG分野－ゲームクリエイター職種

組織	ID	事務局で記録します	名称					測定日付（数字を編集してください）	2020/01/20
被測定者	ID	事務局で記録します	氏名		実務経験	0年	数字のみ記入。学生は記入不要	測定基準	●100点満点評価の場合 A:80点以上100点以下 B:70点以上80点未満 C:60点以上70点未満 D:50点以上60点未満 E:50点未満 ●主観的測定の場合 A:大いにそう思う B:そう思う C:だいたいそう思う D:そう思わない E:まったくそう思わない
測定者	ID	事務局で記録します	氏名		役職				

区分	測定項目	補足説明	評価 A	B	C	D	E	測定者フリーコメント
知識と理解	先端技術と五感制御を理解している。				1			
	ゲームデザインの研究と論文発表に関する知識・理解がある。				1			
	ゲーム制作における体系的学術研究を進めることができる。				1			
	チーム、個人のゲーム制作における学術的指導経験がある。				1			
	ゲームデザインの学術的体系化を理解できる。				1			
	ワールドワイドにおける法的知見を持っている。				1			

この画面は、**レベル７**（セル A1 の赤地白抜き文字が 7）の学修成果測定シートです。画面の下側を見ていただき、下図のように複数のシートがあることをご確認ください。

４つのシートが、それぞれレベル 7、レベル 6、レベル 5、レベル 4 の「学修成果測定シート」です（今回はレベル８を対象としておりません）。これらのシートは独立に操作するようになっています。

② 学修成果測定のための操作方法

今回の設定では、**一人の対象者に関する学修成果測定操作を、レベル７とレベル６に限ってお願いします**。「**レベル７**」は学位で言うと「**修士**」レベル、「**レベル６**」は学位で言うと「**大卒**」レベルに相当します。すなわち、**4 年課程の専門学校（高度専門課程）を卒業して社会人としての経験をある程度積んだ者が到達すべきレベル**を想定しています。今回の試行は、対象者がレベル７にあるのか、レベル６にあるのかを測定するという考え方で行います。

以下、それぞれのシートにおける操作方法について、レベル７のシート（[L7-2019（ゲーム）]シート）を例に説明します。

(1) 基本情報の入力

下図の太枠のとおり、組織の名称、被測定者の氏名（匿名やイニシャルで構いません）、実務経験年数、測定者の氏名、測定者の役職、測定日付を入力してください。入力した文字は青色で表示されます。

(2) 測定項目ごとの評価とその結果の入力

次に、測定項目ごとに、右上に記述してある「測定基準」に基づき、補足説明も参考にしながら、**A～E の評価をして該当欄に数字の１を入力してください**（下図の太線の枠内）（同じ行に複数の１があった場合は、評価の高いほうを優先します）。必要に応じて、測定者フリーコメント欄に測定者としてのコメントをご記入ください（下図の点線の枠内）。

区分	測定項目	補足説明	評価 A	B	C	D	E	測定者フリーコメント
知識と理解	先端技術と五感制御を理解している。				1			
	ゲームデザインの研究と論文発表に関する知識・理解がある。				1			
	ゲーム制作における体系的学術研究を進めることができる。				1			
	チーム、個人のゲーム制作における学術的指導経験がある。				1			
	ゲームデザインの学術的体系化を理解できる。				1			
	ワールドワイドにおける法的知見を持っている。				1			
汎用的な技能	先端技術に精通し開発もする技能を持っている。				1			
	技術を、体系化し、まとめる技能を持っている。				1			

以上は一つのレベル（シート）に対する操作の説明です。

今回は、レベル７およびレベル６、二つのレベル（シート）について操作をお願いします。

※ワークシートには「レベル５」「レベル４」の学修成果測定シートも含まれていますが、これらは主として専門学校生を想定したものです。企業様には測定していただく必要はありません。

● ファイルの送信

前ページまでに示した操作を終え、対象者に関するファイルがそろったら、お手数をかけて恐縮ですが、当該ファイルを添付して、下記連絡先に示したメールアドレスに

令和２年１月29日（水）までに

ご送信いただきますようお願いいたします。

なお、メールの件名は、

「学修成果測定シートの送信（ゲーム・ＣＧ分野）　○○」（○○部分は御社名）

としていただきたくお願いいたします。

ご不明な点も含めて、何かありましたら下記あてご連絡ください。

○本件に関するお問合せ・ご連絡先

〒106-0032　東京都港区六本木6-2-33　六本木ヒルズノースタワーアネックス3F

一般社団法人専門職高等教育質保証機構　文部科学省委託事業事務局

TEL 03-3403-3432　FAX 03-6734-0541

E-mail　jimukyoku@qaphe.com　URL　http://qaphe.com/

・対学校（ECC コンピュータ専門学校）

令和２年１月 15 日

ECC コンピュータ専門学校
　ゲーム関連学科各クラス担任の先生方

文部科学省委託事業　職業分野別コンピテンシー体系研究委員会
委員長　　川口　昭彦（専門職高等教育質保証機構代表理事）

ゲーム・CG 分科会　委員　宇佐見眞也（ECC コンピュータ専門学校）
委員　徳留　和人（スマイルブーム）
委員　丸山　一彦（Ｊ　Ｅ　Ｄ　Ａ　Ｉ）

【学修成果測定の試行に関するご協力のお願い】

拝啓　時下ますますご清栄の段お慶び申し上げます。

一般社団法人専門職高等教育質保証機構（以下、「当機構」）は、専門学校など専門職高等教育機関の質保証・向上を目的とした団体です。当機構では令和元年度文部科学省「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業（以下、「本事業」）の一環として、

学修成果の測定に向けた職業分野別コンピテンシー体系の研究

を受託しております。

本事業は昨年度（平成 30 年度）から継続して実施しており、次のような実績をあげましたので、必要に応じてご参照いただければ幸いです。

●事業成果報告書
https://qaphe.com/wp-content/uploads/competency2018result.pdf
（ゲーム・CG 分野の調査結果は 39～59 ページに掲載されているのでご参照ください）

●資格枠組みのレベルの定義（レベルディスクリプター）
https://qaphe.com/wp-content/uploads/competency2018attachment-a.pdf

●資格枠組みのレベルの定義（概要）
https://qaphe.com/wp-content/uploads/competency2018attachment-b.pdf

●学修成果指標（ゲーム・ＣＧ分野－ゲームクリエイター職種）
https://qaphe.com/wp-content/uploads/competency2018attachment-c-2.pdf

これらのうち、「学修成果指標」は昨年度事業の調査において一定の評価を得たものと思われます。本年度事業におきましては、昨年度事業において企業様から頂戴したご意見も踏まえ、成果をより具体的に教育現場や職場における「学修成果の測定」に役立てるべく、レベルごとの**学修成果測定シート**を作成いたしました。今回は、この**学修成果測定シート**を用いて、

御校の**ゲーム関連学科の在校生を対象**

として学修成果測定を試していただくことを依頼させていただきます。

なお、学修成果測定シートは、PC を用いて、Excel のワークシートを操作する方法で記録していただきたくお願いいたします。その操作方法等につきましては、次ページ以降、**学修成果測定操作マニュアル**として掲載いたしましたので、ご参照ください。

※平成 30 年度の本事業の成果は、当機構のホームページの次の URL に掲載されています。
https://qaphe.com/mext/mext2018/competency2018/competency2018result/　→

本事業は専門学校教育の振興を通じてわが国の中核的人材のレベルアップを実現し、各産業の発展に貢献することを狙ったものです。どうか、本事業の趣旨をお汲み取りいただき、学修成果測定にご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

敬具

学修成果測定操作マニュアル（学校様用）

● 操作の前提

以下の説明は、インターネットに接続された Windows の PC で、Microsoft Excel がインストールされていることを前提にしています。

● 学修成果測定の準備

① 学修測定対象者の決定

御校のゲーム関連学科に学ぶ学生を対象とします。あなたが担任するクラスの学生から、ランダムに７、８名を選択してください。

② Excel ファイル（ひな形）のダウンロード

https://qaphe.com/mext/mext2019/competency2019/competency2019questionary/
にアクセスしていただき、表示されたページにある
ゲーム・ＣＧ分野－ゲームクリエイター職種　学修成果測定シート（ひな形）ダウンロード
ボタンをクリックして、Excel ファイルをダウンロードしてください。

③ ②でダウンロードしたファイルのコピーと名称の変更

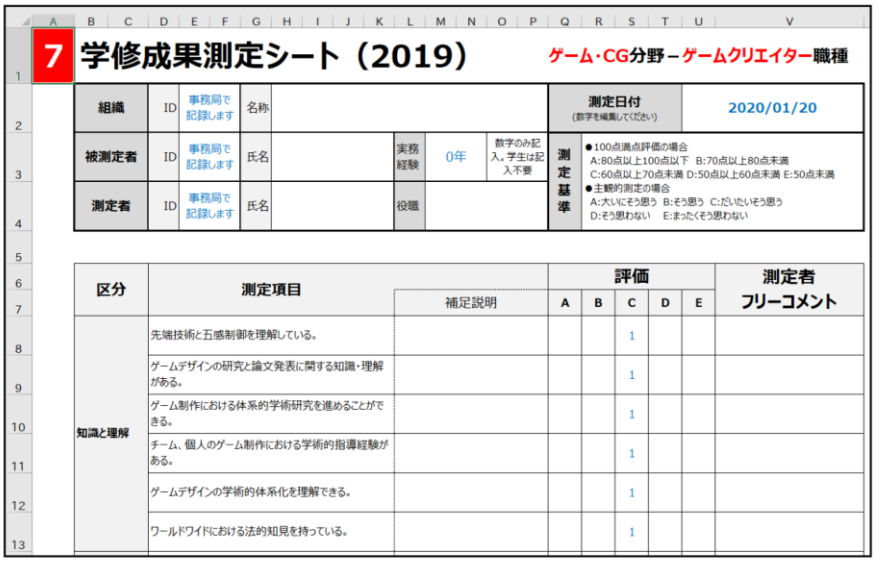
②でダウンロードした**ファイルは１名分の学修成果測定用**ですので、①で決定した**対象者数分のコピーを作成**してください。
そのうえで、各ファイルがどの対象者に対応するものかわかるように、ファイル名を変更してください。ひな形のファイル名は
「R01worksheet-2」
となっているので、たとえば、
「R01worksheet-2（●●）」
「R01worksheet-2（▲▲）」
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
のように名称を付けていただけるとよいかと思います（対象者を識別できるように、●●や▲▲の部分に氏名やイニシャルを付けてください）。

● （対象者ごとの）学修成果測定シートの記録

以下は、上記③までの操作を終え、対象者ごとの学修成果測定シートのファイルが存在していることを前提に、１つのファイルを操作する方法の説明です。

① ファイルを開く

該当するファイルをダブルクリックするなどして開くと、次の画面が表示されます。



7 学修成果測定シート（2019）　ゲーム・CG分野－ゲームクリエイター職種

組織	ID	事務局で記録します	名称				測定日付（数字を編集してください）	2020/01/20
被測定者	ID	事務局で記録します	氏名		実務経験	0年	数字のみ記入。学生は記入不要	測定基準 ●100点満点評価の場合 A:80点以上100点以下 B:70点以上80点未満 C:60点以上70点未満 D:50点以上60点未満 E:50点未満 ●主観的測定の場合 A:大いにそう思う B:そう思う C:だいたいそう思う D:そう思わない E:まったくそう思わない
測定者	ID	事務局で記録します	氏名		役職			

区分	測定項目	補足説明	評価 A	B	C	D	E	測定者フリーコメント
知識と理解	先端技術と五感制御を理解している。				1			
	ゲームデザインの研究と論文発表に関する知識・理解がある。				1			
	ゲーム制作における体系的学術研究を進めることができる。				1			
	チーム、個人のゲーム制作における学術的指導経験がある。				1			
	ゲームデザインの学術的体系化を理解できる。				1			
	ワールドワイドにおける法的知見を持っている。				1			

この画面は、**レベル 7**（セル A1 の赤地白抜き文字が 7）の学修成果測定シートです。画面の下側を見ていただき、下図のように複数のシートがあることをご確認ください。

4 つのシートが、それぞれレベル 7、レベル 6、レベル 5、レベル 4 の「学修成果測定シート」です（今回はレベル 8 を対象としておりません）。これらのシートは独立に操作するようになっています。

② 学修成果測定のための操作方法

今回の設定では、対象者の**学年によって**、次のように区分した測定をお願いします。

- 4 年生…レベル 6
- 3 年生…レベル 5
- 2 年生…レベル 4

以下、それぞれのシートにおける操作方法について、レベル 6 のシート（[L6-2019（ゲーム）]シート）を例に説明します。

(1) 基本情報の入力

下図の太枠のとおり、組織の名称（ここは「ECC コンピュータ専門学校」としてください）、被測定者の氏名（匿名やイニシャルで構いません）、測定者の氏名、測定者の役職、測定日付を入力してください。入力した文字は青色で表示されます。なお、実務経験年数については、今回対象が学生なので、何も入力する必要はありません。

6 学修成果測定シート（2019）								ゲーム・CG分野－ゲームクリエイター職種
組織	ID	事務局で記録します	名称	ECC コンピュータ専門学校			測定日付（数字を編集してください）	2020/01/20
被測定者	ID	事務局で記録します	氏名		実務経験	0年	数字のみ記入。学生は記入不要	測定基準 ●100点満点評価の場合 A:80点以上100点以下 B:70点以上80点未満 C:60点以上70点未満 D:50点以上60点未満 E:50点未満 ●主観的測定の場合 A:大いにそう思う B:そう思う C:だいたいそう思う D:そう思わない E:まったくそう思わない
測定者	ID	事務局で記録します	氏名		役職			

(2) 測定項目ごとの評価とその結果の入力

次に、測定項目ごとに、右上に記述してある「測定基準」に基づき、補足説明も参考にしながら、**A～E の評価をして該当欄に数字の 1 を入力してください**（下図の太線の枠内）（同じ行に複数の 1 があった場合は、評価の高いほうを優先します）。必要に応じて、測定者フリーコメント欄に測定者としてのコメントをご記入ください（下図の点線の枠内）。

区分	測定項目	補足説明	評価 A	B	C	D	E	測定者フリーコメント
知識と理解	ゲームチーム制作マネジメントとディレクションに関する知識・理解がある。				1			
	プロジェクトリーダーとしての役割に関する知識と理解がある。				1			
	ゲームマーケティングに関する知識と理解がある。				1			
	ゲームをめぐる法的知見に関する知識と理解がある。				1			
汎用的な技能	開発におけるコストの計算技能を持っている。				1			

※ワークシートには「レベル 7」の学修成果測定シートも含まれていますが、これはそれなりの実務経験があることを想定したレベルですので、今回は対象としておりません。

● ファイルの送信

前ページまでに示した操作を終え、対象者に関するファイルがそろったら、お手数をかけて恐縮ですが、当該ファイルを添付して、下記連絡先に示したメールアドレスにご送信いただきますようお願いいたします。

なお、メールの件名は、

「学修成果測定シートの送信（ゲーム・ＣＧ分野）　○○」

（○○部分は、学科名と学年・クラスがわかるよう、任意に付してください）

としていただきたくお願いいたします。

ご不明な点も含めて、何かありましたら下記あてご連絡ください。

○本件に関するお問合せ・ご連絡先

〒106-0032　東京都港区六本木 6-2-33　六本木ヒルズノースタワーアネックス 3F

一般社団法人専門職高等教育質保証機構　文部科学省委託事業事務局

TEL 03-3403-3432　FAX 03-6734-0541

E-mail　jimukyoku@qaphe.com　URL　http://qaphe.com/

4

●回収および分析結果

・測定結果回収状況

専門学校

2 年生…22 名、　3 年生…40 名、　4 年生…31 名

ゲーム企業

実務経験に関わらず…レベル 6 測定者 9 名、レベル 7 測定者 8 名

・測定結果の集計結果

		スコア基準→	4.4	4.2	4.0	3.8	3.6		
ゲームクリエイター・レベル4・学校			**A**	**B**	**C**	**D**	**E**	**合計**	**スコア**
知識と理解		「情報処理の基礎」を理解している。	1	16	5	0	0	22	4.16
		「ゲーム制作概論」を理解している。	8	11	3	0	0	22	4.25
		「プログラミング概論」を理解している。	2	9	11	0	0	22	4.12
		「２D・３Dの描画理論」を理解している。	9	8	3	2	0	22	4.22
		「ゲームエンジンの制作手法」を理解している。	6	4	11	1	0	22	4.14
		「色彩・質感の知識」を理解している。	2	14	6	0	0	22	4.16
		「チーム制作作業の進め方」を理解している。	13	8	1	0	0	22	4.31
		「ゲーム業界知識」を理解している。	3	12	6	1	0	22	4.15
汎用的な技能		技能者育成における指導経験がある。	0	4	9	8	1	22	3.95
		基本的なビジネス文書作成能力がある。	1	6	6	9	0	22	3.99
		基本的な企画発想力・構成力がある。	7	8	6	1	0	22	4.19
職務上の技能	専門実践技能	「C言語プログラミング」の基本的な技能を持っている。	10	0	2	0	0	12	4.33
		「C++とオブジェクト指向プログラミング」の基本的な技能を持っている。	10	0	2	0	0	12	4.33
		「２D・３Dゲームプログラミングと描画理論」」の基本的な技能を持ってい	10	0	2	0	0	12	4.33
		「シェーダープログラミング技術」の基本的な技能を持っている。	10	0	2	0	0	12	4.33
		「ゲーム数学」の基本的な技能を持っている。	9	1	2	0	0	12	4.32
		「レベルデザイン」」の基本的な技能を持っている。	0	1	1	0	0	2	4.10
		「ゲーム仕様書作成」の基本的な技能を持っている。	1	0	1	0	0	2	4.20
		「チュートリアル制作」の基本的な技能を持っている。	1	0	1	0	0	2	4.20
		「２D・３Dデザインツールの操作」」の基本的な技能を持っている。	9	1	2	0	0	12	4.32
		「基礎画力・観察力・構成力・描写力」の基本的な技能を持っている。	8	2	2	0	0	12	4.30
		「UI/UXデザイン」の基本的な技能を持っている。	9	1	2	0	0	12	4.32
	対人技能	自分のアイデアをプレゼンする能力を持っている。	8	6	8	0	0	22	4.20
		自分の作品をプレゼンする能力を持っている。	5	10	7	0	0	22	4.18
	分析技能	教えられた知識を正しく分析できる能力を持っている。	8	11	3	0	0	22	4.25
	管理・指導技能	チーム制作での役割を理解し、実践できる。	15	6	1	0	0	22	4.33
		３分野（プログラム・企画・CG）での制作進行に必要な行動ができる。	12	6	4	0	0	22	4.27
自律性と責任感		指示された範囲の業務に対する責任を自覚できる。	15	5	2	0	0	22	4.32
		業務の遅れに関する報告責任を自覚できる。	14	6	2	0	0	22	4.31
倫理観とプロ意識		指示された技術の習得の意味を正しい理解する心がけを持っている。	16	4	2	0	0	22	4.33

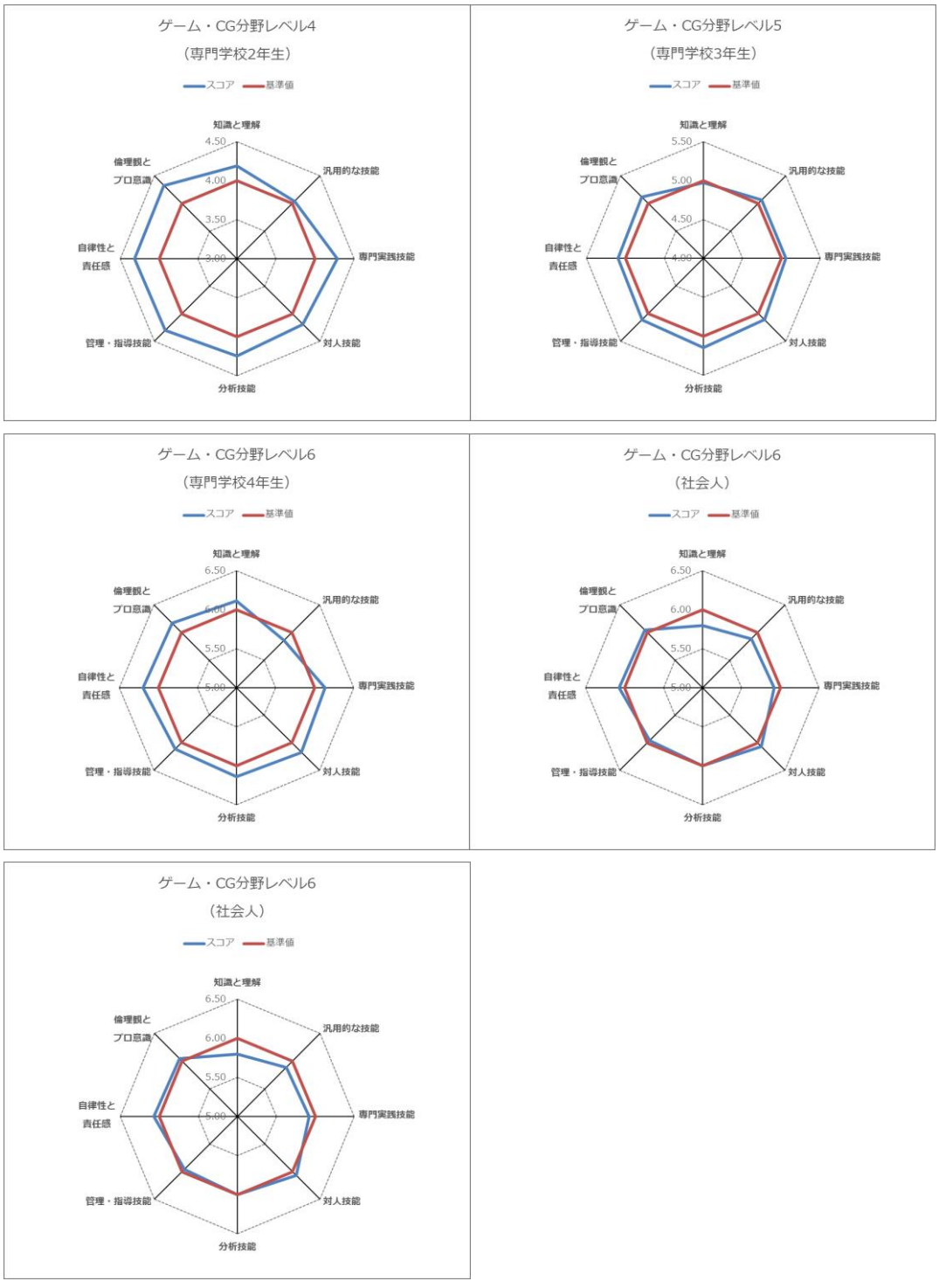
		スコア基準→	5.4	5.2	5.0	4.8	4.6		
ゲームクリエイター・レベル5・学校			**A**	**B**	**C**	**D**	**E**	**合計**	**スコア**
知識と理解		プログラムに必要な数学・物理の知識を持っている。	4	10	10	6	10	40	4.96
		ゲーム個人制作に関する知識を持っている。	10	9	12	5	4	40	5.08
		モバイルゲームアプリ制作に関する知識を持っている。	4	3	13	10	10	40	4.91
		企画書個人制作に関する知識を持っている。	3	4	12	13	8	40	4.91
		CG個人制作（ポートフォリオ制作）に関する知識を持っている。	8	5	15	3	9	40	5.00
汎用的な技能		制作スケジュールを立案できる。	12	5	15	5	3	40	5.09
		自己作品のアピールのためのプレゼンテーション能力を持っている。	9	7	12	8	4	40	5.05
		企画の提案力・修正力がある。	6	10	14	6	4	40	5.04
職務上の技能	専門実践技能	ゲーム物理（リアル表現）に関する技能を持っている。	3	10	2	5	0	20	5.11
		描画エンジン制作に関する技能を持っている。	7	9	3	1	0	20	5.22
		ゲームAI技術とアルゴリズムに関する技能を持っている。	1	3	11	5	0	20	5.00
		サウンドエフェクト、３Dサウンドに関する技能を持っている。	0	1	10	6	3	20	4.89
		モバイルゲーム開発技術を持っている。	3	3	3	7	4	20	4.94
		オンラインゲーム制作技術を持っている。	3	5	4	4	4	20	4.99
		質感表現能力（シェーダー・テクスチャ・ライティング）を持っている。	7	1	12	0	0	20	5.15
		３Dスカルプトモデリング技術を持っている。	8	1	11	0	0	20	5.17
		企画会議をシミュレーションできる。	3	1	12	2	2	20	5.01
		ゲームエンジンプログラミング（企画）の能力がある。	5	2	11	2	0	20	5.10
		ドキュメントレイアウトの技能がある。	2	3	14	1	0	20	5.06
	対人技能	論理的伝達技法を身につけている。	9	11	16	4	0	40	5.13
		作品プレゼンからの改善ができる。	11	10	14	3	2	40	5.13
		ディスカッション技法を身につけている。	8	9	14	5	4	40	5.06
		チームメンバーの意見・考えを尊重できる。	9	12	15	4	0	40	5.13
	分析技能	使用している技術を正しく理解し説明ができる能力を持っている。	9	13	17	0	1	40	5.15
	管理・指導技能	チーム制作メンバーの役割を理解した行動ができる。	8	10	17	5	0	40	5.11
		チーム制作でのコミュニケーション、問題解決技能を持っている。	8	7	18	6	1	40	5.08
		コミュニケーションツールを活用できる。	12	9	17	2	0	40	5.16
自律性と責任感		指定された技術を使用し、業務を遂行することに対する責任感を持っている。	9	10	16	2	3	40	5.10
		業務の遅れに関する報告責任を自覚できる。	9	8	16	5	2	40	5.09
倫理観とプロ意識		業務に必要な技術の習得に対する意識を持っている。	10	10	15	3	2	40	5.12

		スコア基準→	6.4	6.2	6.0	5.8	5.6		
ゲームクリエイター・レベル6・学校			**A**	**B**	**C**	**D**	**E**	**合計**	**スコア**
知識と理解		ゲームチーム制作マネジメントとディレクションに関する知識・理解があ	11	9	8	2	1	31	6.17
		プロジェクトリーダーとしての役割に関する知識と理解がある。	10	11	7	2	1	31	6.17
		ゲームマーケティングに関する知識と理解がある。	2	8	16	4	1	31	6.04
		ゲームをめぐる法的知見に関する知識と理解がある。	0	14	13	3	1	31	6.06
汎用的な技能		開発におけるコストの計算技能を持っている。	0	5	8	9	9	31	5.86
職務上の技能	専門実践技能	最先端技術のプログラミング技能を持っている。	1	7	2	1	0	11	6.15
		実機を使用したアプリ制作ができる。	4	6	1	0	0	11	6.25
		ノードベースプログラミング（企画）の技能を持っている。	2	3	0	3	2	10	6.00
		ゲームプランナーゼミの技能を持っている。	4	4	1	1	0	10	6.22
		デモリール作成の技能を持っている。	0	7	3	0	0	10	6.14
		ポートフォリオ完成の技能を持っている。	0	7	3	0	0	10	6.14
		ゲームエンジンCG表現の技能を持っている。	1	1	7	1	0	10	6.04
	対人技能	職種・学年・他団体を超えた協働と連携ができる。	12	7	9	2	1	31	6.17
	分析技能	プロジェクトが正確に進められるかどうか分析する能力を持っている。	8	10	10	2	1	31	6.14
	管理・指導技能	進捗管理、リソースと仕様のバランス管理の能力を持っている。	6	13	9	2	1	31	6.14
		制作進行管理能力を持っている。	7	12	9	2	1	31	6.14
		一般的な法的理解に基づく管理ができる。	0	16	11	3	1	31	6.07
自律性と責任感		業務に必要な技術の選別に関する正当性の説明責任を認識している。	6	11	11	2	1	31	6.12
		開発を最後まで導く責任感を持っている。	17	10	3	1	0	31	6.28
倫理観とプロ意識		プロとして、業務に必要な技術の正しい選択に関する意識を持っている。	7	13	10	1	0	31	6.17

		スコア基準→	6.4	6.2	6.0	5.8	5.6		
ゲームクリエイター・レベル6・企業			**A**	**B**	**C**	**D**	**E**	**合計**	**スコア**
知識と理解		ゲームチーム制作マネジメントとディレクションに関する知識・理解があ	1	0	2	2	4	9	5.82
		プロジェクトリーダーとしての役割に関する知識と理解がある。	1	1	1	1	5	9	5.82
		ゲームマーケティングに関する知識と理解がある。	0	0	3	0	6	9	5.73
		ゲームをめぐる法的知見に関する知識と理解がある。	0	1	2	2	4	9	5.80
汎用的な技能		開発におけるコストの計算技能を持っている。	1	1	1	4	2	9	5.89
職務上の技能	専門実践技能	最先端技術のプログラミング技能を持っている。	0	1	1	2	1	5	5.88
		実機を使用したアプリ制作ができる。	0	2	2	0	1	5	6.00
		ノードベースプログラミング（企画）の技能を持っている。	0	1	1	1	2	5	5.84
		ゲームプランナーゼミの技能を持っている。	1	0	0	1	1	3	5.93
		デモリール作成の技能を持っている。	0	0	2	2	0	4	5.90
		ポートフォリオ完成の技能を持っている。	1	0	1	2	0	4	6.00
		ゲームエンジンCG表現の技能を持っている。	0	0	4	1	1	6	5.90
	対人技能	職種・学年・他団体を超えた協働と連携ができる。	1	2	5	1	0	9	6.07
	分析技能	プロジェクトが正確に進められるかどうか分析する能力を持っている。	1	2	3	2	1	9	6.00
	管理・指導技能	進捗管理、リソースと仕様のバランス管理の能力を持っている。	1	2	4	1	1	9	6.02
		制作進行管理能力を持っている。	1	1	4	1	2	9	5.96
		一般的な法的理解に基づく管理ができる。	1	1	1	4	2	9	5.89
自律性と責任感		業務に必要な技術の選別に関する正当性の説明責任を認識している。	2	1	3	2	1	9	6.02
		開発を最後まで導く責任感を持っている。	2	3	3	0	1	9	6.11
倫理観とプロ意識		プロとして、業務に必要な技術の正しい選択に関する意識を持っている。	2	1	4	1	1	9	6.04

		スコア基準→	7.4	7.2	7.0	6.8	6.6		
ゲームクリエイター・レベル7・企業			**A**	**B**	**C**	**D**	**E**	**合計**	**スコア**
知識と理解		先端技術と五感制御を理解している。	0	1	2	3	2	8	6.85
		ゲームデザインの研究と論文発表に関する知識・理解がある。	0	0	2	4	2	8	6.80
		ゲーム制作における体系的学術研究を進めることができる。	0	1	2	2	3	8	6.83
		チーム、個人のゲーム制作における学術的指導経験がある。	0	1	2	1	4	8	6.80
		ゲームデザインの学術的体系化を理解できる。	1	0	2	2	3	8	6.85
		ワールドワイドにおける法的知見を持っている。	0	0	2	1	5	8	6.73
汎用的な技能		先端技術に精通し開発もする技能を持っている。	0	0	3	3	2	8	6.83
		技術を、体系化し、まとめる技能を持っている。	0	1	3	2	2	8	6.88
職務上の技能	専門実践技能	高度な専門知識に基づく技能を持っている。	1	1	4	1	1	8	7.00
		業務に必要な技術を正しく選択する技能を持っている。	1	1	5	0	1	8	7.03
	対人技能	業務内容の迅速かつ的確な説明能力を持っている。	0	3	2	2	1	8	6.98
		チーム内の問題解決能力を持っている。	0	3	0	4	1	8	6.93
	分析技能	技術を解析できる知識を適用する能力がある。	1	2	4	0	1	8	7.05
		先端技術を独自に研究、開発する能力がある。	0	2	3	1	2	8	6.93
	管理・指導技能	部下を指導する能力を持っている。	0	3	0	1	4	8	6.85
		業務をスケジュール内に進める技能を持っている。	1	2	3	1	1	8	7.03
		部下の育成技能を持っている。	0	3	1	0	4	8	6.88
		技術へのセキュリティー管理と法的理解に関する技能を持っている。	0	1	2	2	3	8	6.83
自律性と責任感		先端の専門知識を学習する責任を感じている。	1	1	4	0	2	8	6.98
		使用する技術にかかる、時間を正しく把握する責任を感じている。	0	3	1	3	1	8	6.95
倫理観とプロ意識		先端技術の管理意識を持っている。	0	2	1	3	2	8	6.88
		技術への正しい評価意識を持っている。	0	3	0	4	1	8	6.93

・チャート化の結果



- 学校における評価は高めであるのに対し、企業における評価は学校に比べて厳しい
- 全般に「汎用的な技能」に対する評価が低い
- 企業では「知識と理解」「汎用的な技能」「専門実践技能」など基本的な項目区分において基準を下回っている

4.3　動物分野－認定動物看護師職種

●対象

動物分野においては、測定対象を次表のように決めて試行を行った。

区分	測定対象者	レベル	備考
社会人	実務経験 5 年以上	6	主として、前年度に実施したアンケートに回答があった認定動物看護師を対象とした
	実務経験 2 年以上 5 年未満	5	
	実務経験 2 年未満	4	
学生	動物専門学校 2 年生	3	認定動物看護師を目指す学科の学生を対象とした。 国際動物専門学校、大宮動物専門学校、宮崎ペットワールド専門学校の 3 校

●方法

・認定動物看護師として実務に就いている者のほとんどが小動物病院勤務であり、上司による測定の手間をかけづらい状況にあることから、動物分野に限って、測定者と被測定者が同一、すなわち、自己評価とした。また、評価方法の統一化を図るため、学生についても同様とした。

・社会人

対象者に対して、学修成果測定シートを含む Excel ファイルと、操作マニュアルの PDF ファイルを添付して、メールにて測定の実施、結果の送信を依頼した。

・学生

協力をいただいた専門学校において、教員の指導の下で学修成果測定シートを配布または配信し、手書きまたはファイルの編集による測定結果を、印刷物の形またはメールによって回収した。

●送付文書

・対社会人依頼文書（前年度アンケート回答者、メール本文の原稿）

令和 2 年 1 月 15 日

認定動物看護師　各位

★本メールは、昨年度事業において
　一般社団法人専門職高等教育質保証機構（以下、「QAPHE」）が
　実施した調査にご回答をいただいた方に対して、BCC にて送信しております。

いつもお世話になっております。QAPHE 事務局の江島と申します。

昨年度は QAPHE が文部科学省から受託して事業で行った調査に対して、

ご多忙中にもかかわらずご協力をいただき、ありがとうございました。

お礼を申し上げるのが大変遅くなりましたが、あらためて感謝申し上げます。

なお、昨年度事業の調査結果につきましては、本事業の事業成果報告書
https://qaphe.com/wp-content/uploads/competency2018result.pdf
の 60～79 ページに掲載しております。必要に応じてご参照ください。

さて、QAPHE では、昨年度事業の成果をベースに、より具体的な形での、
「学修成果測定試行」を実施することになりました。

具体的には、本メールに添付した PDF ファイル
・学修成果測定操作マニュアル（動物分野用）
をもとに、本メールに添付した学修成果測定用のワークシート（Excel ファイル）
・R01worksheet-3.xlsx
を完成していただき、ご返信を賜りたく存じます。

学修成果測定ワークシート（R01worksheet-3.xlsx）のファイルは、
・基本情報
・L3-2019（動物）…レベル 3 の評価用
・L4-2019（動物）…レベル 4 の評価用
・L5-2019（動物）…レベル 5 の評価用
・L6-2019（動物）…レベル 6 の評価用
・アンケート
の各シートから構成されています。

まずは「基本情報」シートに必要情報を入力してください。
次に、どのシートを使って学修成果測定を行うかは、次の基準に
したがってください。
・動物看護師としての実務経験　2 年未満　　…レベル 4
・動物看護師としての実務経験　2 年以上 5 年未満…レベル 5
・動物看護師としての実務経験　5 年以上　　…レベル 6

上記に該当するシートのみ評価していただくので構いません。

ご多忙のところ、誠に恐れ入りますが、「学修成果測定操作マニュアル」に
したがってご操作いただき、
2020 年 1 月 29 日（水）まで
にご返信を賜りますようお願い申し上げます。

何卒、ご協力のほどよろしくお願いいたします。

なお、このメールは、昨年度の調査への回答を当機構に返信くださった方の
メールアドレスにお送りしております。
昨年度、複数の回答を取りまとめてお送りくださった方は、
大変恐縮ですが、動物看護師の方にこのメールを転送いただき、

学修成果測定ワークシートへの回答をご依頼賜りますよう、お願い申し上げます。
ワークシートに回答いただく方は、昨年度とは別の方でもかまいません。
また、回答後のワークシートは、取りまとめることなく、
回答くださった方が当機構へ直接お送りくださってもかまいません。

お手数をおかけして申し訳ありませんが、何卒よろしくお願い申し上げます。

（参考情報）

●上記文面中の「事業」の正式名称は次のとおりです。
令和元年度文部科学省委託事業
職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」
「学修成果の測定に向けた職業分野別コンピテンシー体系の研究」事業
※この事業は平成 30 年度から 2 年計画で、QAPHE が受託しています。

●上記事業の動物分科会委員
下薗　恵子（国際動物専門学校校長）
坂元　祥彦（宮崎ペットワールド専門学校校長）
横田　淳子（日本動物看護職協会会長）
山下眞理子（全国動物教育協会動物看護教育担当）

●昨年度事業における調査では、平成 30 年度の事業成果として、
次の情報を提供させていただきました。必要に応じてご参照ください。

ア　認定動物看護師の「学修成果指標」
https://qaphe.com/wp-content/uploads/competency2018attachment-c-3.pdf

イ　資格枠組みのレベルの定義（レベルディスクリプター）
https://qaphe.com/wp-content/uploads/competency2018attachment-a.pdf
※アのもととなった、分野や職種に関係ない、レベルの定義です。

ウ　資格枠組みのレベルの定義（概要）
https://qaphe.com/wp-content/uploads/competency2018attachment-b.pdf
※イの概要です。

・学校ご協力依頼文書

令和２年１月 14 日

動物看護人材を育成する専門学校様

文部科学省委託事業　職業分野別コンピテンシー体系研究委員会
委員長　川口　昭彦（専門職高等教育質保証機構）

動物分科会　委員　下薗　恵子（国際動物専門学校）
委員　坂元　祥彦（宮崎ペットワールド専門学校）
委員　横田　淳子（日本動物看護職協会）
委員　山下眞理子（全国動物教育協会）

【学修成果測定試行に関するご協力のお願い】

拝啓　時下ますますご清栄の段お慶び申し上げます。

一般社団法人専門職高等教育質保証機構（以下、「QAPHE」）は、専門学校など専門職高等教育機関の質保証・向上を目的とした団体です。QAPHE では令和元年度文部科学省「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業（以下、「本事業」）の一環として、

学修成果の測定に向けた職業分野別コンピテンシー体系の研究

を受託しています（平成 30 年度に続いて）。

本事業では、平成 30 年度において、職業分野に共通した知識や技能のレベルを８段階に区分した

・**資格枠組みのレベルの定義**（**レベルディスクリプター**）…別添Ａ
・**資格枠組みのレベルの定義**（**概要**）…別添Ｂ

を作成しました。

また、これらに続いて、上記「**資格枠組みのレベルの定義**」と整合した「**学修成果指標**」（以下「指標」）を職業分野ごとに作成しました。動物分野においては、

・**学修成果指標**（**動物**分野－**認定動物看護師**職種）…別添Ｃ

を作成しました。

平成 30 年度事業においては、認定動物看護師に対してアンケートを実施し、自身のレベル評価や、「資格枠組みのレベルの定義」や「学修成果指標」に対する評価などを調査しました。その結果を要約したものが

・平成 30 年度事業成果報告書（抜粋）…別添Ｄ

です。以上の別添や資料については、必要に応じてご参照ください。

さて、本年度事業においては、「学修成果指標（動物分野－認定動物看護師職種）」のレベル設定や項目設定の妥当性を検証するために、「**学修成果測定試行**」を行うこととなりました。具体的には、レベルごとの「**学修成果測定シート**」（資料１はその一部）を作成し、レベルごと・項目ごとに、自身の達成具合を５段階評価できる仕組みを構築いたしました。学修成果測定シートは表計算ソフト（Excel）形式で供給するので、資料２はそのための「**操作マニュアル**」です。

各位におかれましては、

・動物看護職を目指す専門課程の２年生

を対象として、上記別添資料に関するご説明をいただいた上で、操作マニュアルに従った学修成果測定試行を進めていただきますようお願いいたします。

なお、「学修成果測定シート」は、QAPHE のホームページからダウンロードするようになっています。操作マニュアルはそのことも含めた説明記述となっておりますので、そのことをご確認いただいた上で対象者にご説明をいただきますようお願いいたします。

本事業は専門学校教育の振興を通じてわが国の中核的人材のレベルアップを実現し、各産業の発展に貢献することが目的です。本事業の趣旨をお汲取りいただき、ご協力を賜りますようお願いいたします。

敬具

お問合せ先　一般社団法人専門職高等教育質保証機構
電話番号 03-3403-3432　　FAX 番号 03-6734-0541
E-mail jimukyoku@qaphe.com　ホームページ https://qaphe.com

○参考 URL
別添Ａ　資格枠組みのレベルの定義(レベルディスクリプター)
https://qaphe.com/wp-content/uploads/competency2018attachment-a.pdf

別添Ｂ　資格枠組みのレベルの定義(概要)
https://qaphe.com/wp-content/uploads/competency2018attachment-b.pdf

別添Ｃ　学修成果指標(動物分野－認定動物看護師職種)
https://qaphe.com/wp-content/uploads/competency2018attachment-c-3.pdf

別添Ｄ　平成 30 年度事業成果報告書
https://qaphe.com/wp-content/uploads/competency2018result.pdf

・学修成果測定試行・操作マニュアル（社会人、学生共通）[5]

学修成果測定操作マニュアル（動物分野用）

● 操作の前提

以下の説明は、インターネットに接続された Windows の PC で、Microsoft Excel がインストールされていることを前提にしています。

● 学修成果測定の準備

① Excel ファイル（ひな形）のダウンロードと確認

https://qaphe.com/mext/mext2019/competency2019/

にアクセスしていただき、表示されたページにある

動物分野－認定動物看護師職種　学修成果測定シート（ひな形）のダウンロード

をクリックして、Excel ファイルをダウンロードしてください。

ダウンロードしたら、該当するフォルダーを開き、

R01worksheet-3

というファイルがあることを確認してください。

※万が一ダウンロードできない場合も考え、上記 Excel ファイルは本メールにも添付しています。

② ①でダウンロードしたファイル名の変更

ダウンロードしたファイルは、個人ごとに識別しますので、ファイル名の最後に、

R01worksheet-3(suzuki012345)

のように名称を変更してください。

※個人情報保護の観点から氏名そのものを使用することは避け、「suzuki012345」のように、ご自身では識別可能で、かつ、重複をしないような名称としてください。

③ ファイルの内容の確認

②を終えたファイルをダブルクリックするなどして開いてください。

インターネットからダウンロードした Excel などのファイルは、ウイルスに感染しているリスクがあるため、そのままでは入力操作ができないように保護されています。そのことは、画面上部に、

という表示があることで確認できます。

このままでは入力操作ができませんので、画面右上部にある

をクリックして、保護を解除してください。

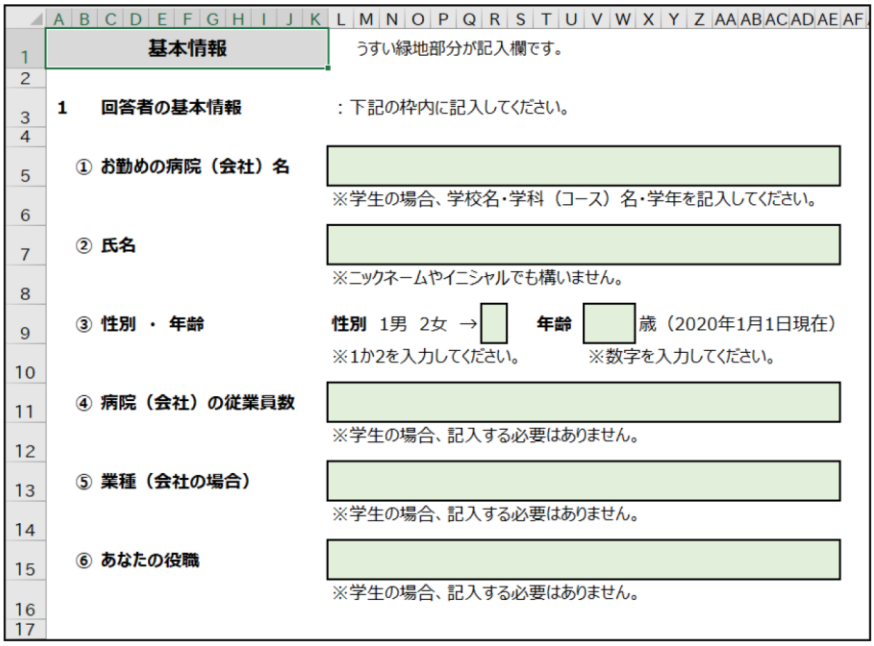
解除ができたら、「保護ビュー」という文字を含む部分が消えますので、「上書き保存」をして閉じ、その後、ご自身が管理しやすいフォルダーに移動して、この後行う学修成果測定の記録に備えてください。

[5] 動物分野における学修成果測定は自己評価としたことにより、被測定者の意見を聞く機会と考え、アンケートを合わせて実施した。

● 学修成果測定シートの記録

① ファイルを開く

該当するファイルをダブルクリックするなどして開くと、次のような画面が表示されます。



画面の下側を見ていただき下図のように複数のシートがあることを確認してください。

・現在表示されている画面は、被測定者（あなた）の**基本情報**を記入するためのシートです。
・「L3」「L4」…で始まる 4 つのシートが、それぞれレベル 3、レベル 4、レベル 5、レベル 6 の「学修成果測定シート」で（今回はレベル 7、レベル 8 を対象としていません）、**学修成果測定**の結果を記入するためのシートです。これらのシートは独立に操作するようになっています。
・一番右側には**アンケート**に回答するためのシートがあります。

② 基本情報の記入

最初に、「基本情報 2019」シートの各項目について、※に示した注意を参考にして、必要な事項を入力してください。

③ 学修成果測定のための操作

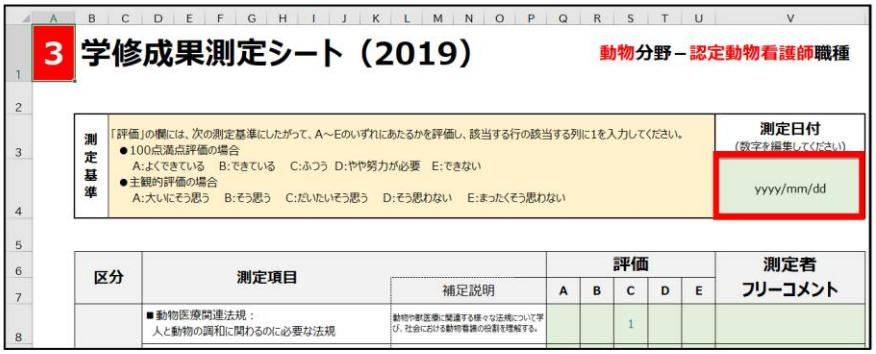
今回の試行では、次に示す基準に基づき、一つのレベルについて測定を行います。

・動物看護職を目指す専門学校の学科に在席している 2 年生　レベル 3
・動物看護師としての実務経験　2 年未満　レベル 4
・動物看護師としての実務経験　2 年以上 5 年未満　レベル 5
・動物看護師としての実務経験　5 年以上　レベル 6

以上の基準をもとに、ご自身が測定結果を記入すべきシートを認識してください。
以下、それぞれのシートにおける操作方法について、レベル 3 のシート（[L3·2019（動物）] シート）を例に説明します。

(1) 測定日付の記入

下図の太枠で囲まれた欄に、本シートに記入する日付を記入してください。あらかじめ、
yyyy/mm/dd
という文字を入力してありますが、yyyy の部分を西暦年に、mm 部分を月に、dd 部分を日に、それぞれ編集して［Enter］キーを押してください。
例　2020 年 1 月 25 日→2020/1/25　または　2020/01/25



(2) 測定項目ごとの評価とその結果の入力

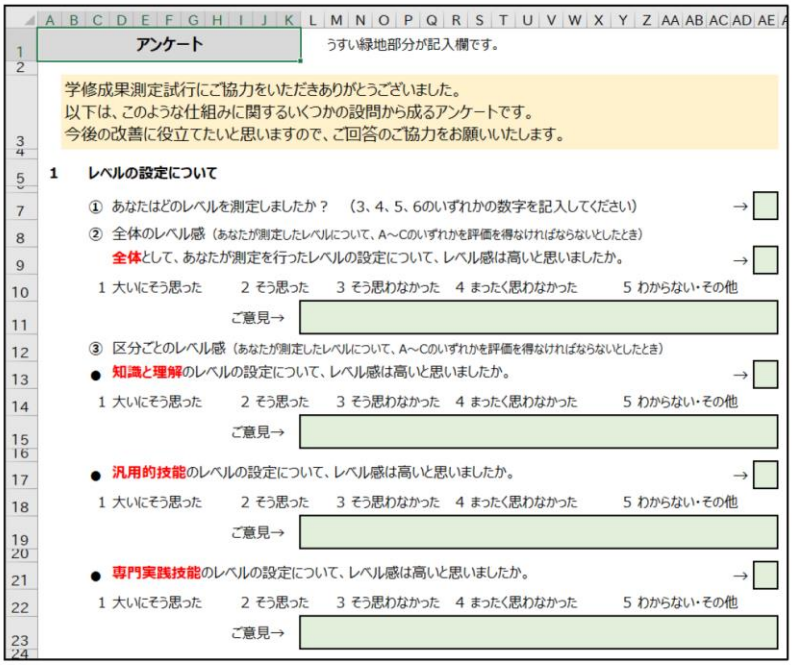
次に、測定項目ごとに、上の薄黄色地の中に記述してある「測定基準」に基づき、補足説明も参考にしながら、**A～E の評価をして該当欄に数字の 1 を記入してください**（下図の太線の枠内）（同じ行に複数の 1 があった場合は、評価の高いほうを優先します）。必要に応じて、測定者フリーコメント欄に測定者としてのコメントをご記入ください（下図の点線の枠内）。

区分	測定項目	補足説明	評価 A	B	C	D	E	測定者フリーコメント
知識と理解	■動物医療関連法規：人と動物の調和に関わるのに必要な法規	動物や獣医療に関連する様々な法規について学び、社会における動物看護の役割を理解する。			1			
	■動物形態機能：動物の体の構造と機能	動物の体を細胞、組織、器官の各階層で理解し解剖学、生理学、生化学の面から動物の生命維持の仕組みを理解する。		1				
	■公衆衛生：人と動物の健康の調和に関わること	人と動物が共生する環境、食の安全と衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康維持・増進や疾病予防について理解する。			1			
	■動物病理：疾病の成り立ちと回復の促進への寄与	様々な疾病が組織や器官にもたらす変化を学び、病態について理解する。	1					
	■動物臨床検査：動物病院業務に必要な知識	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を理解する。			1			
	■動物臨床栄養：動物病院業務に必要な知識	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶと共にライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や食事方法などを理解する。		1				
	■伴侶動物：様々な動物の特性と人との関わり	伴侶動物とは将来生産養される動物、伴侶動物の歴史や品種、飼育管理法、およびエキゾチック動物の生態について理解する。		1				
	■動物看護学概論：人と動物の調和に関わること	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について理解し、専門職としての社会的責務を理解し職業意識を形成する。						

※画面のキャプチャは実際と異なる場合があります。

④ アンケートの記入

最後に、「アンケート 2019」シートに移動し、画面の表示に従って、回答を記入してください。



⑤ ファイルの保存

アンケートの記入を終えたら、見直しを行い、必要に応じて確認・修正してください。
修正を終えたら、「上書き保存」ボタンをクリックして、忘れずに保存してください。

● ファイルの送信

以上の操作を終えたら、当該ファイルを添付して、下記連絡先に示したメールアドレスにご送信ください。なお、学校や勤務先でいったん取りまとめる場合は、教員や上司の指示にしたがって取りまとめ先に提出してください。

なお、メールをご送信いただく場合の件名は、

「学修成果測定シートの送信（動物分野）」

としていただきたくお願いいたします。

ご不明な点も含めて、何かありましたら下記あてご連絡ください。

○本件に関するお問合せ・ご連絡先

〒106-0032 東京都港区六本木 6-2-33 六本木ヒルズノースタワーアネックス 3F

一般社団法人専門職高等教育質保証機構 文部科学省委託事業事務局

TEL 03-3403-3432 FAX 03-6734-0541

E-mail jimukyoku@qaphe.com URL http://qaphe.com/

3

●回収および分析結果

・測定結果回収状況

専門学校

2 年生…176 名

認定動物看護師

実務経験 2 年以上 5 年未満 1 名、同 5 年以上 10 名

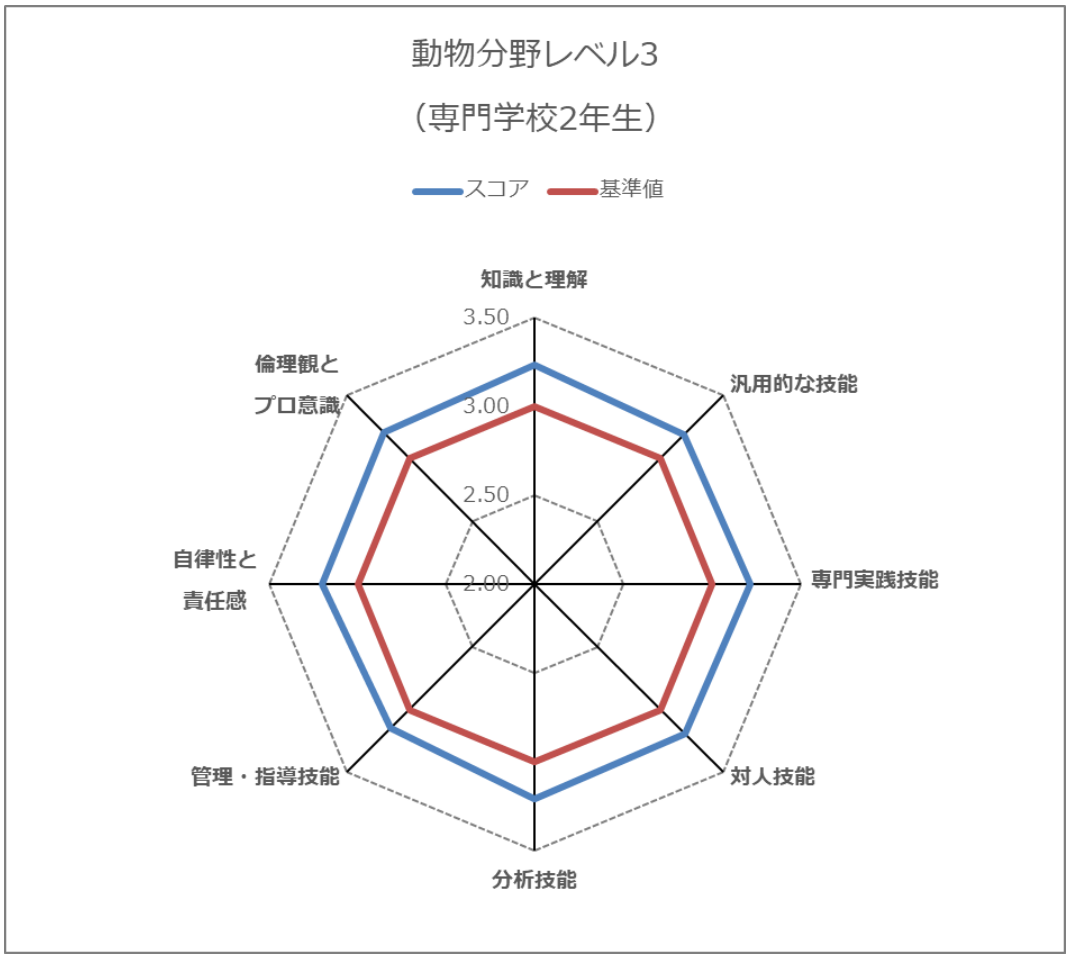
・測定結果の集計結果

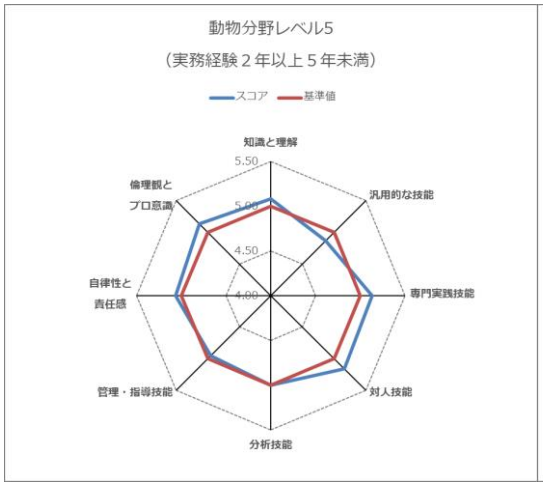
		スコア基準→	3.4	3.2	3.0	2.8	2.6		
認定動物看護師 ・ レベル3 ・ 学校			**A**	**B**	**C**	**D**	**E**	**合計**	**スコア**
知識と理解		■動物医療関連法規： 人と動物の調和に関わるのに必要な法規	64	54	33	5	1	157	3.22
		■動物形態機能： 動物の体の構造と機能	107	39	23	6	0	175	3.28
		■公衆衛生： 人と動物の健康の調和に関わること	68	52	33	5	1	159	3.23
		■動物病理： 疾病の成り立ちと回復の促進への寄与	77	60	28	8	0	173	3.24
		■動物臨床検査： 動物病院業務に必要な知識	77	62	29	4	1	173	3.24
		■動物臨床栄養： 動物病院業務に必要な知識	83	52	29	9	1	174	3.24
		■伴侶動物： 様々な動物の特性と人との関わり	53	52	34	3	2	144	3.21
		■動物看護学概論： 人と動物の調和に関わること	74	56	35	3	2	170	3.23
		■動物感染症： 病の成り立ちと回復の促進への寄与	76	54	33	6	1	170	3.23
		■動物薬理： 疾病の成り立ちと回復の促進への寄与	78	50	30	10	3	171	3.22
		■動物飼育（動物内科看護）： 動物の臨床看護に必要な動物内科学の知識	81	54	26	4	2	167	3.25
		■動物外科学： 動物の臨床看護に必要な動物外科学の知識	58	60	28	4	2	152	3.22
		■動物福祉： 人と動物の調和に関わること	69	55	34	5	1	164	3.23
汎用的な技能		■高等学校学習指導要綱に基づく学力・能力が十分に備わっており、且つ専門分野の知識吸収に対し旺盛な意欲がある	54	74	36	3	1	168	3.21
		■ITという言葉を認知している	50	51	50	11	3	165	3.16
職務上の技能	専門実践技能	■動物形態機能学実習 修得した動物形態機能学の知識の実践力	48	66	36	6	1	157	3.20
		■顕微鏡操作：健常の代表的組織、血液像、検便、尿中成分、皮膚スタンプなど採材を観察できる正しい操作方法	66	64	32	4	1	167	3.23
		■動物臨床検査実習： 修得した動物臨床検査学の知識の初歩的実践力	64	73	31	3	1	172	3.23
		■動物内科看護実習： 修得した動物内科学の知識の初歩的実践力	50	68	36	1	2	157	3.21
		■動物外科看護実習： 修得した動物外科学の知識の初歩的実践力	46	72	39	4	1	162	3.20
	対人技能	■グリーフケア：動物との死別を知らされた時期を含めて死に直面する飼い主への対応、動物を亡くした飼い主への対応、亡くなった動物の対応とその後のケアなどの初歩的技能	46	60	48	8	3	165	3.17
		■社会人コミュニケーション： 社会人としての一般教養と礼儀作法	60	64	44	1	1	170	3.21
		■接遇とホスピタリティー： 来院する全ての人と動物にとって快適な環境作り、応対ができ飼い主と動物病院が動物の終生飼育を共に実践できるような関係つくりの初歩的技能	56	65	42	5	1	169	3.20
	分析技能	■ＱＯＬの理解： 動物と飼い主を対象とした生活の質の向上であることの理解とその初歩的実践	60	75	31	5	0	171	3.22
		■観察： 動物看護学の知識に基づいて動物や飼育する環境の初歩的観察力	56	72	40	2	0	170	3.21
		■記録： 個人のための記録のみならず、チーム獣医療として協働者の理解と飼い主への伝達に必要な記録の基本的方法	49	65	52	4	0	170	3.19
	管理・指導技能	■プレゼンテーション： 個人やグループ内での検討や調べたことを衆人に向けて発表することの初歩的技能	41	56	55	14	1	167	3.15
自律性と責任感		■動物看護総合実習：実際の動物病院の体験見学等、修得した知識の総合化実習を通じた動物看護職としての初歩的な自律性と責任感。	61	71	30	8	0	170	3.22
		■ボランティア活動：良い社会づくりのために社会的認識を深め地域の人々と関わりを持つよう努めることに対する責任感	43	63	45	16	0	167	3.16
		■社会人としての責任の認識	55	74	36	5	0	170	3.21
		■成人としての義務の認識	55	75	34	6	0	170	3.21
		■情報収集方法に関する基本的認識	48	73	41	7	0	169	3.19
		■他者との交話方法に関する基本的認識	53	72	41	4	0	170	3.20
倫理観とプロ意識		■動物看護倫理：一般社団法人日本動物看護職協会「動物看護者の倫理綱領」を理解する	50	69	44	4	1	168	3.19
		■守秘義務：臨床の場で見学・研修、実習など関わった全てを守秘することの理解、不特定多数への情報発信の是非についての共通倫理	65	65	31	5	1	167	3.23
		■アニマルウエルフェア：動物愛護と福祉の違い、欧米諸国と日本のアニマルウエルフェアの歴史と意識の違いなどに関する基本的認識	53	70	40	5	1	169	3.20

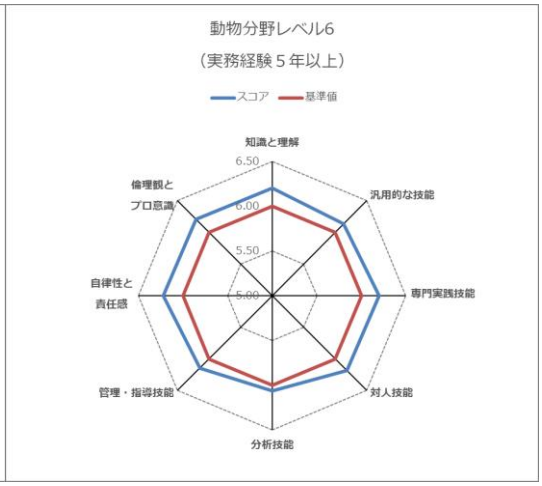
		スコア基準→	5.4	5.2	5.0	4.8	4.6		
認定動物看護師・レベル5・動物病院			**A**	**B**	**C**	**D**	**E**	**合計**	**スコア**
知識と理解		■疾患種類、対象動物の性質	0	0	1	0	0	1	5.00
		■飼い主の権利	0	1	0	0	0	1	5.20
		■獣医師の診断結果と看護における問題点に対する理解	0	0	1	0	0	1	5.00
		■院外連携	0	0	1	0	0	1	5.00
		■臨床における疑問・不確実な知識・技術	0	1	0	0	0	1	5.20
汎用的な技能		■成果のまとめ方	0	0	0	1	0	1	4.80
		■研究の基礎知識	0	0	1	0	0	1	5.00
		■文献活動、研究発表	0	0	0	1	0	1	4.80
		■職能団体の意義・役割	0	0	0	1	0	1	4.80
		■社会との連携・職能団体での活動への参加	0	0	0	1	0	1	4.80
		■社会人としての基礎力	0	0	1	0	0	1	5.00
職務上の技能	専門実践技能	■種々の報告書作成	0	0	1	0	0	1	5.00
		■基準・手順に沿った安全な動物看護	0	1	0	0	0	1	5.20
		■安全管理・感染予防・防災対策	0	1	0	0	0	1	5.20
	対人技能	■インフォームドコンセント	0	1	0	0	0	1	5.20
		■自分の考えを他者に伝える	0	1	0	0	0	1	5.20
		■対象者や他人の意見・考えの尊重	0	0	1	0	0	1	5.00
		■異業種の方とのコミュニケーション	0	1	0	0	0	1	5.20
		■報告・連絡・相談	0	1	0	0	0	1	5.20
	分析技能	■日々の臨床事例の振り返り、課題の明確化	0	0	1	0	0	1	5.00
	管理・指導技能	■組織の理念・方針の理解	0	0	1	0	0	1	5.00
		■組織メンバーの役割を理解した行動	0	1	0	0	0	1	5.20
		■臨床実習の指導とその意義	0	0	0	1	0	1	4.80
		■後輩の援助や支援	0	0	0	1	0	1	4.80
自律性と責任感		■社会人また獣医療人としての自覚	0	0	1	0	0	1	5.00
		■組織の一員としての責任感	0	1	0	0	0	1	5.20
		■ジョブアンカー　　キャリア理論の概念。個人がキャリアを選択する際に、自分にとって最も大切で、これだけはどうしても犠牲にできないという価値観や欲求、動機、能力などを指す。	0	0	1	0	0	1	5.00
倫理観とプロ意識		■倫理綱領への配慮	0	0	1	0	0	1	5.00
		■個人の尊厳やプライバシーへの配慮	0	1	0	0	0	1	5.20
		■動物福祉への配慮	0	1	0	0	0	1	5.20

		スコア基準→	6.4	6.2	6.0	5.8	5.6		
認定動物看護師・レベル6・動物病院			**A**	**B**	**C**	**D**	**E**	**合計**	**スコア**
知識と理解		■対象動物のQOL	2	8	0	0	0	10	6.24
		■重篤化回避の方法	3	4	3	0	0	10	6.20
		■回復支援のリハ看護方法	2	6	0	2	0	10	6.16
汎用的な技能		■臨床現場における研究的視点	3	4	3	0	0	10	6.20
		■研究のプロセス	0	6	2	2	0	10	6.08
		■学会発表で用いる研究方法	0	3	5	1	1	10	6.00
		■職能団体の社会的意義	3	3	1	2	1	10	6.10
		■院内での学習課題理解	3	6	1	0	0	10	6.24
		■種々の報告書作成	3	4	2	1	0	10	6.18
職務上の技能	専門実践技能	■QOL向上を目指した動物看護	3	6	1	0	0	10	6.24
		■安全な動物看護	2	7	1	0	0	10	6.22
		■動物看護の実践介入・評価	1	6	2	1	0	10	6.14
		■急変時対応	2	6	2	0	0	10	6.20
	対人技能	■退院支援・退院後支援に関する飼主への指導・助言	2	5	2	0	0	9	6.20
		■院内における人間関係の認識	4	2	3	0	0	9	6.22
		■多職種との協業・連携	1	5	2	1	0	9	6.13
	分析技能	■アセスメントや看護計画立案	2	2	2	3	0	9	6.07
	管理・指導技能	■後輩や実習生に対する支援	3	3	4	0	0	10	6.18
		■院内学習計画の立案	2	3	2	3	0	10	6.08
		■院内資源（人・物・予算・情報）の有効活用を目指した調整	4	2	3	1	0	10	6.18
自律性と責任感		■動物看護師間のリーダーシップ	2	7	1	0	0	10	6.22
倫理観とプロ意識		■倫理綱領への配慮	2	7	1	0	0	10	6.22
		■倫理的完成を高める中で、対象者への共感的理解と対応	2	6	2	0	0	10	6.20

・チャート化の結果







- 学校における評価は非常に高い。
  自己評価であることに加え、認定動物看護師カリキュラムマップが標準化されていることもあるかと思われる。
- 前年度における調査同様、自己評価だとどうしても高くなる傾向がみられる。

4.4　土木・建築分野－土木施工管理職種

●対象

土木・建築分野においては、測定対象を次表のように決めて試行を行った。

区分	測定対象者	レベル	備考
社会人	実務経験 5 年以上	6	前年度に実施したアンケートに回答をいただいた土木施工管理会社を対象とした
	実務経験 2 年以上 5 年未満	5	
	実務経験 2 年未満	4	
学生	高度専門課程 4 年生	5	修成建設専門学校土木工学科および中央工学校土木建設科に在籍する専門課程生を対象とした
	高度専門課程 3 年生	4	
	専門課程 2 年生	3	

●方法

・あらかじめ、学修成果測定シートを当機構ホームページからダウンロードできるようにアップロードし、その後、測定者が次の手順で操作するようにした。

(1) 依頼文書に示された方法に従ってダウンロードする
(2) ダウンロードしたファイルを被測定者の数分コピーする
(3) 被測定者に関する測定記録をファイルごとに保存する
(4) 保存された複数のファイルを事務局あて送信する

●送付文書

・対社会人（土木施工管理会社）

令和２年１月 15 日

●●●●株式会社
●●●● ●●●● 様

文部科学省委託事業　職業分野別コンピテンシー体系研究委員会
委員長　　川口　昭彦（専門職高等教育質保証機構代表理事）

土木・建築分科会　委員　堤下　隆司（修成建設専門学校）
委員　松田　正之（中央工学校）
委員　稲沢　達也（古久根建設）

【学修成果測定に関するご協力のお願い】

一般社団法人専門職高等教育質保証機構（以下、「当機構」）は、専門学校など専門職高等教育機関の質保証・向上を目的とした団体です。当機構では令和元年度文部科学省「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業（以下、「本事業」）の一環として、

学修成果の測定に向けた職業分野別コンピテンシー体系の研究

を受託しております。

およそ１年前、貴社には、平成 30 年度の本事業の調査ご協力をお願いいたしました。その折は、ご多忙にもかかわらず、調査にご回答をいただきありがとうございました。お礼を申し上げるのが大変遅くなりましたが、本書面を以ってあらためて感謝申し上げます。

なお、平成 30 年度事業の調査結果につきましては、本事業の

事業成果報告書
https://qaphe.com/wp-content/uploads/competency2018result.pdf

の該当部分（90～106 ページ）をご参照ください。

さて、平成 30 年度の本事業で構築した、

学修成果指標（土木・建築分野ー土木施工管理職種）
https://qaphe.com/wp-content/uploads/competency2018attachment-c-4.pdf

は一定の評価を得たものと思われます。本年度事業におきましては、昨年度事業において頂戴したご意見も踏まえ、成果をより具体的に教育現場や職場における「学修成果の測定」に役立てるべく、レベルごとの**学修成果測定シート**を作成いたしました。今回は、この**学修成果測定シート**を用いて、昨年度と同様、

御社の**土木施工管理職種に相当する社員（専門学校卒業生）を対象**として学修成果測定を試していただくことを依頼させていただきます。

なお、学修成果測定シートは、PC を用いて、Excel のワークシートを操作する方法で記録していただきたくお願いいたします。その操作方法等につきましては、次ページ以降、**学修成果測定操作マニュアル**として掲載いたしましたので、ご参照ください。

※平成 30 年度の本事業の成果は、当機構のホームページの次の URL に掲載されています。
https://qaphe.com/mext/mext2018/competency2018/competency2018result/ →

本事業は専門学校教育の振興を通じてわが国の中核的人材のレベルアップを実現し、各産業の発展に貢献することを狙ったものです。どうか、本事業の趣旨をお汲み取りいただき、学修成果測定にご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

敬具

学修成果測定操作マニュアル（企業様用）

● 操作の前提

以下の説明は、インターネットに接続された Windows の PC で、Microsoft Excel がインストールされていることを前提にしています。

● 学修成果測定の準備

① 学修測定対象者の決定

御社の土木施工管理職種に相当する社員のうち、**専門学校卒の者（被測定者）を数名選択**してください。該当者が多数いらっしゃる場合は 10 名を上限としてください。対象者が 1 名のみであってもかまいません。

② Excel ファイル（ひな形）のダウンロード

https://qaphe.com/mext/mext2019/competency2019/
にアクセスしていただき、表示されたページにある
土木・建築分野－土木施工管理職種　学修成果測定シート（ひな形）のダウンロード
をクリックして、Excel ファイルをダウンロードしてください。

※上記 URL の QR コードは右に示したとおりです。

※当機構のホームページから順にアクセスする手順は次のとおりです。

1. qaphe.com にアクセス
2. メニューの［文部科学省委託事業］→［令和元年度文部科学省委託事業］をクリック
3. スクロールして、［コンピテンシー事業］をクリック
4. ［コンピテンシー事業学修成果測定試行］をクリック

③ ②でダウンロードしたファイルのコピーと名称の変更

②でダウンロードした**ファイルは 1 名分の学修成果測定用**ですので、①で決定した**対象者数分のコピーを作成**してください。

そのうえで、各ファイルがどの対象者に対応するものかわかるように、ファイル名を変更してください。ひな形のファイル名は

「R01worksheet-4」

となっているので、たとえば、

「R01worksheet-4（●●）」
「R01worksheet-4（▲▲）」
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

のように名称を付けていただけるとよいかと思います（対象者を識別できるように、●●や▲▲の部分に氏名やイニシャルを付けてください）。

● （対象者ごとの）学修成果測定シートの記録

以下は、上記③までの操作を終え、対象者ごとの学修成果測定シートのファイルが存在していることを前提に、１つのファイルを操作する方法の説明です。

① ファイルを開く

該当するファイルをダブルクリックするなどして開くと、次のような画面が表示されます。

3 学修成果測定シート（2019）　土木･建築分野－土木施工管理職種

組織	ID	事務局で記録します	名称					測定日付（数字を編集しください）	2020/01/20
被測定者	ID	事務局で記録します	氏名		実務経験	0年	数字のみ記入。学生は記入不要	測定基準	●100点満点評価の場合 A:80点以上100点以下 B:70点以上80点未満 C:60点以上70点未満 D:50点以上60点未満 E:50点未満 ●主観的測定の場合 A:大いにそう思う B:そう思う C:だいたいそう思う D:そう思わない E:まったくそう思わない
測定者	ID	事務局で記録します	氏名		役職				

区分		測定項目	補足説明	評価 A	B	C	D	E	測定者フリーコメント
知識と理解		土木技術に対する基礎的な知見を有している。	現場施工技術の基礎的な知識を評価してください。			1			
汎用的な技能		専門分野の知識修得に対し旺盛な意欲がある。	目的を持って学習に専念する意欲を評価してください。			1			
職務上の	専門実践技能	建設に興味がある。	建設に興味があり、探求し旺盛であるかについて評価してください。			1			
	専門実践技能	基礎科学（数学・物理・化学）を得意とする。	基礎科学（数学・物理・化学）を得意としているかについて評価してください。			1			
	対人技能	団体活動、チーム活動の中において主導的な役割経験がある。	団体活動・チーム活動における主導的役割経験があるか、または、その資質があるかについて評価してください。			1			

この画面は、**レベル３**（セル A1 の赤地白抜き文字が 3）の学修成果測定シートです。画面の下側を見ていただき、下図のように複数のシートがあることをご確認ください。

これら４つのシートが、それぞれレベル３、レベル４、レベル５、レベル６の「学修成果測定シート」になります（今回はレベル７、レベル８を対象としておりません）。これらのシートは独立に操作するようになっています。

② 学修成果測定のための操作方法

今回は、次のように、**実務経験年数によって一つのレベルのみ**について測定をお願いします。

実務経験２年未満　　レベル４
実務経験２年以上５年未満　レベル５
実務経験５年以上　　レベル６

以下、それぞれのシートにおける操作方法について、レベル４のシート（[L4-2019（土木）] シート）を例に説明いたします。

(1) 基本情報の入力

下図の太枠のとおり、組織の名称、被測定者の氏名（匿名やイニシャルで構いません）、実務経験年数、測定者の氏名、測定者の役職、測定日付を入力してください。入力した文字は青色で表示されます。

4 学修成果測定シート（2019）　土木・建築分野－土木施工管理職種

組織	ID	事務局で記録します	名称	○○株式会社			測定日付（数字を編集してください）	2020/01/20
被測定者	ID	事務局で記録します	氏名	A	実務経験	0年	数字のみ記入。学生は記入不要	測定基準 ●100点満点評価の場合 A:80点以上100点以下 B:70点以上80点未満 C:60点以上70点未満 D:50点以上60点未満 E:50点未満 ●主観的測定の場合 A:大いにそう思う B:そう思う C:だいたいそう思う D:そう思わない E:まったくそう思わない
測定者	ID	事務局で記録します	氏名	○○○○	役職	○○部長		

(2) 測定項目ごとの評価とその結果の入力

次に、測定項目ごとに、右上に記述してある「測定基準」に基づき、補足説明も参考にしながら、**A～E の評価をして該当欄に数字の 1 を入力してください**（下図の太線の枠内）（同じ行に複数の 1 があった場合は、評価の高いほうを優先します）。必要に応じて、測定者フリーコメント欄に測定者としてのコメントをご記入ください（下図の点線の枠内）。

区分	測定項目	補足説明	評価 A	B	C	D	E	測定者フリーコメント
知識と理解	「技術士補」資格を取得している。	取得していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
	「測量士補」資格を取得している。	取得していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
	各種「作業主任者」資格を取得している。	取得していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
	「２級土木施工管理技士」学科試験に合格している。	合格していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
	「２級舗装施工管理技士」学科試験に合格している。	合格していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
	「２級造園施工管理技士」学科試験に合格している。	合格していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
	「２級管工事施工管理技士」学科試験に合格している。	合格していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
	「２級電気工事施工管理技士」学科試験に合格している。	合格していればAとして、そうでないときはCとして、評価してください。			1			
汎用的な技能	基礎科学（数学・物理・化学）を活用している。	基礎科学（数学・物理・化学）の知識を活用できているかについて評価してください。			1			
	職業理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力が発揮できる。				1			

● ファイルの送信

前ページまでに示した操作を終え、対象者に関するファイルがそろったら、お手数をかけて恐縮ですが、当該ファイルを添付して、

下記連絡先に示したメールアドレス宛て

令和２年１月29日（水）までに

ご送信いただきますようお願いいたします。

なお、メールの件名は、

「学修成果測定シートの送信（土木建築分野）　○○」（○○部分は御社名）

としていただきたくお願いいたします。

ご不明な点も含めて、何かありましたら下記あてご連絡ください。

○本件に関するお問合せ・ご連絡先

〒106-0032　東京都港区六本木6-2-33　六本木ヒルズノースタワーアネックス3F

一般社団法人専門職高等教育質保証機構　文部科学省委託事業事務局

TEL 03-3403-3432　FAX 03-6734-0541

E-mail　jimukyoku@qaphe.com　URL　http://qaphe.com/

・対学校（修成建設専門学校、中央工学校）

令和２年１月 15 日

修成建設専門学校の先生方
中央工学校の先生方

文部科学省委託事業　職業分野別コンピテンシー体系研究委員会
委員長　　川口　昭彦（専門職高等教育質保証機構代表理事）

土木・建築分科会　委員　堤下　隆司（修成建設専門学校）
委員　松田　正之（中央工学校）
委員　稲沢　達也（古久根建設）

【学修成果測定の試行に関するご協力のお願い】

拝啓　時下ますますご清栄の段お慶び申し上げます。

一般社団法人専門職高等教育質保証機構（以下、「当機構」）は、専門学校など専門職高等教育機関の質保証・向上を目的とした団体です。当機構では令和元年度文部科学省「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」事業（以下、「本事業」）の一環として、

学修成果の測定に向けた職業分野別コンピテンシー体系の研究

を受託しております。

本事業は昨年度（平成 30 年度）から継続して実施しており、次のような実績をあげましたので、必要に応じてご参照いただければ幸いです。

●事業成果報告書
https://qaphe.com/wp-content/uploads/competency2018result.pdf
（ゲーム・CG 分野の調査結果は 90～106 ページに掲載されているのでご参照ください）

●資格枠組みのレベルの定義（レベルディスクリプター）
https://qaphe.com/wp-content/uploads/competency2018attachment-a.pdf

●資格枠組みのレベルの定義（概要）
https://qaphe.com/wp-content/uploads/competency2018attachment-b.pdf

●学修成果指標（土木・建築分野－土木施工管理職種）
https://qaphe.com/wp-content/uploads/competency2018attachment-c-4.pdf

これらのうち、「学修成果指標」は昨年度事業の調査において一定の評価を得たものと思われます。本年度事業におきましては、昨年度事業において企業様から頂戴したご意見も踏まえ、成果をより具体的に教育現場や職場における「学修成果の測定」に役立てるべく、レベルごとの**学修成果測定シート**を作成いたしました。今回は、この**学修成果測定シート**を用いて、

御校の**土木関連学科の在校生を対象**

として学修成果測定を試していただくことを依頼させていただきます。

なお、学修成果測定シートは、PC を用いて、Excel のワークシートを操作する方法で記録していただきたくお願いいたします。その操作方法等につきましては、次ページ以降、**学修成果測定操作マニュアル**として掲載いたしましたので、ご参照ください。

※平成 30 年度の本事業の成果は、当機構のホームページの次の URL に掲載されています。
https://qaphe.com/mext/mext2018/competency2018/competency2018result/　→

本事業は専門学校教育の振興を通じてわが国の中核的人材のレベルアップを実現し、各産業の発展に貢献することを狙ったものです。どうか、本事業の趣旨をお汲み取りいただき、学修成果測定にご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

敬具

学修成果測定操作マニュアル（学校様用）

● 操作の前提

以下の説明は、インターネットに接続された Windows の PC で、Microsoft Excel がインストールされていることを前提にしています。

● 学修成果測定の準備

① 学修測定対象者の決定

御校の土木関連学科専門課程の 2 年生のうち、ラムダムに 10 名を選択してください。

② Excel ファイル（ひな形）のダウンロード

https://qaphe.com/mext/mext2019/competency2019/
にアクセスしていただき、表示されたページにある
土木・建築分野－土木施工管理職種　学修成果測定シート（ひな形）ダウンロード
をクリックして、Excel ファイルをダウンロードしてください。

③ ②でダウンロードしたファイルのコピーと名称の変更

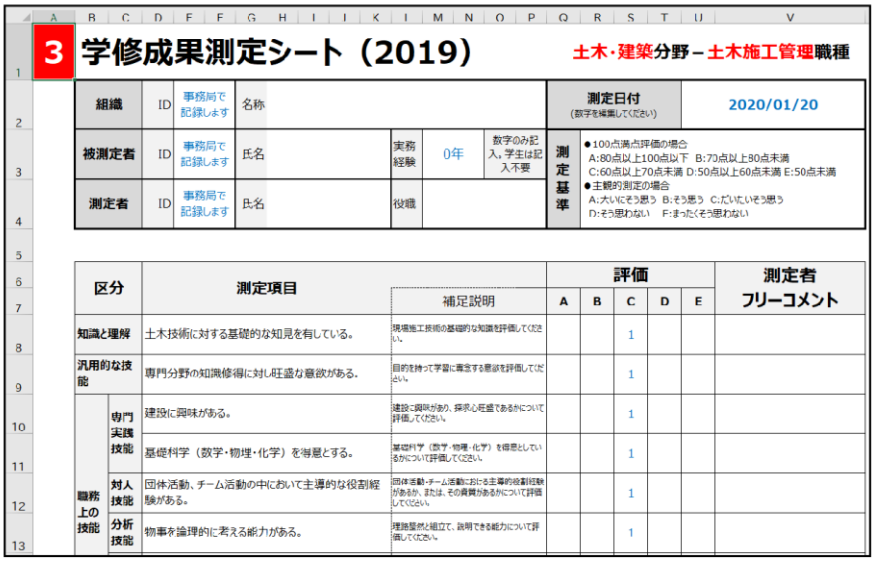
②でダウンロードした**ファイルは 1 名分の学修成果測定用**ですので、①で決定した 10 名分のコピーを作成してください。
そのうえで、各ファイルがどの対象者に対応するものかわかるように、ファイル名を変更してください。ひな形のファイル名は
「R01worksheet-4」
となっているので、たとえば、
「R01worksheet-4（●●）」
「R01worksheet-4（▲▲）」
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
のように名称を付けていただけるとよいかと思います（対象者を識別できるように、●●や▲▲の部分に氏名やイニシャルを付けてください）。

● （対象者ごとの）学修成果測定シートの記録

以下は、上記③までの操作を終え、対象者ごとの学修成果測定シートのファイルが存在していることを前提に、1 つのファイルを操作する方法の説明です。

① ファイルを開く

該当するファイルをダブルクリックするなどして開くと、次のような画面が表示されます。



3 学修成果測定シート（2019）　土木･建築分野－土木施工管理職種

組織	ID	事務局で記録します	名称				測定日付（数字を編集してください）	2020/01/20
被測定者	ID	事務局で記録します	氏名	実務経験	0年	数字のみ記入，学生は記入不要	測定基準	●100点満点評価の場合 A:80点以上100点以下 B:70点以上80点未満 C:60点以上70点未満 D:50点以上60点未満 E:50点未満 ●主観的測定の場合 A:大いにそう思う B:そう思う C:だいたいそう思う D:そう思わない F:まったくそう思わない
測定者	ID	事務局で記録します	氏名	役職				

区分		測定項目	補足説明	評価 A	B	C	D	E	測定者フリーコメント
知識と理解		土木技術に対する基礎的な知見を有している。	現場施工技術の基礎的な知識を評価してください。			1			
汎用的な技能		専門分野の知識修得に対し旺盛な意欲がある。	目的を持って学習に専念する意欲を評価してください。			1			
職務上の技能	専門実践技能	建設に興味がある。	建設に興味があり、探求心旺盛であるかについて評価してください。			1			
	専門実践技能	基礎科学（数学・物理・化学）を得意とする。	基礎科学（数学，物理，化学）を得意としているかについて評価してください。			1			
	対人技能	団体活動、チーム活動の中において主導的な役割経験がある。	団体活動・チーム活動における主導的役割経験があるか、または、その資質があるかについて評価してください。			1			
	分析技能	物事を論理的に考える能力がある。	理論筋道と組立て、説明できる能力について評価してください。			1			

この画面は、**レベル 3**（セル A1 の赤地白抜き文字が 3）の学修成果測定シートです。画面の下側を見ていただき、下図のように複数のシートがあることをご確認ください。

これら 4 つのシートが、それぞれレベル 3、レベル 4、レベル 5、レベル 6 の「学修成果測定シート」になります（今回はレベル 7、レベル 8 を対象としておりません）。これらのシートは独立に操作するようになっています。

② 学修成果測定のための操作方法

今回の設定では、**土木関連学科専門課程 2 年生**に対しては、一律に、

レベル 3 の測定を行う

ことにしていますので、以下、レベル 3 のシート（[L3-2019（土木）] シート）を例に説明いたします。

(1) 基本情報の入力

下図の太枠のとおり、組織の名称（「修成建設専門学校」または「中央工学校」）、被測定者の氏名（匿名やイニシャルで構いません）、測定者の氏名、測定者の役職、測定日付を入力してください。入力した文字は青色で表示されます。なお、実務経験年数については、今回対象が学生なので、何も入力する必要はありません。

3 学修成果測定シート（2019）　土木・建築分野－土木施工管理職種

組織	ID	事務局で記録します	名称				測定日付（数字を編集してください）	2020/01/20
被測定者	ID	事務局で記録します	氏名		実務経験	0年	数字のみ記入。学生は記入不要	測定基準 ●100点満点評価の場合 A:80点以上100点以下 B:70点以上80点未満 C:60点以上70点未満 D:50点以上60点未満 E:50点未満 ●主観的測定の場合 A:大いにそう思う B:そう思う C:だいたいそう思う D:そう思わない E:まったくそう思わない
測定者	ID	事務局で記録します	氏名		役職			

(2) 測定項目ごとの評価とその結果の入力

次に、測定項目ごとに、右上に記述してある「測定基準」に基づき、補足説明も参考にしながら、**A～E の評価をして該当欄に数字の 1 を入力してください**（下図の太線の枠内）（同じ行に複数の 1 があった場合は、評価の高いほうを優先します）。必要に応じて、測定者フリーコメント欄に測定者としてのコメントをご記入ください（下図の点線の枠内）。

区分		測定項目	補足説明	評価 A	B	C	D	E	測定者フリーコメント
知識と理解		土木技術に対する基礎的な知見を有している。	現場施工技術の基礎的な知識を評価してください。			1			
汎用的な技能		専門分野の知識修得に対し旺盛な意欲がある。	目的を持って学習に真摯する意欲を評価してください。			1			
職務上の技能	専門実践技能	建設に興味がある。	建設に興味があり、探求心旺盛であるかについて評価してください。			1			
	専門実践技能	基礎科学（数学・物理・化学）を得意とする。	基礎科学（数学・物理・化学）を得意としているかについて評価してください。			1			
	対人技能	団体活動、チーム活動の中において主導的な役割経験がある。	団体活動・チーム活動における主導的役割経験があるか、または、その資質があるかについて評価してください。			1			
	分析技能	物事を論理的に考える能力がある。	理路整然と組立て、説明できる能力について評価してください。			1			
	管理・指導技能	表現力が豊かである。	解りやすく整然と表現できる能力について評価してください。			1			
	管理・指導技能	解決すべき問題を先延ばしにしない。	問題解決能力の高さについて評価してください。			1			
自律性と責任感		社会人としての一般知識、基礎力・マナーなど、身についている。	基礎力(話す・聞く・書く)が身についているか、ルールや規則の遵守・思いやりの心があるかについて総合的に評価してください。			1			
倫理観とプロ意識		相手の話を良く聞き、理解し、正確に伝えることができる。				1			
倫理観とプロ意識		素早く記録にとどめることができる。	要点をメモし、正確に報告することができる能力について評価してください。			1			

以上で直接的な操作は終わりです。

● **ファイルの送信**

前ページまでに示した操作を終え、対象者に関するファイルがそろったら、お手数をかけて恐縮ですが、当該ファイルを添付して、下記連絡先に示したメールアドレスにご送信いただきますようお願いいたします。

なお、メールの件名は、

「学修成果測定シートの送信（土木建築分野）　○○」（○○部分は御校名）

としていただきたくお願いいたします。

ご不明な点も含めて、何かありましたら下記あてご連絡ください。

○本件に関するお問合せ・ご連絡先

〒106-0032　東京都港区六本木 6-2-33　六本木ヒルズノースタワーアネックス 3F

一般社団法人専門職高等教育質保証機構　文部科学省委託事業事務局

TEL 03-3403-3432　FAX 03-6734-0541

E-mail　jimukyoku@qaphe.com　URL　http://qaphe.com/

4

●回収および分析結果

・測定結果回収状況

専門学校

2 年生…20 名

土木関連企業

実務経験 2 年未満 10 名

実務経験 2 年以上 5 年未満 4 名

実務経験 5 年以上 23 名

・測定結果の集計結果

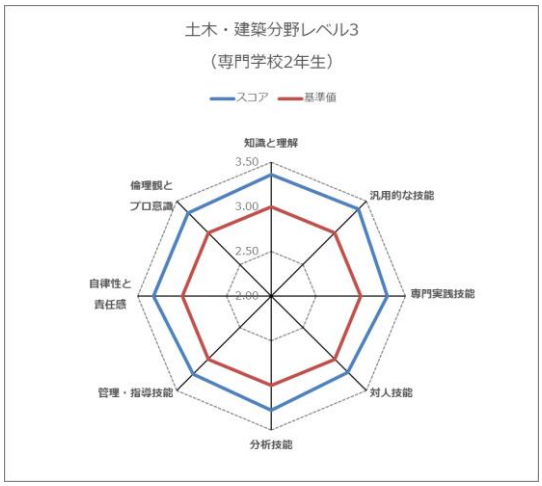
		スコア基準→	3.4	3.2	3.0	2.8	2.6		
土木施工管理　・　レベル3　・　学校			**A**	**B**	**C**	**D**	**E**	**合計**	**スコア**
知識と理解		土木技術に対する基礎的な知見を有している。	16	4	0	0	0	20	3.36
汎用的な技能		専門分野の知識修得に対し旺盛な意欲がある。	18	2	0	0	0	20	3.38
職務上の技能	専門実践技能	建設に興味がある。	18	2	0	0	0	20	3.38
		基礎科学（数学・物理・化学）を得意とする。	8	5	7	0	0	20	3.21
	対人技能	団体活動、チーム活動の中において主導的な役割経験がある。	9	4	6	1	0	20	3.21
	分析技能	物事を論理的に考える能力がある。	10	8	2	0	0	20	3.28
	管理・指導技能	表現力が豊かである。	6	4	9	1	0	20	3.15
		解決すべき問題を先延ばししない。	15	3	2	0	0	20	3.33
自律性と責任感		社会人としての一般知識、基礎力・マナーなど、身についている。	14	4	2	0	0	20	3.32
倫理観とプロ意識		相手の話を良く聞き、理解し、正確に伝えることができる。	14	4	2	0	0	20	3.32
		素早く記録にとどめることができる。	15	2	3	0	0	20	3.32

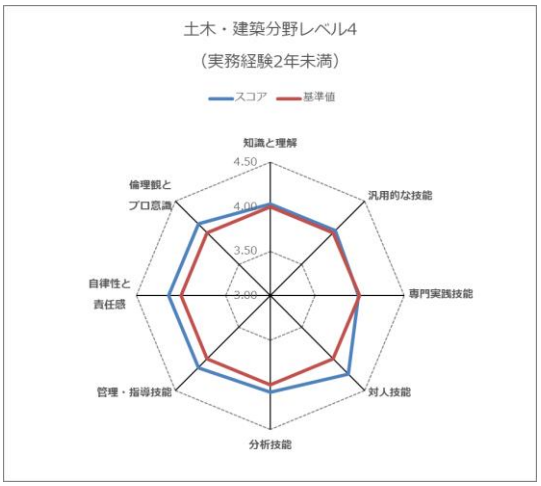
		スコア基準→	4.4	4.2	4.0	3.8	3.6		
土木施工管理　・　レベル4　・　企業			**A**	**B**	**C**	**D**	**E**	**合計**	**スコア**
知識と理解		「技術士補」資格を取得している。	0	0	10	0	0	10	4.00
		「測量士補」資格を取得している。	1	0	9	0	0	10	4.04
		各種「作業主任者」資格を取得している。	0	0	10	0	0	10	4.00
		「２級土木施工管理技士」学科試験に合格している。	5	0	5	0	0	10	4.20
		「２級舗装施工管理技士」学科試験に合格している。	0	0	10	0	0	10	4.00
		「２級造園施工管理技士」学科試験に合格している。	0	0	10	0	0	10	4.00
		「２級管工事施工管理技士」学科試験に合格している。	0	0	10	0	0	10	4.00
		「２級電気工事施工管理技士」学科試験に合格している。	0	0	10	0	0	10	4.00
汎用的な技能		基礎科学（数学・物理・化学）を活用している。	0	1	9	0	0	10	4.02
		職業理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力が発揮できる。	0	2	8	0	0	10	4.04
職務上の技能	専門実践技能	各種図面が作成できる。	0	2	5	2	1	10	3.96
		数量計算書が作成できる。	0	2	6	1	1	10	3.98
		労働安全衛生法及び同規則が全て理解できている。	0	2	7	1	0	10	4.02
	対人技能	報告・連絡・相談が的確に行える。	4	4	2	0	0	10	4.24
	分析技能	情報の収集能力があり、的確な観察力・洞察力がある。	0	4	6	0	0	10	4.08
	管理・指導技能	上司等よりの指示、指導を受け、広い視点のもと考え方の幅や創造力を養	0	7	3	0	0	10	4.14
自律性と責任感		指導を受け、責任感と自主性をもって、仕事及び専門知識の習得に専念し	3	5	2	0	0	10	4.22
		常に専門技術の力量並びに技術と社会が接する領域の知識を高めている。	0	3	7	0	0	10	4.06
倫理観とプロ意識		倫理的な行動が出来る。	1	5	4	0	0	10	4.14

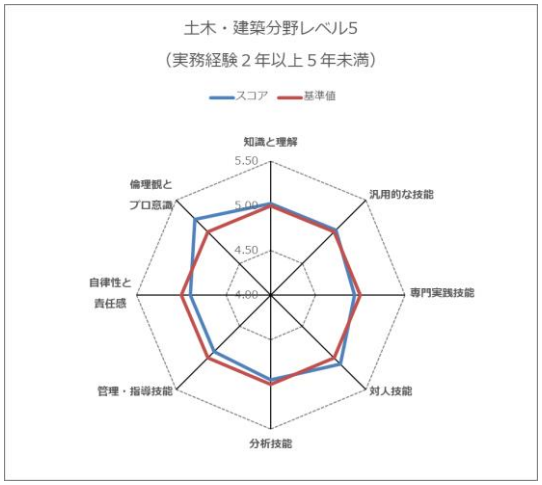
		スコア基準→	5.4	5.2	5.0	4.8	4.6		
土木施工管理　・　レベル5　・　企業			**A**	**B**	**C**	**D**	**E**	**合計**	**スコア**
知識と理解		「測量士」資格を取得している。	0	0	3	0	0	3	5.00
		「コンクリート技士」資格を取得している。	0	0	3	0	0	3	5.00
		「２級土木技術者」資格を取得している。	0	0	3	0	0	3	5.00
		「２級土木施工管理技士」資格を取得している。	2	0	2	0	0	4	5.20
		「２級舗装施工管理技士」資格を取得している。	0	0	3	0	0	3	5.00
		「２級造園施工管理技士」資格を取得している。	0	0	3	0	0	3	5.00
		「２級管工事施工管理技士」資格を取得している。	0	0	3	0	0	3	5.00
		「２級建設機械施工技士」資格を取得している。	0	0	3	0	0	3	5.00
		「２級電気工事施工管理技士」資格を取得している。	0	0	3	0	0	3	5.00
汎用的な技能		専門知識、一般常識、社会人としての基礎力（話す・聞く・書く）がある。	0	1	2	1	0	4	5.00
		スキルアップに関わる各種資格取得に向け、前向きに取り組んでいる。	0	2	1	1	0	4	5.05
職務上の技能	専門実践技能	建設従事者への安全教育が出来る。	0	0	3	1	0	4	4.95
		施工計画書の立案・指示・作成が出来る。	0	0	3	1	0	4	4.95
		建設業法が理解できている。	0	0	2	2	0	4	4.90
	対人技能	伝える能力・受け取る能力（コミュニケーション能力）がある。	0	3	0	1	0	4	5.10
		周囲から信頼される人柄である。	1	2	0	0	1	4	5.10
	分析技能	出来形管理・工程管理・安全管理をはじめ、一通りの現場管理に関して理解	0	1	2	0	1	4	4.95
	管理・指導技能	部下に指示する立場である。	0	0	3	0	1	4	4.90
		チーム内の意見をまとめ、的確な判断・指示を下す能力がある。	0	0	3	0	1	4	4.90
自律性と責任感		自己の専門的能力の向上を図り、学理・工法の研究に励み、技術の発展に	0	0	3	0	1	4	4.90
倫理観とプロ意識		業務上知り得た秘密を、正当な理由無く他に漏らしたり、転用したりしな	1	2	1	0	0	4	5.20

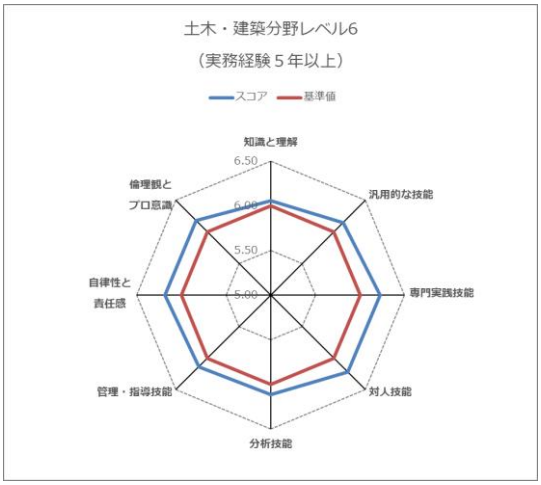
		スコア基準→	6.4	6.2	6.0	5.8	5.6		
土木施工管理　・　レベル6　・　企業			**A**	**B**	**C**	**D**	**E**	**合計**	**スコア**
知識と理解		「コンクリート主任技士」資格を取得している。	0	0	23	0	0	23	6.00
		「１級土木技術者」資格を取得している。	2	0	21	0	0	23	6.03
		「１級土木施工管理技士」資格を取得している。	20	0	3	0	0	23	6.35
		「１級鋪装施工管理技士」資格を取得している。	4	0	19	0	0	23	6.07
		「１級造園施工管理技士」資格を取得している。	0	0	23	0	0	23	6.00
		「１級管工事施工管理技士」資格を取得している。	0	0	23	0	0	23	6.00
		「１級建設機械施工技士」資格を取得している。	0	0	23	0	0	23	6.00
		「１級電気工事施工管理技士」資格を取得している。	0	0	23	0	0	23	6.00
汎用的な技能		計画力が十分にある。	8	10	5	0	0	23	6.23
		創造力が十分にある。	6	10	7	0	0	23	6.19
		課題発見能力が十分にある。	5	11	7	0	0	23	6.18
		ビジネスマナーがある。	8	9	5	1	0	23	6.21
		語学力がある。	0	2	12	8	1	23	5.93
職務上の技能	専門実践技能	現場の安全・工程・品質・原価を全て理解し、管理する能力がある。	10	8	5	0	0	23	6.24
		予算書の作成・管理が出来る。	10	5	7	1	0	23	6.21
	対人技能	マナー、協調性があり顧客はもとより、あらゆる人に対して常に好感度が	10	7	4	2	0	23	6.22
	分析技能	トレードオフ問題に対し、分析し検討をすることが出来、合理的な提案が出	4	8	8	3	0	23	6.11
	管理・指導技能	部下を指導する立場である。	7	4	9	3	0	23	6.13
		経験豊富で人格があり、部下に模範を示す能力がある。	6	8	6	2	1	23	6.14
自律性と責任感		専門分野のプロとして、しっかりと説明責任を果たすことが出来る。	8	8	6	0	1	23	6.19
		法令･規則、マナーを遵守し、リスク管理能力が発揮できる。	6	10	6	0	1	23	6.17
倫理観とプロ意識		業務の対象となる地域の法規･条令を遵守し、文化的価値を尊重することが出	6	12	3	1	1	23	6.18

・チャート化の結果









- 学校における評価は高めであるのに対し、企業における評価は学校に比べて厳しい
- 企業ではレベル 6 では評価が高い。年齢上限を設定していないので、実際にはレベル 7 以上の方も含まれているからではないかと思われる。

5　本事業の成果と今後の展望

5.1　本事業の成果

本事業は 2 年計画でスタートし、今、その終了のときを迎えている。本事業の第一の成果は、「資格枠組のレベル定義（レベルディスクリプター）」（以下「LD」）、「資格枠組のレベル定義（概要）」（以下「LD 概要」）を作成できたことである。そのことは、次の二つの点で意義深いものと考える。

(1) EQF（European Qualification Framework、欧州資格枠組）など、世界各国で実際に参照されている NQF（National Qualification Framework）と同等のものを作成したことにより、国際通用性のある標準的な枠組として定義できたこと。

(2) その結果、LD、LD 概要を基礎にして、本事業でその作成に取り組んだ職業分野ごとの学修成果指標など、具体的な学修目標やレベル測定につながる仕組みの構築を加速することが可能になったこと

もし、LD がわが国で普及すれば、国際的な人材の流動性（モビリティ）を高めることにつながる。わが国は、ユネスコが提唱した「高等教育の資格の承認に関するアジア太平洋地域規約」（東京規約）を批准し、2018 年 2 月に同規約が発効した。そのことを受け、2019 年 9 月には、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構内に、東京規約に基づく NIC（National Information Center、高等教育資格承認情報センター）が設置された。上記(1)の意義深さは、このタイミングだからこそともいえる。本事業で作成した LD がどれくらい有用なものか、その評価にはある程度時間が必要と思われるが、当機構としては NIC とも連携して本事業成果の周知と普及に努めていきたい。

また、本事業成果は、上記(2)に記したとおり、専門学校の教育現場、企業における中核的人材の育成現場において、LD と整合性のある学修成果の測定の仕組みにつながる。本事業では、美容、ゲーム・CG、動物、土木・建築の 4 分野を選んで、具体的なレベルでの学修成果測定の仕組み構築を模索してきた。それは、LD と整合性のある職業分野ごとの「学修成果指標」の作成と、その指標に基づく学修成果測定試行による検証である。このような取組の成否は、LD と整合した指標をいかにして作成するかにかかっている。その部分について確立された方法論があるわけではなく、本事業では 2 年をかけて、各分科会で取り組んできた。そのアプローチは、それぞれの分野の特性などが現れたものであり、他の分野における学修成果指標の作成にとっても大いに参考になるものと考えられる。そのような考えから、本事業を終えるにあたって、また、その成果を次の段階に進めるにあたって、各分科会における「学修成果指標」作成のアプローチを、「学修成果測定の手引き」としてまとめた[6]。

[6] 巻末に資料 6 として掲載しているので参照していただきたい。

5.2 今後の展望

わが国でも NQF が必要ではないかという議論は、2000 年代に入ったぐらいから一時盛んになったことがあった。これは 1990 年代「失われた 10 年」の反作用として、わが国人材育成の指針を公的に定めることの必要性に対する認識が高まったことに起因していた。実際、ちょうど「IT」という言葉が一般的になった時代背景とマッチして、経済産業省主導で、2000 年に「IT スキル標準（ITSS、IT Skill Standards）」が誕生した。しかし、急速に広く普及することはなく、2006 年に大きな見直しがあって、version3 になってからは、特に、大手のシステムベンダーで普及が進んだものの、IT 業界全体に広く定着したものとはいいがたい。大手の場合、多職種の人材を確保してレベル・職種に均衡した人員を揃えることが、会社のトータルな人材供給力を示すことになり、その意味で ITSS は都合がよかったから運用できているという側面もあるが、決定的かつ標準的なものとして機能しているとはいえない。

その後も、組込み技術の水準を示す ETSS（Embedded Technology Skill Standards）や IT ユーザーの水準を示す UISS（Users' Information Systems Skill Standards）が誕生したが、この 10 年ほど大きな動きがなく、普及には程遠い状況にある。

また、厚生労働省系の民間法人である中央職業能力開発協会（JAVADA：Japan Vocational Ability Development Association）は 2002 年度から、「仕事をこなすために必要な『知識』と『技術・技能』に加えて、『成果につながる職務行動例（職務遂行能力）』を、業種別、職種・職務別に整理したもの[7]」として「職業能力評価基準」の策定を進めている。厚生労働省は、この基準が「わが国の『職業能力評価制度』の中心をなす公的な職業能力の評価基準で、採用や人材育成、人事評価、さらには検定試験の『基準書』として、様々な場面で活用できるもの[8]」として普及・促進を図っている。しかし、この基準は多くの業種・職種に対応して策定されているが、その中核となる考え方が明確でなく、各業種・職種の中で運用することは可能であるが、NQF の根本的な概念である「モビリティ」についてどのような考え方に立脚しているか不明である。

以上見たように、職業能力を体系的にとらえてその評価基準を策定する試みは個別になされているものの、それらの核となる概念は形成されていないというのがわが国の現状である。

今後、仮に、NQF を国として策定しようということになった場合、現在公的に策定されている ITSS や職業能力評価基準、加えて国家試験として実施されている各種検定・認定制度が示す合格基準などをベースに組み立てることが考えられる。しかし、

---

7 厚生労働省、「職業能力評価基準について」のページから記述を引用。
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/ability_skill/syokunou/index.html

8 厚生労働省、「職業能力評価基準について」のページから記述を引用。
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/jinzaikaihatsu/ability_skill/syokunou/index.html

もともと、それぞれの基準策定の考え方が異なること、各省庁の利害関係の対立が予想されることなどの理由により、実現可能性は大変低いように思われる。

記憶に新しいところであるが、民主党政権時代の 2010 年、政府の新成長戦略の雇用戦略として「キャリア段位制度」が打ち出され、検討されたことがあった。当時、リーマンショックの影響もあり、国内就業率を高め、フリーター等の就労支援強化策の必要性が高まっていた時代である。実際、「介護プロフェッショナル」、「カーボンマネジャー」、「食の 6 次産業化プロデューサー」という三つの職種が新たに定義され、それぞれのキャリア段位の評価基準などが策定された。しかし、政権交代があったこと、生産年齢人口の減少による労働市場の売り手市場化などの波にのまれ、現在でも機能しているのは「介護プロフェッショナル」認定制度のみである。スタートした時点では、成長戦略という分野横断的な概念だったものが、いつの間にか、一部の限定された労働市場にのみ適用されるものに変異してしまった感が強い。

なぜ、そのようになってしまったか？　そもそも、全産業に適用できる評価基準・測定基準はどのように位置づけるべきものかについての議論が浅く、その部分でコンセンサスや情報共有が図られていないと、どうしても枝葉末節な方向へ議論が発散してしまうといえるのではないだろうか。労働市場がグローバル化している現在、そもそも NQF は国際的な人材の移動可能性を高める目的でスタートしていることを熟慮し、その原点に返ったところからスタートして枠組を作成し、その後、その枠組に合った個別の業種・職種の能力評価基準が策定するというアプローチをとるべきではないか。その意味で、本事業において作成した LD を頂点にしたさまざまな試みがなされるべきであると考える。

当機構では、今後、LD の普及・促進を図るため、LD の枠組に沿って、人材評価系の情報を共有する仕組みの構築を進めていきたい。具体的には、企業や学校が所属する人材をアピールする機会において、常に LD を参照する仕組みの構築を図っていきたい。企業であれば、「当社にはこれだけ優れた人材がいる、だから品質の高い製品やサービスを提供できる」ことをアピールする局面が数多く存在する。学校であれば、「卒業生の中にこういう優れた人材がいる。それは本校のこのような教育の賜物である」、実質そのようなことをアピールする Web ページがいくらでもある。これらを高校生や大学生、専門学校生、その保護者といったステークホルダーから見たとき、「優れている」「優秀である」「いい人である」とポジティブな言葉を投げかけられても、その基準が信頼できるのか、そもそもその基準は何なのか、といった疑問を感じざるを得ない。LD は、その「基準」を提供する物差しとして機能できる。最初は、その物差しの適用結果を疑問視する事例の発生も予想されるが、繰り返し試みることにより、LD の有用性が高まり、必然的にそこに関心が集まり、より具体的なレベルでの普及につながることを期待している。

資料

資料１　資格枠組のレベル定義（レベルディスクリプター）

●和文

別添A

資格枠組のレベル定義（レベルディスクリプター）

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	汎用的な技能	職務上の技能 専門実践技能	職務上の技能 対人技能*1	職務上の技能 分析技能*2	管理・指導技能	自律性と責任感	倫理観とプロ意識
8	● 学習者は、学問分野や専門的実務分野の最前線にある最先端の知見について、批判的理解を示す。 ● 新しく独創的な知見／実務につながる高度な研究を、主体的に実施・管理・統率する。 ● 論文、特許、製品、新規の高度な専門的実務、先進技術、創造的モデル、芸術作品や音楽などの形で研究成果を産み出す。 ● 専門分野の観点、主張、アイディアを、知識と自信をもって提示し、正しいと証明する能力を発揮する。	● 学問分野または専門的実務分野の最先端で、課題となっている問題について、包括的、体系的、統合的で、新しく複雑な抽象的アイディアを実証する。 ● 分野横断的な観点・知識・理解を持つ。	● 学問分野や専門的実務分野の最先端にある新しく複雑な抽象概念や課題を、批判的に分析・評価して、総合的に対応する。また、既存の概念や実務の高度化を図る。 ● 高度な研究手法・解析手法・技法を独力で用いて、現代の複雑で抽象的な新しい問題や課題を解決し、学問分野や実務分野の新しい知見、理論、解決策、実践方法を産み出す。 ● ピアレビューや国際基準を満たす独創性の高い研究により、新しい知見、理論、解決策、実践方法を産み出す。	● 実用的・技術的な技法／実践方法や科学的技法を使いこなす高度な能力を発揮する。このような能力は、複数の分野の最先端において、複雑で最新の問題を解決するための技法、技術や解決策を開発するものである。 ● 複数の分野で、高度で専門的な研究方法論を設計／実施／改良する能力を発揮する。	● 同業者、研究者コミュニティや一般社会に対して、当該分野の研究成果を効果的に伝える。 ● 学習の場や職場の人々、民族や職業が異なるグループ・ネットワークに所属する多様な人々に対応する。 ● 専門分野の情報、知見、アイディア、課題やその解決法について、同業者、研究者コミュニティや一般社会に説得力をもって理路整然と伝える。	● 研究・実務活動の質を高めるために、既存の手法／方法論を利用／選択／改善する、あるいは適切な新しい手法／方法論を開発する。 ● 数値データや図表データの批判的評価を行う。	● 新しい知見を産み出し、実務、プロセスや製品の高度化に貢献する研究や資源管理について、主体性、権限をもって取り組む。 ● リーダーシップ、プロ意識、管理能力を発揮し、多様なパートナーと効果的に協力する。 ● 専門職／専門家レベルの新たな問題について、学術的および専門職の観点から、社会的、文化的進歩に貢献する。	● 自分自身の仕事について、全面的に責任を負う。必要に応じて、所属する組織の運営管理全般にも説明責任を負う。 ● 生涯学習に対する知見と、新しいアイディア、解決策、システムの開発・融合を図る。 ● ベンチャー事業およびプロジェクトを起こしたり、そのリーダーになったりする。	● 法律上、職業上の行動規範や、倫理的に健全な行動規範を遵守する。 ● 倫理上、職業上の新たな課題を見いだし、その複雑さや、専門分野における研究の進展や社会全体への影響を明らかにする。 ● 社会的、技術的、経済的発展に専門的立場から貢献する。
7	● 学習者は、学習／研究／専門的実務を進めることにより、高度な理論的知識、批判的思考、創造能力や革新能力に関する理解を基礎として、学問／実務の特定分野における高度な知識を習得する。また、課題に対して、新しい解決策を産み出す。 ● 世界でも、知識と能力を生かして、自信をもって行動する。	● 学問分野または実務分野において、分析的・批判的評価を行い、複雑な情報や専門的な概念・理論・手法・実務をまとめ上げるために、独創性と主体性を発揮する。	● 高度な技術、手法、技能を活用して、新しいアイディア／画期的な実践法を産み出すためのアプローチを幅広く、総合的に行い、知識を批判的・統合的に応用し、学問／実務分野における複雑な課題に対処し解決する。	● 標準の専門的研究手法／アプローチによって、最先端の知識や学問分野の最新動向から得られる実務技能・手法、研究手法を応用する。 ● 学問分野または実務分野の複雑な問題や課題に対処し解決する能力を発揮する。 ● 最低一つの外国語を使い、仕事や高度な学習を行う能力を発揮する。	● 同業者、専門家、素人に対して、最低一つの国際言語で、適切な方法を用いて、知識、技能、アイディア、評論、格論／論拠を明確に伝える。 ● 学習の場や職場の多様な人々や、民族や職業が異なるグループ・ネットワークと協力しながら仕事ができる。	● 研究・実務活動の質を高めるために、適切なディジタル技術やソフトウェアを幅広く効果的に利用する。 ● 新しい解決策／課題に取り組むために、アプリケーションやシステムを調整する。情報・メディア・技術のアプリケーションを幅広く利用して、学習／研究／実務を支援する。 ● 数学的手法や他の定量的・定性的手法を活用して、学習／仕事の数値データや図表データを分析・評価するなど、評価業務を設計・立案する能力を発揮する。	● 職場やクラスで、かなりの自主性、主体性、リーダーシップ、対人技能を発揮する。 ● 複雑かつ予測がつかない状況下で、自分のチーム内の作業や他チームとの協働作業の企画、資源管理、監督、問題解決、作業管理に相当の責任を持つ。	● 研究者や職業人として成長を続けることにより自己の向上を図る。 ● ベンチャー事業あるいはプロジェクトを起こしたり、そのリーダーになったりする。	● 法律上、倫理上、職業上の行動規範を遵守する。 ● 批判的洞察や倫理的配慮に基づき、複雑な問題について助言や決定を行う自信を示す。 ● 国や世界の社会的、技術的、経済的発展のために、専門的立場で貢献する。 ● 市民社会や世界が抱えるさまざまな問題に、自分の専門分野で取り組む能力を発揮する。

レベル	学習者 プロフィール	知識と理解	汎用的な技能	職務上の技能				自律性と 責任感	倫理観と プロ意識
				専門実践技能	対人技能*1	分析技能*2	管理・指導技能		
6	● 学習者は、専門分野での研究開発、創造性や革新が欠かせない準専門職の仕事に求められる、広範囲で体系的な知識と能力を理解する。 ● 専門職業人としての姿勢・心構えと柔軟な対応力を持ち、倫理観ある職場文化や持続可能性に向けて取り組み、日本の国家目標に沿いながら国際社会の一員としての認識を持つ。	● 理論や技術について、高度で総合的な知識を言葉で説明し、関連する専門分野の能力、または学習／研究／仕事／実務分野に関わる学際的な能力を発揮する。	● 学習／研究／仕事／実務の分野で、批評的・分析的能力や評価能力を用いて、当該分野の知識の活用において知的主体性を発揮する。 ● 複雑な用途を管理、解明し、創造的で画期的な解決策を用いて、予測できない問題に対処する。 ● 学習／研究／仕事／実務の分野で、技能／知識をさまざまなｱﾌﾟﾛｰﾁに応用する。	● 広範囲にわたる複雑な問題の解決に、基本的な方法や手法を幅広く応用する。 ● 専門分野に関する実務や手法の見直し、調整、監督を行う。	● 多様な他者に対して、アイディアや考えを、文書および口頭で、適切な表現方法を用いて、自信をもって正確に理路整然と伝える。 ● 学習や仕事などの多様なコミュニティの人々や、地域や国が異なる多様な人々と協力する。	● 多様なITツールやメディア、アプリケーションを幅広く使用し、学習／仕事を支援する。 ● 数値データや図表データ／視覚データを組み合わせて学習／仕事に使う。	● 多様な組織的枠組みや制約の下で、自主的に仕事をし、各種業務管理でリーダーシップとプロ意識を発揮する。 ● 自分や他者の業務について、相当レベルの責任を負う。 ● 事前に定めた目標や成果に向けて仕事をすることで、意思決定能力とプロ意識を発揮する。	● 選んだプロジェクトの中で企業家としての能力を発揮する。 ● 自ら定めた方向で、生涯学習や職業の実現に向けて取り組む。 ● 地域／国／世界の社会政治・経済・文化的に幅広い課題について認識を示す。 ● 専門分野で、説明責任を果たす。	● 社会的・職業上の多様な環境や実務の中で、倫理観を遵守し、倫理上の課題を明らかにし、倫理観を持って決定し、専門職業人として行動をする能力を発揮する。 ● 地元や世界が抱える科学、技術、ビジネス、社会、環境の課題について、深い認識と知識を示す。
5	● 学習者は、相当量の理論的・専門的知識を持ち、職場で複雑な状況に対処することができ、組織や職業で求められることを理解し、それに従うことができる。 ● 学習者は、倫理的にも、地域社会や世界で働いたり生活したりする場合にも、持続可能な方法を用いる能力を持つ。	● 高度な専門知識が求められる分野で、予測不可能な多様な任務／仕事／学習に取り組むために、理論、概念、技術について広範囲の知識と理解を有する。	● 一つの専門分野または仕事において、専門的・概念的・理論的知識を詳細に認識し、解釈、応用、分析、評価する。 ● 曖昧で複雑な定型的・非定型的な状況や、予測できない状況でも、限られた範囲のアプローチや自主性をもって、問題や課題を解決する。	● 実務能力を幅広く活用して、多様な学習や複雑な任務について、必須の方法論や手法を用いる。 ● 関連した実施方法やプロセスの見直しや調整を行い、他の人たちを監督する。	● 社会的、学術的、職業上の目的で、多様な聞き手に情報、アイディア、問題、解決策を伝えるために、分かりやすい方法で、説得力を持ち、効果的にコミュニケーションを取ったり交流したりする。 ● 最低二つの言語で、高い会話力や文書作成力を示す。	● 多様なITツールやメディア、アプリケーションを幅広く利用して、学習／仕事を支援する。 ● 複雑で定型的、非定型的な数値データや図表データ／視覚データを解釈して使用する。	● 相当な自主性をもって、かなり個人責任を負いながら仕事をする。 ● 職場で、資源の割り当てや他者の成績に関わる判断について、単独で経営的決断を下す。 ● 責任を取ったり、説明責任を負ったりする能力を示す。 ● 業務分野が明確でない場合を含め、新しい環境で、ﾁｰﾑ・ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟを発揮する。	● 関連する特定の状況で、企業家的な能力を発揮する。 ● 自ら方向を定めた生涯学習に効果的に取り組み、専門的な共同制作や研究に自主的に参加する。 ● 地域や世界で、複数の言語が飛び交う多民族・多文化の状況下で、仕事や学習を行う能力を発揮する。	● 社会的責任を果たす能力を発揮する。専門職業人に相応しい倫理的慣行や持続可能な慣行に従う能力を示す。 ● 地域や世界で、持続可能な社会をつくるために貢献する。
4	● 学習者は、一般理論・原理について幅広い知識を獲得し、特定分野の学習／訓練の能力を発揮する。それにより、技術職・専門職・経営職の分野のｷｬﾘｱにつながる専門的な仕事を行うことができる。 ● 学習者は、進学への関心を示す。 ● 学習者は、倫理観ある適切な行動を取ろうと努力し、世界の中の日本という視点で、日本の目標への理解を示す。	● 当該分野の学習／訓練の中で、複雑で定型的／非定型的な任務／学習を行うための複雑な理論的知識・能力について、広範囲にわたり体系的に把握・理解する。	● 学習／仕事の内容が明確になっている場合、最低限の監督を受けて、一般概念／理論／運用原理を認識・解釈・適用・評価する。 ● 明確でありふれた問題や、日常的に見られない性質の問題を解決する。	● 実務能力、技法、手法を限られた範囲で応用し、求められた任務／仕事を行う。 ● 定型的または非定型的な任務に関する実務やプロセスについて、必要に応じて検討と修正を行う。	● 他の学生や専門家、素人などに対して、アイディア、情報、問題、解決策を、口頭でも文書でも明確に伝える。 ● 単独、またはチームメンバーの一員として、管理者や同僚、部下と効果的に交流する。 ● 日本語のほかに最低一つの言語で、能力を発揮する。	● 学習／仕事を支援したり、仕事や学習に関するデータを調べて処理するために、多様なデジタルツールを利用する。 ● 所定の複雑な数値データや図表データ／画像データを解釈し活用する能力を発揮する。	● さまざまな状況で実施される明確で非定型的な学習／任務について、幅広い助言や指導を受けて、かなりの責任感と自主性をもって仕事をする。 ● 職場で各種チームの統率と管理を行い、問題に対処する。	● 企業家的な活動について調べたり参加したりする。 ● 進学の可能性や自己研鑽の取り組み方を明確にする。キャリアや職業について現実的な目標を立てる。 ● 地元・地域社会づくりにつながる専門的活動や市民活動に関心を示し、参加する。	● 仕事において、組織の倫理や職業倫理を理解し、従う能力を示す。地域社会や世界で働いたり生活したりする場合、持続可能な方法を適切に用いる能力を示す。

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	汎用的な技能	職務上の技能				自律性と責任感	倫理観とプロ意識
				専門実践技能	対人技能*1	分析技能*2	管理・指導技能		
3	● 学習者は、中級レベルの事実や原理原則について、基本的、理論的かつ専門的な知識を獲得する。必要に応じて、仕事に関するバランスの取れた能力を発揮する。 ● 学習者の興味や仕事に関連する学習や訓練に興味を示す。 ● 年齢相応に地域社会に参加し、世界の問題に対して年齢相応の認識を持つ。 ● 英語など、日本語以外の一つの言語で、初級の言語能力を獲得する。	● ある学習や訓練についてかなりの知識を持つ中で、基本的な原理原則、理論、技能を言葉で説明し、明確な各種の定型的任務/仕事に取り組む。	● 知識や、よく知っている手法、スキルを活用して、定型的任務／学習の予測できる問題を解決する。	● 教師の監督の下で、情報、適切な手法やツール、技術、材料を使って、定型的・非定型的な任務／問題への取り組み／解決策を組織・運用し、完了させる。	● 他の学生、専門家、素人に対して、単独で、あるいはチームで、口頭または文書によって、アイディア、情報、問題、解決策を効果的かつ明確に伝える。 ● 日本語以外に最低一つの国際語の初歩的能力を養成する。	● 学習／仕事を支援する基礎的なITアプリケーションを利用して、学習／仕事に関連するデータを調査、処理する。 ● よく知っていて分かりやすい数値データや図表データを解釈し、活用する。	● 最低限の指導監督で、かなり自主的に仕事をする能力を示す。 ● 学習／仕事の枠内で、相手に助言を与える。 ● 成果の質と影響についてかなりの責任を負う。 ● 学習／仕事／任務の成果や成績について、よく考え、責任を負う	● 最低限の指導監督下で、学習による自己研鑽やトレーニングを積んだり、進学を希望したりする。 ● 日本および近隣諸国について、認識と一般的知識を持つ。 ● 企業家に求められる知識や能力について、基礎的な理解を示す。	● 多文化環境の中で行う学習／任務で、職業倫理に従うことができる。 ● 地域社会や世界に役立つ事柄（環境問題など）について、地域社会と積極的に関わる。
2	● 学習者は、一定の環境で責任感と倫理観のある職業人として仕事を行うための知識と技能を獲得する。 ● 進学や、積極的に生涯学習に取り組むことに関心を示す。 ● 地域社会に参加する技能を高める。 ● 英語など、一つの外国語の基礎的能力を高める。	● 学習のため、あるいは各種の定型・非定型の任務／仕事に取り組むために、複数の主題／分野の知識を言葉で説明する能力を身に付ける。	● 知識と技能を、明確な定型的学習／任務に活用する。 ● 明確な定型的学習／任務において、よく知っている解決法を応用して予測できる問題を解く。	● 一般的な基本手法、材料を用いて、指導を受けて、明確な任務を計画し、完成させる能力を発揮する。	● よく知っている日常的な事柄について、単純で直接的な情報のやりとりが必要な限られた状況で、コミュニケーションをとる。 ● 日本語以外の言語一つの基礎的能力を高める。 ● 進学準備に責任を持ち、準備に取り掛かる。	● 教師の監督の下で、所定の任務を行うために、十分な、限られた基礎的なアプリケーションやITツールを利用して、簡単なデータを処理する。 ● 少量の単純でよくある数値データや図表データを解釈する。	● 体系化された活動において、監督の下で、ほとんど自主性なく、相当な支援を受けて、作業や仕事をする。 ● 責任や説明義務をほとんど負わずに、チームで作業し、意見交換や相手へのフィードバックを行う。	● 教師の指導を受けて、学習に一定の責任を担い始める。 ● 任務や個人の行為・価値観について考える力を発揮する。	● 一定の個人の価値観を学習／任務の中で生かす能力を示す。 ● 自分以外の文化や価値体系に触れ続けることで、文化的多様性への理解を深める。 ● 政治意識や社会意識を高める。
1	● 学習者は、最低レベルの基礎的な一般知識・技能を獲得し、指導の下で、基本的かつ極めて定型的な任務を行い、さらに学習を進め、責任感と倫理観ある職業人になるための準備をする。 ● 地域社会や、地方・国の制度について認識し、自分以外の世界に好奇心を持つ。	● 分野や対象の狭い範囲内で、単純で基本的な知識と技能を言葉で説明し、非常に定型的で予測できる任務および学習を行う。	● 定型的で明確で予測できる任務において、指導を受けて、基礎的な知識を活用する。 ● 成果や成績について、考え、改善する力を発揮する。	● 明確な任務について、各種の一般的な基本手法や材料を使う初歩的な技能を発揮する。	● 限られた状況の下で、馴染みある日常的な表現や簡単な言葉を伝える。	● 基礎的な数学的手法（記号など）を利用する力を示す。 ● 教師の指導の下で、与えられた任務を行うのに十分な、いくつかの簡単な／基本的アプリケーションを利用する。	● 直接指導の下、支援を受けて、構成された活動／任務に取り組む。 ● 単独またはチームで作業や仕事をする力を発揮する。	● 教師の働きかけと指導の下で、学習に一定の責任を担い始める。 ● 教師の指導の下で取り掛かった／行われた任務について、検討・反省する力を発揮する。 ● 学習や任務の中で、生かせる個人の価値観を明確にする能力を示す。	● 社会の責任あるメンバーとなり、自分以外の文化に対する配慮を示す。

*1コミュニケーション技能等についても記述する。*2ディジタル・数的技能等についても記述する。

各レベルの目安

レベル8：専修学校（2）卒業後15～20年程度経過（35～40歳）、博士
レベル7：専修学校（2）卒業後10～15年程度経過（30～35歳）、修士、修士[専門職]
レベル6：専修学校（2）卒業後5～10年程度経過（25～30歳）、高度専門士、学士、学士[専門職]
レベル5：専修学校（2）卒業後2～5年程度経過（22～25歳）、専門士、短期大学士、短期大学士[専門職]、準学士
レベル4：専修学校（2）卒業後0～2年程度経過（20～22歳）、専門士、短期大学士、短期大学士[専門職]、準学士
レベル3：高等学校卒業（18歳）、専修学校（1）
レベル2：中学校卒業（15歳）
レベル1：小学校卒業（12歳）

Appendix A

Qualifications Framework Level Definitions (Level Descriptors)

LEVEL	Learner Profile	Knowledge and Understanding	Versatile Skills	Work Skills				Autonomy and Responsibilities	Ethics and Professionalism
				Technical and Practical Skills	Interpersonal Skills*1	Analytical Skills*2	Management and Leadership Skills		
8	• Learners will demonstrate a critical understanding of the most advanced knowledge at the frontier of their fields of study/professional practice. • Independently conduct, manage and lead advanced research that contributes to new and original knowledge and/or practices. • Produce research outputs in the form of theses, patents, products, new advanced professional practices, advanced technologies, creative models, works of art or music. • Demonstrate with confidence and knowledge the ability to present and defend points of view, theses and ideas in their fields of specialization.	• Demonstrate comprehensive, systematic, integrated, new, complex and abstract ideas relevant to current issues at the frontier of their fields of study/professional practice. • Adopt interdisciplinary perspectives, knowledge and understanding.	• Critically analyze, evaluate and synthesize new, complex and abstract concepts and issues at the frontier of their fields of study/ professional practice, and refine existing concepts and practices. • Solve complex, abstract and emerging issues and challenges by independently applying advanced research and analytical methods and skills to creatively generate new knowledge, theories, novel solutions and/or new practices in their fields of study/ practice. • Create new knowledge, theories, solutions and practices through highly original research that satisfies peer reviews and international standards.	• Demonstrate a mastery of practical and technical skills/ practices as well as scientific skills, which are, in turn, used to develop new skills, techniques or solutions to resolve highly complex problems emerging at the forefront of multiple fields. • Demonstrate the ability to design, implement and/or improve highly advanced, specialized research methodologies in multiple fields.	• Effectively communicate research findings in their fields of expertise to peers, scholarly communities and society at large. • Work to deal with diverse people in learning and working communities as well as in ethnically and professionally different groups and networks. • Convey cogently and coherently information, insights, ideas, problems and solutions relevant to their fields of specialization to peers, scholarly communities and society at large.	• Use, select and improve existing methods and methodologies or develop new appropriate ones to enhance the quality of research and practical activities. • Critically evaluate numerical and graphical data.	• Work with autonomy, independence and authority in research and resource management, and contribute to the creation of new knowledge and advancement of practices, processes and products. • Demonstrate leadership, professionalism and management skills, and cooperate effectively with various partners. • From academic and professional perspectives, contribute to social and cultural progress in dealing with emerging issues at the professional/expert level.	• Assume full responsibility for their own work, and where relevant, be accountable for overall management of their organizations. • Integrate knowledge for lifelong learning with newly developed ideas, solutions and systems. • Initiate and lead entrepreneurial ventures and projects.	• Adhere to legal, professional and ethically sound codes of practice. • Identify emerging ethical and professional issues, and disclose their complexities and implications to advance research in their fields of specialization and society at large. • Contribute professionally to social, technological and economic development.
7	• Based on strong theoretical knowledge, critical thinking, and an understanding of creative and innovative skills,	• Demonstrate originality and independence in undertaking analytical and critical evaluations and synthesizing complex	• Use advanced technologies, methods and skills to adopt a wide range of comprehensive approaches to create new ideas or	• Through standard, specialized research methods and approaches, apply the practical skills, methods or research techniques learned	• Use appropriate methods to clearly communicate knowledge, skills, ideas, critiques, conclusions and rationales to peers,	• Competently use a wide range of suitable digital technologies and appropriate software to enhance the quality of study/ practice.	• Demonstrate significant autonomy, independence, leadership and interpersonal skills at work and in class. • In complex and	• Show self-advancement through continuous academic and/or professional development. • Initiate and/or lead entrepreneurial	• Adhere to legal, ethical and professional codes of practice. • Demonstrate confidence when giving advice and

	learners will acquire knowledge in specific fields of study/ practice through continuous learning, research and/or professional practice, and be able to generate new solutions to problems. • Act with confidence in the international arena backed by knowledge and skills.	information, specialized concepts, theories, methods and practices in their fields of study/practice.	revolutionary practices, apply knowledge critically and comprehensively, and manage and solve complex problems or issues in their fields of study/practice.	from the most advanced knowledge and the latest developments in their fields of study. • Demonstrate the ability to solve and manage complex problems or issues in their fields of study/ practice. • Demonstrate the competence to work and undertake advanced study in one or more foreign languages.	experts, and non-experts in one or more global languages. • Work together and collaboratively with diverse people in learning and working communities as well as in ethnically and professionally different groups and networks.	• Adapt applications and systems to deal with new solutions and problems, and use a wide range of information, media and technological applications to support study/ research/practice. • Demonstrate the ability to design evaluation operation plans by applying mathematical and other quantitative or qualitative methods to analyze and evaluate numerical and graphical data for study/work.	unpredictable situations, assume substantial responsibility in planning, resource management, supervision, problem solving and work management in their own teams or in collaboration with other teams.	ventures and projects.	making decisions on complex issues based on critical insights and ethical considerations. • Contribute professionally to social, technological and economic development both nationally and internationally. • Demonstrate the ability to engage meaningfully in a range of civic and global issues in their fields of specialization.
6	• Learners will demonstrate comprehension of a broad-based and coherent body of knowledge and skills for paraprofessional work that requires research and development, creativity and innovation in their fields of specialization. • Demonstrate professionalism, resilience and a commitment to an ethical work culture and sustainability; and show an awareness of being a global citizen in alignment with Japan's national aspirations.	• Describe in words advanced and comprehensive, theoretical and technical knowledge, and demonstrate relevant skills in their fields of specialization, or those of a multidisciplinary nature related to their fields of study/work/ practice.	• Demonstrate intellectual independence in applying knowledge in their fields of study/work/practice by applying critical, analytical and evaluation skills. • Manage and resolve complex applications and handle unpredictable issues with creative and innovative solutions. • Apply skills and knowledge to a range of approaches in their fields of study/work/ practice.	• Apply broad-based basic methods and procedures to solve a wide range of complex problems. • Review, adjust and supervise practices and processes in their fields of specialization.	• With confidence, accuracy and coherence, convey ideas and thoughts to diverse audiences in appropriate written and oral forms of presentation. • Work together with different people in various learning and working communities as well as with diverse people from different regions or countries.	• Use a broad range of information technology tools, media and applications to support study/work. • Combine and use numerical and graphical/visual data for study/work.	• Within various organization parameters, work autonomously and display leadership and professionalism in work management. • Undertake a significant level of responsibility for their own and others' work. • Demonstrate decision-making abilities and professionalism by working towards pre-determined goals and outcomes.	• Demonstrate entrepreneurial competency in selected projects. • Pursue self-directed lifelong learning and professional pathways. • Demonstrate an awareness of a broad range of socio-political, economic and cultural issues at local, national and international levels. • Fulfill accountability in their fields of specialization.	• Demonstrate the ability to adhere to moral values, identify ethical issues, make decisions in an ethical manner, and act professionally in socially and professionally diverse environments and practices. • Demonstrate a deep awareness and knowledge of local and global science, technology, business, social and environmental issues.
5	• Learners will have a significant amount of theoretical and technical knowledge,	• Demonstrate a wide range of theoretical, conceptual and technical knowledge	• Identify, interpret, apply, analyze and evaluate detailed technical, conceptual	• Use a wide range of practical skills in applying essential methods and	• For social, academic and professional purposes, communicate and	• Use a range of information technology tools, media and	• Work with a substantial degree of autonomy and a significant level of	• Demonstrate entrepreneurial skills in relevant specific situations.	• Demonstrate the ability to fulfill social responsibilities and to follow professional,

	and be able to deal with complex situations at work and understand and meet organizational and professional demands. • Learners will demonstrate the ability to apply sustainable practices in an ethical manner in living and working in local and/or international communities.	and comprehension to deal with varied and unpredictable tasks/ work/study in fields that require advanced specialized knowledge.	and theoretical knowledge in their fields of specialization or at work. • Solve problems and issues independently in broadly defined, complex, routine and non-routine contexts or under unpredictable circumstances, with a limited scope of approaches and autonomy.	procedures to complete a variety of studies and complex tasks. • Review and adjust relevant practices and processes and supervise other people.	interact with others effectively and cogently in a comprehensible manner to convey information, ideas, problems and solutions to diverse audiences. • Display a high level of oral and written proficiencies in two or more languages.	applications to support study and/or work. • Interpret and apply routine and non-routine, complex numerical and graphical/visual data.	responsibility. • Make management decisions independently on resource allocation and the performance of others in the workplace. • Demonstrate the ability to take responsibility and accept accountability. • Demonstrate team leadership in new environments, including when the area of work is not well-defined.	• Engage effectively in self-directed lifelong learning and participate independently in professional collaborations. • Demonstrate competencies working or studying in local and/or global multicultural, multilingual and multiethnic communities.	ethical and sustainable practices. • Contribute to the development of sustainable local and global communities.
4	• Learners will have broad-based knowledge of general theories and principles, and demonstrate skills for study/discipline in specific fields, enabling them to undertake specialized work leading to a career path in technical, professional or management fields. • Learners will express interest in pursuing further education. • Learners will be committed to appropriate ethical behaviors and appreciate Japan's national aspirations from a global perspective.	• Understand systematically a broad range of complex technical and theoretical knowledge and skills to undertake complex, routine and non-routine tasks/study in relevant fields of study/discipline.	• Identify, interpret, apply and evaluate general concepts, theory and/or operational principles with minimal supervision when the content of study/work is well-defined. • Solve well-defined common problems as well as irregular ones.	• Apply practical skills, techniques and methods to a limited extent to meet the demands of tasks/ work. • Consider and adjust, as necessary, the practices and processes to complete routine or non-routine tasks.	• Communicate clearly, in oral and written form, ideas, information, problems and solutions to others including peers, experts and non-experts. • Individually or as a team member, interact effectively with supervisors, peers and subordinates. • Demonstrate proficiency in one or more languages besides Japanese.	• Use a wide range of digital tools to support study/work as well as examine and process data relevant to work or study. • Demonstrate skills to use and interpret given, complex numerical and graphical/visual data.	• Perform work with a significant degree of responsibility and autonomy under broad-based guidance and direction on well-defined, non-routine study/tasks performed in a variety of contexts. • Lead and manage a variety of teams to handle issues at work.	• Explore and engage in entrepreneurial activities. • Identify self-improvement initiatives and possibilities for further education, and develop realistic career and professional goals. • Show interest and participate in professional and civic activities leading to local and region-wide community building.	• Demonstrate the ability to understand and comply with organizational and professional ethics at work. • Demonstrate the ability to apply sustainable practices in living and working in local and global communities.
3	• Learners will have fundamental, theoretical and technical knowledge of facts and principles at an intermediate level, and	• With a significant range of knowledge about a field of study or discipline, describe in words the basic principles, theories and skills to take on a	• Apply knowledge, familiar methods and skills to solve predictable problems in routine tasks/study.	• Use appropriate methods, tools, technologies and materials to organize, operate and complete efforts and solutions to deal with routine	• Individually or as a team, communicate effectively and clearly, in oral and written form, ideas, information, problems and solutions to peers,	• Use basic information technology applications to support study/work to look at and process data relevant to their study/work.	• Demonstrate the ability to work with considerable autonomy and minimal supervision. • Provide guidance to others in the context	• With minimal guidance, initiate self-improvement through study or training and seek further education. • Display an awareness	• Demonstrate the ability to comply with work ethics in performing study/tasks in diversified, multicultural

	demonstrate well-balanced working skills as required. • Show an interest in study/disciplines pertaining to their own interest or work. • Engage in an age-appropriate manner with local communities and display an awareness of global issues. • Acquire an elementary level of proficiency in a language other than Japanese (e.g. English).	variety of well-defined, routine tasks/ work.		and non-routine tasks/ problems under a teacher's supervision.	experts and non-experts. • Develop an elementary level of proficiency in one or more global languages besides Japanese.	• Interpret and use familiar and comprehensible numerical and graphical data.	of study/work. • Undertake considerable responsibility for the quality and impact of outputs. • Consider the outcomes and performance of study/ work/tasks and assume responsibility for them.	and general knowledge of Japan and its neighboring countries. • Demonstrate a basic understanding of the knowledge and skills required for entrepreneurs.	environments. • Pursue active engagement with local civic societies on matters of interest to local and global communities (e.g. environmental issues).
2	• Learners will acquire knowledge and skills to carry out work as responsible and ethical professionals in a certain environment. • Demonstrate interest in undertaking further studies and in making a commitment to lifelong learning. • Develop skills to engage with local communities. • Develop a basic level of proficiency in a foreign language (e.g. English).	• Demonstrate the ability to describe in words the knowledge of subjects/disciplines for study and take on a variety of routine and non-routine tasks/ work.	• Apply knowledge and skills to well-defined routine study/tasks. • Apply familiar solutions to solve predictable problems in well-defined routine study/tasks.	• Demonstrate the ability to plan and complete well-defined tasks using common basic methods and materials.	• Communicate with others in a limited range of contexts requiring simple and direct exchanges of information on familiar and routine matters. • Develop a basic level of proficiency in a language other than Japanese. • Assume responsibility and initiate preparatory studies for further education.	• Under a teacher's supervision, use a limited range of basic applications and information technology tools adequate to perform a given set of tasks to process simple data. • Interpret a small amount of simple and familiar numerical and graphical data.	• Work under supervision in structured activities with almost no autonomy or substantial support. • Work in a team and exchange views and feedback with others, assuming almost no responsibility and accountability.	• With a teacher's guidance, assume a degree of responsibility for learning. • Demonstrate the ability to consider tasks and personal actions and values.	• Demonstrate the ability to make good use of personal values in learning or carrying out tasks. • Deepen the understanding of cultural diversity by continued exposure to different cultures and value systems. • Develop political and social awareness.
1	• Learners will have basic, foundational or general knowledge and skills. • Learners will perform basic and highly routine tasks with guidance and prepare for further learning and for becoming responsible ethical professionals. • Develop an awareness	• Describe simple and basic knowledge and skills in a limited scope of fields/ subjects to undertake highly routine and predictable tasks/ study.	• With guidance, apply basic knowledge to well-defined, routine and predictable tasks. • Demonstrate the ability to reflect on and improve performance.	• Demonstrate elementary skills in using a variety of common basic methods and materials for well-defined tasks.	• Use familiar everyday expressions and simple phrases in a limited range of contexts.	• Demonstrate competency in using basic mathematical methods (e.g. symbols). • Under a teacher's guidance, use a few simple and basic applications adequate to perform given tasks.	• Under direct guidance and support, work in structured activities/ tasks. • Demonstrate the ability to work independently or in a team.	• With a teacher's encouragement and guidance, assume a degree of responsibility for learning. • Demonstrate the ability to review and reflect on the tasks undertaken/performed under a teacher's guidance. • Demonstrate the	• Act as a responsible member of society and show sensitivity to cultures other than their own.

	of community, local and national institutions as well as curiosity about the outside world.							ability to identify the personal values applicable to carrying out study/tasks.	

*1 Communication-related and other skills are also included. *2 Digital, numerical and other skills are also included.

Level Criteria

Level 8: 15-20 years after graduating from a specialized training college (2) (at the age of 35-40), Doctoral Degree

Level 7: 10-15 years after graduating from a specialized training college (2) (at the age of 30-35), Master's Degree, Master of xxxx(Professional)

Level 6: 5-10 years after graduating from a specialized training college (2) (at the age of 25-30), Advanced Diploma, Bachelor's Degree, Bachelor's Degree(Professional)

Level 5: 2-5 years after graduating from a specialized training college (2) (at the age of 22-25), Diploma, Associate Degree, Associate Degree(Professional), the title of Associate

Level 4: 0-2 years after graduating from a specialized training college (2) (at the age of 20-22), Diploma, Associate Degree, Associate Degree(Professional), the title of Associate

Level 3: High school graduate (at the age of 18), specialized training college (1)

Level 2: Junior high school graduate (at the age of 15)

Level 1: Elementary school graduate (at the age of 12)

資料２　資格枠組のレベル定義（概要）

●和文

別添B

資格枠組のレベル定義（概要）

レベル	知識	技能*1	責任と自律性*2
8	専門的実務／学問分野において最先端のフロンティア。新しい専門的実務や知見につながる分野横断的な視点・知識・理解	研究や革新の重要な課題を解決し、既存の知識や専門的実務を再定義するために必要な、最も高度な専門的技能	専門的実務や学問の最前線で、新しいアイディア・プロセス開発に対する権威、自律性、学術的・専門的な誠実性および持続的な関与
7	高度に専門化された知識。その内いくつかは、仕事／学習分野における知識の最前線。異なる分野の知識・理解	実務／学問分野における主体的・批判的洞察と分野横断的知識の統合。新しい知識や方法論の研究・開発・革新に必要な問題解決技能	複雑で予測不可能な課題に対する革新的な取組が求められる仕事や学習の管理。専門的な知識・実践と管理への貢献・評価
6	理論や原理の批判的思考を含む、仕事／学習分野に関する高度な知識・理解	仕事／学習分野で、複雑で予測不可能な課題の解決のために必要な熟練と革新を実証する高度な技能	技術的・専門的活動を管理し、予測不可能な仕事や学習の場面で意思決定を行う責任。個人や団体の専門的な開発を管理する責任
5	仕事／学習分野における総合的、専門的、事実的、理論的な知識と、その知識の批判的認識	抽象的な問題を創造的に解決するために必要な包括的な認知科学技術と実践的技能	予期せぬ変化がある仕事／学習活動の主体的管理と監督。自己と他者の業績の点検・開発
4	仕事／学習分野における幅広い文脈の中で事実と理論の知識	仕事／学習分野における特定の問題の解決策を産み出すために必要な一連の認知・実践技能	通常は予測可能であるが変化する可能性のある仕事や学習の文脈の中での自己管理。他者の日常業務を監督し、仕事／学習活動の評価・改善
3	仕事／学習分野における事実、原則、プロセス、一般概念の知識	基本的な方法、手法、材料、情報の選択・利用によって、任務を達成し問題解決に必要な認知・実践技能	仕事や学習の完了に対する責任。問題を解決する際の状況に対する自己の行動の適応
2	仕事／学習分野における基本的な知識	簡単な規則と手法を利用した任務の実行。日常的な問題を解決する目的で関連情報の利用に必要な基本的な認知・実践技能	監督下で、ある程度の自律性を持った仕事や学習
1	基本的な一般知識	簡単な任務を実行するために必要な基本技能	直接監督下で、構造化された状況での仕事や学習

*1 汎用的な（認知的）技能および職務上の（実践的）技能を記述
*2 知識と技能を自律的に、責任を持って適用する能力を記述

各レベルの目安

レベル8：専修学校（2）卒業後15～20年程度経過（35～40歳）、博士
レベル7：専修学校（2）卒業後10～15年程度経過（30～35歳）、修士、修士[専門職]
レベル6：専修学校（2）卒業後5～10年程度経過（25～30歳）、高度専門士、学士、学士[専門職]
レベル5：専修学校（2）卒業後2～5年程度経過（22～25歳）、専門士、短期大学士、短期大学士[専門職]、準学士
レベル4：専修学校（2）卒業後0～2年程度経過（20～22歳）、専門士、短期大学士、短期大学士[専門職]、準学士
レベル3：高等学校卒業（18歳）、専修学校（1）
レベル2：中学校卒業（15歳）
レベル1：小学校卒業（12歳）

●英文

Appendix B

Qualifications Framework Level Definitions (Summary)

Level	Knowledge	Skills*1	Responsibilities and Autonomy*2
8	Interdisciplinary perspectives, knowledge and understanding leading to a new professional practice and/or knowledge at the frontier of the learner's field of study/professional practice.	The most advanced professional skills necessary to solve critical issues for research and innovation and to redefine existing knowledge and professional practices.	Authority, autonomy, academic and professional integrity and persistent engagement in developing new ideas and processes at the frontier of the learner's field of study/ professional practice.
7	Highly specialized knowledge, including the most advanced knowledge in the learner's field of work/study; knowledge and understanding in different fields.	A combination of independent and critical insights and interdisciplinary knowledge in the learner's field of practice/study; problem-solving skills necessary to study, develop and innovate new knowledge and methodologies.	Management of work or studies that require an innovative approach to solve complex and unpredictable problems; contributions to, and evaluation of, professional knowledge/practices and management.
6	Advanced knowledge and deep understanding of the learner's field of work/study, including critical thinking of theories and principles.	Advanced skills to demonstrate expertise and innovativeness necessary to solve complex and unpredictable challenges in the learner's field of work/study.	Responsibility to manage technical and professional activities and to make decisions in an unpredictable context of work/study; responsibility to manage professional development of individual and/or groups.
5	Comprehensive, professional, factual and theoretical knowledge in the learner's field of work/study, and critical recognition of such knowledge.	Comprehensive cognitive science techniques and practical skills necessary to solve abstract issues in a creative manner.	Independent management and supervision of work/study activities that involve unpredictable changes; review and development of the learner's and others' performances.
4	Factual and theoretical knowledge in a broad-based context of work/study.	A series of cognitive and practical skills necessary to develop solutions to specific problems in the learner's field of work/study.	Self-management in a context of work/study that is usually predictable but possibly changing; supervision of others' daily work, and evaluating/ improving their work/study activities.
3	Knowledge about facts, principles, processes and general concepts in the learner's field of work/study.	Cognitive and practical skills necessary to complete tasks and solve problems by selecting and using basic methods, approaches, materials and information.	Responsibility to complete work or studies; ability to adapt the learner's own behavior to a specific problem-solving context.
2	Basic knowledge in the learner's field of work/study.	Skill to carry out tasks by adopting simple rules and approaches, and basic cognitive and practical skills necessary to use relevant information to solve daily issues.	A certain level of autonomy to work or study under supervision.
1	Basic general knowledge.	Basic skills necessary to carry out simple tasks.	Ability to work or study in a structured context under direct supervision.

*1 Generic (cognitive) and professional (practical) skills are described.
*2 Abilities to apply knowledge and skills independently and responsibly are described.

Level Criteria
Level 8: 15-20 years after graduating from a specialized training college (2) (at the age of 35-40), Doctoral Degree
Level 7: 10-15 years after graduating from a specialized training college (2) (at the age of 30-35), Master's Degree, Master of xxx (Professional)
Level 6: 5-10 years after graduating from a specialized training college (2) (at the age of 25-30), Advanced Diploma, Bachelor's Degree, Bachelor's Degree (Professional)
Level 5: 2-5 years after graduating from a specialized training college (2) (at the age of 22-25), Diploma, Associate Degree, Associate Degree (Professional), Associate
Level 4: 0-2 years after graduating from a specialized training college (2) (at the age of 20-22), Diploma, Associate Degree, Associate Degree (Professional), Associate
Level 3: High school graduate (at the age of 18), specialized training college (1)
Level 2: Junior high school graduate (at the age of 15)
Level 1: Elementary school graduate (at the age of 12)

資料３　学修成果指標

① 学修成果指標（美容分野－美容師職種）

別添c①

学修成果指標（美容分野　－　美容師職種）

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	技能					責任と自律性	
			汎用的な技能	職務上の技能				自律性と責任感	倫理観とプロ意識
				専門実践技能	対人技能	分析技能	管理・指導技能		
8	✧独創的かつ革新的な美容サービスの研究・創造 ✧付加価値が高い美容サービスの開発・マネジメント ✧美容業界を代表する形での成果の表出 ★レベル8のイメージキーワード 革新、独創、最先端、マネジャー、マネジメント	専門的実務／学問分野において最先端のフロンティア。新しい専門的実務や知見につながる分野横断的な視点・知識・理解 □　ビューティビジネスの連領域と学際的交流を図ることが可能な次の各領域の知識 ・医療 ・福祉・介護 ・IT ・その他関連領域 □　美容分野、美容関連分野におけるオ力な業界団体のリーダーと交流を図るための知識と理解 □　美容サロンの短期、中長期経営計画の立案を図るための知識（経理・会計・法務・マーケティングなど）	研究や革新の重要な課題を解決し、既存の知識や専門的実務を再定義するために必要な、最も高度な専門的技能	研究や革新の重要な課題を解決し、既存の知識や専門的実務を再定義するために必要な、最も高度な専門的技能	研究や革新の重要な課題を解決し、既存の知識や専門的実務を再定義するために必要な、最も高度な専門的技能	研究や革新の重要な課題を解決し、既存の知識や専門的実務を再定義するために必要な、最も高度な専門的技能	研究や革新の重要な課題を解決し、既存の知識や専門的実務を再定義するために必要な、最も高度な専門的技能	専門的実務や学問の最前線で、新しいアイデア・プロセス開発に対する権威、自律性、学術的・専門的な議論および持続的な関与	専門的実務や学問の最前線で、新しいアイデア・プロセス開発に対する権威、自律性、学術的・専門的な議論および持続的な関与 □ 組織的倫理対応のリーダーシップ □ 倫理上、臨床上の新たな課題を見いだし、その複雑さや、美容分野における研究の進展や社会全体への影響の明確化 □ 社会的、技術的、経済的発展に美容師の立場から貢献
7	✧先端的な美容技術、美容サービスを産み出す高度な知識、批判的思考、創造能力 ✧先端的で高度な美容サービスを創造し、そのプロセスを適切に管理 ✧美容サロンで生じる運営上の諸問題の解決 ✧美容学校を卒業後、8～20年が目安。指導や管理能力には経験がリーダーシップが必要だが、創造性が必要な仕事、作品、サービスには若さや柔軟な思考が必要。 ★レベル7のイメージキーワード 管理、創造、先端、高度、アドミニストレーター	高度に専門化された知識。その内いくつかは、仕事／学習分野における知識の最前線。異なる分野の知識・理解 □ ビューティビジネスの原則に必要な次の各領域の知識 ・美容市場動向 ・美容マーケティング ・サービス産業特性 ・ブライダルビジネス ・ヘルスケアビジネス ・コスメティックビジネス ・ファッションビジネス □次の各領域に関する基礎的知識 ・美容サロンの起業・財務・経営計画 ・ブランディング ・顧客視点経営	実務／学問分野における主体的・批判的洞察と分野横断的知識の統合、新しい知識や方法論の研究・開発・革新に必要な問題解決技能 □ 高度な技術、手法、技能を活用して、新しいアイディア／画期的な実践法を産み出すためのアプローチを幅広く、総合的に行い、知識を批判的・統合的に応用し、美容分野における複雑な課題に対処し解決する諸技能（ハイレベルなクリエイティブ思考）	実務／学問分野における主体的・批判的洞察と分野横断的知識の統合、新しい知識や方法論の研究・開発・革新に必要な問題解決技能 □ 美容業界における多様な立場の人々、異業種の人々と円滑な コミュニケーションを行うことができ、その能力を活かして、協力しながら仕事を進めることができるチームビルディングの能力 □自己理解と他者理解を両立させ、部下との適切なコミュニケーションを図る技能	実務／学問分野における主体的・批判的洞察と分野横断的知識の統合、新しい知識や方法論の研究・開発・革新に必要な問題解決技能 □ 美容サロンの運営に関する正確な現状分析とその結果に基づく基本的な評価技能 □ ビジネスを円滑かつ効率的に進めるために必要なPC、スマートフォンの活用技能	実務／学問分野における主体的・批判的洞察と分野横断的知識の統合、新しい知識や方法論の研究・開発・革新に必要な問題解決技能 □職場において、適切なマネジメントに結び付く、自主性、主体性、リーダーシップの発揮 □ 複雑かつ予測が つかない状況下で、自分のチーム内の作業や他チームとの協働作業の企画、資源管理、監督、問題解決、人事・労務・作業管理 □従業員のモチベーションマネジメント	複雑で予測不可能な課題に対する革新的な取組が求められる仕事や学習の管理、専門的な知識・実践と管理への貢献・評価 □ 職業人として成長を続けることにより自己の向上を図る考え方 □ ベンチャー事業あるいはプロジェクトを起こしたり、そのリーダーになったりすること □ ライフワークバランス感覚 □ 自身のモチベーションマネジメント	複雑で予測不可能な課題に対する革新的な取組が求められる仕事や学習の管理、専門的な知識・実践と管理への貢献・評価 □ 組織としての倫理的対応実践 □ 批判的洞察や倫理的配慮に基づき、複雑な問題について助言や決定を行う自信 □ 国や世界の社会的、技術的、経済的発展のために、美容師としての立場で貢献 □ 市民社会や世界が抱えるさまざまな問題に、美容分野で取り組む能力を発揮

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	技能					責任と自律性	
			汎用的な技能	職務上の技能				自律性と責任感	倫理観とプロ意識
				専門実践技能	対人技能	分析技能	管理・指導技能		
6	✧革新的で創造性に富む高度な美容サービスの創出に必要な、広範囲で体系的な知識・技能 ✧美容サロンで生じる広範囲な問題を解決 ✧美容師としての誇りに裏付けられ、優れた指導力を駆使した後進の育成 ✧顧客への提案 ✧美容学校を卒業後、5～15年を想定。スタイリスト歴5～10年程度の経験。 ★レベル6のイメージキーワード 「教える」、トレーナー、インストラクター	**理論や原理の批判的思考を含む、仕事／学習分野に関する高度な知識・理解**	**仕事／学習分野で、複雑で予測不可能な課題の解決のために必要な熟練と革新を実証する高度な技能**	仕事／学習分野で、複雑で予測不可能な課題の解決のために必要な熟練と革新を実証する高度な技能	仕事／学習分野で、複雑で予測不可能な課題の解決のために必要な熟練と革新を実証する高度な技能	仕事／学習分野で、複雑で予測不可能な課題の解決のために必要な熟練と革新を実証する高度な技能	仕事／学習分野で、複雑で予測不可能な課題の解決のために必要な熟練と革新を実証する高度な技能	**技術的・専門的活動を管理し、予測不可能な仕事や学習の場面で意思決定を行う責任。個人や団体の専門的な開発を管理する責任**	技術的・専門的活動を管理し、予測不可能な仕事や学習の場面で意思決定を行う責任。個人や団体の専門的な開発を管理する責任
		□　インストラクション、トレーニング等人材育成に関する次の各手法の知識と理解 ・ティーチングとコーチング ・メンタリング ・カウンセリング □　美容各領域の技術的トレンドに関する知識 □　美容サロン現場の生産性向上に役立つ知識	□美容師としての仕事において、批評的・分析的能力や評価能力を用いて、美容分野の知識の活用において知的主体性を発揮する能力 □美容分野において複雑な用途を管理、解明し、創造的で画期的な解決策を用いて、予測できない問題に対処する能力 □サービスの創出につながるクリエイティブ思考 □広範な諸問題の解決に必要なレベルのロジカルシンキング能力	□革新的で創造性に富む高度な美容サービスの創出 □インストラクション、トレーニング等人材育成に関する次の実践的技能 ・美容師新人研修 ・スタイリスト研修 ・その他幅広い研修	□中間管理職的なコミュニケーションや円滑なミーティングの実施に必要なコミュニケーション技能	□PCやスマートフォンを活用した**効果的で説得力のある**プレゼンテーション技能	□多様な組織的枠組みや制約の下で、自主的に仕事を進め、各種業務管理でリーダーシップを発揮する能力	□自分や他者の業務について、相当レベルの責任感 □美容師としての自覚と誇りを持って後進の育成にあたる責任感 □自身のキャリアパスの明確化（キャリアディベロップメント） □自身の活動を効率的にするタイムマネジメント □自身に発生するストレスを軽減・コントロールするためのストレスマネジメント	□社会的・職業上の多様な環境や実務の中で、倫理観を遵守し、倫理上の課題を明らかにし、倫理観を持って決定し、美容師として行動をする能力を発揮 □地域や世界が抱える科学、技術、ビジネス、社会、環境の課題について、深い認識と知識

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	技能					責任と自律性	
			汎用的な技能	職務上の技能				自律性と責任感	倫理観とプロ意識
				専門実践技能	対人技能	分析技能	管理・指導技能		
5	✧顧客を満足させるために必要な理論的・専門的知識、技能 ✧美容サロンの一員としての組織的対応 ✧美容サロンで生じる施術面の諸問題の解決 ✧顧客のニーズに合わせた施術と顧客からの信頼の獲得 ✧美容学校を卒業後、3～8年程度の美容師を想定。スタイリストデビュー後、2年～8年 ★レベル5のイメージキーワード 「できる」、管理美容師、スタイリスト、問題解決能力	仕事／学習分野における総合的、専門的、事実的、理論的な知識と、その知識の批判的認識	抽象的な問題を創造的に解決するために必要な包括的な認知科学技術と実践的技能	抽象的な問題を創造的に解決するために必要な包括的な認知科学技術と実践的技能	抽象的な問題を創造的に解決するために必要な包括的な認知科学技術と実践的技能	抽象的な問題を創造的に解決するために必要な包括的な認知科学技術と実践的技能	抽象的な問題を創造的に解決するために必要な包括的な認知科学技術と実践的技能	予期せぬ変化がある仕事／学習活動の主体的管理と監督。自己と他者の業績の点検・開発	予期せぬ変化がある仕事／学習活動の主体的管理と監督。自己と他者の業績の点検・開発
		□次のヘア技能領域に関わる**実践的知識** ・シャンプー ・トリートメント ✓ヘアケア ✓スキャルプケア ・ヘッドスパ ・カラー ✓ファッションカラー ✓グレイカラー ・パーマ ✓ウェーブ ✓ストレート ✓縮毛矯正 ・ブロー&スタイリング ・カット ・デザイン ・その他、組織特有の基礎的知識 □次のヘア関連領域の**実践的知識** ・毛髪知識 ・薬剤知識 ✓カラー ✓パーマ ・トリートメント ・販売用の商品知識 ✓ヘアケア ✓スタイリング ・その他、組織特有の基礎的知識 □次の美容関連領域の実**践的知識** ・サロンにおける接客サービス ・美容商品の提案、販売方法 ・メイクアップ、化粧品 ・着付け ・マッサージ、エステティック ・ネイル ・まつ毛エクステンション ・その他、組織特有の基礎的知識	□美容師としての仕事において、専門的・概念的・理論的知識を詳細に認識し、解釈、応用、分析、評価する能力 □あいまいで複雑な定型的・非定型的な状況や、予測できない状況でも、限られた範囲のアプローチや自主性をもって、問題や課題を解決する能力	□次に示す美容師としての実践的技能項目のそれぞれについて、**あらゆる局面で問題解決に必要な技能** ・シャンプー ・トリートメント ✓ヘアケア ✓スキャルプケア ・ヘッドスパ ・カラー ✓ファッションカラー ✓グレイカラー ・パーマ ✓ウェーブ ✓ストレート ✓縮毛矯正 ・ブロー&スタイリング ・カット ・デザイン ・その他、組織特有の必要最低限の技能	□顧客との円滑なコミュニケーションの実践能力	□美容サロンの**顧客管理につながる**PCやスマートフォンの操作（SNSの活用等）	□後輩に対する適切な指導能力 □業務分野が明確でない場合を含め、新しい環境で、チーム・リーダーシップの発揮 □組織の他者に対する業績の評価	□美容の社会的位置づけの正しい認識に裏付けられた美容師としての誇りを持った自己管理 □組織の一員としての責任感	□美容師として、専門職業人に相応しい倫理的慣行や持続可能な慣行に従う能力 □地域や世界で、持続可能な社会をつくるために美容師の立場から貢献

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	技能					責任と自律性	
			汎用的な技能	職務上の技能				自律性と責任感	倫理観とプロ意識
				専門実践技能	対人技能	分析技能	管理・指導技能		
4	✧ 美容師としての一般理論・原理に関するひととおりの知識の獲得 ✧ 美容師としての基本的な技能の獲得 ✧ 美容サロンの一員としての機能発揮 ✧ 美容サロンにおいて必要な職業人意識、職業倫理 ✧ 美容学校を卒業後2～3年程度の美容師を想定。アシスタント、もしくはスタイリストデビュー後1～2年 ★レベル4のイメージキーワード 「わかる」、美容師、ジュニアスタイリスト	仕事／学習分野における幅広い文脈の中で事実と理論の知識 □次のヘア技能領域に関わる**基礎的知識** ・シャンプー ・トリートメント ✓ヘアケア ✓スキャルプケア ・ヘッドスパ ・カラー ✓ファッションカラー ✓グレイカラー ・パーマ ✓ウェーブ ✓ストレート ✓縮毛矯正 ・ブロー&スタイリング ・カット ・デザイン ・その他、組織特有の基礎的知識 □次のヘア関連領域の**基礎的知識** ・毛髪知識 ・薬剤知識 ✓カラー ✓パーマ ・トリートメント ・販売用の商品知識 ✓ヘアケア ✓スタイリング ・その他、組織特有の基礎的知識 □次の美容関連領域の**基礎的知識**（**美容サロンで必要最低限な範囲**） ・サロンにおける接客サービス ・美容商品の提案、販売方法 ・メイクアップ、化粧品 ・着付け ・マッサージ、エステティック ・ネイル ・まつ毛エクステンション ・その他、組織特有の基礎的知識	仕事／学習分野における特定の問題の解決策を産み出すために必要な一連の認知・実践技能 □ 学習／仕事の内容が明確になっている場合、最低限の監督を受けて、一般概念／理論／運用原理の認識・解釈・適用・評価 □ 明確でありふれた問題や、日常的に見られない性質の問題の解決	仕事／学習分野における特定の問題の解決策を産み出すために必要な一連の認知・実践技能 □ 次に示す美容師としての実践的技能項目のそれぞれについて、**問題解決に必要最低限な技能** ・シャンプー ・トリートメント ✓ヘアケア ✓スキャルプケア ・ヘッドスパ ・カラー ✓ファッションカラー ✓グレイカラー ・パーマ ✓ウェーブ ✓ストレート ✓縮毛矯正 ・ブロー&スタイリング ・カット ・デザイン ・その他、組織特有の必要最低限の技能	仕事／学習分野における特定の問題の解決策を産み出すために必要な一連の認知・実践技能 □コミュニケーション能力 ・最低限のマナーを踏まえた接客能及び会話の能力 ・職場の同僚、先輩、後輩との良好な関係を築く姿勢と会話の能力 ・組織の一員として円滑に業務を遂行するために必要な洞察力と意思疎通の能力	仕事／学習分野における特定の問題の解決策を産み出すために必要な一連の認知・実践技能 □**基本的な資料作成**能力 ・学習及び習得した経験や技能を整理整頓する能力 ・PCやスマートフォンを操作し、資料を作成する能力 □**基本的なプレゼンテーション能力** ・経験や技能を表現する能力 ・作成した資料を他者が共感できるように共有する能力 ・PCやスマートフォンなどを使用し、社会一般に公表、表現する能力（SNSなど）	仕事／学習分野における特定の問題の解決策を産み出すために必要な一連の認知・実践技能 □さまざまな状況で実施される明確で非定型的な学習／任務について、幅広い助言や指導を受けて、かなりの責任感と自主性をもって仕事をする技能 □職場で各種チームの統率と管理を行い、問題に対処する技能	通常は予測可能であるが変化する可能性のある仕事や学習の文脈の中での自己管理。他者の日常業務を監督し、仕事／学習活動の評価・改善 □ 美容師及び美容の仕事に携わる者としての自覚や自尊心、仕事に対する情熱を持っている（美容師としての誇り） ・仕事に対する意欲及び責任感 ・知識、及び技術的経験を修得する為の問題解決に取り組む姿勢 □ 自己管理能力 ・自分のおかれた状況を理解することができている ・技術向上に関して、計画的に取り組むことができる □ 組織の一員としての円滑な業務の遂行 ・自己だけでなく他者との共同作業をする姿勢と完遂する責任感 ・不確実な事態の発生に対応する為の考え方と真摯な姿勢	通常は予測可能であるが変化する可能性のある仕事や学習の文脈の中での自己管理。他者の日常業務を監督し、仕事／学習活動の評価・改善 □社会的規範を理解し、コンプライアンス意識を持った行動 □個人情報やプライバシーに配慮 □守秘義務の順守

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	技能					責任と自律性	
			汎用的な技能	職務上の技能				自律性と責任感	倫理観とプロ意識
				専門実践技能	対人技能	分析技能	管理・指導技能		
3	✧美容師となるために必要な基礎的理論・原理をひととおり理解 ✧美容師としての仕事をひととおり理解 ✧職業人意識や職業倫理に対する前向きな姿勢 ★レベル4のイメージキーワード 「学ぶ」、ベーシックビューティスチューデント、美容学生	仕事／学習分野における事実、原則、プロセス、一般概念の知識	基本的な方法、手法、材料、情報の選択・利用によって、任務を達成し問題解決に必要な認知・実践技能	基本的な方法、手法、材料、情報の選択・利用によって、任務を達成し問題解決に必要な認知・実践技能	基本的な方法、手法、材料、情報の選択・利用によって、任務を達成し問題解決に必要な認知・実践技能	基本的な方法、手法、材料、情報の選択・利用によって、任務を達成し問題解決に必要な認知・実践技能	基本的な方法、手法、材料、情報の選択・利用によって、任務を達成し問題解決に必要な認知・実践技能	仕事や学習の完了に対する責任。問題を解決する際の状況に対する自己の行動の適応	仕事や学習の完了に対する責任。問題を解決する際の状況に対する自己の行動の適応
		□　美容師免許の取得に必要となる次の各科目における学修項目の知識の獲得と理解 ・関係法規・制度 ・衛生管理 ・美容保健 ・美容の物理・化学 ・美容文化論 ・美容技術理論 ・美容運営管理 ・国家試験の試験内容 □　美容師免許取得後に必要な実践的な知識と職業訓練 ・外部講師による指導 ✓カット理論 ✓カラーやパーマなどの薬剤を使用した技術的知識 ✓デザイン的思考と実践的知識 ✓その他技術的経験、及び資格取得に必要な実体験の習得 ・インターンシップによる職場体験	□知識や、よく知っている手法、スキルを活用して、定型的任務／学習の予測できる問題を解決する技能	□次に示す美容師としての実践的技能項目のそれぞれについての基礎的な技能 ・国家試験の実践技能 ・各種実技授業 ・カット理論の実践技能 ・カラーやパーマなどの薬剤を使用した実践技能 ・デザイン的思考の実践技能 ・その他施術的経験、及び資格取得に必要な実体験の習得	□望まれる学習成果を修得する為、先生や両親など進路相談をする関係者と信頼関係を築く能力 □職場で必要な対人関係構築能力を習得するため、同級生、先輩、後輩と良好な関係を築くコミュニケーション能力	□資料作成及びプレゼンテーションスキル（PCやスマートフォンなどを使用したSNS投稿技術なども含む）	□最低限の指導監督で、かなり自主的に仕事をする能力 □学習／仕事の枠内で、相手に助言を与える能力	□学業に対する意欲及び責任感 □知識及び技術的経験を修得するための問題解決に取組む姿勢 □国家資格を取得し、美容師及び美容の仕事に携わる者としての自覚と自尊心、仕事に対する情熱	□社会的規範を理解し、社会及び学校生活を送るにあたり、コンプライアンス意識を持った行動
2		仕事／学習分野における基本的な知識	簡単な規則と手法を利用した任務の実行。日常的な問題を解決する目的で関連情報の利用に必要な基本的な認知・実践技能	簡単な規則と手法を利用した任務の実行。日常的な問題を解決する目的で関連情報の利用に必要な基本的な認知・実践技能	簡単な規則と手法を利用した任務の実行。日常的な問題を解決する目的で関連情報の利用に必要な基本的な認知・実践技能	簡単な規則と手法を利用した任務の実行。日常的な問題を解決する目的で関連情報の利用に必要な基本的な認知・実践技能	簡単な規則と手法を利用した任務の実行。日常的な問題を解決する目的で関連情報の利用に必要な基本的な認知・実践技能	監督下で、ある程度の自律性を持った仕事や学習	監督下で、ある程度の自律性を持った仕事や学習
		□	□	□	□	□	□	□	□
1		基本的な一般知識	簡単な任務を実行するために必要な基本技能	簡単な任務を実行するために必要な基本技能	簡単な任務を実行するために必要な基本技能	簡単な任務を実行するために必要な基本技能	簡単な任務を実行するために必要な基本技能	直接監督下で、構造化された状況での仕事や学習	直接監督下で、構造化された状況での仕事や学習
		□	□	□	□	□	□	□	□

② 学修成果指標（ゲーム・CG 分野－ゲームクリエイター職種）

別添c②

学修成果指標（ゲーム・CG分野 － ゲームクリエイター職種）

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	技能					責任と自律性	
			汎用的な技能	職務上の技能				自律性と責任感	倫理観とプロ意識
				専門実践技能	対人技能	分析技能	管理・指導技能		
8	□ 先端技術もしくは五感制御における技術応用の研究成果 □ ゲームデザインに関しての学術研究成果の発表経験 □ ゲームにおける論文査読立場と、自身の研究成果と学術指導経験 □ ゲームにおける書籍、論文の発表 □ 応用技術をタイトルに実装した経験 □ ワールドワイドカンファレンスでの発表経験	専門的実務／学問分野において最先端のフロンティア。新しい専門的実務や知見につながる分野横断的な視点・知識・理解	研究や革新の重要な課題を解決し、既存の知識や専門的実務を再定義するために必要な、最も高度な専門的技能	研究や革新の重要な課題を解決し、既存の知識や専門的実務を再定義するために必要な、最も高度な専門的技能	研究や革新の重要な課題を解決し、既存の知識や専門的実務を再定義するために必要な、最も高度な専門的技能	研究や革新の重要な課題を解決し、既存の知識や専門的実務を再定義するために必要な、最も高度な専門的技能	研究や革新の重要な課題を解決し、既存の知識や専門的実務を再定義するために必要な、最も高度な専門的技能	専門的実務や学問の最前線で、新しいアイディア・プロセス開発に対する権威、自律性、学術的・専門的な議実性および持続的な関与	専門的実務や学問の最前線で、新しいアイディア・プロセス開発に対する権威、自律性、学術的・専門的な議実性および持続的な関与
		□ 先端技術の理解と、五感制御の理解の応用研究 □ ゲームデザインの検証研究と成果発表 □ 一般普及における訴求力の知識と実証検証結果 □ 発想における特殊性の学術体系化 □ ハイブ・サイクルへの理解	□ 他業種を含めた情報の収集技能 □ 先端技術のサイクルを理解し、次の技術を正しく予測できる技能 □ 技術を分析し、広く使えるようにする技能	□ 高度な専門知識を使い業務上の課題を解決に導く技能 □ 将来必要な技術を予測し先行して開発する技能	□ 他業種を含めた交渉、調整能力 □ 技術を体系化し理解しやすい形にまとめる資料作成技能 □ 情報を広める場の設定と運営	□ 最先端技術を正確に理解できる知識を適用する能力 □ 先端技術のハイブ・サイクルを理解した、予測、分析能力	□ 開発における課題を発見する能力 □ ナラティブ理論を応用した開発における組織管理	□ 最先端技術を学習する責任 □ 技術を汎用化させる為の枠組み構築 □ 開発した技術を運営し持続させることへの関与	□ 最先端技術の運営と維持への関与 □ 広い層に対しての技術の応用例の提示
7	□ 先端技術の応用事例の指導 □ 五感制御における応用事例の指導 □ ゲームデザインの学術研究における論文発表 □ ゲーム制作における体系的な指導経験 □ ゲーム制作における指導的役割での発表 □ 市場向けタイトル開発経験 □ ワールドワイド技術カンファレンスでのセッション発表経験	高度に専門化された知識。その内いくつかは、仕事／学習分野における知識の最前線。異なる分野の知識・理解	実務／学問分野における主体的・批判的洞察と分野横断的知識の統合。新しい知識や方法論の研究・開発・革新に必要な問題解決技能	実務／学問分野における主体的・批判的洞察と分野横断的知識の統合。新しい知識や方法論の研究・開発・革新に必要な問題解決技能	実務／学問分野における主体的・批判的洞察と分野横断的知識の統合。新しい知識や方法論の研究・開発・革新に必要な問題解決技能	実務／学問分野における主体的・批判的洞察と分野横断的知識の統合。新しい知識や方法論の研究・開発・革新に必要な問題解決技能	実務／学問分野における主体的・批判的洞察と分野横断的知識の統合。新しい知識や方法論の研究・開発・革新に必要な問題解決技能	複雑で予測不可能な課題に対する革新的な取組が求められる仕事や学習の管理。専門的な知識・実践と管理への貢献・評価	複雑で予測不可能な課題に対する革新的な取組が求められる仕事や学習の管理。専門的な知識・実践と管理への貢献・評価
		□ 先端技術に精通し開発もする技能 □ 技術を、体系化し、まとめる技能	□ 高度な専門知識に基づく技能 □ 業務に必要な技術を正しく選択する技能	□ 業務内容の迅速かつ的確な説明能力 □ チーム内の問題解決能力	□ 技術を解析できる知識を適用する能力 □ 先端技術を独自に研究、開発する能力	□ 部下を指導する能力 □ 業務をスケジュール内に進める技能 □ 部下の育成 □ 技術へのセキュリティー管理と法的理解	□ 先端の専門知識を学習する責任 □ 使用する技術にかかる、時間を正しく把握する責任	□ 先端技術の管理 □ 技術への正しい評価

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	技能					責任と自律性	
			汎用的な技能	職務上の技能				自律性と責任感	倫理観とプロ意識
				専門実践技能	対人技能	分析技能	管理・指導技能		
6	□ 先端技術の知見 □ ゲームデザインの論文発表経験 □ ゲーム制作におけるチームビルディングのマネジメント経験 □ ゲーム制におけるエンジニアとマーケティングの役割と知見 □ チーム、個人におけるゲーム制作の指導の経験と知見 □ 技術カンファレンスにおけるセッション応募経験	**理論や原理の批判的思考を含む、仕事／学習分野に関する高度な知識・理解**	**仕事／学習分野で、複雑で予測不可能な課題の解決のために必要な熟練と革新を実証する高度な技能**	仕事／学習分野で、複雑で予測不可能な課題の解決のために必要な熟練と革新を実証する高度な技能	仕事／学習分野で、複雑で予測不可能な課題の解決のために必要な熟練と革新を実証する高度な技能	仕事／学習分野で、複雑で予測不可能な課題の解決のために必要な熟練と革新を実証する高度な技能	仕事／学習分野で、複雑で予測不可能な課題の解決のために必要な熟練と革新を実証する高度な技能	**技術的・専門的活動を管理し、予測不可能な仕事や学習の場面で意思決定を行う責任。個人や団体の専門的な開発を管理する責任**	技術的・専門的活動を管理し、予測不可能な仕事や学習の場面で意思決定を行う責任。個人や団体の専門的な開発を管理する責任
		□ ゲームチーム制作マネジメントとディレクション □ プロジェクトリーダーとしての役割 □ ゲームマーケティング □ 法的知見	□ 開発におけるコストの計算技能	□ 最先端技術のプログラミング □ 実機でのアプリ制作 □ ノードベースプログラミング（企画） □ ゲームプランナーゼミ □ デモリール作成 □ ポートフォリオ完成 □ ゲームエンジンCG表現	□ 職種・学年・他団体を超えた協働と連携	□ プロジェクトが正確に進められるかどうか分析する能力	□ 進捗管理、リソースと仕様のバランス管理 □ 制作進行管理 □ 一般的な法的理解	□ 業務に必要な技術の選別に関する正当性の説明責任 □ 開発を最後まで導く責任	□ 業務に必要な技術の正しい選択に関する意識
5	□ 応用技術の知見 □ ゲームデザインの実装経験 □ ゲーム制作の個人もしくは、チーム制作への参加経験 □ ゲーム制作の企画内容の判断 □ 2D、3D、モーションにおけるコンセプの制作 □ 開発プロジェクトのチームビルディングの経験 □ ネイションワイドのコンテスト応募経験	**仕事／学習分野における総合的、専門的、事実的、理論的な知識と、その知識の批判的認識**	**抽象的な問題を創造的に解決するために必要な包括的な認知科学技術と実践的技能**	抽象的な問題を創造的に解決するために必要な包括的な認知科学技術と実践的技能	抽象的な問題を創造的に解決するために必要な包括的な認知科学技術と実践的技能	抽象的な問題を創造的に解決するために必要な包括的な認知科学技術と実践的技能	抽象的な問題を創造的に解決するために必要な包括的な認知科学技術と実践的技能	**予期せぬ変化がある仕事／学習活動の主体的管理と監督。自己と他者の業績の点検・開発**	予期せぬ変化がある仕事／学習活動の主体的管理と監督。自己と他者の業績の点検・開発
		□ プログラムに必要な数学・物理 □ ゲーム個人制作 □ モバイルゲームアプリ制作知識 □ 企画書個人制作 □ CG個人制作（ポートフォリオ制作）	□ 制作スケジュールの立案 □ 自己作品のアピールのためのプレゼンテーション能力 □ 企画提案力 □ 企画修正力	□ ゲーム物理（リアル表現） □ 描画エンジン制作 □ ゲームAI技術とアルゴリズム □ サウンドエフェクト、３Dサウンド □ モバイルゲーム開発技術 □ オンラインゲーム制作技術 □ 質感表現能力（シェーダー・テクスチャ・ライティング） □ ３Dスカルプトモデリング技術 □ 企画会議シミュレーション □ ゲームエンジンプログラミング（企画） □ ドキュメントレイアウト	□ 論理的伝達技法 □ 作品プレゼンからの改善 □ ディスカッション技法 □ チームメンバーの意見・考えの尊重	□ 使用している技術を正しく理解し説明ができる能力	□ チーム制作メンバーの役割を理解した行動 □ チーム制作でのコミュニケーション、問題解決技能 □ コミュニケーションツールの活用	□ 指定された技術を使用し、業務を遂行する責任 □ 業務の遅れに関する報告責任	□ 業務に必要な技術の習得に対する意識

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	技能					責任と自律性	
			汎用的な技能	職務上の技能				自律性と責任感	倫理観とプロ意識
				専門実践技能	対人技能	分析技能	管理・指導技能		
4	□ 技術の知見 □ ゲーム制作における基礎プログラムの知識 □ ゲーム制作の企画 □ 2D、3D、モーションのツール群の使用 □ 個人、チームによるゲーム制作の経験 □ 技術カンファレンスへの参加経験	**仕事／学習分野における幅広い文脈の中で事実と理論の知識** □ 情報処理の基礎 □ ゲーム制作概論 □ プログラミング概論 □ 2D・3Dの描画理論 □ ゲームエンジンの制作手法 □ 色彩・質感の知識 □ チーム制作作業の進め方 □ ゲーム業界知識	**仕事／学習分野における特定の問題の解決策を産み出すために必要な一連の認知・実践技能** □ 技能者育成における指導経験 □ ビジネス文書作成スキル □ 企画発想力・構成力	仕事／学習分野における特定の問題の解決策を産み出すために必要な一連の認知・実践技能 □ C言語プログラミング □ C++とオブジェクト指向プログラミング □ 2D・3Dゲームプログラミングと描画理論 □ シェーダープログラミング技術 □ ゲーム数学 □ レベルデザイン □ ゲーム仕様書作成 □ チュートリアル制作 □ 2D・3Dデザインツールの操作 □ 基礎画力・観察力・構成力・描写力 □ UI/UXデザイン	仕事／学習分野における特定の問題の解決策を産み出すために必要な一連の認知・実践技能 □ 自分のアイデアをプレゼンする能力 □ 自分の作品をプレゼンする能力	仕事／学習分野における特定の問題の解決策を産み出すために必要な一連の認知・実践技能 □ 教えられた知識を正しく分析できる能力	仕事／学習分野における特定の問題の解決策を産み出すために必要な一連の認知・実践技能 □ チーム制作での役割理解 □ 3分野（プログラム・企画・CG）での制作進行に必要な行動	**通常は予測可能であるが変化する可能性のある仕事や学習の文脈の中での自己管理。他者の日常業務を監督し、仕事／学習活動の評価・改善** □ 指示された範囲の業務に対する責任 □ 業務の遅れに関する報告責任	通常は予測可能であるが変化する可能性のある仕事や学習の文脈の中での自己管理。他者の日常業務を監督し、仕事／学習活動の評価・改善 □ 指示された技術の習得の正しい理解に対する心掛け

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	技能					責任と自律性	
			汎用的な技能	職務上の技能				自律性と責任感	倫理観とプロ意識
				専門実践技能	対人技能	分析技能	管理・指導技能		
3		仕事／学習分野における事実、原則、プロセス、一般概念の知識	基本的な方法、手法、材料、情報の選択・利用によって、任務を達成し問題解決に必要な認知・実践技能	基本的な方法、手法、材料、情報の選択・利用によって、任務を達成し問題解決に必要な認知・実践技能	基本的な方法、手法、材料、情報の選択・利用によって、任務を達成し問題解決に必要な認知・実践技能	基本的な方法、手法、材料、情報の選択・利用によって、任務を達成し問題解決に必要な認知・実践技能	基本的な方法、手法、材料、情報の選択・利用によって、任務を達成し問題解決に必要な認知・実践技能	仕事や学習の完了に対する責任。問題を解決する際の状況に対する自己の行動の適応	仕事や学習の完了に対する責任。問題を解決する際の状況に対する自己の行動の適応
		□	□	□	□	□	□	□	□
2		仕事／学習分野における基本的な知識	簡単な規則と手法を利用した任務の実行。日常的な問題を解決する目的で関連情報の利用に必要な基本的な認知・実践技能	簡単な規則と手法を利用した任務の実行。日常的な問題を解決する目的で関連情報の利用に必要な基本的な認知・実践技能	簡単な規則と手法を利用した任務の実行。日常的な問題を解決する目的で関連情報の利用に必要な基本的な認知・実践技能	簡単な規則と手法を利用した任務の実行。日常的な問題を解決する目的で関連情報の利用に必要な基本的な認知・実践技能	簡単な規則と手法を利用した任務の実行。日常的な問題を解決する目的で関連情報の利用に必要な基本的な認知・実践技能	監督下で、ある程度の自律性を持った仕事や学習	監督下で、ある程度の自律性を持った仕事や学習
		□	□	□	□	□	□	□	□
1		基本的な一般知識	簡単な任務を実行するために必要な基本技能	簡単な任務を実行するために必要な基本技能	簡単な任務を実行するために必要な基本技能	簡単な任務を実行するために必要な基本技能	簡単な任務を実行するために必要な基本技能	直接監督下で、構造化された状況での仕事や学習	直接監督下で、構造化された状況での仕事や学習
		□	□	□	□	□	□	□	□

別添C③

③ 学修成果指標（動物分野－認定動物看護師職種）

学修成果指標（動物分野　－　認定動物看護師職種）

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	技能					責任と自律性	
			汎用的な技能	職務上の技能				自律性と責任感	倫理観とプロ意識
				専門実践技能	対人技能	分析技能	管理・指導技能		
8	・博士（生物学） ・動物看護師長 ・チームマネジメントと一定水準以上のジェネラルな能力開発 ・専門学校(2)卒後20年経過	専門的実務／学問分野において最先端のフロンティア。新しい専門的実務や知見につながる分野横断的な視点・知識・理解	研究や革新の重要な課題を解決し、既存の知識や専門的実務を再定義するために必要な、最も高度な専門的技能	研究や革新の重要な課題を解決し、既存の知識や専門的実務を再定義するために必要な、最も高度な専門的技能	研究や革新の重要な課題を解決し、既存の知識や専門的実務を再定義するために必要な、最も高度な専門的技能	研究や革新の重要な課題を解決し、既存の知識や専門的実務を再定義するために必要な、最も高度な専門的技能	研究や革新の重要な課題を解決し、既存の知識や専門的実務を再定義するために必要な、最も高度な専門的技能	専門的実務や学問の最前線で、新しいアイディア・プロセス開発に対する権威、自律性、学術的・専門的な誠実性および持続的な関与	専門的実務や学問の最前線で、新しいアイディア・プロセス開発に対する権威、自律性、学術的・専門的な誠実性および持続的な関与
		□ 職能団体・学術団体等の活動に対する協力、社会的貢献	□ 経営マネジメント □ 業界発展への寄与	□ 獣医療動向、社会ニーズを踏まえた院内・組織運営 □ 専門実践技能の能力開発	□ 各研修会等における座長	□ 短期・中長期計画立案・運営	□ 専門領域の実践・指導力の向上	□ 業界の目標達成の向けた主体的行動 □ 業界におけるリーダーシップ	□ 関連業界のビジョン確立
7	・動物看護主任クラス ・チーム獣医療における中核人材 ・専門学校(2)卒後15年経過	高度に専門化された知識。その内いくつかは、仕事／学習分野における知識の最前線。異なる分野の知識・理解	実務／学問分野における主体的・批判的洞察と分野横断的知識の統合。新しい知識や方法論の研究・開発・革新に必要な問題解決技能	実務／学問分野における主体的・批判的洞察と分野横断的知識の統合。新しい知識や方法論の研究・開発・革新に必要な問題解決技能	実務／学問分野における主体的・批判的洞察と分野横断的知識の統合。新しい知識や方法論の研究・開発・革新に必要な問題解決技能	実務／学問分野における主体的・批判的洞察と分野横断的知識の統合。新しい知識や方法論の研究・開発・革新に必要な問題解決技能	実務／学問分野における主体的・批判的洞察と分野横断的知識の統合。新しい知識や方法論の研究・開発・革新に必要な問題解決技能	複雑で予測不可能な課題に対する革新的な取組が求められる仕事や学習の管理。専門的な知識・実践と管理への貢献・評価	複雑で予測不可能な課題に対する革新的な取組が求められる仕事や学習の管理。専門的な知識・実践と管理への貢献・評価
		□ 獣医療最新動向 □ 感染予防管理 □ 防災管理 □ 他職能団体・学術団体の活動に対する理解	□ 獣医療安全管理 □ 院内外での研修会における講師や助手 □ 学会等における研究成果発表（効果的プレゼンテーション	□ 動物看護の実践モデル □ 獣医師との連携による動物看護の質向上、専門性向上活動	□ 対象者およびその家族との信頼関係の構築 □ 院内スタッフのコミュニケーション能力育成の醸成 □ 地域関係者、学界関係者との積極的交流 □ 組織的な研究活動の推進	□ 短期・中長期計画の理解 □ 院内チームの教育企画運営 □ 院外組織の業務改善	□ OJTを通した臨床実習指導 □ 学習・研究成果の伝達と活用 □ スタッフの研究能力向上支援	□ 社会情勢の変化に対する関心 □ 所属組織の目標達成に向けた主体的行動 □ 院内・チームでのリーダーシップ □ 自己のキャリアアンカーの認識	□ 院内・チームのビジョン □ 倫理的および獣医療安全上の諸問題の対応 □ トラブルに関する道徳的、倫理的見解をもった対応 □ 倫理的完成（後輩の模範）
6	・自立して臨床実践ができる ・専門(2)卒後10年経過	理論や原理の批判的思考を含む、仕事／学習分野に関する高度な知識・理解	仕事／学習分野で、複雑で予測不可能な課題の解決のために必要な熟練と革新を実証する高度な技能	仕事／学習分野で、複雑で予測不可能な課題の解決のために必要な熟練と革新を実証する高度な技能	仕事／学習分野で、複雑で予測不可能な課題の解決のために必要な熟練と革新を実証する高度な技能	仕事／学習分野で、複雑で予測不可能な課題の解決のために必要な熟練と革新を実証する高度な技能	仕事／学習分野で、複雑で予測不可能な課題の解決のために必要な熟練と革新を実証する高度な技能	技術的・専門的活動を管理し、予測不可能な仕事や学習の場面で意思決定を行う責任。個人や団体の専門的な開発を管理する責任	技術的・専門的活動を管理し、予測不可能な仕事や学習の場面で意思決定を行う責任。個人や団体の専門的な開発を管理する責任
		□ 対象動物のQOL □ 重篤化回避の方法 □ 回復支援のリハ看護方法	□ 臨床現場における研究的視点 □ 研究のプロセス □ 学会発表で用いる研究方法 □ 職能団体の社会的意義 □ 院内での学習課題理解 □ 種々の報告書作成	□ QOL向上を目指した動物看護 □ 安全な動物看護 □ 動物看護の実践介入・評価 □ 急変時対応	□ 退院支援・退院後支援に関する飼主への指導・助言 □ 院内における人間関係の認識 □ 多職種との協業・連携	□ アセスメントや看護計画立案	□ 後輩や実習生に対する支援 □ 院内学習計画の立案 □ 院内資源（人・物・予算・情報）の有効活用を目指した調整	□ 動物看護師間のリーダーシップ	□ 倫理綱領への配慮 □ 倫理的完成を高める中で、対象者への共感的理解と対応

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	技能					責任と自律性	
			汎用的な技能	職務上の技能				自律性と責任感	倫理観とプロ意識
				専門実践技能	対人技能	分析技能	管理・指導技能		
5	・チームの一員として臨床実践ができる ・専門学校(2)卒後5年経過）	仕事／学習分野における総合的、専門的、事実的、理論的な知識と、その知識の批判的認識	抽象的な問題を創造的に解決するために必要な包括的な認知科学技術と実践的技能	抽象的な問題を創造的に解決するために必要な包括的な認知科学技術と実践的技能	抽象的な問題を創造的に解決するために必要な包括的な認知科学技術と実践的技能	抽象的な問題を創造的に解決するために必要な包括的な認知科学技術と実践的技能	抽象的な問題を創造的に解決するために必要な包括的な認知科学技術と実践的技能	予期せぬ変化がある仕事／学習活動の主体的管理と監督。自己と他者の業績の点検・開発	予期せぬ変化がある仕事／学習活動の主体的管理と監督。自己と他者の業績の点検・開発
		□疾患種類、対象動物の性質 □飼い主の権利 □獣医師の診断結果と看護における問題点に対する理解 □院外連携 □臨床における疑問・不確実な知識・技術	□成果のまとめ方 □研究の基礎知識 □文献活動、研究発表 □職能団体の意義・役割 □社会との連携・職能団体での活動への参加 □社会人としての基礎力	□種々の報告書作成 □基準・手順に沿った安全な動物看護 □安全管理・感染予防・防災対策	□インフォームドコンセント □自分の考えを他者に伝える □対象者や他人の意見・考えの尊重 □異業種の方とのコミュニケーション □報告・連絡・相談	□日々の臨床事例の振り返り、課題の明確化	□組織の理念・方針の理解 □組織メンバーの役割を理解した行動 □臨床実習の指導とその意義 □後輩の援助や支援	□社会人また獣医療人としての自覚 □組織の一員としての責任感 □ジョブアンカー	□倫理綱領への配慮 □個人の尊厳やプライバシーへの配慮 □動物福祉への配慮
4	・認定動物看護師資格合格レベル ・愛玩動物飼養管理士1級 ・動物看護師分野に対する基礎的な知見を有している。 ・基礎動物看護学を修得している ・専門学校(2)卒後0～2年経過 □応用動物看護学 □臨床動物看護学 □実習	仕事／学習分野における幅広い文脈の中で事実と理論の知識	仕事／学習分野における特定の問題の解決策を産み出すために必要な一連の認知・実践技能	仕事／学習分野における特定の問題の解決策を産み出すために必要な一連の認知・実践技能	仕事／学習分野における特定の問題の解決策を産み出すために必要な一連の認知・実践技能	仕事／学習分野における特定の問題の解決策を産み出すために必要な一連の認知・実践技能	仕事／学習分野における特定の問題の解決策を産み出すために必要な一連の認知・実践技能	通常は予測可能であるが変化する可能性のある仕事や学習の文脈の中での自己管理。他者の日常業務を監督し、仕事／学習活動の評価・改善	通常は予測可能であるが変化する可能性のある仕事や学習の文脈の中での自己管理。他者の日常業務を監督し、仕事／学習活動の評価・改善
		下記各項目の理解 □動物形態機能 動物の体の構造と機能 □動物行動 人と動物の調和に関わること □人間動物関係 人と動物の調和に関わること □産業動物・実験動物・野生動物について 様々な動物の特性と人との関わり □ターミナルケア 重篤なまたは終末状態の動物と飼い主のQOLを考慮した対応 □安楽死 安楽死も治療の一端であること	□IT PCの基本的アイテムの理解と活用 □会計学の基礎 □基本的な情報収集力・分析力 □基本的な情報発信力 □語学力（英語など） 動物病院の受付対応、電話業務対応可能程度の会話力	□動物の臨床看護に必要な基本的知識・技能の修得 □機能障害を持つ動物に対する看護法、評価・介入方法の修得 □術前・後管理 手術に必要な術前の動物、器具や手術環境、執刀獣医師や関係スタッフ全てに必要な準備の修得 □グルーミング 治療中や機能障害のある動物を衛生で清潔にする技術の修得 □トレーニング 動物と人との良好で健全な絆を保つために必要なトレーニング技術を修得する □バイタルチェック 共に生活する動物の健康を知り、異常を早期に発見できるための技術を修得する	□クライアントエデュケーション 動物看護者の倫理綱領第３条「動物看護者は、看護動物の飼育者との間に信頼関係を築き、その信頼関係に基づいて看護を提供する」の基本的理解とその実践技能 □院内コミュニケーション 動物病院業務に必要な基本的対人技能の修得	□動物看護課程の展開 入院動物や機能障害を持つ動物に対する動物看護過程の展開の基本的な理解とその実践 □ 動物看護記録 個人のための記録のみならず、チーム獣医療として協働者の理解と飼い主への伝達に必要な記録方法の修得	□研究発表 動物看護者の倫理綱領第11条「動物看護者は、看護実践を通して、専門的知識・技術の創造と開発に努め、動物看護学の構築と発展に寄与する」の基本的理解とその実践 □プレゼンテーション 論文や報告を公表することによって評価を得、互いに情報を共有し工夫し合うことで技術が向上し動物看護研究へと発展することに対する理解	□動物看護総合実習 修得した知識の実践力を身につけることを目的とした動物病院での実習体験 □ ボランティア活動 参加活動している場のリーダーの指示に従った後輩への伝達や指導的行動 □チーム獣医療 動物看護者の倫理綱領7条「動物看護者は、自己の意志を持ち、自己の責任と能力を的確に認識しみずからの看護に責任を持つ」。第９条「動物看護者は、他の動物看護者及び動物医療関係者と共同して、良質な動物看護を提供する」の基本的理解	□獣医療倫理 動物看護師として勤務するが、チームで協働する獣医師としての医療倫理を理解。 □地球は一つ・ワンヘルスに関わる福岡宣言 日本獣医師会平成20年の日本獣医師会と日本医師会の協働宣言 □動物看護倫理 動物看護者の倫理綱領第1条「動物看護者は、動物の生命、動物の権利を尊重し、動物福祉の向上に努める」を理解 □守秘義務 動物看護者の倫理綱領第5条「動物看護者は、守秘義務を遵守し、業務上知りえた飼育者ならびに看護動物の情報の保護に努め、また、これを他者と共有する場合には十分な配慮のもとに行う」を理解

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	技能					責任と自律性	
			汎用的な技能	職務上の技能				自律性と責任感	倫理観とプロ意識
				専門実践技能	対人技能	分析技能	管理・指導技能		
3	・専門学校（1）在学 ・愛玩動物飼養管理士2級 ・動物看護師に対する基本的な知見を有している ・基礎科学（数学・物理・化学）に興味がある ・基礎的計算力を有している ・一般的な国語力を有している □基礎動物看護学 □応用動物看護学 □臨床動物看護学 □実習	**仕事／学習分野における事実、原則、プロセス、一般概念の知識**	**基本的な方法、手法、材料、情報の選択・利用によって、任務を達成し問題解決に必要な認知・実践技能**	基本的な方法、手法、材料、情報の選択・利用によって、任務を達成し問題解決に必要な認知・実践技能	基本的な方法、手法、材料、情報の選択・利用によって、任務を達成し問題解決に必要な認知・実践技能	基本的な方法、手法、材料、情報の選択・利用によって、任務を達成し問題解決に必要な認知・実践技能	基本的な方法、手法、材料、情報の選択・利用によって、任務を達成し問題解決に必要な認知・実践技能	**仕事や学習の完了に対する責任。問題を解決する際の状況に対する自己の行動の適応**	仕事や学習の完了に対する責任。問題を解決する際の状況に対する自己の行動の適応
		下記各項目の学び (基本的な理解レベル) □ 動物医療関連法規 人と動物の調和に関わるのに必要な法規 □ 動物形態機能 動物の体の構造と機能 □ 公衆衛生 人と動物の健康の調和に関わること □ 動物病理 疾病の成り立ちと回復の促進への寄与 □ 動物臨床検査 動物病院業務に必要な知識 □ 動物臨床栄養 動物病院業務に必要な知識 □ 伴侶動物 様々な動物の特性と人との関わり □ 動物看護学概論 人と動物の調和に関わること □ 動物繁殖 動物の体の構造と機能 □ 動物感染症 疾病の成り立ちと回復の促進への寄与 □ 動物薬理 疾病の成り立ちと回復の促進への寄与 □ 動物飼育（動物内科看護） 動物の臨床看護に必要な動物内科学の知識 □ 動物外科学 動物の臨床看護に必要な動物外科学の知識 □ 動物福祉 人と動物の調和に関わること	□ 高等学校学習指導要綱に基づく学力・能力が十分に備わっており、且つ専門分野の知識吸収に対し旺盛な意欲がある □ ITという言葉を認知している	□ 動物形態機能学実習 修得した動物形態機能学の知識の実践力 □ 顕微鏡操作 健常の代表的組織、血液像、検便、尿中成分、皮膚スタンプなど採材を観察できる正しい操作方法 □ 動物臨床検査実習 修得した動物臨床検査学の知識の初歩的実践力 □ 動物内科看護実習 修得した動物内科学の知識の初歩的実践力 □ 動物外科看護実習 修得した動物外科学の知識の初歩的実践力	□ グリーフケア 動物との死別を知らされた時期を含めて死に直面する飼い主への対応、動物を亡くした飼い主への対応、亡くなった動物の対応とその後のケアなどの初歩的技能 □ 社会人コミュニケーション 社会人としての一般教養と礼儀作法 □ 接遇とホスピタリティー 来院する全ての人と動物にとって快適な環境作り、応対ができ飼い主と動物病院が動物の終生飼育を共に実践できるような関係つくりの初歩的技能	□ ＱＯＬの理解 動物と飼い主を対象とした生活の質の向上であることの理解とその初歩的実践 □ 観察 動物看護学の知識に基づいて動物や飼育する環境の初歩的観察力 □ 記録 個人のための記録のみならず、チーム獣医療として協働者の理解と飼い主への伝達に必要な記録の基本的方法	□ プレゼンテーション 個人やグループ内での検討や調べたことを衆人に向けて発表することの初歩的技能	□ 動物看護総合実習 実際の動物病院の体験見学等、修得した知識の総合化実習を通じた動物看護職としての初歩的な自律性と責任感。 □ ボランティア活動 良い社会づくりのために社会的認識を深め地域の人々と関わりを持つよう努めることに対する責任感 □ 社会人としての義務の認識 □ 成人としての義務の認識 □ 情報収集方法に関する基本的認識 □ 他者との交話方法に関する基本的認識	□ 動物看護倫理 一般社団法人日本動物看護職協会「動物看護者の倫理綱領」を理解する □ 守秘義務 臨床の場で見学・研修、実習など関わった全てを守秘することの理解、不特定多数への情報発信の是非についての共通倫理 □ アニマルウエルフェア 動物愛護と福祉の違い、欧米諸国と日本のアニマルウエルフェアの歴史と意識の違いなどに関する基本的認識

④ 学修成果指標（土木・建築分野－土木施工管理職種）

別添C④

学修成果指標（土木建築分野　－　土木施工管理職種）

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	技能					責任と自律性	
			汎用的な技能	職務上の技能				自律性と責任感	倫理観とプロ意識
				専門実践技能	対人技能	分析技能	管理・指導技能		
8	・博士（工学） ・技術士(総合技術監理部門) ・特別上級土木技術者	専門的実務／学問分野において最先端のフロンティア。新しい専門的実務や知見につながる分野横断的な視点・知識・理解	研究や革新の重要な課題を解決し、既存の知識や専門的実務を再定義するために必要な、最も高度な専門的技能	研究や革新の重要な課題を解決し、既存の知識や専門的実務を再定義するために必要な、最も高度な専門的技能	研究や革新の重要な課題を解決し、既存の知識や専門的実務を再定義するために必要な、最も高度な専門的技能	研究や革新の重要な課題を解決し、既存の知識や専門的実務を再定義するために必要な、最も高度な専門的技能	研究や革新の重要な課題を解決し、既存の知識や専門的実務を再定義するために必要な、最も高度な専門的技能	専門的実務や学問の最前線で、新しいアイディア・プロセス開発に対する権威、自律性、学術的・専門的な誠実性および持続的な関与	専門的実務や学問の最前線で、新しいアイディア・プロセス開発に対する権威、自律性、学術的・専門的な誠実性および持続的な関与
		□豊富な実務経験と広汎な見識を有するとともに、責任ある立場にある。 □土木建築分野のみならず、社会に貢献する立場にあり、成果を揚げている。	□幅広い知識と、専門性が、発揮できる。 □情報収集力、コミュニケーション力、実行力、問題解決能力などが十分にある。	□高度な専門知識、能力を発揮することが出来る。	□知識力、論理力、自己表現力のバランスが良く、信頼関係を築く力がある。	□豊富な経験・専門知識の基、技術の最新情報に精通し、社会に対し多面的に貢献出来る能力がある。	□各工種の専門的技術について高度な指導的能力が発揮でき、部下の育成をしている。	□常にリーダーシップを取ることが出来、プロ意識を持って全面的な責任を負う。	□常に品位の向上に努め、技術の研鑽に励み、国際的な視野に立ち、公正・誠実に行動する。
7	・技術士（各部門） ・上級土木技術者 ・環境計量士 ・コンクリート診断士	高度に専門化された知識。その内いくつかは、仕事／学習分野における知識の最前線。異なる分野の知識・理解	実務／学問分野における主体的・批判的洞察と分野横断的知識の統合。新しい知識や方法論の研究・開発・革新に必要な問題解決技能	実務／学問分野における主体的・批判的洞察と分野横断的知識の統合。新しい知識や方法論の研究・開発・革新に必要な問題解決技能	実務／学問分野における主体的・批判的洞察と分野横断的知識の統合。新しい知識や方法論の研究・開発・革新に必要な問題解決技能	実務／学問分野における主体的・批判的洞察と分野横断的知識の統合。新しい知識や方法論の研究・開発・革新に必要な問題解決技能	実務／学問分野における主体的・批判的洞察と分野横断的知識の統合。新しい知識や方法論の研究・開発・革新に必要な問題解決技能	複雑で予測不可能な課題に対する革新的な取組が求められる仕事や学習の管理。専門的な知識・実践と管理への貢献・評価	複雑で予測不可能な課題に対する革新的な取組が求められる仕事や学習の管理。専門的な知識・実践と管理への貢献・評価
		□建設業法に関わる監理技術者または同、専任技術者を10年以上歴任 □学、協会等に学術論文を発表することや、技術論文を投稿する。	□洞察力、応用力、独創性に長けている。 □主体性・実行力があり創造力に富んでいる。 □規律良く他の意見に対し真摯に傾聴し、協調性がある。	□大規模現場の監理技術者である。 □複数現場を統括管理できる。 □高度な技術的業務を担っている。	□折衝能力、交渉能力、説得能力がある。	□的確な情報収集、分析そして判断、さらに意志決定が出来、皆に信頼を得ている。	□部下の指導・監督する立場である。 □明確な現場方針を持ち、多様な関係者の利害等を調整しまとめる能力がある。	□公益を最優先した職業倫理のもと自主性・主体性、さらに責任感を持って行動する能力がある。	□自然を尊重し、安全と福祉、健康に対する責任を最優先し、地球環境の保全と活用を図る。
6	・１級土木施工管理技士	理論や原理の批判的思考を含む、仕事／学習分野に関する高度な知識・理解	仕事／学習分野で、複雑で予測不可能な課題の解決のために必要な熟練と革新を実証する高度な技能	仕事／学習分野で、複雑で予測不可能な課題の解決のために必要な熟練と革新を実証する高度な技能	仕事／学習分野で、複雑で予測不可能な課題の解決のために必要な熟練と革新を実証する高度な技能	仕事／学習分野で、複雑で予測不可能な課題の解決のために必要な熟練と革新を実証する高度な技能	仕事／学習分野で、複雑で予測不可能な課題の解決のために必要な熟練と革新を実証する高度な技能	技術的・専門的活動を管理し、予測不可能な仕事や学習の場面で意思決定を行う責任。個人や団体の専門的な開発を管理する責任	技術的・専門的活動を管理し、予測不可能な仕事や学習の場面で意思決定を行う責任。個人や団体の専門的な開発を管理する責任
		□ｺﾝｸﾘｰﾄ主任技士 □１級土木技術者 □１級舗装施工管理技士 □１級造園施工管理技士 □１級管工事施工管理技士 □１級建設機械施工技士 □１級電気工事施工管理技士	□計画力、創造力、課題発見能力が十分にある。 □ビジネスマナーがある。 □語学力がある。	□現場の安全・工程・品質・原価を全て理解し、管理する能力がある。 □予算書の作成・管理が出来る。	□マナー、協調性があり顧客はもとより、あらゆる人に対して常に好感度が高い	□トレードオフ問題に対し、分析し検討をすることが出来、合理的な提案が出来る。	□部下を指導する立場である。 □経験豊富で人格があり、部下に模範を示す能力がある。	□専門分野のプロとして、しっかりと説明責任を果たし、国際的なマナー並びリスク管理能力を発揮できる。	□業務の対象となる地域の法規を遵守し、文化的価値を尊重する。

レベル	学習者プロフィール	知識と理解	技能					責任と自律性	
			汎用的な技能	職務上の技能				自律性と責任感	倫理観とプロ意識
				専門実践技能	対人技能	分析技能	管理・指導技能		
5	・実務経験５年 （１年以上の指導監督的実務経験含む）	仕事／学習分野における総合的、専門的、事実的、理論的な知識と、その知識の批判的認識	抽象的な問題を創造的に解決するために必要な包括的な認知科学技術と実践的技能	抽象的な問題を創造的に解決するために必要な包括的な認知科学技術と実践的技能	抽象的な問題を創造的に解決するために必要な包括的な認知科学技術と実践的技能	抽象的な問題を創造的に解決するために必要な包括的な認知科学技術と実践的技能	抽象的な問題を創造的に解決するために必要な包括的な認知科学技術と実践的技能	予期せぬ変化がある仕事／学習活動の主体的管理と監督。自己と他者の業績の点検・開発	予期せぬ変化がある仕事／学習活動の主体的管理と監督。自己と他者の業績の点検・開発
		□測量士 □ｺﾝｸﾘｰﾄ技士 □２級土木技術者 □２級鋪装施工管理技士 □２級造園施工管理技士 □２級管工事施工管理技士 □２級建設機械施工技士 □２級電気工事施工管理技士	□専門知識、一般常識、社会人としての基礎力（話す・聞く・書く）がある。 □スキルアップに関わる各種資格取得に向け、前向きに取り組んでいる。	□建設従事者への安全教育が出来る。 □施工計画書の立案・指示・作成が出来る。 □建設業法が理解できている。	□伝える能力・受け取る能力（コミュニケーション能力）があり、信頼される人柄である。	□出来形管理・工程管理・安全管理をはじめ、一通りの現場管理に関して理解できている。	□部下に指示する立場である。 □チーム内の意見をまとめ、的確な判断・指示を下す能力がある。	□自己の専門的能力の向上を図り、学理・工法の研究に励み、技術の発展に貢献する。	□業務上知り得た秘密を、正当な理由無く他に漏らしたり、転用したりしない。
4	・２級土木施工管理技士	仕事／学習分野における幅広い文脈の中で事実と理論の知識	仕事／学習分野における特定の問題の解決策を産み出すために必要な一連の認知・実践技能	仕事／学習分野における特定の問題の解決策を産み出すために必要な一連の認知・実践技能	仕事／学習分野における特定の問題の解決策を産み出すために必要な一連の認知・実践技能	仕事／学習分野における特定の問題の解決策を産み出すために必要な一連の認知・実践技能	仕事／学習分野における特定の問題の解決策を産み出すために必要な一連の認知・実践技能	通常は予測可能であるが変化する可能性のある仕事や学習の文脈の中での自己管理。他者の日常業務を監督し、仕事／学習活動の評価・改善	通常は予測可能であるが変化する可能性のある仕事や学習の文脈の中での自己管理。他者の日常業務を監督し、仕事／学習活動の評価・改善
		□技術士補 □測量士補 □各種作業主任者資格	□基礎科学（数学・物理・化学）を活用している。 □職業理解能力、役割把握・認識能力、計画実行能力が発揮できる。	□各種図面が作成できる。 □数量計算書が作成できる。 □労働安全衛生法及び同規則が全て理解できている。	□報告・連絡・相談が的確に行える。	□情報の収集能力があり、的確な観察力・洞察力がある。	□上司等よりの指示、指導を受け、広い視点のもと考え方の幅や創造力を養い、技術者としての学知を十分蓄積している。	□指導を受け、責任感と自主性をもって、仕事及び専門知識の習得に専念している。	□常に専門技術の力量並びに技術と社会が接する領域の知識を高めると共に、倫理的な行動が出来る。
3	・専門学校在学	仕事／学習分野における事実、原則、プロセス、一般概念の知識	基本的な方法、手法、材料、情報の選択・利用によって、任務を達成し問題解決に必要な認知・実践技能	基本的な方法、手法、材料、情報の選択・利用によって、任務を達成し問題解決に必要な認知・実践技能	基本的な方法、手法、材料、情報の選択・利用によって、任務を達成し問題解決に必要な認知・実践技能	基本的な方法、手法、材料、情報の選択・利用によって、任務を達成し問題解決に必要な認知・実践技能	基本的な方法、手法、材料、情報の選択・利用によって、任務を達成し問題解決に必要な認知・実践技能	仕事や学習の完了に対する責任。問題を解決する際の状況に対する自己の行動の適応	仕事や学習の完了に対する責任。問題を解決する際の状況に対する自己の行動の適応
		□土木技術に対する基礎的な知見を有している。	□高等学校学習指導要綱に基づく学力・能力が十分に備わっており、且つ専門分野の知識吸収に対し旺盛な意欲がある。	□建設に興味がある。 □基礎科学（数学・物理・化学）を得意とする。	□団体活動、チーム活動の中において主導的な役割経験がある。	□物事を論理的に考える能力がある。	□表現力が豊かである。 □解決すべき問題を先延ばししない。	□社会人としての一般知識、基礎力・マナーなど、身についている。	□一般常識・マナーはもとより、相手の話を良く聞き、理解し、正確に伝えることや、素早く記録にとどめることに長けている。

資料４　国際シンポジウムパネルディスカッションの内容

令和元年度文部科学省委託事業

職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進

QAPHE国際シンポジウム2019（専門職高等教育の質保証と資格枠組）

パネルディスカッションにおける議論

一般社団法人専門職高等教育質保証機構

2019年11月26日（火）　ハリウッド大学院大学

〇パネリスト紹介（敬称略）

Zita Mohd Fahmi（マレーシア、クエスト国際大学特命教授）
Christina Ng（香港学術及職業資歴評審局、総主任/高級評審主任）
河村和彦（文部科学省総合教育政策局 生涯学習推進課専門官）
小林　浩（リクルート進学総研所長・カレッジマネジメント編集長）
坂元祥彦（一般社団法人全国動物教育協会理事、宮崎ペットワールド専門学校校長）
ファシリテーター：川口昭彦（一般社団法人専門職高等教育質保証機構代表理事）

〇発言者紹介（敬称略）

野田文香（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構研究開発部准教授）
Jagannath Patil（JP）（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構特任教授）
山中祥弘（学校法人メイ・ウシヤマ学園理事長　ハリウッド大学院大学学長）
土光律子（独立行政法人大学改革支援・学位授与機構国際課課長）

〇議論内容

川口：パネルディスカッションを始める前に、お二人の方を紹介したいと思います。まず、ナショナルインフォメーションセンター事業に関与されている野田さんに、ご挨拶いただきたいと思います。

野田：ご紹介いただきました大学改革支援・学位授与機構の野田と申します。本日、川口先生、文科省の河村様からもご案内いただきました、お手元の高等教育資格承認情報センターの資料（A4カラーのチラシ）をご覧ください。大学改革支援・学位授与機構は、2019年9月1日に、国内外における人のモビリティを高めるために日本公式の国内情報センターとして、高等教育資格承認情報（National Information Center for Academic Recognition Japan, NIC）を機構内に開設いたしました。このNIC設立の簡単な経緯と概要についてご紹介します。

背景につきましては、先ほどの河村様がご紹介いただいた、東京規約というユネスコの規約が

1

関係しています。国際的モビリティが、年々拡大しているアジア太平洋地域におきまして、高等教育の資格の承認に関するアジア太平洋地域規約と言う正式名称になりますが、東京で締結されたこともあり、東京コンベンション（東京規約）と呼ばれています。この規約では、締約骨幹として相互に高等教育の資格（学位、称号、ディプロマなどを含みます。）を承認評定できる枠組を整備して、域内の学生や研究者などの国際的モビリティを促進することを目的にしています。

日本は、2017年にこの規約に加盟し、翌年2018年に発効したことによって、NIC（国内情報センター）の設置が義務付けられていることもあって、2019年9月に立ち上げられました。現時点の東京規約の加盟国は、オーストラリア、中国、ニュージーランド、日本、韓国、バチカン、トルコ、モンゴルの8カ国になっています。

NICの主要な目的としては、高等教育資格の国際通用性を確保すること、および諸外国の円滑な資格の承認に貢献することで、A4チラシの左下枠内に示したような四つの業務内容を定めています。第一は、日本の教育制度、学位、資格（高等教育機関への入学資格なども含めて）に関する情報、そして高等教育機関の一覧、種類、そして質保証制度などについて情報を発信していくことです。特に、各機関の認証評価の受審状況も公表されていますので、この一覧リストに掲載された教育機関は国内でお墨付きを得ているということで、昨今、色々問題になっていますディプロマ・ミル、ディグリー・ミルなど、その信用度の低い学位の回避を含めまして、外国の担当者が日本の資格保有者の資格審査を行う際にその信頼性や効率性の確保につながることを期待しています。これによって、外国の方に日本の制度を正しく理解していただいて、日本の資格に対する適切な評価につながるための支援を行うことです。第二は、締約国を中心として外国の教育制度資格、質保証制度の情報を提供することを目的として、主に日本国内を対象としています。第三は、諸外国のNICとの連携によって情報共有を図っていくことです。常に情報が更新されていきますので、各国のローカル文脈の実態なども含めて、常に連携・協力体制を構築していきます。第四は各種調査研究とありますが、資格承認を含めまして、国際モビリティを高めるためのインフラ整備なども含めまして、調査を進めていく方針です。すなわち、このNICは、国内外の教育制度や資格の情報などを一元的かつ集約的にまとめたプラットフォームと言えます。これは国際的なモビリティを高めるだけではなくて、国内においても今回のシンポジウムでも話題に挙がっています、リカレント教育や人生100年時代と言われているその学び直しを進める上で、国内外での異なる教育セクター間のモビリティや接続の円滑化につながるものと認識しています。詳しくは、このチラシの右下のウェブサイトをご覧になっていただいて、ぜひご活用いただけたらと思います。以上です。ありがとうございました。

川口：ありがとうございました。もうお一人ご紹介したいのはパティルさんです。私どもは、いつも「JP」とお呼びしています。JPさんは、ご存知のように、アジア太平洋質保証ネットワーク（Asia Pacific Quality Network, APQN）さらに世界全体の高等教育質保証機関の国際的ネットワーク（International Network for Quality Assurance in Higher Education, INQAAHE）のそれぞれPresidentをお勤めになりました。現在、私が所属しておりますもう一つの組織であるNIAD-QEのゲストプロフェッサーとして滞在されておりますので、ご紹介いたします。

JP：こんにちは。ありがとうございます。このようなチャンスをいただき嬉しく思います。

三・四点についてお話をしたいと思います。最初に、大学改革支援・学位授与機構（NIAD-QE）に心からの御礼を申し上げます。1年間にわたってアジェンダを追求する教授ポジションを下さいました。アジア太平洋質保証ネットワーク（APQN）を15年間やってきました。ネットワーク設立時からAPQNに関与してきました。その間、NIAD-QEと非常に密接な協力関係を結ばせていただきました。2008年には、いわゆる千葉原則が作られた時にも一緒に仕事をしました。オーストラリアのルパートさんなども千葉原則においては大きな役割を果たされました。欧州高等教育圏における質保証の基準とガイドライン（Standards and Guidelines for Quality Assurance in the European Higher Education Area, ESG）をヨーロッパのガイドラインとして打ち出す時にも、大きな役割を果たしました。以来、とても密接な協力をさせていただいています。この時間を使って、さらに日本のQE機構、それから日本の高等機関とアジア太平洋の質保証ネットワークの関係強化に費やしたいと思っています。国際ネットワークのINQAAHEの仕事もしていましたので、カウンターパート機関との関係を強化していきたいと思っています。

それに加えて、今日も代表がいらっしゃいますが、日本インドの協力関係がとても大きな転換点にきています。両国の首相がナショナルビジョンを作ろうとしている時であります。こういった時期を得て、高等教育の日印協力を進めていくことは、非常に重要なことだと思います。2ヶ月前に来日し、それに関してはNIAD-QEの大学質保証フォーラムにおいて発言をする場をいただきました。インドは世界でもいちばん若者人口の多い国で、3600万人が大学に進学しています。日本は、高等教育機関はあるものの、残念ながら人口が減っています。学生も減っているということを考えると、この分野における交流は、日印双方にとってメリットがあると思います。高等教育の質保証レベルという点においても、非常に重要なことだと思っています。この二つのイニシアチブが非常に重要であり、とても時期を得たものだと思っています。

特に、質保証においてはそうだと思います。日本もインドも質保証のいくつかの分野において遅れを取っています。文科省の方もおっしゃったように、機能していないというわけでありませんが、制度上のことから考えると、質保証の分野に、制度化が完成していません。アメリカでも同じ様な状況も見られますが、その分野において改善の余地があります。教職員にしても、学生にしても流動性が高まっています。この流動性の高い時期において、質保証枠組は非常に大きな役割を持っています。QAPHE（専門職高等教育質保証機構）それからNIAD-QEにおいても双方が正しい方向に進んでいることは、必要なことだと思います。インドは、この10年、この点において苦労してきました。例えば、オーストラリア、マレーシアの政府などとも協働してきました。この質保証枠組のインターオペラビリティ（相互運用性）の取り組みをしてきました。国連大学あるいはユネスコのプロジェクトにおいても、うまく機能しませんでした。過去に試みましたが、うまくいったわけではありません。ASEAN質保証ネットワークにしても、こういったステークホルダーが一堂に会して、共同してきた場合のみ成功した、ということを考えると、そこに改善の余地があるように思います。その上で、私たちは大きな貢献ができると思います。

NIAD-QEの代表がいらっしゃいますので、大きな発表したいと思います。NIAD-QEは来月セミナーを開催します。そこで、インドの高等教育と質保証また日本の高等教育と質保証に関する発表がされます。12月18日に開催されることになっていますので、お時間のある方、ぜひお運びいた

だけますようによろしくお願いします。

川口：JPさんありがとうございました。それでは、皆さんからいただいた質問（添付資料　質問表の内容を参照）に対するお答えをパネラーの方々からいただきながら、パネルディスカッションを進めたいと思います

最初に取り上げたいのは、「なぜ、日本には Qualification Framework がないのですか？」という質問です。河村さんあるいは小林さんから、後でコメントいただけるかも知れませんが、National Qualification Framework なるものは、今のところありません。この理由を議論し始めると、1時間では終わりませんので、ここではしません。QAPHEでは、文部科学省からご援助いただいて、本日資料として皆さんにお配りしました資格枠組のレベル定義（レベルディスクリプター）およびその概要（日英両方で）を作成し、いくつかの分野で具体的に検討しています。これらは、Zitaさんがおっしゃったコンパラブル、国際的に通用するものと確信しています。先ほど野田さんがおっしゃったように、国際的なモビリティを高めることに寄与するものと考えています。日本の場合の一つの重要なポイントは、単に国境を越えるだけではなく、複数の教育セクター間での、相互の共通性を議論する上でも、非常に有効であると思います。現在、この枠組について、各企業の方々にもアンケートのご協力をいただいており、お陰様で非常に好意的なご意見をいただいております。最初に、QAPHEの宣伝をしまして申し訳ありませんでした。

早速、ZitaさんとChristinaさんに対するご質問をご紹介してお答えをいただきたいと思います。Zitaさんには、ASEAN諸国の高等教育における大学と専門学校の社会的位置づけについて、要するに、ユニバシティ統制から職業教育がどの様な社会的位置づけなのかという質問です。

Zita：その答え方はとても難しいです。ビッグクエスチョンですね。マレーシアについてはお答えできると思いますが、他のASEAN諸国についてはお答えができません。マレーシアでは、大学やカレッジは、大学法や私学法などの法律に基づいて設置されています。現時点において、こういった登録高等機関というのは規制上、それからライセンスなど、等しい要求を満たせなければいけません。学科に関しても、同じプロセスで評価されます。すなわち、プログラムはマレーシア資格機構（Malaysia Qualifications Agency, MQA）のアクレディテーションを受けなければいけません。そして、その後で認可されます。私学であろうとも、公立であろうとも、MQAのスタンダードは同じものが適用されます。民間の大学でも、公の大学でも、その取り扱いや待遇は同じです。同じQAのプロセス、また同じQFにもさらされています。そういった意味で、民間と公なものとは、差別化を行っていません。大学は通常、異なるレベルですけれども、ディプロマを、それからPh.D.までやることが大学に求められています。でもそれ以外のところでは、同じ資格枠組、そして質についても、同じものが求められます。

インドネシアの場合は、もう少し複雑かも知れません。彼らのシステムを見ますと、どの位の機関があるのか、そしてその管轄の省庁も違います。ブルネイのような小さい国でも同じような取り扱いフレームワークを使っています。国によって違うと思います。立法としても違うでしょう。大学は何ができるかというところでは各国違うと思いますが、今の段階ではその資格の枠組があって、そしてアクレディテーション組織を持っているところはあると思います。アクレディ

テーションを取るのか取らないのか、それは同じプロセスを通ります。なぜかと言いますと、すべてのその科目を、様々な目的できちんと認証されなければいけないからです。マレーシア以外のことは、私は申し上げられませんので、各国の方を探っていただければと思います。日本で持っているような複雑なシステムというのはマレーシアにはありません。

川口：ありがとうございました。続いて、Christinaさんにお伺いしたいと思います。二つの質問があります。一つは、内部質保証の信頼度をどのように評価をされているのかです。もう一つは、差別化の評価に対して、先ほどの小林さんの話とも関係ありますが、日本ではどちらかというと同一性の評価になりがちです。この差別化と同一化について、香港の立場から、どのようにお考えなのか伺いたいと思います。

Christina：最初の質問が簡単なので、まずお答えしましょう。内部質保証の評価ですが、これはアクレディテーションを得るためには一つの要件として課せられています。その機関のレベルにおきますと、四つのドメインが（領域）があって、内部質保証のメカニズムのところを強化するようになっています。そして、覚えていらっしゃるでしょうか。香港には七領域がプログラムのアクレディテーションにありました。その内の一つが、プログラムの質保証です。つまり私たちの方から教育機関に対して、例えば、どのようなプロセスを経て、このプログラムを開発したのか、どういうところにチェックポイントがあるのか、またはそのチェックアンドバランスのようなその原則は入っているのか、そしてまた承認のレベルはどうなっているのか、ということを伺います。したがって、この様なものが内部質保証のインジケーターとなると考えており、私たちの機関の方で、プロセスの一部として評価させてもらっています。

二つ目の質問の意味を十分には理解してないかもしれませんが、私の理解に基づいてお答えします。香港でも統一の要件というのがあります。それは、すべてのプログラム、すべてのレベルにおいて同じ基準を適用しています。同じ領域、ドメイン、そして同じ基準、そしてまた同じ要件が課されています。したがって、そのオペレーター、またその教育機関の方で、彼らがそれらの要件をきちんと合致しているということを、示せなくてはなりません。教育機関の方から、そのエビデンスを要求しなければいけないことから、私たちのアクレディテーションはエビデンスベースと呼んでいます。エビデンスを私たちの方に提供し、それをきちっと満たしているということを、示してもらわなければいけないということです。それはベースラインです。しかしながら非常に経験豊かな、そして成熟した教育機関であるならば、果たしてその差別化のやり方をプロセスに適用できるかどうか、ということを検討します。前提となっているのは、皆同じ要件が、すべての人に課されます。しかしながら、もし一部、非常に良い実績を持っている教育機関があったならば、このプロセスを簡略化することも、やっています。例えば、一部のその領域の評価をスキップしたり、またはそのレビューのプロセスを短期化したり、またより有効期間を長く設けたり、というようなことをしています。これでお答えになっているでしょうか。

川口：ありがとうございました。次は、ZitaさんとChristinaさんのお二人に同じ質問です。お二人のご講演で、二国間で資格プレゼンテーション、資格枠組があっても、やはり比較はなかな

か困難なことは明らかになって、それに対してZitaさんは、いわゆる「調和化（Harmonization）」という言葉を使ってご説明になりました。異なる国で、何か基準に共通の仕組みを構築することに対して、どの様にお考えですか。Zitaさんいかがですか。

Zita：何百万ドルもするような難しい質問ですが、その地域のその枠組を作ることは、国レベルとしてのレファレンスポイントが必要になると思います。例えば、ASEAN10カ国のASEAN Qualifications Reference Frameworkには、8つのレベルがあって、それぞれレベルの学習成果を説明することが必要になってきます。しかしその学習成果に関しては、調和を図ることにコミットをする、そしてアクションをとらなくてはなりません。その資格枠組が、その国のものと、その地域のものとに整合性が取れているのかどうかを見ることです。マレーシアとかインドネシアのものがあるならば、11の基準を活用するのであれば、どの基準を見ていって、その地域レベルで要求されているものとどれだけ整合しているのかを見ていくのです。それが「調和化」だと思います。そしてそのQAの方も同じです。その資格枠組の方を見て、そしてオペレーション的に見て、その地域のフレームワークに遵守しているのかどうかを見ていきます。これは国レベルでやらなければなりません。

つまり、その各省庁で、調和化にコミットをするのです。また、QA機関やQF機関などもコミットし、そこから教育機関レベルでも合意していくことです。ある大学のある資格が、その国の枠組に、どの様に合致し、そしてその結果として、その地域の枠組に、どの様に合致しているのかという、そういったオペレーションレベルで、下に降ろしていかなくてはなりません。そして、教育機関のレベルで、ステークホルダーの皆さんは、この調和化の結果をサポートしてくれるのかどうか、ということです。複数の層の人々が関わってくることですから、このプロセスは徐々に下に降ろしていかなければいけないもので、それによって調和化ができます。国レベルでかなりの努力が必要となります。複数の層の人々、さらに機関を通らなければいけないからです。したがって、その国の然るべきレベルの委員会で、皆が同じ方向に進むことを担保していかなければいけません。これが、調和化の実現方法です。すべての人が、このASEANやマレーシアの資格枠組が、MQAやMQFという国レベルではなくて、QRFのレベルにまで上がっていけば、と思います。これが、ASEANのQFにも合致しているというような状況に持っていきたいと思っています。このようなプロセスを現在進めています。あまりにも多くの機関や大学がありますので、関係する人たちを全部合わせて、この調和化の道筋に乗せていくことは、かなり大変な仕事だと思います。でも、プロセスが同じ国のレベルから、機関に降りて、そして教育機関に降りていく、それが意味あるものだと思います。私たちは、理論的にトップで合致していれば良いのだ、でもオペレーション現場では合っていないというのでは、良くないと思います。現場レベルまで、きちんとその地域のレベルに合っていることが大切になってきます。これが、調和化の道筋に長時間を必要とする理由です。関係者全てを同じ方向に牽引していなければいけないのです。従業員のみなさんに、その資格枠組は何ですか？と聞いても、知らない人もたくさんいると思いますので、そういった所までわかってもらうこと、そこに持っていくのが大事になります。

川口：ありがとうございます。Christinaさんいかがですか。

Christina：香港の経験をお話ししたいと思います。香港は、ASEANの国ではありませんので、AQAFあるいはAQRSのプロジェクトに入っているわけでもありません。ただ、香港の資格枠組は、AQFやヨーロッパの資格枠組を参照しました。また、スコットランドやニュージーランドのものを参照しました。どういう意味かと言いますと、「調和化」を図るわけではありませんので、お互いに完全に合致しなければならない、というわけではありません。レベルの記述に基づいてレベルを比較します。例えば、香港の枠組では7つのレベルに分かれています。ニュージーランドは10のレベルに分かれています。そこで、それぞれのレベルディスクリプターをベースにして、レベルを比較します。これが第一の作業で、第二に情報を交換します。

質保証のメカニズムについて、情報交換します。枠組だけではないというところが大切です。この質保証のメカニズムが、その質の資格枠組の元になっています。質保証がなされているということが大事ですので、参照する場合にはレベルを比較しますが、同時に、互いの質保証のプロセスも参照します。そのように私たちは行いました。完全にお互いが合致していなければならない、というわけではありません。したがって、私たちは、ASEANの国々が調和化しようとしているのと、ちょうどその半分くらいのところで折り合いをつける、という歩みになっていると言えるでしょう。

川口：どうもありがとうございました。海外から来られたお二人に質問が集中しましたが、日本の講演者に対する厳しい質問が一つあります。原文のまま読みます。「ASEANや豪州などで使われている、学習到達度に基づいた資格枠組や、職業教育分野の質保証は、学生や労働者の流動性が高まる中、重要になってきていると思いますが、日本の今後の取り組みについて、もしくは必要と考えられる取り組みについて、教えてください。」という質問について、河村さんいかがでしょうか。文部科学省としてではなくて結構です。個人的意見でも結構です。

河村：先ほど複線型教育への転換という話を申し上げましたけれども、流動性の高い社会の中で、流動性の高い教育成果というものを、どのように評価するかということについては、確かに共通的な枠組は、重要になってくると思います。現状では、この委託事業もそうですけれども、試みを実施していただいていると考えております。後は、どのようにそれを広げて使っていくかが大きな課題であろう、と思っています。少なくとも、その評価指標による評価が必要なもの、必要な相手方では、少なくとも使われるということです。非常に小さい単位では、その学校と、それを送り出す企業の間での評価は、最低限、当然必要なわけです。それが特定の、その評価指標の中で、業界でもいいですし、特定の業種でもいいと思いますが、その中で同じ指標で評価されることが広がっていけば、それをどの方向に広げていくかということについては、様々なトライアルがあると思います。最終的には、産業界なのか、高等教育機関の中なのかという方向は、様々あり得ると思いますが、有用性の中で、少しずつ広げていくということが、現状では実用的なアプローチと思っています。個人的な感想が多分に入ってしまい、お答えになってないかもしれませんが、以上です。

川口：ありがとうございました。現在、資格枠組の作成に取り組み、苦労されているのは坂元さんかも知れません。何かご意見ありますでしょうか？

坂元：はい、ありがとうございます。事例を紹介したいのですが、こちらの方でコンピテンシーディクショナリということで、愛玩動物看護師のディクショナリを作成しまして、国家資格の枠組がおおよそ決まったところで、農林水産省と環境省にこれを提示させていただきました。そしたら、全く担当される方がご存じなかった、という事例です。先ほど、省庁の壁というお話をさせていただきましたが、そもそも職業教育が、文部科学省の領域だけでいいのかっていう話が前提としてあると思います。河村さんからも、お話が出ましたように、産業界ということであれば、経産省ということになると思いますし、職業ということになれば、厚労省ということになります。また、農業従事者ということになると農林水産省ということにもなるでしょう。今日お見えになっていらっしゃる省庁は、おそらく文部科学省だけと思います。やはり認識は改めて行って、きちんとコーディネートを川口先生なんかにやっていただくと一番宜しいのかなと思います。そういうところから始めていかないと、産業教育の一体化が、実現しないのではないか、という気がしております。

川口：ありがとうございました。まさに国家資格等の話が出てきた機会に、河村さんに次の様な質問があります。「日本では、香港のように産業別機能訓練諮問委員会のようなものを作るつもりはあるのでしょうか。あるなら、それは国家資格のみ、なのでしょうか。それから職業実践専門課程で、教育課程編成委員会が、学校ごとにレベルの差がありますが、レベルの差が大きく、必ずしも業界に必要とされる人材を育成できているとは思いません。いかがでしょうか。」例えば、「香港のような仕組みがあるといいと思いますが・・・。」という意見もあります。河村さんと坂元さんの話も含めて、かなりクリティカルな質問だと思いますが、河村さんいかがでしょうか。これも個人的意見で結構です。

河村：最初のご質問は、なかなかお答えしづらいところではありますが、現在、例えばその職業能力評価みたいなものは、厚労省でやられているというものもあります。広がっているかどうかというのはありますけれども。サービス業種別のサービスガイドラインみたいなものも取り組まれたりして、各省庁、それぞれの業界とか学校などが、バラバラに行っていることは事実だということであります。その先がないわけでありますけれども、そこは研究が必要なところだとは思います。あとは、それが必要とされているかどうか、つまり実際に使う人が必要としているかどうか、ということが何より重要と思っています。

後者の職実課程の話ですが、連携する企業との間、あるいは業界との間で、ある種のミスマッチが起きているということでしょうか。ちょっとわかりませんけれども、どんな能力が身についていれば満足か、どんな能力を求めているかということについて、話をしていく必要があると思います。今日も資料の中に入れましたが、職実課程の教育課程編成委員会は、教育課程編成する際に、当然企業委員が入って、そこで一緒に議論をしてもらうという趣旨ですが、やはりその人材像です。潜在ニーズがどこにあって、どのような目標を立てるかというところから、企業とか

産業界に入っていただくことも重要ではないかということが、今日のマネジメントサイクルで示したその資料の問題意識だったわけです。これからは、特に、そうした視点、つまり学校の教育目標そのものの中に、企業とか、産業界の意見を入れていくという視点が重要になってくると思います。なかなか直接的なお答えになってないかもしれませんが、この様に感じております。

川口：ありがとうございました。非常に難しい質問を発してみまして、失礼いたしました。Zitaさんからご意見がある様ですが・・・・。

Zita：国家資格枠組は、どんな資格があるのかという、分類の仕組みだと思います。幅広く、どういった種類のものがあるのか、これは特定の産業や、分野に特定されるものではなく、学習アウトカムとして、それぞれのレベルの精度が、どのレベルのことができるのか、ということを明確化したものだと思います。そういったことを統率する枠組です。多くの国においては、サブフレームワーク的なもの（副次的な枠組）を合わせて作ります。副次的な枠組というのは、分野ごとに作るとか、例えば社会学その他、それぞれの学習分野ごとに、副次的な枠組などを作るわけです。その上にあるのが、国レベルの大枠の枠組です。分野ごとにそれぞれの特定のニーズや、文脈ごとにサブフレームワークを作る、例えば職業枠組などもそうです。学習アウトカムにおいては、例えばラーニングアウトカムや、産業ニーズを反映させることはもちろんですが、その中には、それぞれコンピテンシーなり、スキルの記述が必要になってきます。そのようにして国の資格枠組と、産業のニーズとの間には、もちろん空白がありますよね。ですから、それぞれの分野ごとに文脈化していく必要があると思います。この業界ではこういったスキルが必要だとか、そういったことは十分文脈化できるのではないかと思います。例えば、職業ベースあるいは分野ベース、それぞれのニーズは、いろいろあると思います。そういったものを大枠の下に、副次的なサブフレームワークとして作ること、それから国で合意された枠組を作ることです。多くの場合、こういった資格枠組を、申し上げたような形で持っていない国もあります。ただ、資格の慣行や規範といったものを持っている場合もあります。例えば、エントリーポイントはこうだとか、何単位だとか何時単位に関しては明確化していますが、資格枠組にまではなっていません。

川口：Christinaさんも、この資格枠組あるいはこれまでのご経験に照らして、ご意見あるいはご提案があればどうぞ。

Christina：産業別教育訓練諮問委員会（Industry Training Advisory Committees, ITAC）は、実際、業界として、例えば老齢ケアに対して例を挙げます。老人ホームで働く人々というのは登録をしないといけないのです。社会福祉省に登録をしなければいけません。ITACに関しては、この社会福祉部門で、どの様な訓練が必要か、とか、人材の資格について、明記をしているわけです。このような形で、香港のITACではやっています。国レベルの資格枠組があって、これはいわゆる分類という意味で、一番大きな資格を、それぞれがレベルごとに分類したものです。資格を、レベルによって分けるわけです。そのレベルの下に、産業別のスタンダードを決めていく、基準を決めていく、というものがあり得ると思います。この基準に関しては、シンガポールのよ

うに、ディスクリプターを決めていけばいいのです。シンガポールは、資格枠組は持っていないのですが、とても詳細なそれぞれの仕事、職業ごとに、ディスクリプターを持っています。そのようにして、職能とか、スキル、それからコンピテンシーの必要なものを、それぞれの職能レベルごとに決めています。これも、もう一つのアプローチではないかと思います。

川口：今までの議論も踏まえて、東京規約により2019年にNICが発足しましたが、実はユネスコの地域条約については、10年以上前にバンコク条約がありましたが、それは日本ではうまく進まなかったわけです。いろいろな理由があると思いますが、多分、一つの理由は、さっきから出て来た省庁の壁と言ったらいいでしょうか、おそらく、日本の今までの伝統的な文化根拠もあるゾーンごとに固有の考え方があるわけです。その辺は、先ほど小林さんも触れられましたので、小林さんの方からご意見ありませんでしょうか。

小林：どこから手をつけていったらいいかという話があると思いますが、香港の産業別職業訓練諮問委員会は、すごくわかりやすくていいな、と思いました。私は、2002年頃、経済同友会という日本の経済団体に出向して、教育の研究をしていました。その時に、当時は日本がすごく不況で、若者が自立できなくて、引きこもりになってしまうのが、社会課題になっていました。その時に、NQFみたいなのを作って、ちゃんと職業訓練をして職に就ける、というような、つまり履歴書に、自動車免許、英検2級とかと同じように、このレベルを書けて、教育機関で訓練を受けて、ちゃんと就職できれば、というのを検討しました。それができていれば、今の40代のあんな引きこもり問題は起きなかったのではないかなと思ったりします。そうした分かりやすいところからやっていくと。

企業は、今までジェネラリスト養成で、これメンバーシップ型と言うのですね。メンバーシップとして迎えて一生仲間で行くという考えで、転職をしなかったのです。それに対して、ジョブ型と言われるタイプでは、転職しながら技を磨いていくのです。このジョブ型は、わが国ではあまりなかったわけですが、看護師とか美容師などの限定された業界では資格が分かっていれば、ジョブ型も可能だったわけです。最初の川口先生のお話のように、これから分野が融合してきた時に、あなたはこの業界で何をやっていたのだとか、この職業訓練機関で何を身につけたのだ、ということが分かるようにしていかないと、なかなか横に融合が進んでいかないと思います。これは省庁だけじゃなくて、業界も縦割りのまま進化して行かない、ということになると思います。ここら辺のところを、全体は難しいと思うので、できる分野からやっていったらいいのではないかというのが第一点です。もう一点が、先ほどご紹介いただいた東京規約に基づくNICです。これすごくいいと思いますが、一方、日本では大学ポートレートというのもやっていて、アメリカのカレッジポートレートみたいに、大学の情報を入れて高校生とか保護者とかが見る、と言う前提です。しかしながら、ほとんど見られていないというのが実情であって、NICとポートレートが両方走った時に、河村さん、どういう位置づけに、情報発信としては、日本としては、なっていくのでしょうか。ポートレートの方も英語でも発信して行こうと言っています。なんかもったいないなぁ、と思っているのですが、いかがでしょうか。

川口：河村さんお願いします。

河村:ポートレートも、実は委託事業で、専門学校もお願いしていますので、川口先生から答えていただいた方がいいかもしれませんが、役割分担が難しいというか、どっちがどうだと言ったら違うのですけども、少なくとも国内情報センターは、国内はもちろんですけど、海外ですね、外向けに発信されているというところは大きく違うだろうということで、こういう言い方はおそらく適切ではないかもしれませんが、対象が違うだろうと思います。お答え足りないような気がしますので、先生お願いします。

川口：こちらに矛先が回ってくるとは予想していませんでした。河村さんが言及されたように、NICが発信する情報は、まさに資格の話です。一方、ポートレートは、各教育機関に関する詳細かつ多様なデータを発信するツールです。決して一方がありさえすればいいという話ではないと思います。ですから、私どもは、大学と同様に、専門学校もポートレートを作成する作業を進めやすくするために、フォーマットを提案しています。わが国の現状では、詳しいデータは、大学とか専門学校の中では見られていますが、高校の先生達は、ほとんどそれらを見ていない様です。どうもその辺までも縦割りになっているのですかね。ポートレートや資格枠組などが、もっと社会の中で理解される必要があります。例えば、企業の方がこれらを見て、「この人はこういう能力を持っているのだ。」と。単に「こういう資格を持っている。」だけではなくて、一人ひとりの能力が明確に伝わる必要があると考えています。この議論をする直前にZitaさんが、マレーシアも同じような状況だと仰って、各国でも難しい問題を抱えており、大仕事ではないかと思います。しかし、私の開会挨拶で申し上げたように、日本の高等教育が世界の中で羽ばたくためには、高い知的流動性が求められるでしょう。そうでないと、先ほど小林さんがおっしゃったように、日本の文化が、どちらかというとこの中に閉じこもってしまう傾向があることが心配です。ある経済学者が、日本の国のサイズ・人口それから生産性は、この国の中で完結できる状況だったそうです。でも、これからのグローバル社会では、そういうわけにいかないわけですから、もっと知的生産性、知的多様性そして知的流動性を高める必要があります。
　残り時間が少なくなり、フロアーからご意見いただきたいと思いますが、ご紹介できなかった質問の中で、オンライン学習に関して、Christinaさんにご質問をされた方がおいでです。オンライン学習問題に特化されていますから、ご自身からご質問していただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

質問者：ご講演の最後の方で、詳細には言及されていなかったのですが、「評価機関等々もオンライン学習等々に積極的に乗り出した。」とおっしゃっていました。そのオンライン学習評価のポイントに興味がありまして、ご質問しました。

川口：はい、ありがとうございます。Christinaさんどうぞ。

Christina： そうですね、オンラインまたは対面の学習であったとしても、これはあくまでもプ

ログラムの種類の一つだと思います。オンラインであっても学習プログラムの一つです。なので、同じ基準が適用されると思います。対面式の学習であろうと、オンラインであろうと、同じ基準が適用されます。違いは何かというと、どのようにその学習が提供されるかというデリバリーのところです。カリキュラムの設計、教授、学習、サポートなどが、良いプログラムの要件となります。これがもしオンライン学習のプログラムであるならば＋αの要件がかかってくると思います。例えば、きちんと確立された学習プラットフォームがあるか、とか、学習者の偽のIDを検証するようなメカニズムを入れる、とか、テクニカルサポートがあるかどうか、学生側のオンラインのサポートがあるかどうか、こう言ったものは所謂私たちが言うところの追加要件となります。なので、同じそのドメインの中で、私たちは追加の要件を課す、ということをオンラインのプログラムの時には行います。エビデンスガイド（https://www.hkcaavq.edu.hk/files/review-of-standards/revised-accreditation-standards/Evidence_Guide_Academic_Accreditation_v1.0_20180406.pdf）として、私たちが発行した一覧中に入っています。私どものウェブサイトを開いて、エビデンスガイドを見ていただきますと、私がお見せした例、通常のエビデンス、プログラムの時はこういうエビデンス、紫の枠のところに、皆さんのプログラムがオンライン上であるならば、これだけのそのエビデンスを追加として出してください、という風に書かれてあります。

そのオンラインのプログラムをどの様に評価をするか、ということですが、一つ、私が申し上げなかったのは何かと言いますと、アクレディテーションを行う時には、いわゆるピア・レビューの原則を提供しています。私たちの機関の方では、全部のプログラム、全部の業界を理解しているわけではありません。あまりにも多数のものが存在しています。そして、どのような要件、どのようなスキルが必要なのかということが、かなり多様化しています。したがって、申請を受け付けるたびに、私たちは、その申請をレビューしてもらう作業チームを作っています。作業チームには、その申請がきたところと同じ業界の人や学術業界の人たちなどを入れて、このメンバーの間で専門性を持って、その判断を私たちがする時に、助けてもらいます。例えば、オンラインのプログラムの場合ですと、最低1人、作業チームのメンバーとしてオンラインのシステムのレビューができる人を入れています。そういった形で評価をしています。

川口：ありがとうございます。最後に、大変難しい質問をしたいと思います。職業の高等教育機関は、低出生率の国ではどのように貢献できるでしょうか。そして持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals, SDGs）には、どのように貢献できるのか、そしてまた、持続可能な将来に対してどのような貢献ができるのでしょうか。小林さん、何かコメントがございますか。

小林：ありがとうございます。SDGsについては、今、小中学校が盛んに取り組んでいますし、中学校の総合学習の時間とか、今年から探究の時間というのが始まっています。このように、いわゆる身近なことから社会課題を解決していくような、中学生の授業で始まっています。逆に、それが年次進行で進んで行くと、そのような学生を受け入れる側の高等教育機関がどうするか、というようなところがポイントになってくると思います。日本でも、この2～3年SDGsを中期計画と

か学校のビジョンの中に入れるところが増えてきました。ただ、SDGsには多分17項目あったと思いますが、なんか全部やるみたいな形で書いてあるのです。そうではなくて、本校あるいは本学は、どこをやるのかという、例えば、環境問題なのか、地域の問題なのか、どれを解決するのかというのを、もうちょっとコミットメントをわかりやすくして、社会に発信して行くとか、あるいは、それを授業とか、プログラムの中に、組み込んで行くということが重要なのではないかと思います。

川口：ありがとうございました。かなりそれぞれの国のローカルな話も、質問も、いくつかありましたが、出来たらこの後、一応、情報交換会がありますから、その時に直接、お聞きいただければ、と思います。最後に、書き忘れた、これだけはぜひ聞きたい、という質問が、もし、ありましたら、どうぞ挙手をお願いたします。はい、土光さんどうぞ。

土光：大学改革支援・学位授与機構の土光と申します。野田先生の下で、NICの担当をしている者でございます。先ほど小林先生のご質問にあった補足の情報を、ご参考までにお伝えさせていただければ、と思います。ポートレートとの違いですけれども、ポートレートは任意参加ということで、100%の大学や短大が参加しているわけではありません。NICは、国際規約で求められているすべての高等教育機関の情報を、出さないといけないということで、大学、短大、専門学校や高等専門学校の情報も含めて、提供しております。ポートレートは非常に詳しい情報を提供していますけれども、NICの掲載している高等教育機関は、外国の方がすぐシンプルに検索できるということが必要になってきますので、厳選された少ない情報を提供しております。例えば、大学名とか、入学するための資格、それから卒業後にどの様な進路を取るかという情報だけで、各大学の情報量は、1ページ程度となっております。また大学ポートレートにも、リンクを貼ってありますので、ご指摘の部分は重々承知しておりますけれども、ホワイトリストということで、すべて我々のページへ載せて、詳しい情報はポートレートとか各大学のページを見てもらうということで、ご活用いただければと思っております。説明の機会をいただきまして、ありがとうございます。

川口：私の説明不足を補っていただき、ありがとうございます。他にございますか。山中さんどうぞ。

山中：終盤になりましたが、このNICで、専門学校が公式に大学と同じ高等教育という枠組の中に入ってきたのです。これがどの様に、海外にもですけど、国内でどう使われるのか、という点が課題ですね。ただ発信しているだけで、誰が活用するのか、本当に必要としている人が誰なのか、ということです。さらにもう一点、この第三者評価をみんな必死になってやっているのですが、膨大な努力とエネルギーを注ぎ込んでいるにもかかわらず、誰がそれを活用しているのか、という問題です。一番活用して欲しいのは、これは高校の進路指導とか、採用側の教育の質の評価などに使われるべきだと思いますが、高校の進路指導にも使われてない、採用側にも使われてない、というのが現状でしょう。

学校選択の要素として、大学進学は、先生のアドバイス、高校進学者はオープンキャンパスなどありますが、本当は進路選択の重要な指標として、第三者評価結果をもっと活用すべきです。採用側も当然、まさにアウトカムズ、せっかくやってるのをもっと活用する必要があるでしょう。これは文科省にも責任はあるかと思いますが、お互いにもっと重要性を認識するだけではなく、これを社会にどう活用していくか、大学は偏差値主義ですから、評価なんか見ていませんよね。だから、せっかくのこの公的な評価を、いかに社会の人の移動に活用するかというのは、今後、課題と思いますが、小林さんどうでしょうかね。

小林：私も大学の評価もさせていただいていますけれども、ほとんど「不可」がないのですよね。なので、JISマークじゃないですけれども、何が良くて何がダメなのかっていうことが、ほとんど一般の人には分からないのですよね。例えば、レーダーチャートみたいに、この大学あるいは専門学校は、ここがすごく良くて、ここはちょっと課題だけど等の情報が一目でわかるようになっていれば良いと思います。大学の認証評価で「不可」が出たところが、今度、公立大学になって生まれ変わって、すごく倍率が上がっている、みたいな状況が起こると、何のためにこの評価があるのでしょうか、と社会から思われます。「評価疲れ」の問題もありますから、何かわかりやすい共通の基準を示してJISマークみたいなマル適マーク的なものになっていくと、わかりやすいでしょう。すごく、本当にシンプルに三段階ぐらいで、わかりやすく表示しないと、一般の方々には、なかなか認識されないのではないかな、と思いました。

川口：大学評価を最初やり始め、また専門学校もやった立場からすると、大変厳しい質問、質問というかコメントで、正にその通りです。例えば、私が最初に始めました大学認証評価に関して、毎年アンケート実施していますが、その結果の一部をご紹介したいと思います。大学認証評価の目的は、大学の教育研究活動の、①質保証、②改善に資する、③アカウンタビリティの三点です。アンケート結果を分析すると、第一の質保証および第二の改善に資するについては、初期の目的は達していると判断できます。しかし、大問題は第三のアカウンタビリティです。どう見ても、社会でそれが活用されているとは、残念ながら言うことができません。評価を実施した機関自身がアンケートを採っているわけですから、当然、イエステンデンシーを割り引いて考えなければいけません。すなわち、「アカウンタビリティを果たしている。」という回答は50%程度に止まっていますから、相当問題であると考えざるを得ません。この状況を改善していくことが、これからの課題です。

最初の大学評価を始める時に、私は「評価文化」をいう言葉を言い出して、評価文化の醸成・展開、定着、そして成熟の三段階を考えました。「醸成・展開」とは、まさに評価を始めて社会に根付かせる作業です。「定着」とは大学がそれをちゃんと活用するようになる状況です。ここまでで、十数年経っているのですね。次のステップは「成熟」で、これは評価結果を社会がちゃんと利活用できる段階です。山中さんや小林さんのコメントは、評価文化の成熟に対する要望で言えます。せっかくこれだけエネルギー使ってやるわけですから、ちゃんと社会を納得させる必要があります。

大学評価結果を私どもが最初に公表いたしました時には、文部科学省の会見室で、私と当時の

機構長二人で記者レクを行なった時は、記者の方から「もういい」と言うまで席を立たないで、3時間以上、記者連中と話をしました。ところが、2年目から来てくれないのですね。どうして来ないのだと尋ねたところ、だって面白くないという返事でした。1年目は「×」をつけたところがありましたが、2年目から、みんな「○」か「△」だったのです。どうも社会は、この様に評価を見ているわけですが、それが評価の目的ではないとすると、評価文化成熟のための模索が続いているのが現状でしょう。大学だけではなくて専門学校も同様と思います。この辺をどの様にデザインしていくのか、これがやっぱり、これから大問題ではないかと思います。
　最後に、JPさんコメントをお願いします。

JP:ありがとうございます。質問ではありません。とても面白い方向に会話が進んだと思います。QAをうまく活用するのが、アクレディテーションそのものの話だと思います。QAもしくはアクレディテーション機関は、それほどなかなかセクシーではないですね。ランキングの方がホットなトピックになります。ランキングという話になると、政府や大臣がいろいろな時に取り上げます。これは、QA活動などと比べると気軽にできる活動だと思います。ただ、そのシンプルでビッグすることができる、そしてまたセンセーションであるのが、いわゆるランキングだと思います。一方で、QA活動にはセンセーショナルなリズムがありません。けれども深刻、かつ、重要な作業であります。真剣に取り組まなければいけません。そしてまた、私たちは、このランキングは、もはや自分たちに関係ないのだということで目をつぶって、QAが社会にとって大切だ、という精神のもとで活動していかなければいけないと思います。

川口：このパネルディスカッションの締めとなるコメントをJPさんありがとうございました。

添付資料

質問票の内容

●講演者に対するご意見やご質問等

講演者	ご意見・ご質問
Cristina Ng	HKCAAVQ は VPET の分野で「オンライン学修」も積極的に開発していることに触れていることについて、 Q1.香港においてオンラインで学習することにどれだけ学習者が価値を感じているものなのでしょうか？ Q2.また、オンライン教育の質的な評価はどのようなポイントで高いとされるのでしょうか？
Zita Mohd Fahmi	ASEAN 諸国の高等教育における大学と専門学校の社会的位置づけについて
Cristina Ng	・内部の質保証評価の信頼度をどのように評価するか。 ・差別化の評価に対し、日本ではしばしば同一性の評価になりがちと思うが、差別化と同一化について世界の状況からして、どのように考えるか。
Zita Mohd Fahmi Cristina Ng	各国間の資格枠組のレベル定義について： Dr. Zita M Fahmi (Malaysia) Level1～8 Dr. Cristina Ng (HongKong) Level1～7 2 国間の presentation により、資格枠組の比較困難さが明らかになった。 これについて Dr. Zita は『調和化』という文言を使用して説明したが、異なる国間で、何を基準に共通な仕組みを構築していくのか？
	質保証において、知識、コンピテンシーについては IT 技術等でカバーできる部分が考えられるが、いわゆる非認知能力についてはそれを保証できるもの、教育の手法として、何か注目すべき情報はございますでしょうか。
河村 川口	・ASEAN や豪州などで使われている学習到達度に基づいた資格枠組や職業教育分野の質保証は、学生や労働者の流動性が高まる中、重要になってきていると思いますが、日本の今後の取組みについて（もしくは、必要と考えられる取組みについて）教えてください。
河村	日本では香港の産業別教育訓練諮問委員会のような物を作るつもりはあるのか、あるなら、それは国家資格のみなのか。 私には職業実践専門課程の教育課程編成委員会が学校ごとにレベルの差が大きく感じられ、必ずしも業界に必要とされる人材を育成できているとは感じられない。香港のような仕組みがあると良いなと思いました。
Zita Mohd Fahmi Cristina Ng	・How do you link HK's QF to other countries? ・How often do students go to vocational schools after earning a BA degree?
河村	Why doesn't Japan have a qualification framework?

●総括討論で取り上げてほしいトピックや登壇者にご質問等

How can professional Higher Education contribute to ①　the countries with lower birth rate and to ②　sustainable development goals(SDGs) for a sustainable future?

資料５　国際シンポジウムにおけるアンケートの内容と集計結果

令和元年度「職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進」

学修成果の測定に向けた職業分野別コンピテンシー体系の研究

QAPHE国際シンポジウム2019
専門職高等教育の質保証と資格枠組
アンケート結果

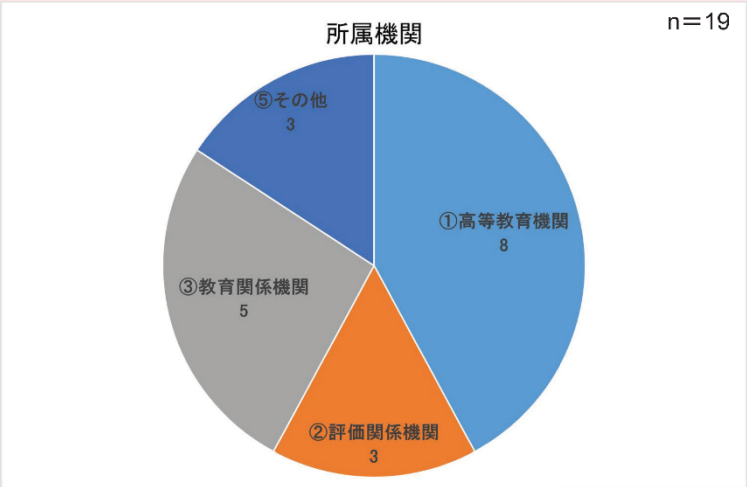
2019年11月26日に行われた国際シンポジウムで
実施したアンケート結果を紹介した文書です

一般社団法人専門職高等教育質保証機構

2019年12月20日

参加者

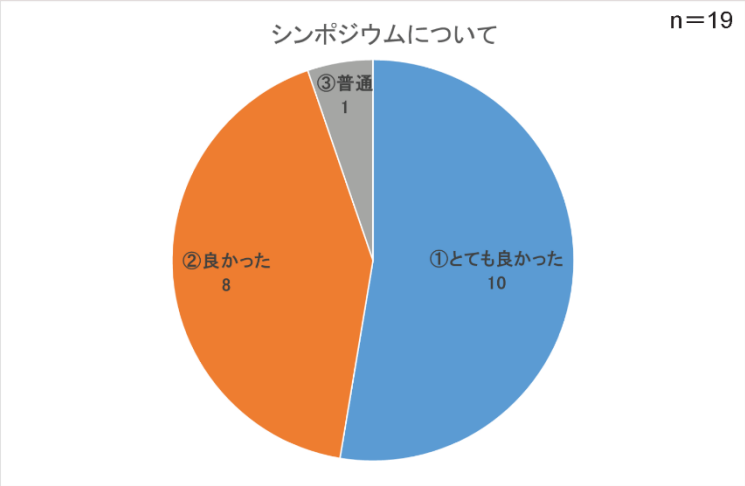
- 一般参加申込者　30名　（うち　専修学校関係者　18名）
- その他参加者　　8名



1

全体評価

■ 1人を除いて「とても良かった」「良かった」
→高い評価をいただいた



2

全体評価のフリーアンサー

○ 参加して良かった。大変勉強になりました。

○ ・資格枠組と質保証の関係、学術と職業教育のブリッジなど、大変勉強になりました。
○ ・QFをテーマにしたのは、とても意義あることだと思いました。

○ 行政、学校、評価側（日、マレーシア、香港）教育サービス産業の異なる視点からの見解は面白かった。
○ 外国の例で日本の状況が浮き彫りになったのはよかったと思う。"

○ 他国の取り組みがよくわかりました。

○ 久しぶりの本格的な国際シンポジウムでした。

○ 最先端の動向がわかり大変勉強になりました。大きく進んだと驚く面がある一方で、昔からの問題が相変わらず残っていると思いましたが、少しずつ道具立てや社会的条件も揃いつつあると思います。これからが勝負だと思いました。

○ 色々な国、分野の現状、課題が知れて、大変興味深かった。

○ ・改めてASEANの連携が理解できました。
○ ・その上で、日本の実態が悲観的に思えました。
○ ・HongKongのお話はとても勉強になりました。

3

全体評価のフリーアンサー

- ○ 香港のC.Ng女史の説明において、専門職教育においてレベル設定や教育ステップが実に上手く構築されていることに関心を持ちました。
- ○ このような仕組み(プラットフォーム)を作るのが日本(人)は実に下手と感じますが、素晴しい事例が隣国にあるにも関わらず、それを取り込もうとしなかった理由は一体どこにあるのでしょうか？とても勉強になったシンポジウムでした。
- ○ マレーシア、香港の先進的な事例が伺えてよかったです。
- ○ ASEANの動向を大変興味深く聴かせていただきました。
- ○ ASEANの動向が聞け大変良かったと思います。
- ○ きちんとした制度的なご説明のもと、日本と香港、ASEANの比較ができました。日本制度、職業教育の目的がさらに体系立てて理解できました。
- ○ （右のような図を描いていただいた方も）

4

職務等に役立ちそうな点。今後計画している取組

- ○ 学修成果が単位・卒業よりも大事である点であり、知識、スキル、態度（＋コンピテンシー）を獲得したかを測り評価するシステムの構築が重要と感じた。
- ○ 資格、学修成果について、評価をどのようにするかは課題
- ○ 今回のテーマは学内で共有したいテーマであるが、私が説明しきれるのかなと思いました。
- ○ SDGs
- ○ 文科省の今後の取り組み、課題について
- ○ 各施策がどのように受け止められているか、様々な視点からコメントが聞けて有益であった。
- ○ 中期の学園計画の設計にとても参考になります。
- ○ 教育の質保証の重要性を理解できたので、単に同業他校との差別化ではなく、第三者への客観的評価そのものとして取り組む主旨をもって、改めて自校のスタンスを確認したい。
- ○ このご質問は正鵠を射ていると思います。現在既に、相当数の留学生を受け入れております。もっと考えてみます。

5

感想、今後に期待するテーマ、当機構へのご意見

- 内容の深い、大変勉強になるシンポジウムでした。ありがとうございました。
- 日本版のQFを作るイニシアティブを取ってはどうでしょうか。大学と専修学校の接点を明確に、かつ容易にしないと、これからの少子化、人口減社会には対応が難しいと思う。
- 高校生の進路選択行動や企業の採用行動が大学／専門学校での学びやアウトカム・ベースになるには何が必要か。
- ありがとうございました。
- 香港、マレーシアを始めとしてASEAN諸国のQFの構築がすでに進んでいる中で、日本の取組みが先進国の中でも格段に遅れていることにショックを受けたシンポジウムでした。
- 数の上で乱立する大学、専修学校ですが、極めて教育の内容が学習者にとっては満足と感じられる環境にないとしても、あまり整備されてきていない状況かと思います。
- ありがとうございました。

6

資料 6　学修成果測定の手引き

「資格枠組のレベル定義」から職業分野ごとの「学修成果測定指標」へ

■ 定義

□ **資格枠組のレベル定義**（レベルディスクリプター）（以下、「LD」）

- 本事業において、EQF（欧州資格枠組）など各国のNQFと整合するものとして作成された資格枠組とそのレベルの定義を記したもの
- レベルは8段階に区分。各区分における人材像をイメージするための「学修者プロフィール」も記述
- 項目属性として「知識と理解」「汎用的な技能」「職務上の技能（専門実践技能、対人技能、分析技能、管理・指導技能）」、「自律性と責任感」「倫理観とプロ意識」に区分

□ **学修成果測定指標**（以下、「LOMI」）

- 職業分野-職種ごとに、人材のレベル・項目属性を定義したもの
- 職業分野や職種として何を取り扱うかについて制約は設けない

■ LOMI作成の考え方

□ **LDとの整合性**をもつ

- LDを絶対のものとして位置付ける（LOMI作成過程でLDのレベル設定の解釈を変えてはいけない）
- トップダウンアプローチが原則も、詳細を決める上で既存の資格体系など参照可能

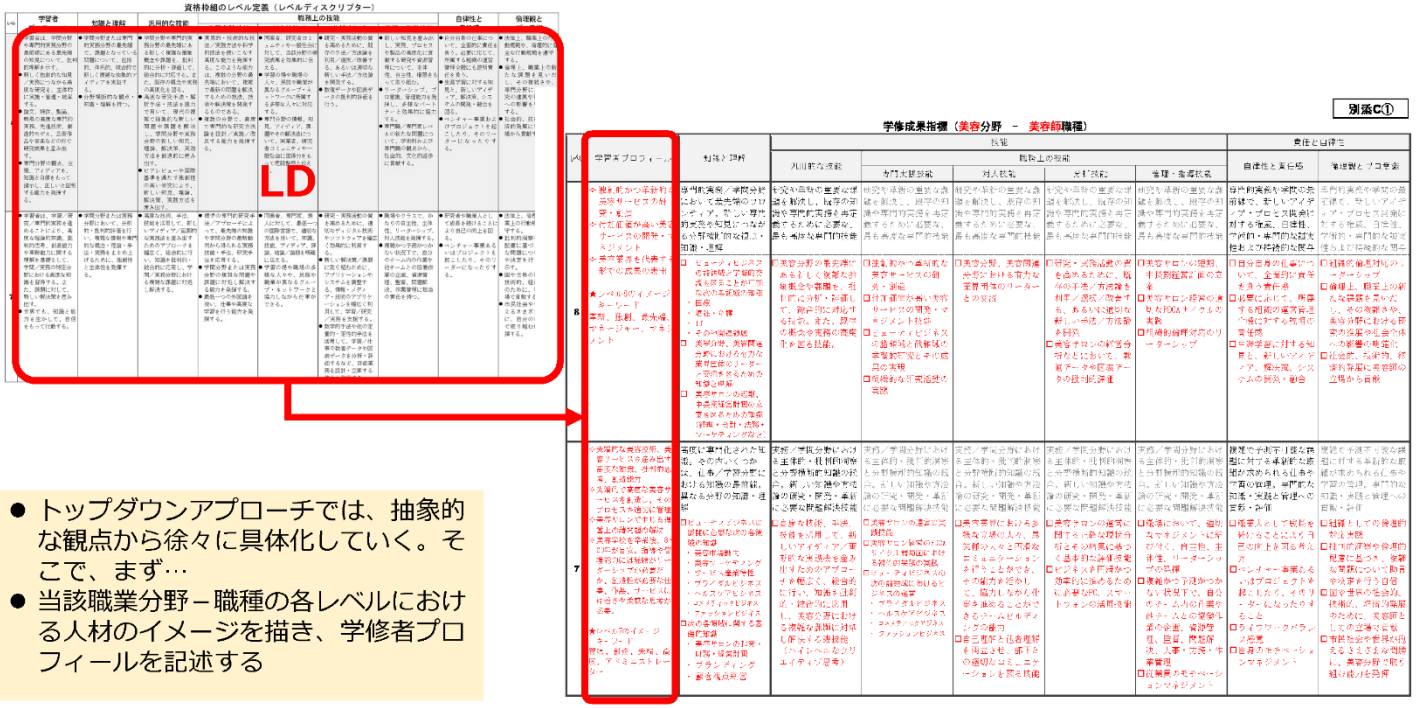
□ **学校教育現場、社内教育現場における活用**を考慮する

- 人材の評価につなげやすいもの
- 具体的な学修目標として位置付けやすいもの

一般的に想定される手順

■ ①　学修者プロフィールのイメージを形成する

- □　トップダウンアプローチに従い、LDの記述をもとに、当該職業分野－職種の各レベルにおける学修者プロフィールをイメージする



- トップダウンアプローチでは、抽象的な観点から徐々に具体化していく。そこで、まず…
- 当該職業分野－職種の各レベルにおける人材のイメージを描き、学修者プロフィールを記述する

一般的に想定される手順

□ 学修者プロフィールのイメージ化の方法（１）

- **既存資格体系を参考にする**

土木・建築分野－土木施工管理職種の例

レベル	学修者プロフィール
8	・博士（工学） ・技術士(総合技術監理部門) ・特別上級土木技術者
7	・技術士（各部門） ・上級土木技術者 ・環境計量士 ・コンクリート診断士
6	・１級土木施工管理技士
5	・実務経験５年　（１年以上の指導監督的実務経験含む） ・２級土木施工管理技士

- 土木・建築分野では、工事の公共性に鑑み、難易度の高い国家試験が体系づけられている。また、特に、土木分野の場合、土木学会が技術的にレベルの高い資格試験を実施している。したがって、これらの資格の取得は、技術取得の目標として定着しており、資格保有者を各レベルの学修者プロフィールとしてイメージすることに違和感がない。
- このような職業分野においては、特に、「知識と理解」「職務上の技能」などについて、既存の資格体系を参考にして学修成果測定指標を作成することが可能である。
- なお、このとき、参照する資格は必ずしも国家試験である必要はない。国家試験であれ民間試験であれ、当該業種において一般に認められたものであれば、LOMI作成の根拠として有用である。

一般的に想定される手順

□ 学修者プロフィールのイメージ化の方法（2）

- **具体的な人物をイメージする**

＋ 具体的な人物

ゲーム・CG分野－ゲームクリエイター職種の例

レベル	学修者プロフィール
8	□ 先端技術もしくは五感制御における技術応用の研究成果 □ ゲームデザインに関しての学術研究成果の発表経験 □ ゲームにおける論文査読立場と、自身の研究成果と学術指導経験 □ ゲームにおける書籍、論文の発表 □ 応用技術をタイトルに実装した経験 □ ワールドワイドカンファレンスでの発表経験
7	□ 先端技術の応用事例の指導 □ 五感制御における応用事例の指導 □ ゲームデザインの学術研究における論文発表 □ ゲーム制作における体系的な指導経験 □ ゲーム制作における指導的役割での発表 □ 市場向けタイトル開発経験 □ ワールドワイド技術カンファレンスでのセッション発表経験
6	□ 先端技術の知見 □ ゲームデザインの論文発表経験 □ ゲーム制作におけるチームビルディングのマネジメント経験 □ ゲーム制におけるエンジニアとマーケティングの役割と知見 □ チーム、個人におけるゲーム制作の指導の経験と知見 □ 技術カンファレンスにおけるセッション応募経験

- ゲーム・CG分野は、比較的新しい職業分野であることもあって、資格試験など、既存の能力評価基準が存在しない。
- また、本事業で対象とした美容師職種や認定動物看護師職種なども、国家試験ないし認定試験は専門学校卒業時に受験するものであるから、それはLDのレベル4に相当するが、レベル5以上に相当する既存の資格試験や能力評価基準は存在しない。
- このような場合、LDの内容から具体的な人物を挙げ、その人物はどのレベルにあるかを検討し、その繰り返し作業を通じて、LDのレベル・項目属性を定義していく方法が有効である。
- ともすれば、抽象的なLDの表現にこだわっていると、LOMIのほうも抽象的な思考になり、なかなか具体的なイメージがわきにくくなることに注意したい。

動物分野－認定動物看護師職種の例

レベル	学修者プロフィール
8	・博士（生物学） ・動物看護師長 ・チームマネジメントと一定水準以上のジェネラルな能力開発 ・専門学校(2)卒後20年経過
7	・動物看護主任クラス ・チーム獣医療における中核人材 . 専門学校(2)卒後15年経過
6	・自立して臨床実践ができる ・専門(2)卒後10年経過

具体的な地位の名称を挙げるのも一つの考え方

一般的に想定される手順

□ 学修者プロフィールのイメージ化の方法（2）

- **具体的な人物をイメージする（つづき）**

＋ 具体的な人物

美容分野－美容師職種の例

レベル	学修者プロフィール
8	✧ 独創的かつ革新的な美容サービスの研究・創造 ✧ 付加価値が高い美容サービスの開発・マネジメント ✧ 美容業界を代表する形での成果の表出 ★レベル8のイメージキーワード 革新、独創、最先端、マネージャー、マネジメント
7	✧ 先端的な美容技術、美容サービスを産み出す高度な知識、批判的思考、創造能力 ✧ 先端的で高度な美容サービスを創造し、そのプロセスを適切に管理 ✧ 美容サロンで生じる運営上の諸問題の解決 ✧ 美容学校を卒業後、8～20年が目安。指導や管理能力には経験がリーダーシップが必要だが、創造性が必要な仕事、作品、サービスには若さや柔軟な思考が必要。 ★レベル7のイメージキーワード 管理、創造、先端、高度、アドミニストレーター
6	✧ 革新的で創造性に富む高度な美容サービスの創出に必要な、広範囲で体系的な知識・技能 ✧ 美容サロンで生じる広範囲な問題を解決 ✧ 美容師としての誇りに裏付けられ、優れた指導力を駆使した後進の育成 ✧ 顧客への提案 ✧ 美容学校を卒業後、5～15年を想定。スタイリスト歴5～10年程度の経験。 ★レベル6のイメージキーワード 「教える」、トレーナー、インストラクター

カリスマ美容師的や、美容サロンのカリスマ経営者などを具体的に挙げ、そのイメージとLDの記述を対比させて、このようなイメージキーワードを列挙してプロフィールを描くのも一つの方法

一般的に想定される手順

■ ②　資格試験・カリキュラムが求める技能をベースとして項目属性を決定

- □　美容師、認定動物看護師、土木施工管理技士といった免許・資格が求めるものを項目分類して指標とする（相対的に下のレベル）

認定動物看護師育成のためのカリキュラムマップ

- 認定動物看護師の場合、専門学校向けの「カリキュラムマップ」がある。
- 美容師の場合、美容師養成施設指定規則の中に学習項目が規定されており、これは実質的に美容専門学校のカリキュラムの一部を構成している。
- 土木施工管理職種の場合、専門学校卒業時点で「土木施工管理技士２級」の学科試験の受験が可能であるため、この試験の学習項目によって、カリキュラムが規定される。
- 以上のような状況がある場合、レベル3、レベル4の項目を決める上で参考にできる。

レベル4

レベル3

一般的に想定される手順

■ ③　①や②の方法が適用しにくい箇所はLDに従って職種特性を加味

□　LDの記述を読み込み、解釈して、当該職業分野・職種にあてはめ、一歩具体的な理解につながる表現に変えていく

● 「倫理上、職業上の新たな課題を見出す」ことなどは、深い倫理観とプロ意識があることの裏付けであり、それは倫理的・組織的対応のリーダーシップでもあるとの考え方
● ・・・

LDの一部（レベル7、8の「倫理観とプロ意識」）

レベル	倫理観とプロ意識
8	● 法律上、職業上の行動規範や、倫理的に健全な行動規範を遵守する。 ● 倫理上、職業上の新たな課題を見いだし、その複雑さや、専門分野における研究の進展や社会全体への影響を明らかにする。 ● 社会的、技術的、経済的発展に専門的立場から貢献する。
7	● 法律上、倫理上、職業上の行動規範を遵守する。 ● 批判的洞察や倫理的配慮に基づき、複雑な問題について助言や決定を行う自信を示す。 ● 国や世界の社会的、技術的、経済的発展のために、専門的立場で貢献する。 ● 市民社会や世界が抱えるさまざまな問題に、自分の専門分野で取り組む能力を発揮する。

LOMIの一部（美容師職種の例）

レベル	倫理観とプロ意識
8	● 組織的倫理対応のリーダーシップ ● 倫理上、職業上の新たな課題を見いだし、その複雑さや、美容分野における研究の進展や社会全体への影響の明確化 ● 社会的、技術的、経済的発展に美容師の立場から貢献
7	● 組織としての倫理的対応実践 ● 批判的洞察や倫理的配慮に基づき、複雑な問題について助言や決定を行う自信 ● 国や世界の社会的、技術的、経済的発展のために、美容師としての立場で貢献 ● 市民社会や世界が抱えるさまざまな問題に、美容分野で取り組む能力を発揮

LOMIの一部（認定動物看護師職種の例）

レベル	倫理観とプロ意識
8	● 関連業界のビジョン確立
7	● 院内・チームのビジョン ● 倫理的および獣医療安全上の諸問題の対応 ● トラブルに関する道徳的、倫理的見解をもった対応 ● 倫理的完成（後輩の模範）

● 動物分野の上位レベルは「ビジョン」を重視。ビジョンを描ける倫理観、プロ意識があることを上位レベルと認識
● 「院内」「獣医療」「トラブル」などの具体的局面を盛り込む
● ・・・

学修成果の測定方法

■ **学修成果の測定には、簡潔でわかりやすい方法が求められる**

- LD、LOMI…すべてのレベルを一つの表→情報量が多く、そのままでは測定をしにくい
- ある時点における具体的な測定を行うには、簡潔に表現することが肝要
- 一般的に用いられる手法として「**ルーブリック**」があるが、レベルを限定して詳細な測定を行うには、本事業成果でもある「**学修成果測定シート**」も有効

■ **ルーブリックの活用**

- ルーブリック…行方向に属性、列方向にレベルを配したマトリックス
  - LDの行と列を交換したようなもの

項目＼レベル	4	3	2	1
知識				
技能				
コンピテンシー				

各項目・各レベルにおける記述

学修成果の測定方法

ロ　ルーブリックライクな試み（認定動物看護師の事例）

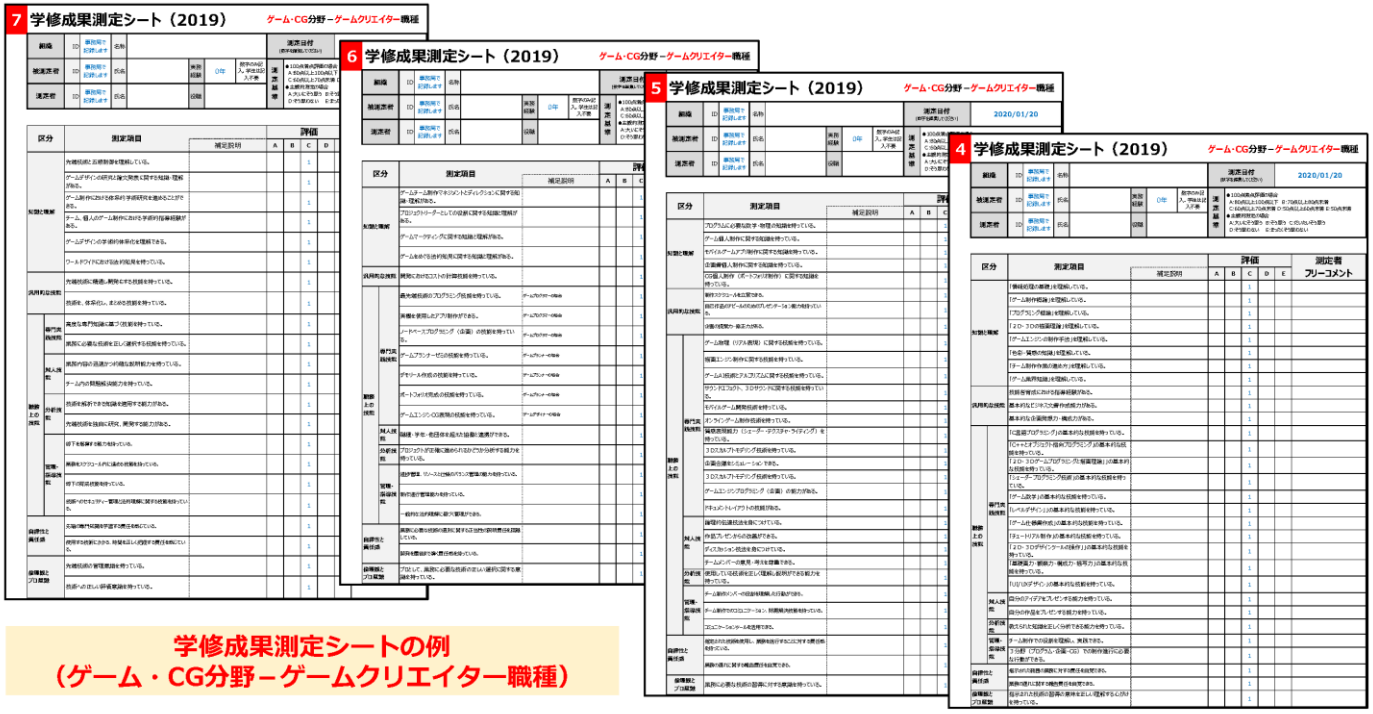
- 認定動物看護師の育成校では下図のようなルーブリックの形を使用
（LOMIと同様の考え方である、LOMIを策定できれば作成は比較的容易）

評価要素項目		実習目標	学習成果評価基準			
			4	3	2	1
知識と理解		実習に必要とされる科目や学科に対してかなりの知識を持っている。	履修科目学習内容を把握したうえで、動物病院の概要理解や動物看護師の業務内容について体系的に理解を深め、履修科目との関連付けを行う事ができる。	動物病院の概況、動物看護師の職務内容を十分に理解しており、履修科目との関連付けも妥当である。	動物病院の概況、動物看護師の職務内容を十分に理解しており、履修内容の関連付けも妥当である。	実習前後の取組がやや受動的であったが、動物看護師の職務内容は理解しており、次期実習では改善の見込みが期待できる。	学習者として目標設定が曖昧なため、動物病院の概況、動物看護師の職務内容理解が不十分である。
汎用的技能		与えられた実習内容に対してスキルを活用しながら対応できている。	履修科目の修得状況を振り返りながら、自己分析を行い、具体的な行動計画を立案し、実践、記録、評価、発表を行う事ができる。	履修科目の修得状況が良好であり、自己分析、目標設定・計画立案、記録、評価まで論理的に整理されておりプレゼンテーションも良好である。	履修科目の修得状況が良好であり、自己分析目標設定・計画立案、記録、評価、発表まで遂行する事ができる。	①自己分析目標設定・計画立案、記録、評価、発表まで遂行する事ができるが、改善の余地がある。②履修科目の理解にやや不足があり具体的行動計画内容に不足を生じているが、実践・記録には努力が認められ、次回には適切な評価や改善も見込まれる。	自己分析、実習目標の設定・実習計画、記録・評価が不十分である。
職務上の技能	専門実践技能	実習指導者監督のもとで、課題への取組を解決するための適切な手法やツールを利用する事ができる。	動物病院における業務内容・職員間の連携や業務内容を理解し、果たすべき役割を遂行する事ができる。	指示内容を理解できる知識と技能を有し、指示された業務を遂行する事ができる。また、指示内容の確認や記録が整理されているため、インシデントの予防につながっている。	指示内容を理解できる知識と技能を有し、指示された業務を過不足なく遂行する事ができる。	指示内容を理解できる知識と技能を有しはいるが、指示された業務を遂行するためには実習指導者のサポートが必要であった。	指示内容を理解できる知識と技能をが不足しているため、指示通りに行動できない。
	対人技能	職員、飼い主に対して口頭或いは文書で情報、問題、解決策を効果的かつ明確に伝える事ができている。	学習者としての態度・言動も適切であり、動物看護師として社会常識やマナーを実践する。	学習者としての態度・言動も適切であり、動物看護師として相手の状況や立場に合わせた、表情や態度で接する事ができる。	学習者としての態度・言動も適切であり、相手の状況や立場に合わせた、表情や態度で接する事ができる。	学習者としての態度・言動について指導を要する場合があるが、改善範囲内である。	学習者としての態度・言動について再三にわたり指導を受けており、相当の指導を要する。
	分析技能	仕事や学習に関するデータを解析し活用する能力が備わっている。	実習目的・目標の設定に沿い立案された実習計画を検証するための記録（ポートフォリオ）を活用し振り返りを行う。	実習計画が実習目的・目標に沿って立案されており、記録も丁寧で、振り返りの際の活用も実習前・後とで整理されており、実習で習得した内容が反映されている。	実習計画が実習目的・目標に沿って立案されており、記録も丁寧で、振り返りの際の活用も実習前・後とで整理されている。	実習計画は立案され、記録も行っていたがやや不明瞭な点が見受けられるため、振り返りにおいて苦慮する面があった。	実習計画・記録とも不十分であり、振り返りの際の活用も十分活用できたと言えない。
	リーダーシップ・管理技能	様々な状況の中で行われる業務・学習の中で、助言や指導を受けながら、責任と自主性を持って行動できる。	実習中に提示される助言や指導を受ける中で、積極的な姿勢を示しながら実習に取り組む。	実習指導を明確に理解し、~~各受ける中で~~、積極的な姿勢と、指導者に対して伝えるべきことを明確に伝える手法を心得ており、報告手法も適切である。	実習指導を理解し~~各受ける中で~~、積極的な姿勢と、指導者に対して伝えるべきことを明確に伝える手法を心得ている。	①実習指導内容理解に多少の不安があるが、~~各受ける中で~~、積極的な姿勢が見受けられた。②実習指導は理解しているが、積極的な姿勢には不足があった。	実習中に、積極的な姿勢がみられず、指導者に対して伝えるべきことも伝えられていない。
自律性と責任感		社会的な接続性を意識し、専門的活動や社会活動に関心を示し、活動できる。	将来の目指すべき職業観を明確に持ち、どのように自己研鑽に取り組むかを明確にする。	動物看護職として、自己の実践をどのように発展させるのか明確な目標を持って、実習に取り組んでおり、**普段（不断？）の努力**を継続している。	動物看護職として、自己の実践をどのように発展させるのか明確な目標を持って、実習に取り組んでいる。	動物看護職として、自己の実践をどのように発展させるのか結びついておらず、目標設定、実習に取り組む姿勢に努力を要する。	自己の職業観が曖昧な状況である。
倫理観とプロ意識		組織の倫理や職業倫理を理解した、行動がとれる。	動物看護の職務に対しての職業倫理と社会的意義を理解する。	動物看護の倫理綱領を理解し、実習における目的・目標設定に活用し、社会的・職業的倫理に対して関心を持って取り組んでいる。	動物看護の倫理綱領を理解し、、社会的・職業的倫理に対して関心を持って取り組んでいる。	社会的・職業的倫理に対して関心を持って取り組んでいるが、専門的領域まで及んでいない。	社会的・職業的倫理に対しての関心が低い。

学修成果の測定方法

■ 学修成果測定シートの活用

- □ ルーブリック上には、レベルごとの詳細な学修成果を表現できない。その欠点を補う一つの手段が「学修成果測定シート」（本事業成果）ただし、1シートの上で複数のレベルを参照できないので、独立的な測定しかできないことがデメリット。



学修成果測定シートの例
（ゲーム・CG分野－ゲームクリエイター職種）

学修成果の測定方法

■　学修成果測定結果の表現

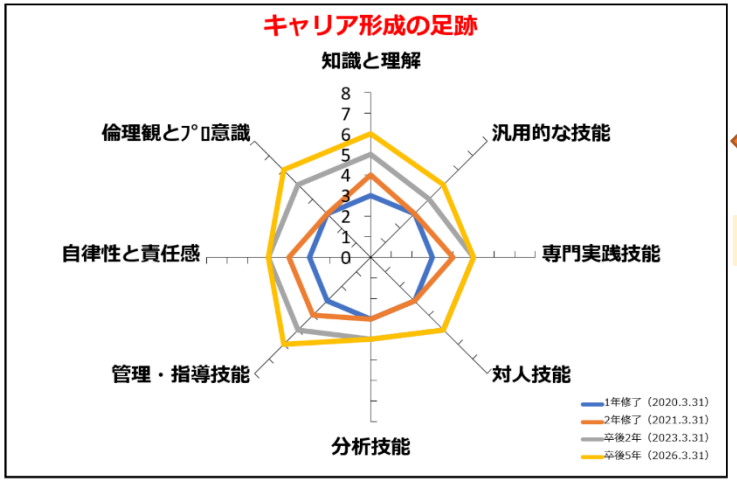
□　表計算ソフトなどの活用

- 　LDは一人の人間が成長、キャリアを形成するプロセスモデルを描いたものとみることもできるので、たとえば、表計算ソフトを活用して次図のような仕組みを作ることが、学修モチベーションアップのためにも有用と思われる。

①ルーブリックや学修成果測定シートなどを用いて、ある時点において、LD各項目のレベルを測定し、

②下記のようなフォーマットで記録し、

	知識と理解	汎用的な技能	専門実践技能	対人技能	分析技能	管理・指導技能	自律性と責任感	倫理観とﾌﾟﾛ意識
1年修了（2020.3.31）	3	3	3	3	3	3	3	3
2年修了（2021.3.31）	4	3	4	3	3	4	4	3
卒後2年（2023.3.31）	5	4	5	5	4	5	5	5
卒後5年（2026.3.31）	6	5	5	5	4	6	5	6



③レーダーチャート化する

令和元年度文部科学省
職業実践専門課程等を通じた専修学校の質保証・向上の推進事業

学修成果の測定に向けた
職業分野別コンピテンシー体系の研究

事業成果報告書

発行日　令和２年３月
発行者　一般社団法人専門職高等教育質保証機構
〒106-0032　東京都港区六本木 6-2-33 六本木ヒルズノースタワーアネックス 3F
■禁無断転載■